

講義科目名称： 人間教育学科概説

授業コード： 123012

英文科目名称： Outline of Human Beings and Their Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	1 年次	2 単位	必修
担当教員			
川福基之理事長 後藤正人学長 山内見和教授 早川富美子教授 仲田郁子教授 教学部職員 栃木市招聘講師			
添付ファイル			

授業の概要	本授業は、人間教育学科の導入科目（必須）として位置づけられている。本学の建学の精神を礎に三つの方針（ポリシー）を明確にしつつ、有用で質の高い人材を地域の教育現場に送り出すために、人間教育の本質と構造とについて、総合的に認識できるよう、教育の理論と実践とを併せ講じている。本学科の子ども教育フィールド・生活健康フィールドの新入生全員を対象にオムニバス形式で授業を構成してある。担当者は、理事長・学長・人間教育学科長・両フィールド代表・事務長などで、他にゲストとして栃木市教育委員会職員等を招いている。テキストは本学編の『人間教育概説』を使用している。 なお、学習成果の指標はB-①とB-③である。 本講義科目は、対面授業を中心に実施するが、遠隔になった場合は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と②同時・双方向型学修（「Google Meet」を利用）とを組み合わせる実施する		
授業計画	1 回目 國學院大学創設と建学の精神（学長） 2 回目 國學院大學栃木短期大学の教育理念 ～四つの約束と三つの方針～（学長） 3 回目 國學院大学栃木学園の沿革と栃木短期大学の歴史（学長） 4 回目 人間教育学科の設立と各フィールド（学科長） 5 回目 栃木市教育の特色と未来像（栃木市教育委員会職員） 6 回目 子どもたちの現状と教育内容・方法～今後に求められる資質・能力～（学科長） 7 回目 教師の創造的活動としての授業（学科長） 8 回目 子ども教育フィールドで学ぶこと（子ども教育フィールド代表） 9 回目 教育者の役割と責任（生活健康フィールド代表） 1 0 回目 教育者の資質能力（学科長） 1 1 回目 学校教育や社会教育・家庭教育が果たす役割（ゲスト講師／第五小学校運営協議会会長） 1 2 回目 心理学の視点からの学生指導 1 3 回目 教育革新への挑戦～世界の中の日本～（学科長） 1 4 回目 高等教育での学び、教育の成果としての短期大学士（事務長） 1 5 回目 キャリア教育～出口教育～（キャリアサポート課長）		
到達目標	○広く教育に携わる者は人間に働きかける者であり、人間に働きかける者は自分自身が豊かな人間として成長しなければならないことに気づき、教育者・社会人としての適応力・指導力を身につけることができる。 ○日本の優れた文化・伝統を踏まえて、人間形成や家庭・社会生活に関わる学習や主体的・理論的及び実践的探究を行い、知識と技能を身につけることができる。 ○保育士・教員・医療管理秘書士・フードスペシャリスト等の免許・資格を取得し、専門職としての知識と技能をいかして、他者とのコミュニケーション力・判断力・表現力・実践力および協働性を発揮することができる。 ○学習成果を向上・発展させるために、多様な価値観に対する理解と協働意識をもって異文化に目を向け、目指す進路に挑むことができる。		
授業時間外の学習	教育に携わる学生諸君に教育実践の喜びと、責務の尊さを実感してもらうために、実習等を通して日常的に子どもたちに積極的にかかわる努力をしてほしい。		
評価方法	各担当者による「小テスト」（20%）・「小レポート」（20%）と「授業への参加意欲」（60%）を評価基準とし、総合評価する。ただし、遠隔授業に変更した場合も評価方法に変更はない。		
テキスト	『人間教育概説』（本学編）		

参考書	必要に応じて、その都度紹介する。
備考	諸般の事情により、授業計画を変更する場合がある。 栃木市文化課職員 実務教員：栃木市との連携包括協定によるオムニバス講師。

講義科目名称： 教科専門 国語

授業コード： 214007

英文科目名称： Specialized Subject: Japanese Language

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	2 年次	2 単位	必修
担当教員			
村山昌俊 教授			
添付ファイル			

授業の概要	国語の指導に必要となる日本語の基礎知識を身につけることによって、国語という教科の特色・意義を修得することを目的とします。 日本語の文字・語彙・表記・音韻の特徴とその歴史について解説する。講義形式で授業をすすめます。 学習成果はA-3 です。 遠隔授業で実施する場合は課題学修（Google classroomを利用）にします。		
授業計画	1 回目 言葉の使い方 1 日本語の敬語の性格 2 回目 言葉の使い方 2 敬語の分類と性格 3 回目 言葉の使い方 3 誤りやすい敬語 4 回目 言語の特質 動物の伝達方法と人間の言語との違い 5 回目 文字の発達と漢字の伝来 表音文字と表語文字 6 回目 神代文字 万葉仮名 神代文字とハングル 借音と借訓 7 回目 平仮名・片仮名の成立 字母と使用場面の相違 8 回目 ローマ字の伝来と歴史 ポルトガル式・オランダ式・ヘボン式・訓令式 9 回目 語彙 1（語種） 和語・漢語・外来語・混種語 1 0 回目 語彙 2（位相語） 忌み言葉・女房詞（女中言葉） 1 1 回目 音韻の歴史 1 母音の変化 1 2 回目 音韻の歴史 2 子音の変化 1 3 回目 仮名遣い 1 仮名遣いの発生・定家仮名遣い・契沖仮名遣い 1 4 回目 仮名遣い 2 歴史的仮名遣い・現代仮名遣い 1 5 回目 理解度の確認		
到達目標	1、基本的な敬語が正しく使うことができる。 2、人間の言葉と動物の言葉の違い、すなわち人間の言語の特質を理解する。 3、日本語の表記と語彙の特質を理解する。 4、古代日本語から現代日本語までの発音及び仮名づかいの歴史を知る。		
授業時間外の学習	1、新聞・雑誌、またインターネット上の文章をよく読むことをこころがけ、そこに使われている語彙や表記などに 関心を持ってください。 2、授業時に配布したプリントをきちんとファイルしておいてください。		
評価方法	筆記試験（100％）によって評価します。出席が前提であることはいうまでもありません。 遠隔授業の場合はレポート（100％）で評価します。		
テキスト	使用しません。オリジナルのプリントを配布します。		
参考書	沖森卓也編『日本語概説』（朝倉書店）		
備考			

講義科目名称： 教科専門 国語(書道)

授業コード： 125004

英文科目名称： Specialized Subject: Calligraphy

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	2 年次	1 単位	必修
担当教員			
坂本充正 講師			
添付ファイル			

授業の概要	正しい文字を理解する。パソコン・ワープロの普及により、文字表現の分野は変貌し、筆記力が低下し、正しい文字を正しく書くことができなくなっている。正しい文字・美しい文字とは何か、毛筆書道実技と合わせて考える。 前半30分当日の課題と宿題について、正しい字形・筆順と旧字体と常用漢字（教育漢字）との違いなどを解説し、実技指導に移る。実技は半紙に千字文（楷・行・草の三体）を48字から96字を毛筆で書く。硬筆は期間を通しての宿題とし、硬筆ノートに教育漢字全てを5字ずつ書いて期末に提出する。 なお、学習成果の指標はB-②、保育士・教員の免許を取得し、専門職としての知識と技能をいかして、他者とのコミュニケーション・判断力・表現力現力および協働性を発揮することができる。 『本授業は対面授業を中心に実施するが、遠隔となった場合は、課題型学修（Goole classroomを利用）を使用して実施する。
授業計画	1 回目 オリエンテーション 2 回目 テキスト「いろは」ひらがな 3 回目 テキスト「イロハ」カタカナ 4 回目 テキスト「天地玄黄」 5 回目 テキスト「寒来暑往」 6 回目 テキスト「雲騰致雨」 7 回目 テキスト「劔號巨闕」 8 回目 テキスト「海鹹河淡」 9 回目 テキスト「始制文字」 1 0 回目 テキスト「弔民伐罪」 1 1 回目 テキスト「愛育黎首」 1 2 回目 テキスト「鳴鳳在樹」 1 3 回目 テキスト「女慕貞潔」 1 4 回目 テキスト「墨悲糸染」 1 5 回目 まとめ
到達目標	正しい文字・正しい筆順を身につけることができる。また、伝統的な日本文字文化を理解できる。
授業時間外の学習	毎回、その日に学習したものをもう一枚宿題とする。
評価方法	平常点 毎週授業内に作品を提出し、宿題で更に補う。（60%）「新・字形と筆順」の教育漢字を全部硬筆ノートに書き、期末に提出。（20%） 授業態度・参加意欲等も考慮する。（20%） 遠隔授業に変更した場合も、評価方法に変更はない。
テキスト	『新・字形と筆順』光村図書出版株式会社 毛筆テキストは『千字文』プリントを配布。
参考書	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	1 年次	2 単位	必修
担当教員			
都留 寛 教授			
添付ファイル			

授業の概要	①初等社会科の性格・目標・方法・内容構成について理解し、説明できるようにする。 ②初等社会科教育の理論と実践について解説し、社会科教育の基本的な理論の習得、及び、授業実践の分析と理解の方法を身につけることができるようにする。 ③「中央教育審議会答申」の趣旨と「新学習指導要領」の改訂ポイント及び指導方法の具体を理解できるようにする。 尚、学習成果の指標は、B－②である。 遠隔授業を実施する場合は、①課題型学修(「Google Classroom」を利用)と②同時・双方向学修(「Google meet」を利用)とを組み合わせる実施する。		
授業計画	1 回目	初等社会科の歴史・目的・使命と新学習指導要領 ・社会科とは・社会科の誕生、歴史、目的、その使命・社会科学習とは・新学習指導要領の目標と内容「初等社会科の目的・内容の変遷を構造的にまとめる」についてディスカッションをしながらアンケートに記入していく、等	
	2 回目	地理学習① 社会認識の広がりとはと地図の学習の基礎 ・空間認識の広がりとはと地域探検学習・地域探検の基礎と実際・地図学習の基本と実際・基本的な地図記号と縮尺、方位・地図の読み方と様々な地図の利用・小学生の空間的認識と学習による広がり・学習指導要領における空間的広がりへの指導とその具体・地図製作の指導とその実際・地図利用の事例と指導の実際・「小学生の空間認識と指導段階」についてディスカッションをしながらアンケートに記入していく、等	
	3 回目	地理学習② 人々の暮らしと地図の学習 ・気候や地形と人々の暮らし・暖かい地方の人々の暮らし・寒い地方の人々の暮らし・高い土地の人々の暮らし・低い土地の人々の暮らし・暮らしの捉え方の基本と実際・離れた土地の調査活動の指導と記録の取り方・気候の違いによる人々の生活の違いの指導と学習の実際・地形による人々の生活の違いの指導と学習の実際・比較思考の指導と考える力を付ける指導の実際・「気候・地形の違いと人々の学習内容をまとめる」についてディスカッションをしながらアンケートに記入していく、等	
	4 回目	地理学習③ 国土の自然と領土の学習 ・交通網とハブ拠点・地球儀と日本の位置・様々な地図と地図記号・日本の国土の指導と学習の実際・日本の気候条件と自然・地理的特徴の指導と学習の実際・日本の領土の指導と学習の実際・47都道府県の指導と学習の実際・「国土と領土の学習内容についてまとめる」についてディスカッションをしながらアンケートに記入していく、等	
	5 回目	地理学習④ 食料生産に励む人々の学習 ・米づくりに携わる人々・漁業に携わる人々・日本の食料輸入と課題・様々な農業の学習(畜産の学習・果実生産の学習)・食糧自給率の学習・「世界の食糧生産と日本の食糧問題の学習についてまとめる」についてディスカッションをしながらアンケートに記入していく、等	
	6 回目	地理学習⑤ 工業生産に励む人々の学習 ・自動車工業に携わる人々・工業生産に関わる輸入と輸出・日本の工業に携わる人々の実態・世界に誇る中小工場の技術と課題・鉄鋼生産の学習・日本の工業生産の盛んな地域の学習・「工業生産に励む人々の学習内容」についてディスカッションをしながらアンケートに記入していく、等	
	7 回目	公民学習① 情報・流通の産業に励む人々の学習 ・身の回りの情報・情報を使っている仕事・東日本大震災と情報・物流と私たちの生活・物流と情報の関係・情報と私たちの生活の関わりについての学習・流通産業と運輸産業の繋がりを捉える学習・情報と流通の関係についての学習・「情報・流通産業に励む人々の学習内容」についてディスカッションをしながらアンケートに記入していく、等	
	8 回目	公民学習② 日本の経済と私たちの暮らしの学習 ・銀行ってどんな仕事をしてる?・金融業と私たちの暮らし・需要・供給と値段の関係・ドルと円の関係?・株が下がるとどうして悪い?・身近な経済の話・値段と商品価値の学習・変動為替についての学習・「金融と経済を支える人々の学習内容」についてディスカッションをしながらアンケートに記入していく、等	
	9 回目	地理学習⑥ 国土の環境と保全の学習 ・世界自然遺産・自然遺産を守る仕事・日本の林業と森林の保護・日本全国の魚付き林と自然保護活動・自然に優しい生活と「手入れ」の思想・日本の公害と環境破壊・世界の環境破壊と課題・持続可能な社会を創るための活動・エネルギー問題とクリーンエネルギー・国土の保全に関する学習・「国土の環境と保全についての学習内容」についてディスカッションをしながらアンケートに記入していく、等	
	10 回目	地理学習⑦ 自然災害と予防・対策の学習 ・阪神・淡路大震災から学ぶこと・東日本大震災から学ぶこと・原子力発電所事故から学ぶこと・火山列島・プレートの上の日本列島・日本の自然災害と日本人の暮らし・様々な自然災害と私たちにできること・自然災害と日本列島の学習・福島第一原発事故の学習・大震災に対する対策の学習・「自然災害と予防・対策の学習内容」についてディスカッションをしながらアンケートに記入していく、等	
	11 回目	歴史学習① 歴史的人物と年表を大切に歴史の学習	

	・学習指導要領の内容に指定されている歴史的人物・歴史的人物の取り扱い方・年表の使い方と読み方・人物学習の考え方・歴史的人物を中心にした実践事例・「歴史学習における歴史的資料と歴史的人物の扱い」についてディスカッションをしながらアンケートに記入していく、等 1 2 回目 歴史学習② 文化遺産を使った歴史の学習 ・学習指導要領に紹介されている文化遺産・文化遺産の取り扱い方・文化遺産の使い方と調べ方・文化遺産を使った学習の事例・重要文化遺産を使った歴史学習の事例・「歴史学習における重要文化遺産の扱い」についてディスカッションをしながらアンケートに記入していく、等 1 3 回目 公民学習③ 政治の仕組みと民主主義を学ぶ学習 ・身近な政治と地方自治・日本の政治と仕組み・日本国憲法と平和主義・選挙と国民主権・基本的人権と裁判・三権分立・法治国家の理念・「政治の仕組みの学習内容と民主主義教育」についてディスカッションをしながらアンケートに記入していく、等 1 4 回目 公民学習④ 国際理解と日本の役割の学習 ・国際連合・国際協力・多文化共生社会・国際紛争・平和活動と日本の役割・身近な国々の学習・世界の中の日本の役割・国際社会で活躍する日本人々・国際連合と日本の立場・「世界の中の日本における学習内容と多文化共生社会の考え」についてディスカッションをしながらアンケートに記入していく、等 1 5 回目 公民学習⑤ 公民的資質と社会科の目指す学力 公民的資質とは何か・社会科の目指す学力とは何か・思考力・表現力・判断力・実行力の意味・「学習指導要領に示された『公民的資質』と社会科が目指す学力」についてのディスカッションを基に、自分なりの考えを整理し、レポートにまとめる、等
到達目標	①初等社会科の性格・目標・方法・内容構成について理解し、説明できる。 ②「地理」「歴史」「公民」の3領域の指導について理解し、説明できる。 ③社会科教育の基本的理論を理解し、説明できる。 ④授業実践を分析し、指導内容について構造的に理解できる。 ⑤「中央教育審議会答申」の趣旨と「新学習指導要領」の改訂ポイント及び指導方法の具体を理解できる。
授業時間外の学習	①授業中に適時ノートに取り、ノートそのものが参考資料となるようにまとめる。 ②授業中に配布した資料やプリントは、ファイルし、整理しておく。 ③「小学校 新学習指導要領 解説 社会科編」を参照し、指導内容を確認しておくこと。 ④授業中に指定された参考文献は、公共の図書館などを利用し、できる限り読み、授業に臨むこと。 ⑤グループワーク（ディスカッション・まとめ、など）を行うので、できる限り自分なりの理解を持って授業に臨んだり、授業後に自分なりの理解をノートにまとめること。 ⑥日頃から可能な限り、児童と関わる体験を積み重ねる努力をしていくこと。
評価方法	①毎時間の理解度を測る小アンケート（20%） ②ディスカッション、ノート、プレゼンテーション（20%） ③期末レポート（20%） ④学期末の筆記試験（40%） に基づき評価する。 遠隔授業へ変更した場合は、 ①毎回の授業の理解度についての小レポート（60%） ②ディスカッション、プレゼンテーション、まとめ（20%） ③期末レポート（20%） に基づいて評価する。
テキスト	文部科学省『小学校 新学習指導要領解説 社会編』東洋館出版社 2017年 ¥156 ISBN-10 : 4536590099 ISBN-13 : 978-4536590099
参考書	筑波大学附属小学校・社会科教育研究部著 「筑波発 社会を考えて創る子どもを育てる社会科授業」東洋館出版 2015年 ¥1,900 ISBN-10 : 4491031371 ISBN-13 : 978-4491031378 都留 覚著 「小学校社会科 授業づくりと基礎スキル」東洋館出版 2009年 ¥2,200 ISBN-10 : 449102443X ISBN-13 : 978-4491024431 都留 覚著 「使える社会科ベーシック③ 調べ学習 五感を使って『まち』を見直すシティサファリ」学事出版 2004年 ¥1,400 ISBN-10 : 4761910437 ISBN-13 : 978-4761910433 都留 覚編・著 「活用力の基礎を育む授業ベーシック 必備！社会科の定番授業 小学校3年」学事出版 2010年 ¥1,800 ISBN-10 : 4761917237 ISBN-13 : 978-4761917234
備考	新型コロナウイルス感染拡大の状況により、遠隔授業を行う場合がある。 実務教員：初等教育学校社会科・生活科教諭として36年間勤務。公立学校15年間、附属小学校での社会科教育実践経験25年間。全国発表会での授業公開50回以上。小学校社会科教科書執筆12年間。海外教育使節団での社会科指導歴10年間の経験を持ち、学習指導要領の改訂に影響を与えた実践を積んできた実績を生かした授業を行う。

講義科目名称： 教科専門 算数

授業コード： 162001

英文科目名称： Specialized Subject: Arithmetic

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	1 年次	2 単位	必修
担当教員			
橋本美智明 講師			
添付ファイル			

授業の概要	学習指導要領と算数教科書をもとに指導内容を整理する学習を通して、算数科の指導内容への理解を図る。また、指導内容の背景にある数学の知識や数学的な見方・考え方についても学んでいく。これらの学習を通して、算数科の授業づくりにおける、目標の設定や展開案の構想、教材の作成をより適切に行える能力を身に付ける。 なお、学習成果の指標はB－②である。 遠隔授業を実施する場合には、①課題型学修により実施する。
授業計画	1 回目 算数科の目標、領域等を理解する。 2 回目 「数と計算」領域の内容を概観する。 3 回目 「数」について、指導内容を学年毎に整理する。 4 回目 「計算」について、指導内容を学年毎（下学年）に整理する。 5 回目 「計算」について、指導内容を学年毎（上学年）に整理する。 6 回目 「図形」領域の内容を概観する。 7 回目 「図形」について、指導内容を学年毎（下学年）に整理する。 8 回目 「図形」について、指導内容を学年毎（上学年）に整理する。 9 回目 「量と測定」領域の内容を概観する。 1 0 回目 「量と測定」について、指導内容を学年毎に整理する。 1 1 回目 「変化と関係」領域の内容を概観する。 1 2 回目 「変化と関係」について、指導内容を学年毎に整理する。 1 3 回目 「データの活用」領域の内容を概観する。 1 4 回目 「データの活用」について、指導内容を学年毎に整理する。 1 5 回目 「数学的活動」について理解する。
到達目標	小学校算数科の指導内容の概要を理解する。
授業時間外の学習	算数科教科書を読み、問題を解く。
評価方法	授業への参加意欲・態度（40％）、指導内容を整理したレポート（60％） 遠隔授業になった場合も変更はない。
テキスト	文部科学省『小学校学習指導要領解説算数編』（日本文教出版、2018年）
参考書	授業の中で紹介する。
備考	

講義科目名称： 教科専門 理科

授業コード： 122005

英文科目名称： Specialized Subject: Science

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	1 年次	2 単位	必修
担当教員			
森田和良 講師			
添付ファイル			

授業の概要	子どもが自らをとりまく自然の事物や自然現象に自発的に関心を持ち、観察し、実験的なかかわりを行って科学的に事実を探究する能力の基礎を育てることが必要である。そのためには、学習者の興味・関心・既習知識・生活経験などの発達のな子ども理解をもとに、有効な教材を用意し、小学校で行われている授業を模擬体験できる形式で講義を行い、事象の意味を理解する教育を考えるようにする。 また、観察・実験を実際に行いながらそれらの持つ意味や働きについて理解するとともに、理科器具や薬品の使い方などの技能についての習熟も図る。 なお、学習成果の指標はB-②と③である。 本授業は、対面授業を中心に実施するが、遠隔授業になった場合は、課題型学修（「Google Classroom」を利用）とオンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）とを組み合わせる実施する。		
授業計画	1 回目	理科という教科について（１）「理科の目標」を理解する おもしろ実験を体験する	
	2 回目	理科という教科について（２）理科の内容（A区分：物質・エネルギー）を理解する 3年「電気」「磁石」、5年「電磁石」：電気や磁気に関する実験を体験し、A区分の特徴を学ぶ	
	3 回目	理科という教科について（３）理科の内容（B区分：生命・地球）を理解する 5年「種子の発芽」、3年「虫」：種子の発芽や虫の様子などを体験し、B区分の特徴を学ぶ	
	4 回目	理科における児童の考え方の特徴について（１）児童のもつ素朴概念を学ぶ 3年「ものと重さ」：粘土などを形や向きを変えて重さを実験し、児童の素朴概念を学ぶ	
	5 回目	理科における児童の考え方の特徴について（２）素朴概念を生かした授業方法を学ぶ 5年「動物の誕生」：胎児の栄養についての素朴な見方を調べ、モデル実験等で理解の深め方を学ぶ	
	6 回目	理科の授業設計（１）自然事象との出会いの方法について学ぶ 3年「自然の観察」：植物の葉の形を予想した後、実際に観察し顕微鏡等で確かめる展開を学ぶ	
	7 回目	理科の授業設計（２）問いを持つ状況設定を学ぶ 4年「人体」：自分の手の骨の数と位置を調べ、骨のしくみに問いを持つ状況設定を学ぶ	
	8 回目	理科の授業設計（３）児童同士のかかわりをうむ状況設定を学ぶ 4年「電気」：電気自動車作りにおける教え合う活動を体験し、かかわりを生む状況設定を学ぶ	
	9 回目	理科の授業設計（４）問題解決型の学習方法を学ぶ 5年「ものの溶け方」：未知の粉からミョウバンの結晶を取り出す活動から、問題解決を学ぶ	
	10 回目	理科の授業設計（５）教えて考えさせる授業における学習方法を学ぶ 4年「水の三態」：沸騰時に出る泡を集め、その実態を調べる場面で予備知識の効果を学ぶ	
	11 回目	理科の授業設計（６）言語活動を生かした授業を学ぶ 6年「水溶液」：水に二酸化炭素が溶ける実験をし、イメージを説明して言語活動の効果を学ぶ	
	12 回目	理科の授業設計（７）習得・活用・探究のある理科授業について学ぶ 6年「大地のつくり」：化石をもとに化石ができるまでの過程をモデル実験を通して学ぶ	
	13 回目	理科の授業設計（８）教科書・教材の活用の工夫について学ぶ 6年「てこ」：教科書の記述を活用し、てこ実験器の工夫した活用場面を学ぶ	
	14 回目	理科の授業設計（９）知識の活用を促す課題について学ぶ 5年「ものの溶け方」：習得した知識を活用させて、現象を説明する授業のあり方を学ぶ	
	15 回目	理科の授業設計（10）イメージ図を活用した言語活動について学ぶ 4年「空気と水」：閉じ込めた空気の様子をイメージ図を活用して実感していく展開を学ぶ	
到達目標	・理科学習の目的と内容を理解し、その目的を達成するための具体的な方法を駆使して授業設計案を立てることができる。また、具体的な実験器具や薬品等の扱い方に習熟することができる。 ・小学校学習指導要領の趣旨に基づいて思考し、授業改善への内容と方法について説明することができる。 ・小学校理科で扱う具体的な活動において、他者と協働して最適な解を導き出そうという協働意識、参加意識を身につける。		
授業時間外の学習	講義で扱う内容に関わる「小学校学習指導要領解説（理科）」と小学校理科教科書の該当部分に目を通していき、重要な語句や内容については下調べをしておく（予習）。 授業時に配布された資料をもとに、講義内容を自宅でもまとめるとともに、児童に指導する際のポイントについてもまとめておく（復習）。		
評価方法	毎時間の振り返りの記録（30％）、学習への参加意欲（30％）、期末レポート（40％）などに基づき評価する。 遠隔授業に変更した場合には、提出する講義レポートのうち、「活動の記録」（30％）と「振り返りコメント」（30％）を評価対象とし、期末レポート（40％）には変更はない。		

テキスト	・『小学校学習指導要領解説（理科）』（文部科学省・東洋館出版社） ・講義ごとに資料を配付
参考書	・小学校理科 教科書（３年～６年） ・『小学校理科室経営ハンドブック』（東洋館出版社） ・『観察・実験の基本事項と事故防止』（初教出版）
備考	

講義科目名称： 教科専門 生活

授業コード： 142008

英文科目名称： Specialized Subject: Life Environment Studies

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	1 年次	2 単位	必修
担当教員			
後藤正人 教授			
添付ファイル			

授業の概要	新しい学力観のもとで創設された生活科発展の鍵は、授業実践の充実にある。その実践を支える土壌があるかどうかは重要な事柄である。この課題を解くには、生活科誕生における教育的ルーツを求めると共に生活科創設の主旨を十分に理解することが不可欠である。その上で平成30年度改訂の新学習指導要領における生活科の不易の部分を読み取り実践につなげていく。なお、学習成果の指標はB-①である。 本講義科目は、対面授業を中心に実施するが、遠隔になった場合は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と ②同時・双方向型学修（「Google Meet」を利用）とを組み合わせる実施する。		
授業計画	1 回目 本授業の目的・内容・計画（オリエンテーション） 2 回目 生活科と子どもの成長 3 回目 生活科創設の趣旨と幼保小連携 4 回目 生活科の今日的課題と展望～アクティブ・ラーニングの推進～ 5 回目 自然体験の教育的意義 6 回目 発達特性を生かした活動と育つ力 7 回目 活動領域からみた育つ力 8 回目 教科目標を支える要素と背景 9 回目 四季の変化を大切に活動の意義 10 回目 幼・保・小の更なる一貫性を図る 11 回目 生活科における学力観と評価 12 回目 生活科から学級、学校づくりへ 13 回目 生活科と総合的学習の時間の関連と役割 14 回目 生活科への期待～主体的・対話的な学びによる学習の進化～ 15 回目 生活科とこれからの小学校教育（まとめ）		
到達目標	生活科の教育的ルーツを求めると共に具体的内容を扱いながら、生活科発展の鍵は、生活科創設の主旨を踏まえた実践の充実にあることに気付くことができる。		
授業時間外の学習	教育実習などで進んで生活科の授業を参観したり、率先して研究授業を行ったりする。		
評価方法	「レポート」（60%）および「授業への参加意欲」（40%）を評価基準とする。なお、遠隔授業に変更した場合も評価方法に変更はない。		
テキスト	『小学校学習指導要領解説・生活編』日本文教出版 『教育の泉6』（後藤正人・文溪堂）		
参考書			
備考	その都度、講義資料を配布 諸般の事情により、授業計画を変更する場合がある。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	1 年次	1 単位	必修
担当教員			
名取初穂 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	1. 図画工作科の基本的な考え方や専門的な知識について学修する。 2. 紙、絵の具、クレヨン、パス、はさみ、のりなど、身近で扱いやすいもの（小学校低学年相当）に関する基礎的な知識を習得し、実技実習に備える。 3. 学習指導要領の示す【A表現】（1）「発想や構想」・（2）「技能」（各、ア．造形遊びをする活動、イ．絵や立体・工作に表す活動）に関する事項と、【B鑑賞】〔共通事項〕について、小学校低・中学年の目標及び内容に基づいた理解を深める。 なお、学習成果の指標は B-②である。 ◆遠隔授業授業実施が必要な環境が生じた場合には【オンデマンド（配信型）】を併用して学修する。
授業計画	1 回目 オリエンテーション 2 回目 材料・用具の基礎知識 ―はさみ・のりを使って 3 回目 材料・用具の基礎知識 ―紙 4 回目 材料・用具の基礎知識 ―クレヨン・パス 5 回目 表現技法の実践 ―モダンテクニック 基礎 6 回目 表現技法の実践 ―モダンテクニック 応用 7 回目 表現技法の実践 ―モダンテクニック 発展 8 回目 表現技法の実践 ―モダンテクニック 自由制作 9 回目 可塑性のある素材 ―紙粘土・油粘土 1 0 回目 可塑性のある素材 ―土粘土 1 1 回目 可塑性のある素材 ―ダンボール 1 2 回目 自然素材に触れる ―藍 1 3 回目 自然素材に触れる ―絞り染め 1 4 回目 色の学習 1 5 回目 春セメスターまとめ
到達目標	1. 「表現」の活動を通して、楽しく、豊かに「発想や構想」をしたり、小学校低・中学年の指導に必要な「技能」を身に付けることができる。 2. 豊富な創作体験から思考を深め、自己の学びを相対化できる。 3. 「鑑賞」の活動を通して、作品などに対する自分の見方や感じ方を広げることができると共に、他者の意見を尊重し、受容できる。
授業時間外の学習	1. 教科書題材の研究 授業で取り扱う題材の他にも、興味・関心を持った題材については自主的に試行する。 2. 素材の収集 日常的に、身の回りの素材（廃材）に着目し、活用イメージを働かせながら収集する。
評価方法	関心・意欲・態度（30%）、各課題への取り組み状況（50%）、考察・ワークシート等（20%） ◆遠隔授業を実施した際の評価方法は、考察（40%）、課題への取り組み（60%）とする。
テキスト	1. 小学校図画工作科教科書『ずがこうさく1・2上』、『ずがこうさく1・2下』、『図画工作3・4上』、『図画工作3・4下』、『図画工作5・6上』、『図画工作5・6下』/ 日本文教出版 / 2020年 2. 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 図画工作編』/ 文部科学省 / 2018年

参考書	1. 新野貴則・福岡知子 編著 / 『明日の小学校教諭を目指して 子どもの資質・能力を育む 図画工作科教育法』 / 萌文書林 / 2019年 2. 北沢昌代・畠山智宏・中村光絵 著 / 『子どもの造形表現 ワークシートで学ぶ』 / 開成出版 / 2018年版
備考	道具箱「七つ道具」を持参すること。 ※「七つ道具」の詳細については、授業の中で説明する。 ※「七つ道具」の内容例：はさみ、のり、セロハンテープ、木工用ボンド、定規、カッター・カッター版、ホチキス、クレヨン、色鉛筆、マーカーなど。 実務教員：子ども造形絵画教室アトリエ勤務11年、NHK学園オープンスクール日本画講座講師として3年勤務。

講義科目名称： 教科専門 図画工作AⅡ

授業コード： 241005

英文科目名称： Specialized Subject: Art and Handicraft A 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	1 単位	必修
担当教員			
名取初穂 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	1. 図画工作科の基本的な考え方や専門的な知識について、表現することを通して体験的に学修する。 2. 木切れ、板材、釘、小刀、のこぎり、金づちなどの材料や用具を適切に扱い（小学校中学年相当）、材料や用具などについての経験や技能を総合的に生かす能力（小学校高学年相当）の修得を目指す。 3. 学習指導要領の示す【A表現】（1）「発想や構想」・（2）「技能」（各、ア. 造形遊びをする活動、イ. 絵や立体・工作を表す活動）に関する事項と、【B鑑賞】〔共通事項〕について、小学校中・高学年の目標及び内容に基づいた実践力を身に付ける。 なお、学習成果の指標は B-②である。 ◆遠隔授業授業実施が必要な環境が生じた場合には【オンデマンド（配信型）】を併用して学修する。
授業計画	1 回目 オリエンテーション 2 回目 自然素材を使って 3 回目 自然素材を使って 一玉ねぎで染める 4 回目 廃材の活用 一割ピンを使った題材研究 5 回目 木工 基礎知識 1 のこぎり・金槌 6 回目 木工 基礎知識 2 電動糸鋸 7 回目 木工 応用 8 回目 木工 発展 9 回目 陶芸 基礎知識 1 0 回目 陶芸 応用 1 1 回目 紙の可能性 1 2 回目 張り子の制作 1 3 回目 陶芸 一釉薬がけ 1 4 回目 自由研究 1 5 回目 秋セメスターまとめ
到達目標	1. 「表現」の活動を通して、豊かに、創造的に「発想や構想」をしたり、小学校中・高学年の指導に必要な「技能」を身に付けることができる。 2. 豊富な創作体験を通して思考を広げ、多角的な視点を持つことができる。 3. 「鑑賞」の活動を通して、作品などに対する自分の見方や感じ方を広げることができる。また、他者の創意工夫を読み取り、理解を深めることができる。
授業時間外の学習	1. 教科書題材の研究 授業で取り扱う題材の他にも、興味・関心を持った題材については自主的に試行する。 2. 素材の収集 日常的に、身の回りの素材（廃材）に着目し、活用イメージを働かせながら収集する。
評価方法	関心・意欲・態度（30％）、各課題への取り組み状況（50％）、考察・ワークシート等（20％） ◆遠隔授業を実施した際の評価方法は、考察（40％）、課題への取り組み（60％）とする。
テキスト	1. 小学校図画工作科教科書『ずがこうさく1・2上』『ずがこうさく1・2下』『図画工作3・4上』『図画工作3・4下』『図画工作5・6上』『図画工作5・6下』/ 日本文教出版 / 2020年 2. 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 図画工作編』/ 文部科学省 / 2018年

参考書	1. 新野貴則・福岡知子 編著 / 『明日の小学校教諭を目指して 子どもの資質・能力を育む 図画工作科教育法』 / 萌文書林 / 2019年 2. 北沢昌代・畠山智宏・中村光絵 著 / 『子どもの造形表現 ワークシートで学ぶ』 / 開成出版株式会社 発行 / 2018年版
備考	テキストと、道具箱「七つ道具」を持参すること。 実務教員：子ども造形絵画教室アトリエ勤務11年、NHK学園オープンスクール日本画講座講師として3年勤務。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	2 年次	1 単位	選択
担当教員			
穴澤秀隆 講師			
添付ファイル			

授業の概要	1年次に学んだ、小学校学習指導要領図画工作編に示されている材料や用具などについて、経験や技能を総合的に生かす能力の伸長を目指すとともに、今日の視覚文化の中心である写真や映像の原理とその指導についても、制作活動を通じて学修し、それらの子どもへの影響について学修する。 伝統的な美術のみならず、デザインや商業美術、広告などを通じて、子どものビジュアル・コミュニケーション能力を伸ばす支援について学修する。 さらに、学習指導要領図画工作編の示す、A表現(1)「発想と構想」、(2)「技能」(ア. 造形遊びをする活動、イ. 絵や立体・工作に表す活動)に関する事項と、B鑑賞、[共通事項]について、小学校低・中・高学年の目標及び内容に基づいた実践力を強化する。 本授業は、コロナウイルスによる感染状況の推移によっては、①課題型学修（「Google Classroom」を利用／クラスコード：未定）と②同時・双方向型学修（「Google Meet」を利用）とを組み合わせることも考慮する。なお、学習成果の指標はB-②である。
授業計画	1 回目 オリエンテーション／小学校学習指導要領図画工作編の概要とその構造 造形・美術教育を学ぶことの意味について学修する。 講師の自己紹介と学生との相互交流を行う。 この授業の目当てと教科の構造について、他教科との比較において学修する。 世界の児童画を鑑賞することにより、児童画の起源と変遷を知り、その表現の特徴や意味について学修する。 小学校学習指導要領図画工作編の概要とその構造について学修する。 2 回目 絵に表す活動／モダンテクニックの実習（1）／技法の修得と制作 デカルコマニー、マーブリング、スパッタリング、フロッタージュ、パチック、スクラッチ、吹き流しなどの技法を実習することにより、絵に表す活動について学修する。 3 回目 絵に表す活動／モダンテクニックの実習（2）／制作と鑑賞・評価 デカルコマニー、マーブリング、スパッタリング、フロッタージュ、パチック、スクラッチ、吹き流しなどの技法を実習することにより、絵に表す活動について学修する。 完成した作品を鑑賞し、相互に批評し合うことにより、他者の表現に関する理解を深める。 また、授業における評価規準についても学修する。 4 回目 色彩の原理と色の世界／Water color circle 色の三属性（色相、明度、彩度）や混色、重色、補色など、色彩の基本的な理論と原理について学修する。 色彩に関する理論を応用して、色水による色相環づくりのワークショップを実修する。 5 回目 絵に表す活動／風景画（1）／紫陽花のスケッチ（太平山あじさい坂にて） 紫陽花の名所として知られている「太平山あじさい坂」にて、紫陽花のスケッチを行う。 屋外での子どもの制作活動に際して、安全面等の配慮すべき事項に関し、体験を通じて学修する。 雨天の場合は無理のない範囲での実施とする。 ただし荒天時は実施を見送り、静物画のスケッチなど、室内での代替えの活動とする。 ※野外での活動となるため、服装や靴に気をつけること。 6 回目 絵に表す活動・鑑賞する活動／風景画（2）／作品鑑賞会 紫陽花を主題とした作品の完成後、鑑賞会を行い、アートコーディネーターやアートディレクションにも配慮した一貫した表現活動を体験的に学修する。 また、授業における評価規準についても学修する。 7 回目 デザインをする活動（1）／マーケティングとデザインの理論 小学校学習指導要領図画工作編の「目標」に示されている「造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、創造的に発想と構想をしたり、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。」に基づき、身近な商品や製品やファッションやインテリアなどに関心を持ち、今日のマーケティング理論に基づいたデザインの学修をする。 8 回目 デザインをする活動（2）／パッケージ・デザインや広告の制作 色の三属性（色相、明度、彩度）や混色、重色、補色など、色彩の基本的な理論と原理について学修する。 色彩に関する理論を応用して、デザイン的な視点から制作する。 お菓子や食料品、化粧品などの身近なパッケージ・デザインや、それらの広告に注目し、パッケージや広告の制作について実修する。 9 回目 デザインをする活動（3）／デザイン制作とプレゼンテーション 前回の授業で学修した内容に基づき、パッケージや広告の制作について実修する。 完成した作品のプレゼンテーションを行い、相互に批評し合うことにより、他者の表現に関する理解を深めるとともに、今日の産業社会におけるビジュアル・デザインとコミュニケーション理論について学修する。 10 回目 子どもにとっての映像文化とニューメディア（1）／写真表現 小学校学習指導要領図画工作編の「指導計画の作成と内容の取扱い」に示されている「コンピュータ、カメラなどの情報機器を利用することについては、表現や鑑賞の活動で使う用具の一つとして扱うとともに、必要性を十分に検討して利用すること」に基づき、今日の視覚文化の中心である写真と映像の基本的原理と歴史について学修し、その子どもへの影響について理解を深める。

	映像文化のうち写真表現につき作品を鑑賞し、理解を深める。 1 1 回目 子どもにとっての映像文化とニューメディア（２）／映画・映像表現 デジタルカメラ、デジタルビデオ、スマートフォン、タブレット端末、ノートパソコンなどの、デジタル機器を用いて、写真や動画を個人やグループで撮影し、表現することを実修する。 映像文化のうち映画・映像表現につき作品を鑑賞し、理解を深める。 1 2 回目 子どもにとっての映像文化とニューメディア（３）／アニメーション 個人やグループで制作した写真や動画を鑑賞し、相互に批評し合うことにより、デジタル・ビジュアル表現のさまざまな方法について学修する。 また、デジタル・ビジュアル表現の児童指導について学修する。 映像文化のうちアニメーションの表現につき作品を鑑賞し、理解を深める。 1 3 回目 美術教育の歴史／戦後美術教育の思想と現在（１） 明治期の「臨画教育」、大正期の「自由画教育」を経て、戦後の創造美育協会などによる「児童画」が誕生した歴史を概観し、その教育思想を学修する。 児童画の歴史を知ることにより、子どもの絵と発達に関する理解を深める。 1 4 回目 美術教育の歴史／戦後美術教育の思想と現在（２） 明治期の「臨画教育」、大正期の「自由画教育」を経て、戦後の創造美育協会などによる「児童画」が誕生した歴史を概観し、その教育思想を学修する。 児童画の歴史を知ることにより、「造形遊び」の意義を考え、今日の図工・美術教育の理念を学修する。 1 5 回目 春セメのまとめとディスカッション／ラウンドテーブル 自分が興味・関心がある美術作品、サブカルチャー、視覚・映像文化、商業デザイン、ファッションなどについて、春セメ全般を通じて学修した内容を反映させ発表する。 他の受講生の発表を批評し、ディスカッションをすることにより、主体的・対話的で深い学びについて体験的に学修する。 また、授業は公式（オフィシャル）な場であることから、ディスカッションにおける態度や言葉遣いについても指導する。
到達目標	1. 「表現」の活動を通して、楽しく、豊かに「発想や構想」をしたり、小学校低・中・高学年の指導に必要な「技能」を身に付けることができる。 2. 「鑑賞」の活動を通して、作品などに対する自分の見方や感じ方をより広げることができる。
授業時間外の学習	1. 資料等の予習 授業で使用する学習指導要領等の資料を事前によく読み込み、毎回の授業に臨むようにする。 2. 日常的な視覚文化情報の収集 与えられた課題等を意識し、日常的に身の回りの視覚文化に関心を持ち、興味ある情報を収集しておく。 3. 自主的な省察 最終時程の研究発表（ラウンドテーブル）に備えて、各自が自主的に研究することにより、主体的で深い学修を実践する。
評価方法	平常点（５０％）、授業への参加意欲（２０％）、作品（３０％）により評価する。 遠隔授業に変更した場合も評価方法は対面授業と同様である。
テキスト	教科書は使用せず。
参考書	1. 小学校図画工作科教科書 『ずがこうさく１・２上』『ずがこうさく１・２下』『図画工作３・４上』『図画工作３・４下』『図画工作５・６上』『図画工作５・６下』／日本文教出版／２０２０年 2. 『小学校学習指導要領（平成２９年告示）解説 図画工作編』／文部科学省／２０１８年 3. 新野貴則・福岡知子 編著／『明日の小学校教諭を目指して 子どもの資質・能力を育む 図画工作科教育法』／萌文書林／２０１９年 4. 北沢昌代・畠山智宏・中村光絵 著／『子どもの造形表現 ワークシートで学ぼう』／開成出版／２０１８年版
備考	本授業は、通常の講義や制作をする一方、各自がそれぞれの課題を持って、自主的に研究することにより、主体的で深い学修を実践する。 通常の対面授業の際には、講師の指示により道具箱「七つ道具」を持参すること。また、その際には、実技的内容を多く取り入れ、小学校図画工作科の指導に必要な「技能」を身に付けることを目指す。 ※「七つ道具」の詳細については、授業の中で説明する。 「七つ道具」の内容例：はさみ、のり、セロハンテープ、木工用ボンド、定規、カッター・カッター版、ホチキス、クレヨン、色鉛筆、マーカーなど。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	2 年次	1 単位	選択
担当教員			
穴澤秀隆 講師			
添付ファイル			

授業の概要	1年次及び2年次春セメで学んだ、小学校学習指導要領図画工作編に示されている材料や用具などについて、経験や技能を総合的に生かす能力の伸長を目指すとともに、伝統的な美術のみならず、今日の視覚文化の中心であるサブカルチャーや映像表現などの原理とその指導についても学修し、それらの子どもへの影響について学修する。 美術教育の2大目的である、自己表現とビジュアル・コミュニケーションのそれぞれの意味を理解し、それらの能力を伸ばす支援について学修する。 さらに、2年次春セメの学修を応用して、学習指導要領図画工作編の示す、A表現(1)「発想や構想」、(2)「技能」(ア. 造形遊びをする活動、イ. 絵や立体・工作に表す活動)に関する事項と、B鑑賞、[共通事項]について、小学校低・中・高学年の目標及び内容に基づいた実践力を強化する。 本授業は、コロナウイルスによる感染状況の推移によっては、①課題型学修（「Google Classroom」を利用／クラスコード：未定）と②同時・双方向型学修（「Google Meet」を利用）とを組み合わせることも考慮する。なお、学習成果の指標はB-②である。
授業計画	1 回目 オリエンテーション／小学校学習指導要領図画工作編の概要とその構造 造形・美術教育を学ぶことの意味について学修する。 この授業の目当てと教科の構造について、他教科との比較において学修する。 小学校学習指導要領図画工作編の概要とその構造について学修する。 授業の進め方について解説し、受講生とともに秋セメの各自の研究内容を決定し、発表計画を策定する。 2 回目 絵に表す活動／人物画を描く（1）／事前鑑賞と制作 小学校学習指導要領図画工作編の「目標」に示されている「対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解するとともに、材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりすることができるようにする」に基づき、様々な描画材を用いて人物を絵に表現することを学修する。 制作に際しては、事前に、我が国や海外の著名な人物画を鑑賞し、参照する。 3 回目 絵に表す活動／人物画を描く（2）／制作と相互鑑賞・評価 前回の授業で学修した内容に基づき、さまざまな描画材を用いて自画像を描く。 完成した作品を鑑賞し、相互に批評し合うことにより、他者の表現に関する理解を深める。また、授業における評価規準についても学修する。 4 回目 造形遊びをする活動（1）／事前学習と共同制作 小学校学習指導要領図画工作編の「内容」に示されている「造形遊びをする活動」についての基本的な考え方や指導方法について学修する。 様々な素材を活用して、造形遊びをする活動を実修する。 自分の子ども時代の遊びを思い出し、造形的な遊びについて考察する。 5 回目 造形遊びをする活動（2）／共同制作と鑑賞・評価 様々な素材を活用して、造形遊びをする活動を実修する。 共同制作を体験し、その意義と教育現場での評価について学修する。 授業における「造形遊び」の評価規準とその実際についても学修する。 6 回目 鑑賞をする活動／陶芸・工芸／参考館鑑賞 小学校学習指導要領図画工作編の「目標」に示されている「つくりだす喜びを味わうとともに、感性を育み、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養い、豊かな情操を培う」に基づき、鑑賞教育の理論と方法を学修する。 國學院大學栃木學園参考館を見学し、鑑賞活動（対話型鑑賞教育）と、ギャリートークを行う。 郷土の美術である益子焼や縄文土器など多様な美術作品に触れ、陶芸作品への関心を高める。 また、益子焼に関連する「民藝運動」について学修し、「用の美」（生活雑器の美しさ）に関する理解を深める。 7 回目 立体に表す活動／油粘土を使った制作／制作と鑑賞・評価 教育現場で最も多く使用されている油粘土を使用して、素材の特性や表現方法について学修する。 他の受講生の作品を鑑賞し、相互に批評し合うことにより、他者の表現に関する理解を深める。 8 回目 立体に表す活動／BOX ARTの制作（1）／材料と素材 様々な素材をコンパイン（統合）させて、新たなイメージの作品を創造することにより、立体による心象表現について学修する。 自分のお気に入りのものや端材を持ち寄って、箱の中に自分だけの世界を創造する。 制作の過程において、さまざまな素材の特性や加工に用いる道具の扱いについて学修する。 9 回目 立体に表す活動／BOX ARTの制作（2）／道具と制作 立体による適応表現と心象表現について、それぞれの意義と目的を学修する。 制作の過程において、さまざまな素材の特性や加工に用いる道具の扱いについて学修する。 完成したBOX ARTの作品を相互に鑑賞することにより、立体による適応表現と心象表現について学修する。 また、授業における評価規準についても学修する。 10 回目 絵に表す活動／ 抽象画制作（1）／事前鑑賞と制作 小学校学習指導要領図画工作編の「目標」に示されている「対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解するとともに、材料や用具を使い、表し方などを工夫し

	て、創造的につくったり表したりすることができるようにする」に基づき、発想力や構想力を生かして絵に表す活動を学修する。 1 1 回目 絵に表す活動／抽象画制作（２）／制作 発想力や構想力を生かして絵に表す活動を学修する。 様々な描画材を用いて感じたことを絵に表現する。 1 2 回目 絵に表す活動／抽象画制作（３）／制作と相互鑑賞・評価 前回の授業で学修した内容に基づき、発想力や構想力を生かして絵に表す活動を学修する。 発想や構想をする力の指導について、実際の学修をする。 完成した作品を鑑賞し、相互に批評し合うことにより、他者の表現に関する理解を深める。 また、授業における評価規準についても学修する。 1 3 回目 立体に表す活動／ストーンアート 石を使った造形活動に取り組むことにより、小学校学習指導要領図画工作編の「内容」に示されている「立体に表す活動」についての基本的な考え方や表現方法について学修する。 また、授業における評価規準についても学修する。 1 4 回目 鑑賞をする活動／児童画の鑑賞と発展的ワークショップ 世界の児童画を用いて、カレンダーづくりを構想する。 グループで制作をし、互いの作品を鑑賞し、批評し合う。 ワークショップの企画を体験し、アクティブ・ラーニング（主体的・対話的で深い学び）に関し、実際の理解を深める。 1 5 回目 自主研究発表 秋セメ全般を通じて自主的に研究してきた内容につき、パワーポイントや写真、動画などを用いて発表をする。 また、他の受講生の発表を批評し、ディスカッションをすることにより、主体的・対話的で深い学びについて体験的に学修する。 発表に際しては、受講生自らが司会を行い、主体的に運営する。 また、研究発表は公式（オフィシャル）な場であることから、発表における態度や言葉遣いについても指導する。
到達目標	1. 「表現」の活動を通して、豊かに、創造的に「発想や構想」をしたり、小学校低・中・高学年の指導に必要な「技能」を身に付けることができる。 2. 「鑑賞」の活動を通して、作品などに対する自分の見方や感じ方をより深めることができる。
授業時間外の学習	1. 資料等の予習 学習指導要領等の資料を事前によく読み込み、毎回の授業に臨むようにする。 2. 日常的な視覚文化情報の収集 与えられた課題等を意識し、日常的に身の回りの視覚文化に関心を持ち、興味ある情報を収集しておく。 3. 自主的な省察 最終時程の研究発表に備えて、各自が自主的に研究することにより、主体的で深い学修を実践する。
評価方法	平常点（５０％）、授業への参加意欲（２０％）、作品（３０％）により評価する。 遠隔授業に変更した場合も評価方法は対面授業と同様である。
テキスト	教科書は使用せず。
参考書	1. 小学校図画工作科教科書 『ずがこうさく１・２上』『ずがこうさく１・２下』『図画工作３・４上』『図画工作３・４下』『図画工作５・６上』『図画工作５・６下』／日本文教出版／２０２０年 2. 『小学校学習指導要領（平成２９年告示）解説 図画工作編』／文部科学省／２０１８年 3. 新野貴則・福岡知子 編著／『明日の小学校教諭を目指して 子どもの資質・能力を育む 図画工作科教育法』／萌文書林／２０１９年 4. 北沢昌代・畠山智宏・中村光絵 著／『子どもの造形表現 ーワークシートで学ぶー』／開成出版／２０１８年版
備考	本授業は、通常の講義や制作をする一方、各自がそれぞれの課題を持って、自主的に研究することにより、主体的で深い学修を実践する。 通常の対面授業の際には、講師の指示により道具箱「七つ道具」を持参すること。また、その際には、実技的内容を多く取り入れ、小学校図画工作科の指導に必要な「技能」を身に付けることを目指す。 ※「七つ道具」の詳細については、授業の中で説明する。 「七つ道具」の内容例：はさみ、のり、セロハンテープ、木工用ボンド、定規、カッター・カッター版、ホチキス、クレヨン、色鉛筆、マーカーなど。

講義科目名称： 教科専門 音楽（ピアノ） I

授業コード： 151004

英文科目名称： Specialized Subject: Music(Piano) 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	1 年次	1 単位	必修
担当教員			
早川富美子教授 澤村恵子講師			
添付ファイル			

授業の概要	ピアノ演奏の基礎的な力を養成し、豊かな音楽表現力の向上を目指していく。実習や教育現場で活用できる曲を中心に学修していく。本学が設定した課題に取り組み、（１）ピアノ演奏の基礎技能の習得（２）音楽の基礎知識の理解（３）楽曲構成の理解（４）こどもの歌、歌唱共通教材等の弾き歌い の向上を目指す。 なお、学習成果の指標はB－②である。 遠隔授業を実施する場合には、①課題型学修（「Google classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google classroom」を利用）とを組み合わせる。		
授業計画	1 回目	ガイダンス、課題把握、ピアノ基礎奏法の確認、A（初心者）：「メリーさんのひつじ」、B,C（経験者）：共通・選択曲より1曲目。音階、練習曲：各自のグレードに応じた練習曲を指示。	
	2 回目	A（初心者）：「かえるの合唱」、（音符の理解）、ハ長調（右手、左手）、B,C：共通・選択曲より2曲目。音階、練習曲：各自のグレードに応じた練習曲より1曲目。	
	3 回目	A（初心者）：「きらきらぼし」、ハ長調（右手、左手、両手）、（へ音記号の理解）、B,C：共通・選択曲より3曲目。音階、練習曲：各自のグレードに応じた練習曲より2曲目。	
	4 回目	A（初心者）：「ぶんぶんぶん」、ハ長調（両手）、B,C：共通・選択曲より4曲目。音階、練習曲：各自のグレードに応じた練習曲より3曲目。	
	5 回目	A（初心者）：「チューリップ」「ちょうちょう」、ハ長調、へ長調、B,C：共通・選択曲より5曲目。音階、練習曲：各自のグレードに応じた練習曲より4曲目。	
	6 回目	A（初心者）：「チューリップ」「ちょうちょう」、ハ長調、へ長調、B,C：共通・選択曲より6曲目。音階、練習曲：各自のグレードに応じた練習曲より5曲目。	
	7 回目	課題の到達確認1（ハ長調音階、練習曲、子どもの歌）と発表	
	8 回目	A（初心者）：「むすんでひらいて」、和音、スタッカート、B,C：共通・選択曲より7曲目。音階、練習曲：各自のグレードに応じた練習曲より6曲目。	
	9 回目	A（初心者）：「かっこう」、分散和音、B,C：共通・選択曲より8曲目。音階、練習曲：各自のグレードに応じた練習曲（バイエル、ツェルニー）より7曲目。	
	1 0 回目	A：「うみ」、調号、ト長調、B,C：共通・選択曲より9曲目。音階、練習曲：各自のグレードに応じた練習曲（バイエル、ツェルニー）より8曲目。	
	1 1 回目	A：「たなばたさま」、調号、へ長調、スラー、B,C：共通・選択曲より10曲目。音階、練習曲：各自のグレードに応じた練習曲より9曲目。	
	1 2 回目	A：「こいのぼり」、跳躍、二長調、B,C：共通・選択曲より11曲目。音階、練習曲：各自のグレードに応じた練習曲より10曲目。	
	1 3 回目	A：「かたつむり」、付点音符、イ長調、B,C：共通・選択曲より12,13 曲目。音階、練習曲：各自のグレードに応じた練習曲より11曲目。	
	1 4 回目	A：「森のくまさん」、臨時記号、音階の復習、B,C：共通・選択曲より14, 15曲目。音階の復習、練習曲：各自のグレードに応じた練習曲より12曲目。	
	1 5 回目	課題到達の確認2と発表会	
到達目標	1. 知識・技能→音楽の基礎知識を高め、ピアノ演奏の基礎的な技術を習得することができる。子どもの歌や小学校学習指導要領に示された歌唱共通教材等の伴奏をすることができる。 2. 思考力・判断力・表現力→楽譜を読み取り、楽曲構成を理解しながら、表現力のあるピアノ演奏ができる。 3. 学びに向かう力→授業での学びを生かし、実習、保育や教育現場等で実践できる力を身につける。		

授業時間外の学習	・練習時間を確保して、継続的に取り組むこと。 ・「練習記録」に練習内容を記入し、各自の取り組みを振り返りながら学修していくこと。 ・「練習記録」は毎週授業前日にclassroomに提出する。 ・楽語や記号の意味などは、音楽辞典やテキストなどで確認しながら練習をすること。
評価方法	授業への参加意欲・練習記録の提出・平常点（30%）、課題到達度（70%） ＊遠隔授業に変更にした場合も評価方法に変更はない。
テキスト	大海由香ほか編曲『保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集第1巻改訂版』（学研，2016年） 大海由香ほか編曲『保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集第2巻改訂版』（学研，2017年） 木村ケイ編『指づかいつきバイエルピアノ教則本』（全音楽譜出版社，1998年） 坪能由紀子、他共著『みんなピアノだい好き！』（全音楽譜出版社，2019年） 初等科音楽研究会編『小学校教員養成課程用 改訂版最新 初等科音楽教育法 2017年告示「小学校学習指導要領」準拠』（音楽之友社，2020年） 全国大学音楽教育学会編著『明日へ歌い継ぐ日本の子どもの歌ー唱歌童謡140年の歩みー』（音楽之友社，2013年） ＊その他、練習曲は履修者のレベルに応じて、指示します。 ＊テキストは、他の音楽関係の授業や2年次でも継続使用します。
参考書	授業の中で紹介する。
備考	実務教員：初等・前期中等教育学校音楽科目教諭として21年間勤務。 本学が設定したグレードで、子どもの歌の共通課題、選択課題、音階、練習曲等に取り組んでいただきます。 子どもの歌の伴奏は、履修者のレベルに応じて簡易伴奏、本格伴奏を指示します。 練習曲は『バイエル教則本』、『みんなピアノだい好き！』等より、履修者のレベルに応じて指示します。 どのグレードでも継続的に練習を重ねて取り組むことが大切です。 ＊授業計画については履修している学生に対して、事前に説明があったうえで変更される場合があります。

講義科目名称： 教科専門 音楽（ピアノ）Ⅱ

授業コード： 252007

英文科目名称： Specialized Subject: Music(Piano) 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	1 単位	必修
担当教員			
早川富美子教授 澤村恵子講師			
添付ファイル			

授業の概要	「教科専門 音楽（ピアノ）Ⅰ」に続いて、（１）ピアノ演奏の基礎技能の習得（２）音楽の基礎知識の理解（３）楽曲構成の理解（４）歌唱共通教材、こどもの歌の弾き歌い のさらなる向上を目指し、各自のレベルに応じた個人レッスンを行う。幼稚園、小学校教諭に求められるピアノ奏法の基礎的技能を学びながら、応用力を身に付ける。 なお、学習成果の指標はB－②である。 本授業は、対面授業を中心に実施するが、遠隔授業になった場合には、①課題型学修（「Google classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google classroom」を利用）とを組み合わせる。	
授業計画	1 回目	ガイダンス、春セメスタの課題達成度、姿勢やフォーム、弾き歌い等の確認。共通・選択課題より1曲目弾き歌い。音階・練習曲の確認と選択。
	2 回目	共通課題「かたつむり」付点音符の確認と弾き歌い。選択課題より2曲目弾き歌い。音階（ハ長調の復習）・練習曲より2曲目。
	3 回目	共通課題「たなばたさま」調号の確認と弾き歌い。選択課題より3曲目弾き歌い。音階（ヘ長調の復習）・練習曲より3曲目。
	4 回目	共通課題「森のくまさん」応答と弾き歌い。選択課題より4曲目弾き歌い。音階（ト長調の復習）・練習曲より4曲目。
	5 回目	共通課題「思い出のアルバム」 6/8 拍子の理解、弾き歌い。選択課題より5曲目弾き歌い。音階（ニ長調の復習）・練習曲より5曲目。
	6 回目	共通課題「おべんとう」付点音符の復習、弾き歌い。選択課題より6曲目弾き歌い。音階（イ長調）・練習曲より6曲目。
	7 回目	課題の到達確認
	8 回目	共通課題「さんぽ」リズム確認、片手で弾き歌い。選択課題より7曲目弾き歌い。音階（ホ長調）・練習曲より7曲目。
	9 回目	共通課題「さんぽ」両手で弾き歌い。選択課題より8曲目弾き歌い。音階（変ロ長調）・練習曲より8曲目。
	1 0 回目	共通課題「おはよう」複付点音符、弾き歌い。選択課題より9曲目弾き歌い。音階（変ホ長調）・練習曲より9曲目。
	1 1 回目	共通課題「おかえりのうた」付点音符、弾き歌い。選択課題より10曲目弾き歌い。音階（イ短調）・練習曲より10曲目。
	1 2 回目	共通課題「おかたづけ」リズム、弾き歌い。選択課題より11曲目弾き歌い。半音階（片手ずつ）・練習曲より11曲目。
	1 3 回目	共通課題「さようならのうた」弾き歌い。選択課題より12曲目弾き歌い。半音階（両手）・練習曲より12曲目。
	1 4 回目	共通課題の復習、弾き歌い。選択課題より13曲目弾き歌い。音階の復習・練習曲13曲目。
	1 5 回目	課題達成の確認とまとめ
到達目標	1. 知識・技能→音楽の基礎知識を高め、ピアノ演奏の基礎的な技術を修得することができる。子どもの歌のレパートリーを広げ、弾き歌いすることができる。 2. 思考力・判断力・表現力→楽譜を読み取り、楽曲構成を理解しながら、表現力のあるピアノ演奏や弾き歌	

	いができる。 3. 学びに向かう力→授業での学びを生かし、さらに音楽的な表現を向上させて、実習や教育現場等で実践できる力を身につける。
授業時間外の学習	・練習計画を立て、練習時間を確保して取り組むこと。 ・「練習記録」に毎日記入し、各自の取り組みを振り返りながら学修していくこと。 ・「練習記録」は、授業前日にclassroomに提出すること。 ・楽語や記号の意味などは、音楽辞典やテキストなどで確認しながら練習をすること。 ・子どもの歌の弾き歌いは、伸びやかな声で歌いながらピアノ伴奏ができるように練習すること。
評価方法	授業への参加意欲・練習記録の提出・平常点（30%）、課題到達度（70%） *遠隔授業に変更にした場合も評価方法に変更はない。
テキスト	大海由香ほか編曲『保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集第1巻改訂版』（学研、2016年） 大海由香ほか編曲『保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集第2巻改訂版』（学研、2017年） 木村ケイ編『指づかいつきバイエルピアノ教則本』（全音楽譜出版社1998年） 坪能由紀子、他共著『みんなピアノだい好き!』（全音楽譜出版社、2019） 初等科音楽研究会編『小学校教員養成課程用 改訂版最新 初等科音楽教育法 2017年告示「小学校学習指導要領」準拠』（音楽之友社、2020年） 全国大学音楽教育学会編著『明日へ歌い継ぐ日本の子どもの歌ー唱歌童謡140年の歩みー』（音楽之友社、2013年） *練習曲は、履修者のレベルに応じて指示します。 *テキストは、他の音楽関係の授業や2年次の授業でも継続使用します。
参考書	授業の中で紹介する。
備考	実務教員：初等・前期中等教育学校音楽科目教諭として21年間勤務。 グレードは本学が設定したグレードです。 履修者のレベルに応じて、子どもの歌は簡易伴奏や本格伴奏を指示します。 どのグレードでも継続的に練習を重ねて取り組むことが大切です。 *授業計画については履修している学生に対して、事前に説明があったうえで変更される場合があります。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	1 年次	1 単位	必修
担当教員			
早川富美子 教授			
添付ファイル			

授業の概要	将来、保育や教育現場の指導するために必要な歌唱や器楽の基礎技能を学び、表現力の向上を目指す。 歌唱は、保幼小のつながりやピアノの弾き歌いとの関連も踏まえ、発声法や呼吸法を学びながら、こどもの歌や小学校歌唱共通教材等の知見を広げる。 器楽は、様々な楽器（ピアノ以外、日本の楽器も含む）を中心に、身体や自然素材も打楽器として活用しながら、基礎的な奏法を学んだ後、簡単な音楽づくりにつなげて楽しめるようにする。 以上、（１）歌唱や楽器演奏の基礎技能の習得（２）音楽理論の習得（３）読譜力の向上（４）簡単な音楽づくりを目指して学修していく。 なお、学習成果の指標はB-②である。 遠隔授業を実施する場合には、①課題型学修（「Google classroom」を利用）と②同時双方向型学修（「Google classroom」を利用）とを組み合わせる。
授業計画	1 回目 ガイダンス、歌唱の基礎、校歌、楽器についての説明 2 回目 校歌、わらべうた、体を楽器とした表現 3 回目 春のうた①、ボディパーカッションの創作 4 回目 春のうた②、教育楽器についての知識、小太鼓の基礎 5 回目 ゲストティーチャーによる打楽器の基礎と演奏 6 回目 夏の歌①、教育楽器（木・金属・皮）の基礎奏法 7 回目 夏の歌②、鍵盤楽器（マリンバ、鉄琴、木琴）の基礎奏法 8 回目 日本の楽器（箏）の基礎奏法、箏のゲストティーチャーによる演奏 9 回目 わらべうたを箏で演奏 10 回目 生活の歌①、自然素材を楽器とした音遊び 11 回目 生活の歌②、トガトンで音楽づくり 12 回目 動物の歌、トーンチャイムやミュージックベルの基礎奏法 13 回目 乗り物の歌、トーンチャイムで音楽づくり 14 回目 発表会の練習、学習した楽器を使った小アンサンブル 15 回目 まとめ、歌と楽器の発表会
到達目標	1. 知識・技能→歌唱や器楽の演奏を通して各自の表現技能を高めるとともに、音楽の基礎知識を習得することができる。 2. 思考力・判断力・表現力→音楽の基礎的な知識・技能を土台として、子どもたちの音楽活動を支えるために必要な豊かな表現力を身につけることができる。 3. 学びに向かう力→他者の音楽表現を受容したり、仲間と協働して音楽をつくっていくことができる。
授業時間外の学習	歌のレパートリーを増やしていくために、予習、復習をして1人で歌えるようにする。 様々な楽器に興味・関心をもち、取り組んでみる。 歌唱や器楽の練習をするときは、楽典も復習しながら取り組むこと。
評価方法	小テスト・発表（40％）、平常点（60％）とする。遠隔授業に変更した場合も同様である。
テキスト	大海由香ほか編曲『保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集 第1巻改訂版』（学研、2016年） 大海由香ほか編曲『保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集 第2巻改訂版』（学研、2017年） 阿部恵著『DVD+CDたのしい手あそびうた』（ナツメ社、2008年） 坪能由紀子他、共著『みんなピアノだい好き！』（全音楽譜出版社、2019）

	駒久美子・味府美香編著『コンパス音楽表現』（建帛社, 2020年） 初等科音楽研究会編『小学校教員養成課程用 改訂版最新 初等科音楽教育法 2017年告示「小学校学習指導要領」準拠』（音楽之友社, 2020年） 全国大学音楽教育学会編著『明日へ歌い継ぐ日本の子どもの歌ー唱歌童謡140年の歩みー』（音楽之友社、2013年） 必要に応じてプリントを配布する。 *テキストは、他の音楽関係の授業や2年次でも継続使用します。
参考書	授業時に必要に応じて紹介する。
備考	授業計画については、履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。 鍵盤ハーモニカ、リコーダー、カスタネット、小太鼓のスティック等は各自準備をしてください。 実務教員：初等・前期中等教育学校音楽科目教諭として21年間勤務。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	1 単位	必修
担当教員			
早川富美子 教授			
添付ファイル			

授業の概要	「音楽（歌と楽器）Ⅰ」をもとに、将来、保育や教育現場の指導するために必要な歌唱や器楽の基礎技能を学び、表現力のさらなる向上を目指す。 歌唱は、保幼小のつながりやピアノの弾き歌いとの関連も踏まえ、発声法や呼吸法を学びながら、こどもの歌や小学校歌唱共通教材等の知見を広げる。 器楽は、様々な楽器（ピアノ以外、日本の楽器も含む）を中心に、身体や自然素材も打楽器として活用しながら、基礎的な奏法を学んだ後、簡単な音楽づくりにつなげて楽しめるようにする。 以上、（１）歌唱や楽器演奏の基礎技能の習得（２）音楽理論の習得（３）読譜力の向上（４）簡単な音楽づくりを目指して学修していく。 なお、学習成果の指標はB-②である。 遠隔授業を実施する場合には、①課題型学修（「Google classroom」を利用）②同時双方向型学修（「Google classroom」を利用）とを組み合わせる。
授業計画	1 回目 ガイダンス、校歌、小物打楽器を使った演奏 2 回目 秋の歌①、小太鼓、大太鼓 3 回目 秋の歌②、和太鼓 4 回目 冬の歌①、日本の楽器で合奏 5 回目 冬の歌②、身の回りのモノを楽器として① 6 回目 ゲストティーチャーによる身の回りのモノ（自然素材）と他分野との融合 7 回目 行事の歌、オルフ楽器① 8 回目 童謡・昔話の歌、オルフ楽器② 9 回目 ゲストティーチャーによる指導と演奏 1 0 回目 世界の歌①、ドラムセット 1 1 回目 世界の歌②、クリスマス曲の合奏① 1 2 回目 動物の歌、クリスマス曲の合奏② 1 3 回目 アニメなどの歌、学習した楽器を使って小アンサンブル 1 4 回目 発表の練習 1 5 回目 まとめ、発表
到達目標	1. 知識・技能→歌唱や器楽の演奏を通して各自の表現技能を高めるとともに、音楽の基礎知識を習得することができる。 2. 思考力・判断力・表現力→音楽の基礎的な知識・技能を土台として、子どもたちの音楽活動を支えるために必要な豊かな表現力を身につけることができる。 3. 学びに向かう力→他者の音楽表現を受容したり、仲間と協働して音楽をつくっていくことができる。
授業時間外の学習	歌のレパートリーを増やしていくために、予習、復習をして1人で歌えるようにする。 様々な楽器に興味・関心をもち、取り組んでみる。 歌唱や器楽の練習をするときは、楽典も復習しながら取り組むこと。
評価方法	小テスト・発表（40％）、平常点（60％）とする。遠隔授業に変更した場合も同様である。
テキスト	大海由香ほか編曲『保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集 第1巻改訂版』（学研、2016年） 大海由香ほか編曲『保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集 第2巻改訂版』（学研、2017年） 阿部恵著『DVD+CDたのしい手あそびうた』（ナツメ社、2008年）

	坪能由紀子他、共著『みんなピアノだい好き!』（全音楽譜出版社，2019） 駒久美子・味府美香編著『コンパス音楽表現』（建帛社，2020年） 初等科音楽研究会編『小学校教員養成課程用 改訂版最新 初等科音楽教育法 2017年告示「小学校学習指導要領」準拠』（音楽之友社，2020年） 全国大学音楽教育学会編著『明日へ歌い継ぐ日本の子どもの歌ー唱歌童謡140年の歩みー』（音楽之友社，2013年） 必要に応じてプリントを配布する。*テキストは他の音楽関連の科目でも併用し、2年次も継続使用する。
参考書	授業時に必要に応じて紹介する。
備考	授業計画については、履修している学生に対して、事前に説明があった上で、変更される場合があります。 鍵盤ハーモニカ、リコーダー、カスタネット、小太鼓のスティック等は各自準備をしてください。 実務教員：初等・前期中等教育学校音楽科目教諭として21年間勤務。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	2 年次	1 単位	選択
担当教員			
早川富美子教授 阿久津清美講師			
添付ファイル			

授業の概要	1. ピアノ、教育楽器の演奏、竹楽器の製作、鑑賞、音楽づくり等の活動を通して、音楽の楽しさを味わいながら音楽的な視野を広げ、教育現場での実践に生かせるようにする。 2. 保育・教育現場で応用し実践できるように、コード伴奏、即興的な表現、様々な楽器によるグループでのアンサンブルや音楽づくり、リトミック等を学ぶ。 3. 実習等に向けたピアノ伴奏、弾き歌い、歌唱指導法を学ぶとともに、小学校の実践に向けた検討をする。 なお、学習成果の指標はB-②である。 遠隔授業を実施する場合には、①課題型学修（「Google classroom」を利用）と②同時・双方向型学修（Google classroom」を利用）③オンデマンド型学修（「Google classroom」を利用）とを組み合わせる。		
授業計画	1 回目	ガイダンス、コード伴奏や実習等で取り組む曲の確認、リトミックの説明	
	2 回目	小学校の歌唱教材①、コード伴奏（1 音）、ダルクローズの音楽教育	
	3 回目	小学校の歌唱教材②、コード伴奏（2 音）、リトミック①リズム	
	4 回目	竹楽器の製作（トガトン）、コード伴奏（3 音）、リトミック②拍	
	5 回目	竹楽器（トガトン）による音楽づくり、コード伴奏（4 音）、リトミック③フレーズ	
	6 回目	身の回りのモノによる音楽づくり、リトミック④アナクルーシス、クルーシス	
	7 回目	リコーダーアンサンブル（ソプラノ、アルト、テナー、バス）と鑑賞、リトミック⑤カノン	
	8 回目	オルフの音楽教育とオルフ楽器を使った音楽づくり	
	9 回目	ゲストティーチャーによる演奏と指導法	
	1 0 回目	ドラムセット、鍵盤打楽器（木琴、鉄琴等）の奏法とアンサンブル、リトミック⑥音階	
	1 1 回目	ドラムセット、鍵盤打楽器（木琴、鉄琴等）の奏法とアンサンブル、リトミック⑦応用	
	1 2 回目	和楽器の奏法と合奏	
	1 3 回目	小学校での実践に向けた検討①（教材研究）	
	1 4 回目	小学校での実践に向けた検討②（模擬練習）	
	1 5 回目	小学校での実践に向けた検討③（模擬練習）とまとめ	
到達目標	1. 知識・技能→コード伴奏、様々な楽器演奏やアンサンブル、音楽づくり、リトミック等の活動を通して、実習や教育現場で指導できる力を身につける。 2. 思考力・判断力・表現力→音楽活動における知識や技能を生かし、さらに自己の表現力を高めることができる。 3. 学びに向かう力→多様な音楽活動を通して、仲間とコミュニケーションをとりながら、積極的に音楽活動に取り組むことができる。		
授業時間外の学習	日頃から多様な音楽や楽器に興味関心を持ち、鑑賞をしたり触れる機会をもつようにする。 特にピアノ、リコーダーや鍵盤ハーモニカは、実習や教育現場でも模範演奏ができるようにレパートリーを増やしておくこと。 ピアノは、楽譜を見て弾くだけでなく、簡単な即興やコード伴奏ができるように継続して練習し、レパートリーを広げるようにする。		
評価方法	平常点100% *遠隔授業に変更にした場合も評価方法に変更はない。		
テキスト	新実徳英他『音楽のおくりもの1～6』（教育出版、2020年） 坪能由紀子他共著『みんなピアノだい好き』（全音楽譜出版社、2016年）		

	駒久美子・味府美香編著『コンパス音楽表現』（建帛社，2020年） 初等科音楽研究会編『小学校教員養成課程用 改訂版最新 初等科音楽教育法 2017年告示「小学校学習指導要領」準拠』（音楽之友社，2020年） その他、必要に応じてプリントを配布する。 以上のテキストは1年次の授業で使用したものを継続使用。
参考書	授業の中で紹介する。
備考	リコーダー、鍵盤ハーモニカ、カスタネット、小太鼓のスティック等は、各自で準備をしてください。 コロナ対策として、リコーダー等の演奏が不可能な場合は、他の楽器に変更する場合があります。 授業計画については履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	2 年次	1 単位	選択
担当教員			
早川富美子教授 阿久津清美講師			
添付ファイル			

授業の概要	「教科専門 音楽（子どもと音楽）Ⅰ」をふまえて、さらに多様な音楽の体験を通して、将来教育現場に携わる指導者として必要な音楽的な力、豊かな表現力、実践力を高めていく。 ピアノの演奏や即興、様々な楽器の習得や音楽づくりの活動、リトミック、子どものうたをもとにしたドラムジカの制作と発表等、体験を通して学んでいく。また、授業で取り組んだ内容を大学祭や表現活動などで発表する予定である。 なお、学習成果の指標はB-②である。 遠隔授業を実施する場合には、①課題型学修（「Google classroom」を利用）と②同時・双方向型学修（「Google classroom」を利用）③オンデマンド型学修（「Google classroom」を利用）とを組み合わせる。		
授業計画	1 回目 ガイダンス、大学祭での発表について 2 回目 ミュージックベル、トーンチャイムによる演奏と音楽づくり 3 回目 トガトンによる音楽づくりとバンブーダンス 4 回目 ゲストティーチャーによる演奏と指導法 5 回目 身体や身近なものによる音楽づくり 6 回目 大学祭での演奏曲の練習 7 回目 ドラムジカの制作①（子どもの歌を選曲） 8 回目 ドラムジカの制作②（ストーリーを構想） 9 回目 ドラムジカの制作③（練習） 1 0 回目 ドラムジカの制作④（中間発表） 1 1 回目 ドラムジカの制作⑤（修正と練習） 1 2 回目 ドラムジカの制作⑥（発表会） 1 3 回目 小学校における実践の検討 1（低・中学年） 1 4 回目 小学校における実践の検討 2（高学年） 1 5 回目 小学校における実践の検討 3（模擬実践）とまとめ		
到達目標	1. 知識・技能→様々な楽器演奏、即興、アンサンブル、音楽づくり、リトミック等の活動を通して、実習や教育現場で指導できる力を身につける。 2. 思考力・判断力・表現力→音楽活動における知識や技能を生かし、さらに自己の表現力を高めることができる。 3. 学びに向かう力→多様な音楽活動を通して、仲間とコミュニケーションをとりながら、積極的に音楽活動に取り組むことができる。		
授業時間外の学習	日頃から多様な音楽や楽器に興味関心をもち、鑑賞をしたり、触れる機会をもつこと。 ピアノは継続して練習し、レパートリーを広げ、実習や採用試験等に対応できる力を身につけること。 発表に向けて、個人やグループで自主的に練習に取り組むこと。		
評価方法	平常点100% *遠隔授業に変更にした場合も評価方法に変更はない。		
テキスト	新実徳英他『音楽のおくりもの1～6』（教育出版、2020年） 坪能由紀子他共著『みんなピアノだい好き』（全音楽譜出版社、2016年） 駒久美子、味府美香編著『コンパス音楽表現』（建帛社、2020年） 初等科音楽研究会編『小学校教員養成課程用 改訂版最新 初等科音楽教育法 2017年告示「小学校学習指導要		

	領」準拠』（音楽之友社，2020年） その他、プリントを配布予定である。 以上のテキストは、1年次からの継続使用。
参考書	授業の中で紹介する。
備考	リコーダー、鍵盤ハーモニカ、カスタネット、小太鼓のスティックは各自で準備してください。 コロナ対策のため、使用する楽器が変更になる場合があります。 授業計画については履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。

講義科目名称： 教科専門 体育

授業コード： 214008

英文科目名称： Specialized Subject;Physical Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	2 単位	必修
担当教員			
金山正樹 講師			
添付ファイル			

授業の概要	○小学校の体育科の目標・各学年の目標や教科の内容及び各領域の内容を理解し、各種の運動の実技等を通して、授業における適切な指導法や評価方法について学ぶ。 ○それぞれの授業を通じて運動の楽しさに触れながら、子どもたちに身に付けさせたい「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の三つの資質・能力について理解するとともに、運動の苦手な児童への手だてについて考えることができる。 なお、学習評価の指標はB－②である。 遠隔授業を実施する場合には、①課題型学修(「Google Classroom」を利用 ③オンデマンド型学修(「Google Meet」を利用)を組み合わせる。
授業計画	1 回目 オリエンテーション 2 回目 小学校の体育科の目標及び各領域の内容について 3 回目 体づくり運動系の学習活動における指導法や評価方法についての理解Ⅰ 4 回目 体づくり運動系の学習活動における指導法や評価方法についての理解Ⅱ 5 回目 器械運動系の学習活動における指導法や評価方法についての理解Ⅰ 6 回目 器械運動系の学習活動における指導法や評価方法についての理解Ⅱ 7 回目 陸上運動系の学習活動における指導法や評価方法についての理解Ⅰ 8 回目 陸上運動系の学習活動における指導法や評価方法についての理解Ⅱ 9 回目 ボール運動系の学習活動における指導法や評価方法についての理解Ⅰ 1 0 回目 ボール運動系の学習活動における指導法や評価方法についての理解Ⅱ 1 1 回目 ボール運動系の学習活動における指導法や評価方法についての理解Ⅲ 1 2 回目 表現運動系の学習活動における指導法や評価方法についての理解 1 3 回目 水泳運動系の学習活動における指導法や評価方法についての理解 1 4 回目 保健領域についての指導内容の理解 1 5 回目 まとめ
到達目標	○小学校の体育科の目標・各学年の目標や教科の内容及び各領域の内容を理解し、それらについて説明することができる。 ○各種の運動の実技等を通して、運動領域及び保健領域ごとの授業における適切な指導法や評価方法について理解することができる。 ○それぞれの運動に苦手意識をもっている児童に視点をあてて、それらの児童への配慮(指導・支援の工夫)について思考し、説明することができる。
授業時間外の学習	それぞれの運動・スポーツに関する情報について文献検索や資料収集をして授業に臨むこと。
評価方法	授業への参加意欲・態度50%、課題学習50%とする。 遠隔授業に変更した場合も評価方法に変更はない。
テキスト	小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 体育編 その他は、必要に応じて授業内で資料を配布する。
参考書	
備考	

講義科目名称： 教科専門 家庭

授業コード： 145003

英文科目名称： Specialized Subject: Home Economics

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	1 年次	2 単位	必修
担当教員			
仲田郁子 教授			
添付ファイル			

授業の概要	小学校家庭科の教育内容（家族・家庭生活、衣食住の生活、消費生活・環境）と教育方法を理解し、児童を指導する際に必要となる基礎的・基本的な知識・技能を身につける。授業内実習に加え、家庭科独自の教育方法である「ホームプロジェクト」を取り入れ、中間報告および最終報告を行う。 なお、学習成果の指標はB-②である。 本授業は、対面授業を中心に実施するが、遠隔授業となった場合は①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と②同時・双方向型学修（「Google Meet」を利用）を組み合わせる。
授業計画	1 回目 ガイダンス、小学校家庭科の教育内容（基礎知識・基礎技能）と教育方法の特徴、ホームプロジェクト 2 回目 小学生の家族・家庭生活（生活時間と家事労働、家族関係）、地域の人々との関わり 3 回目 衣生活の基礎知識（被服のはたらき、日常着の着方、日常着の手入れ） 4 回目 手縫いの基礎① 玉どめ、玉結び、なみ縫い、返し縫い、かがりぬい、ボタン付け（フェルトを使った小物作り） 5 回目 手縫いの基礎② 生活を豊かにするための布を用いた製作（平織の布を用いた小物作り） 6 回目 ホームプロジェクト中間報告会 7 回目 衣生活と環境 8 回目 食生活の基礎知識（栄養素とその働き、食品の選び方と保存、実習指導の注意点） 9 回目 調理の基礎① ゆでる（青菜・じゃがいも）、炒める 1 0 回目 調理の基礎② 炊飯、味噌汁（だしの役割） 1 1 回目 住生活の基礎知識（住まいのはたらき、室内環境の調整、通風・換気・採光・音） 1 2 回目 消費生活と環境に関する基礎知識① 売買契約の基礎と消費者問題 1 3 回目 消費生活と環境に関する基礎知識② わたしたちの暮らしと環境問題、ESD 1 4 回目 ホームプロジェクト最終報告会 1 5 回目 ふりかえりとまとめ
到達目標	小学校家庭科を指導する上で必要となる教科内容についての基礎知識・技能を習得し、家庭科独自の様々な教育法を経験することにより、教師としての力量を高めることができる。
授業時間外の学習	家庭科独自の教育方法の一つである「ホームプロジェクト」は、プロジェクト学習の一種であり、自らの家庭の生活課題を見つけ、それを改善するための行動計画を立て実行することに特徴がある。本科目の受講者は、家庭科指導者として各自が身につけたい課題（目標）を1つ設定し、4カ月間の行動計画を立て、授業時間外に実行することが求められる。授業期間中には、中間報告と最終報告の2回の報告会があり、その準備を進める必要がある。
評価方法	授業への参加意欲（20%）、実験実習（20%）、ホームプロジェクト中間報告（30%）、最終報告（30%）の結果を基に評価する。 遠隔授業に変更した場合も評価方法に変更はない。
テキスト	『わたしたちの家庭科』（開隆堂） 文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 家庭編』（東洋館出版、2018）
参考書	流田直監修『改訂版家庭科の基本』（学研教育みらい、2020）
備考	授業の展開により、授業の内容・順番が一部変更される可能性がある。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	2 単位	必修
担当教員			
大島秀郎 講師			
添付ファイル			

授業の概要	小学校における外国語活動・外国語科の授業を担当するために必要な実践的な英語運用能力を、授業場面を意識しながら身に付ける。 小・中学校の接続も踏まえながら、小学校における外国語活動・外国語科の授業を担当するために必要な背景的な知識を身に付ける。 なお、学習成果の指標はB-①とB-②である。 本授業は、対面授業を中心に実施するが、遠隔授業になった場合は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と②同時・双方向型学修（「Google Meet」または「ZOOM」を利用）とを組み合わせる実施する。		
授業計画	1 回目	オリエンテーション—話す力［やり取りと発表］について 諸外国との違いを認識し、共感をもつとともに、わが国の文化等との共通点や相違点についても理解する。 討論テーマ：小学校英語、これまでの道のり 小学校英語のジレンマ、未解決の問題	
	2 回目	英語音声学、英語らしい発音・アクセント、フォニックス、音読、ジャズチャンツの活用、ことばの構造 A L T等の協力・助言を得て、英語によるコミュニケーション能力を育成する。 討論テーマ：小学校英語前史	
	3 回目	意味論、カタカナ語、つづりと発音、リスニングの要諦 郷土の文化人について知る。 討論テーマ：小学校英語、「実験」の時代	
	4 回目	語順と学習英文法、英検 5 級・4 級の合格基準、文化の構造 児童に対する共感的理解を深める。 討論テーマ：小学校英語、模索の時代	
	5 回目	ティームティーチングの理論と実践、ゲーム、コンテスト 国際化時代に対する児童の意識の高揚を図る手立てを探る。 討論テーマ：多様性とカオスの小学校英語	
	6 回目	正確なブロック体と読みやすい筆記体で、達意の英文を書く、名文に学ぶ、ものとことば 只管「筆写」を実践する。 討論テーマ：「外国語活動」の誕生	
	7 回目	第二言語習得理論、臨界期の壁 只管「朗読」を実践する。 討論テーマ：教科化・早期化に向けて	
	8 回目	英会話リテラシーとコーパス情報の活用（1）話せるまでの道のり、かくれた規準 他の国家、民族、人権に対する偏見や先入観を排除するために小学校教員としてなすべきことは何か。 討論テーマ：小学校英語の展望	
	9 回目	英会話リテラシーとコーパス情報の活用（2）万能表現を使いこなす お互いの基本的人権を尊重し合う態度を養う。 討論テーマ：小学校英語、現在までの改革の批判的検討	
	1 0 回目	児童文学（1）Winston T. Mouse by Marty Reep、ことばの意味 諸外国の文化、伝統などを認識し、共感をもつ。 討論テーマ：小学校英語、どんな効果があったのか	
	1 1 回目	児童文学（2）Swimmy by Leo Lionni、ことばの定義 諸外国の風俗習慣などを認識し、共感をもつ。 討論テーマ：グローバル化と小学校英語	
	1 2 回目	児童文学（3）Mother Goose’s Melody、事実に意味を与える価値について 諸外国の価値観などを認識し、共感をもつ。 討論テーマ：小学校英語、教員の負担とさまざまな制約	
	1 3 回目	異文化理解、国際理解と海外事情（1）外国から見た日本、人を表わすことば 異文化に対する理解を深めるための研修を行う。 討論テーマ：小学校英語、外部人材活用という「第三の道」	
	1 4 回目	異文化理解、国際理解と海外事情（2）日本から見た外国、ことばと行動様式 世界の平和と発展に貢献できる能力や態度を育成する。 討論テーマ：小学校英語・・・制度、予算の制約、世論のプレッシャー	
	1 5 回目	まとめ、そしてアクティブ・ラーニングへの道 国際的な協力をもとに解決しなければならない課題についての認識を深める。 討論テーマ：小学校英語をめぐる今後の選択肢 ①専科教員（英語が専門）が教える ②学級担任が教える ③必修をやめる ④全廃 *複雑な問題をはらんでいます、あなたはどうか考えますか？	
到達目標	①授業実践に必要な英語 4 技能（聞くこと・話すこと・読むこと・書くこと）を身につける。		

	②英語に関する基本的な知識（音声、語彙、文構造、文法、正書法等）を理解できる。 ③第二言語習得に関する基本的な知識を理解できる。 ④児童文学（絵本、子供向けの歌や詩等）について、理解を深める。 ⑤異文化理解ができる。 ⑥コミュニケーション能力の育成を図る学習指導計画を英語で作成できる。 ⑦児童が喜んで、楽しく取り組める授業を創造できる。 ⑧児童一人一人を生かす評価の工夫ができる。
授業時間外の学習	授業で扱う英文テキストについては、事前に6回以上音読し、原文をノートに書き写しておく。不明な語句は英和辞典を引いておく。英語史、英語学、英語音声学に関する専門用語は、その用語ごとに400字程度で定義しておく。 コミュニケーション能力は、学生自らが、その場面にふさわしい表現を実際に使うことで身に付くものである。ふだんから学生同士、身近な話題を取り上げ、4技能による英語活動がしやすい場面を設定するなど、学生の学生による学生のための多様な発想を心から期待するものである。NHKの語学番組等を視聴することを特に勧めたい。 決して流暢でなくてもよいので、日本語の影響を受けない発音を目指し、日々努力してほしい。その姿勢が児童たちにとってよき手本となろう。英語らしい発音を身につけるには、正しい音をよく聞いて、声に出してくり返し練習することが大切である。「発音記号」は正しい発音をするための助けになるので、よく覚えておくことが肝要である。
評価方法	講義への参加意欲・態度・パフォーマンス試験（40%）、小レポート（60%） *遠隔授業に変更した場合も評価方法に変更はない。
テキスト	【1冊目】・・・・・・『Impact Issues 1 インパクト・イシューズ 1』（第3版、Pearson ピアソン・ジャパン株式会社） *THIRD EDITION 〒101-0064 東京都千代田区猿楽町1-5-15 猿楽町SSビル3F TEL 03-5281-8553 FAX 03-5281-8551 【2冊目】・・・・・・鈴木孝夫 著『ことばと文化』（岩波新書） 株式会社 岩波書店 〒101-8002 東京都千代田区一ツ橋2-5-5
参考書	『思考と行動における言語』S. I. ハヤカワ（岩波書店）、 『認知言語学への招待』辻幸夫編（大修館書店）、 『もう一つのアメリカン・ドリーム——アジア系アメリカ人の挑戦』ロナルド・タカキ（岩波書店）、 『日本人のための英語学習法』里中哲彦（筑摩書房）、 『小学校英語教育の基礎知識』村野井仁編著（大修館書店）、 『小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編』（文部科学省）、 『Fifty Famous Stories』（開文社出版英文選書 005）、 『IIJIMA'S NEW ENGLISH-JAPANESE DICTIONARY 新英和辞典』飯島東太郎編 株式会社博友社 昭和25年、 『教養の力 東大駒場で学ぶこと』斉藤兆史（集英社新書）、その他は講義の中で随時紹介する。
備考	国際理解教育の側面・・・基本的課題の確認 今日、経済・社会・文化等さまざまな分野にわたって国際化が進展し、諸国間の交流や相互依存関係が急速に深まっている。このような情勢の下にあって、わが国が国際社会の一員として、主体性をもって積極的にその役割を果たすためには、国民一人一人が日本及び諸外国の文化・伝統等について深い理解をもち、国際社会において信頼と尊敬を受けるにたる日本人（児童、生徒、学生を含む）を育成することが基本的な課題である。

講義科目名称： 教師論

授業コード： 112007

英文科目名称： Principles and Methods of Teaching

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	1 年次	2 単位	必修
担当教員			
倉持 博 教授			
添付ファイル			

授業の概要	教育の担い手である教員は、幼児、児童生徒個々の人生に大きく関わるかけがいのない職務を日々務めることになる。しかし、そこには「子どもたち・保護者から信頼されなければ話を聞いてもらえない、信頼されても、教えるべき・伝えるべき専門的力がなければ教えられない」という厳しさが現存しており、だれもが希望すればなれる職業ではない。 そこで本講義は、教師たる資質・能力（いわば条件）を学校現場の視点から考察し、教員に求められる今日の資質、能力や職務を理解するとともに、教員免許を取得し教職に就こうとしている自己の適正等について、客観的な考察を図るものである。なお、学習成果の指標はB-②と③である。 諸般の事情で遠隔授業になった場合は、Google Classroomを活用した①課題型学習となる。
授業計画	1 回目 教師を目指すということ 教員と教師と教諭 教師を目指すとは 2 回目 初等教育の教師 幼稚園教師の仕事と魅力 小学校教師の仕事と魅力 3 回目 中等教育の教師 中学校教師の仕事と魅力 高校教師の仕事と魅力 4 回目 日本の教職の特徴 教員の勤務形態と社会的地位 職務内容 教職の専門性 5 回目 教師像の史的展開 聖職者としての教師像 労働者としての教師像 技術的熟達者としての教師像 専門家としての教師像 公僕としての教師像 6 回目 教員の服務 教員の服務と処分 職務上の義務と身分上の義務 7 回目 教員の権利と身分保障 教員の労働条件 教員の身分保障 8 回目 学び続ける教師 教え手から学びの専門家へ 教員研修制度 キャリアの形成と研修 9 回目 学校を構成する様々な専門職 チームとしての学校 1 0 回目 専門家としての教師 教える教師から学びを生み出す教師へ 1 1 回目 子ども観 子どもを理解すること いのちを最優先にした学校づくり 1 2 回目 いじめに向き合う教師 いじめをなくすには 自尊感情を培うためには 1 3 回目 性の多様性をめぐる学校・教師の課題 性の多様な発達 学校・教師のこれからの課題 1 4 回目 「教える」ことの意味 教えること、育成すること、習得を図ること 資質・能力とは 1 5 回目 教師論 「まとめ」と自己考察
到達目標	幼児、児童の教育を担う教師に求められる基本的な資質・力量について、具体的に理解することができる。 社会的な信頼感として求められる人間性や服務上の義務等についての理解と自己の考察ができる。 生徒指導や学習指導等についての基礎的事項や幼児教育との関連・連続性、実践的内容について理解でき

	る。 教員免許状の取得・教職を目指す自己の適正を分析できる。
授業時間外の学習	当日の講義時で使用（配布）したレジュメを基に、授業内容を改めて整理しましょう。（分かったこと さらに調べたいこと 再度確認：質問したいこと 等） 新聞等で報道される教育問題について、「本当なのか」「どうして」「どうすれば良いのか」等について、常に考えるようにし、講義内容に照らして、議論できるようにしましょう。
評価方法	レポート（70％）、授業への参加意欲（30％）、遠隔授業に変更した場合も評価方法に変更はない。
テキスト	「教科書を使用せず。」 レジュメ（資料）を配布する。遠隔授業になった場合はGoogle Classroomを活用して、資料を配付しレポート課題を提示する。 レジュメを自分のノートとし、書き込みながらまとめるようにすること。
参考書	佐久間亜紀・佐伯胖『現代の教師論』（ミネルヴァ書房、2020年） その他、授業の中で適宜紹介する。
備考	

講義科目名称： 教育原理

授業コード： 125007

英文科目名称： Principles of Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	1 年次	2 単位	必修
担当教員			
平岡秀美 講師			
添付ファイル			

授業の概要	本授業は、これからの教育学研究・教育実践の基礎となる教育の原理についての学修を目指す。一般的に「原理」とは、「ものの拠って立つ根本法則」を意味する。本授業では、この「原理」の対象として、これまでの教育を成り立たせてきた思想、学説、制度などを取り扱う。しかしこのことは、そうした思想や学説や制度が、絶対的に正しく、それに拠って立つて教育学研究や教育実践を行うべきである、という立場を本授業がとるということを全く意味しない。なぜなら、事実（である：sein）と当為（あるべき：sollen）は区別される必要があるからである。しかし同時に、あるべき教育学研究・教育実践を構想するためには、これまでの教育がどのような原理のもと行われてきたのか（きているのか）を知る必要がある。なぜなら、過去・現在の「である」姿に対する観察・反省から、未来の「であるべき」は導出されうるからである。本授業では、教育の原理に関するテキストを精読し、他者とディスカッションすることを通じて、上記の原理を反省的に学びほぐすことを最終的に目指す。（学習成果指標：A-②、③/B-②、③。原則対面。遠隔授業の際は、同時・双方向型学修（Meet利用））
授業計画	1 回目 2023年度の「教育原理」の講義計画と本講義の進め方（オリエンテーション） 2 回目 人間の発達の特性と教育（1） キーワード：遺伝、環境 3 回目 人間の発達の特性と教育 キーワード：学問、神話、真実と虚偽 4 回目 「教育」の定義と教育学的思考 キーワード：教え、学び、メタ思考、理論と実践 5 回目 教育のパラドックス キーワード：教育のパラドックス、自立、強制、プラトン 6 回目 教育思想の展開と方法（1）：ルソー① キーワード：『エミール』、ルソー、消極的教育 7 回目 教育思想の展開と方法（2）：ルソー② キーワード：シチズンシップ教育、一般教育、職業教育 8 回目 教育思想の展開と方法（3）：ペスタロッチ キーワード：『シュタンツ便り』、ペスタロッチ、家庭教育 9 回目 教育思想の展開と方法（4）：デューイ キーワード：『経験と教育』、デューイ、教育のコペルニクスの転回 1 0 回目 「学校方式の教育」の発展と課題（1） キーワード：近代学校制度、事前制御システム、選抜・配分機能 1 1 回目 「学校方式の教育」の発展と課題（2） キーワード：社会の階層化、再生産、教育の機会均等 1 2 回目 教育の公共性・私事性と「教育の自由」 キーワード：教育改革、公共性、私事性、子どもの権利 1 3 回目 国際化と教育 キーワード：国際化、グローバル化、ナショナリズム、国民国家 1 4 回目 生涯学習と社会教育 キーワード：生涯学習、社会教育、学校と地域 1 5 回目 本授業の総括と質疑応答
到達目標	(1) 教育学の基礎的な思想・学説・制度、あるいは教育問題（とされている事柄）について、資料を読み、理解し、要点を把握することができる。 (2) 上記の思想・学説・制度、あるいは教育問題（とされている事柄）について、さまざまな立場があることを知り、それを理論的に読み解き、相対的に把握することができる。 (3) 上記の把握をもとに、自分の意見を持ち、それを他者に対して説明したり、他者と議論することができる。
授業時間外の学習	本授業は、①配布資料精読にもとづく個別学習、②個別学習にもとづくグループ学習、③代表グループによるプレゼンテーション（当番制）、④プレゼンテーションにもとづくクラス全体での議論、⑤担当教員による講義、⑥質疑・応答時間という構成を予定しています。このうち、①と②（当番グループの場合は③の準備）が、授業時間外学習に当たります。この授業外学習で作成する成果物（予習課題）を授業において提出することで、その日の授業が出席となります。この予習学習がなされていない場合、欠席扱いとなり、自分自身の学習や成績に悪影響が出るばかりでなく、ディスカッションをはじめとした上記の授業の進行の妨げとなることが予想されます。自分と他者の学習に責任の持てる方の履修をお待ちしております。なお、この授業時間外学習の目安は、一回あたり2時間ほどを想定しています。

評価方法	①期末レポート（50%） ②各授業に向けての予習課題の提出（26%） ③学習グループへの参加と貢献（24%） ※遠隔授業に変更となった場合、③が無くなり、その分②の割合を多くする。
テキスト	教科書は使用しない。各授業において、資料・講義プリントを配布する（classroomを活用）。
参考書	授業の中で、適宜推薦します。
備考	諸般の事情（授業進度や学習状況）により、授業計画を変更する場合がある。

講義科目名称： 保育原理

授業コード： 213005

英文科目名称： Principles of Early Childhood Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	2 単位	必修
担当教員			
平岡秀美 講師			
添付ファイル			

授業の概要	本授業は、これからの保育学研究・保育実践の基礎となる保育の原理についての学修を目指す。一般的に「原理」とは、「ものの拠って立つ根本法則」を意味する。本授業では、この「原理」の対象として、これまでの保育を成り立たせてきた思想、学説、制度などを取り扱う。しかしこのことは、そうした思想や学説や制度が、絶対的に正しく、それに拠って立つて保育学研究や保育実践を行うべきである、という立場を本授業がとるということを全く意味しない。なぜなら、事実（である：sein）と当為（であるべき：sollen）は区別される必要があるからである。しかし同時に、あるべき保育学研究・保育実践を構想するためには、これまでの保育がどのような原理のもと行われてきたのか（きえているのか）を知る必要がある。なぜなら、過去・現在の「である」姿に対する観察・反省から、未来の「であるべき」は導出されうるからである。本授業では、保育の原理に関するテキストを精読し、他者とディスカッションすることを通じて、上記の原理を反省的に学びほぐすことを最終的に目指す。（学習成果指標：A-②、③/B-②、③。原則対面。遠隔授業の際は、同時・双方向型学修（Meet利用））
授業計画	1 回目 2023年度の「保育原理」の講義計画と本講義の進め方（オリエンテーション） 2 回目 「保育」とは何か（1） キーワード：宮原誠一、形成と教育、教化 3 回目 「保育」とは何か（2） キーワード：倉橋惣三、生活綴方教育、遊び 4 回目 保育学の歴史的射程と現代的課題（1） キーワード：幼保一元化論争、「保育」と「幼児教育」、「保育」の一元化 5 回目 保育学の歴史的射程と現代的課題（2） キーワード：「幼稚園令」、幼児教育義務化論争、ケア 6 回目 保育思想とその歴史的展開（1） キーワード：フレーベル、恩物、保育の二元化 7 回目 保育思想とその歴史的展開（2） キーワード：四段階保育論、アーティキュレーション 8 回目 保育内容の歴史的展開 キーワード：認知的能力、非認知的能力、社会情動的スキル 9 回目 諸外国の保育理論・実践の展開（1） キーワード：モンテッソーリ教育、物理的環境、相互交渉 1 0 回目 諸外国の保育理論・実践の展開（2） キーワード：レッジョ・エミリア・アプローチ、創造性と共同性、社会構成主義的学習論 1 1 回目 現代日本の保育の諸課題（1）：子どもの権利保障 キーワード：子どもの権利条約、人権、パターナリズム 1 2 回目 現代日本の保育の諸課題（2）：乳幼児期の子どもの権利 キーワード：親の養育権、意見表明権、子どもアドボカシー 1 3 回目 現代日本の保育の諸課題（3）：保育・教育自治 キーワード：子ども・子育て関連3法、保育・教育の自治の原理、 1 4 回目 現代日本の保育の諸課題（4）：幼児教育義務化論 キーワード：幼児教育義務化論、フランスの保育学校、スイスの幼児学校 1 5 回目 本授業の総括と質疑応答
到達目標	(1) 保育学の基礎的な思想・学説・制度、あるいは保育に関する問題（とされている事柄）について、資料を読み、理解し、要点を把握することができる。 (2) 上記の思想・学説・制度、あるいは保育に関する問題（とされている事柄）について、さまざまな立場があることを知り、それを理論的に読み解き、相対的に把握することができる。 (3) 上記の把握をもとに、自分の意見を持ち、それを他者に対して説明したり、他者と議論することができる。
授業時間外の学習	本授業は、①配布資料精読にもとづく個別学習、②個別学習にもとづくグループ学習、③代表グループによるプレゼンテーション（当番制）、④プレゼンテーションにもとづくクラス全体での議論、⑤担当教員による講義、⑥質疑・応答時間という構成を予定しています。このうち、①と②（当番グループの場合は③の準備）が、授業時間外学習に当たります。この授業外学習で作成する成果物（予習課題）を授業において提出することで、その日の授業が出席となります。この予習学習がなされていない場合、欠席扱いとなり、自分自身の学習や成績に悪影響が出るばかりでなく、ディスカッションをはじめとした上記の授業の進行の妨げとなることが予想されます。自分と他者の学習に責任の持てる方の履修をお待ちしております。なお、この授業時間外学習の目安は、一回あたり2時間ほどを想定しています。

評価方法	①期末レポート（50%） ②各授業に向けての予習課題の提出（26%） ③学習グループへの参加と貢献（24%） ※遠隔授業に変更となった場合、③が無くなり、その分②の割合を多くする。
テキスト	教科書として、適宜以下の書籍を使用する。 日本保育学会 編(2016)『保育学講座1：保育学とは－問いと成り立ち－』東京大学出版。 また、各授業において、資料・講義プリントを配布する（classroomを活用）。
参考書	参考図書として、以下の書籍の第2章を適宜使用します。classroomで部分的に共有をしますが、興味のある人は手に取ってみてください。 日本教育制度学会 編(2013)『現代教育制度改革への提言・上巻』東信堂。 ※その他の書籍も、授業の中で適宜推薦します。
備考	諸般の事情により、授業計画を変更する場合があります。

講義科目名称： 教育心理学

授業コード： 124009

英文科目名称： Educational Psychology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	1 年次	2 単位	必修
担当教員			
星 雄一郎 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	本講義では、学校教育の現場でいかにすることのできる教育心理学の知識を身につけ、将来の教育実践活動のための基礎力の向上を到達目標とします。 教育心理学とは、教育における人間の営みに関する心理学です。本講義の目標は、教育心理学の基礎的な知識を身につけることにあります。また、教育という営みを分析する視点は種々ありますが、心理学的な見方や心理学的な考え方に基づいて議論できるようになることを目標として講義を行います。本講義を通して、将来の教育実践場面において生徒理解を助ける基礎的な心理学的視点を獲得し、活用できるようになることを望みます。 本講義の学習成果の指標はA-③及びB-②、③である。「教職課程コアカリキュラム」に即したものである。本講義は、対面授業を中心に実施する。また、学修内容に応じて、Google Classroom を活用し、反転学習などの多様な学修を実施する場合がある。 また、遠隔講義が必要となる状況になった場合は、Google Meet などを用いた②同時・双方向型学修を中心に実施し、Google Classroom などを用いた①課題型学修・③オンデマンド型学修を組み合わせて実施する。
授業計画	1 回目 オリエンテーション 講義の進め方についての説明と教師の役割について 2 回目 親子関係 子どもの人間関係に就学する前に影響を与える要因 3 回目 道徳観の発達 各発達段階に合わせた道徳指導 4 回目 学習理論 学習者の学び方・教室における学習理論の応用 5 回目 教授活動 種々の教授法 6 回目 学習の評価の仕方 種々のテスト 7 回目 学習の評価の意義 誰のための何のための評価なのか? 8 回目 動機づけ 学習活動を高める動機づけ 9 回目 知能と学力 知能指数と達成学力の乖離 1 0 回目 自己意識の発達 自己意識の発達と対人関係 1 1 回目 学級集団 集団の形成とその利用 1 2 回目 学校不適応 いじめや学級不振 1 3 回目 心理療法 学校におけるカウンセリングと行動療法 1 4 回目 特別支援教育 発達障害の事例 1 5 回目 特別支援教育 具体的な指導方法について
到達目標	【学修到達目標】 1. 教育実践場面にいかにすることのできる教育心理学について理解する。 2. 教育心理学の観点から教育活動を分析し、理解する。 3. 教育心理学の知識を活用し、自らの教育実践活動を立案し、実行する基礎的な力を身につける。
授業時間外の学習	講義時間外での学習を求める。事前・事後学修については Google Classroom にて指示する。その他にも各自積極的に学修内容を活用した観察などを行い、積極的に学びを深めること。 【事前学修】 30 分程度 1. Google Classroom に事前課題が出題される場合がある。事前課題に取り組み、回答を行ってから講義へ参加してください。 2. 教科書の当該範囲や関連書籍を読み、内容理解を深めること。 【事後学修】 30 分程度

	1. Google Classroom に事後課題が出題される場合がある。事後課題に取り組み、講義で学んだこと、考えたことなどをふりかえってください。 2. 講義資料やノートを再確認し、内容理解を深めること。 各課題は、Google Classroom に定められた期日までにオンライン提出を求める。
評価方法	【評価基準】 1. 教育実践場面にいかすことのできる教育心理学の知識を身につける。 2. 講義にて学んだことを元に、教育活動を分析し、説明することができる。 3. 講義にて学んだことを元に、自らの教育実践活動を具体的に立案、計画できる。 【評価方法】 1. 事前・事後課題の提出と回答 30% 2. 講義への参画度 20% 3. 学期末試験 50%（定期試験期間中に実施。100 点満点の試験の得点を 1/2 し、50 点満点で評価） 【非対面での実施となった場合】 1. 事前課題と事後課題への回答 30% 2. 講義への参画度 20% 3. 小テスト、レポート、課題などの提出物 50 % 上記の 3 点から評価をします。成績評価の基準は國學院大學栃木短期大学の基準に準拠します。 評価方法・基準の詳細については、初回の講義にて説明します。
テキスト	古川 聡・福田由紀編著（2006）. 子どもと親と教師をそだてる教育心理学入門 丸善株式会社（2,400 円） ただし、講義の中でテキストを開き、読み合わせをするようなことはありません（限られた講義時間を有効に利用するため）。テキストは事前事後学修への回答のため、講義時間では提示しきれない情報の補填のために用います。
参考書	・渡辺弥生・小林朋子編著（2009）. 10代を育てるソーシャルスキル教育 北樹出版（2,000 円） ・山本淳一・池田聡子編著（2007）. できる!をのばす行動と学習の支援—応用行動分析によるポジティブ思考の特別支援教育 日本標準（2,100 円） 他にも適宜紹介します。
備考	【指導方法】 1. 基本的に講義形式です。レジュメとスライドの他に必要に応じて視聴覚資料を使用します。 2. 講義への参画度を高く評価します。講義にただ出席するだけでなく、講義内での積極的な発言、参加を高く評価します。 3. 質問は講義前後の時間、毎回の出席調査票によって受け付けます。質問への回答は講義内で行います。 4. 通常は講義形式で行うが、グループ討論や演習などを行うので積極的に参加すること。

講義科目名称： 教育制度論

授業コード： 231008

英文科目名称： Theory of Educational System

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	2 年次	2 単位	必修
担当教員			
島田芳行 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	教育制度は国家が教育理念を具体化するための政策と深く関わっている。すべての国民はひとしく教育を受ける権利を有しており、だれもが人格の完成を目指して平和で民主的な国家及び社会の形成者としての必要な資質を育成することが求められている。そのために公教育としての系統的な学校制度があり、それを保障するために法やシステムが整えられている。本講義では、幼児期の教育制度から小・中学校、高等学校、大学等の教育制度を理解するとともに、学校教育と連携する家庭教育や社会教育の制度等についても学修する。その上で、そこに内在する課題を把握し、社会の変化に対応するためのこれからの教育行財政の在り方について考察する。 なお、学習成果の指標はB－①とB－③である。 遠隔授業になった場合は、①課題型学修（Google Classroomを利用）と③オンデマンド型学修（Google Meetを利用）を組み合わせる実施する。
授業計画	1 回目 教育の法の意義と教育制度の原則 2 回目 小学校の制度 3 回目 中学校の制度 4 回目 高等学校の制度 5 回目 各種学校・専修学校の制度 6 回目 大学、短期大学等の制度 7 回目 義務教育の制度 8 回目 教職員の組織と教員養成 9 回目 教職員の勤務と働き方改革 1 0 回目 学校経営 1 1 回目 家庭教育 1 2 回目 社会教育と学校（地域と学校の連携・協働） 1 3 回目 幼児期の教育 1 4 回目 教育行政と財政 1 5 回目 講義のまとめ（教育改革と教育制度）
到達目標	幼児教育や小学校、中学校、高等学校、大学等のそれぞれの教育の目的と各教育を支える様々な法と制度、そして各校種間のつながり等について探究し、我が国の初等教育、中等教育、高等教育の歴史と特色を理解することができる。だれもが等しく教育を受け個別最適な学びが享受できるための学校経営や教職員組織及び教員養成等について、関係法規やそれに基づく制度及びその運用について学修し、グループワークを通してその現状と課題、改善方法についての理解を深めることができる。生涯学習の視点に立ち家庭教育や社会教育を充実させるための法と制度について学修し、学校教育と家庭教育と社会教育との連携及び子ども中心に据えた地域づくりについて理解することができる。その上で、これからの教育行財政の課題と方向性について自分の意見をまとめることができる。
授業時間外の学習	シラバスに基づいて事前にテキストの内容を予習し、事後に再度テキストを読み復習する。その際、テキストのExerciseに挑戦し、主体的に学修内容の深化を図る。また、教育に関するニュースや記事等に関心を持ち、それが実施されるために必要な関係法規やそのためのシステムについて進んで探究し、制度の意味や意義、社会への影響等について自分の考えをまとめる。
評価方法	授業への参加意欲（30％）、レポート（70％）の結果にもとづき評価する。遠隔授業にした場合も評価方法に

	変更はない。
テキスト	吉田武男監修、藤井穂高編著『MINERVAはじめて学ぶ教職 教育の法と制度』（ミネルヴァ書房、2018年）
参考書	『教育小六法』学陽書房などの教育法規集 汐見稔幸・奈須正裕監修、青木栄一編著『教育制度を支える教育行政』（ミネルヴァ書房、2019年）
備考	諸般の事情により授業計画を変更する場合がある。

講義科目名称： 特別支援教育

授業コード： 114007

英文科目名称： Special Support Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	2 年次	2 単位	必修
担当教員			
熊倉志乃 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	新学習指導要領においては、急増する特別な配慮を必要とする園児児童の理解と指導のポイントが示されている。本講義では、 ・一人ひとりのニーズに応じた保育と教育の理解と具体的な援助の方法 ・特別支援教育に対する教師の見方、考え方と教師間の連携・協働のあり方 ・個別の教育支援計画や個別の指導計画の作成の仕方 ・関係機関との連携等 について理解し特別支援教育を包括的に学ぶ。 なお、学習成果の指標は、B-②、B-③である。 遠隔授業を実施する場合には②同時・双方向型学修（「GoogleMeet」を利用）と③オンデマンド型学修を組み合わせて実施する。
授業計画	1 回目 特別支援教育の理念および制度、歴史 2 回目 障害の概念とインクルージョン 3 回目 幼・小学校における特別支援教育（通級による指導、特別支援学級、特別支援学校） 4 回目 特別な教育的支援を必要とする子どもの理解と支援（知的障害） 5 回目 特別な教育的支援を必要とする子どもの理解と支援（広汎性発達障害/自閉スペクトラム症） 6 回目 特別な教育的支援を必要とする子どもの理解と支援（注意欠陥多動性障害） 7 回目 特別な教育的支援を必要とする子どもの理解と支援（学習障害/言語障害） 8 回目 特別な教育的支援を必要とする子どもの理解と支援（肢体不自由/病弱） 9 回目 障害は無いが特別な教育的支援を必要とする子どもの理解と支援 1 0 回目 個々の発達を促す環境・子ども同士のかかわりと教師間の協働 1 1 回目 発達支援と巡回相談・就学相談及び就学支援 1 2 回目 自立活動の支援の実際 1 3 回目 家族及び関係機関との連携 保護者 兄弟姉妹 地域の専門機関 1 4 回目 個別の教育支援計画・個別の指導計画 1 5 回目 これからの特別支援教育における主体的な学びの実践
到達目標	特別支援教育に関する基礎的内容について理解し、個に応じた具体的な支援のあり方を考えることができる。 自らの障害に対する見方、考え方を醸成し、教師としての優れた人権感覚の基礎を身に付けることができる。 グループディスカッションやグループワークを通して積極的に他者の意見を尊重・受容し、教師として必要な協働意識を培うことができる。
授業時間外の学習	事前に配布した資料を読み、授業の概要を把握するとともに疑問点を整理してから授業に臨む。 教育実習の機会やボランティア活動を通して、障害児の実態や状況を理解し支援のあり方等を自主的に考え積極的に関わる。
評価方法	授業への参加意欲・態度（30%）、課題提出（70%）等に基づき総合的に評価する。 遠隔授業に変更した場合も評価方法に変更はない。
テキスト	教科書は使用せず。 資料は適宜配布する。
参考書	伊丹昌一編著「インクルーシブ保育論 [第2版]」（ミネルヴァ書房, 2022年） ※必携ではない。

備考	シラバスにおける障害名の表記については、文部科学省が採用している障害名に準拠している。
----	---

講義科目名称： 教育課程論

授業コード： 224006

英文科目名称： Theory of Curriculum

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	2 年次	2 単位	必修
担当教員			
倉持 博 教授			
添付ファイル			

授業の概要	教育課程は、園及び学校のエ育活動の基本計画であり、各園や学校には、創意工夫を生かした特色ある教育課程を編成し、実施することが期待されている。本講義では、幼稚園教育要領・学習指導要領と創意ある教育課程の事例を基に、教育課程の意義や編成の方針などについて具体的に理解を深め、教育課程を編成する力量を培う。 授業では、講義とともに、グループワーク等も行い、主体的・協働的に取り組む力の育成もねらいとする。なお、学習成果の指標はB-②と③である。 遠隔授業を実施する場合は、Google Classroomを活用した①課題学修となる。
授業計画	1 回目 社会の変化と「生きる力」「資質・能力」 2 回目 教育課程の意義・教育課程行政 3 回目 教育課程に関する法令等（教育法規） 4 回目 教育課程の基準である学習指導要領とその変遷 5 回目 教育課程の構造と教育課程編成の原則 6 回目 カリキュラムマネジメントの充実 7 回目 教育課程編成における共通的事項 8 回目 主体的・対話的で深い学びの実現と言語活動の充実 9 回目 学習指導と学級経営 1 0 回目 学習評価の充実 1 1 回目 子どもの発達支援（生徒指導の充実） 1 2 回目 子どもの発達支援（キャリア教育と進路指導の充実） 1 3 回目 特別な配慮を必要とする子どもへの指導の充実 1 4 回目 園・学校における教育課程編成の実際（学校評価 年間指導計画） 1 5 回目 教育課程論 まとめ（幼稚園教要領・学習指導要領の「前文」 第1章「総則」の確認）
到達目標	・教育課程の定義、分類及び編成の方法などについて理解し、説明することができる。 ・学習指導要領の改訂・経緯から、歴史的な変遷と学力観の変遷について理解し、説明することができる。 ・主体的・対話的で深い学びにおける授業改善やカリキュラム・マネジメントの必要性について理解し、実際の授業や教育課程編成において具体的にどのように取り入れるか話し合い、学びを深めることができる。 ・幼稚園教育要領や学習指導要領を踏まえて各園や学校で編成されている教育課程の具体例について学び、協働して教育課程を編成しようとする態度を身に付けることができる。
授業時間外の学習	当日の講義で使用（配布）したレジュメを基に、講義内容について改めて振り返り、分かったこと、さらに調べたいこと、次時に質問をしたいことなどについて整理しましょう。
評価方法	筆記試験50%、授業への参加意欲・態度30%、提出課題20% 遠隔授業になった場合は、レポート（70%）、授業への参加意欲（30%）
テキスト	使用しない。 講義時にレジュメを配布します。（講義時に書き込み等しながら、自分のノートにしてください。） 遠隔授業になった場合は、Google classroom で資料を配布し、レポート課題を提示します。

参考書	文部科学省 「幼稚園教育要領解説」 フレーベル館 平成30年 文部科学省 「小学校学習指導要領解説総則編」 東洋館出版社 平成29年 その他、講義の中で適宜紹介する。
備考	

講義科目名称： 教科教育法 国語（書写を含む）

授業コード： 263003

英文科目名称： Teaching Methods of Japanese Language

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	2 単位	必修
担当教員			
上野直哲 講師			
添付ファイル			

授業の概要	小学校における国語科授業の目的、目標、国語の学習指導内容、教材、学習指導計画、学習指導の展開と方法、評価等について考察する。 学習指導要領から、国語科のねらいとその指導内容をとらえ、具体的な学習材によって、教材研究の方法や解釈、指導法を考察し指導者としての実践力を高めていく。また、実際に指導案を作成して模擬授業を行うことによって、指導者としての資質を体験を通して総合的に高める。 なお、学習成果の指標はB-②である。 遠隔授業を実施する場合は、①課題型学修(「GoogleClassroom」を利用)と③オンデマンド学修(「GoogleClassroom」を利用)とを組み合わせる。		
授業計画	1 回目 オリエンテーション ～プロローグとしての詩の授業～ 詩の授業を体験することにより、国語科の授業とは何かを考えるとともに、これまでの国語の授業を想起し、よりよい授業とはどんな授業なのか、自分なりの考えをもつ。 2 回目 小学生の「ことば」をどう捉えるか ～「一次のことば」から「二次のことば」へ～ 子どもたちはどのように「ことば」を獲得していくのか、特に小学生のことばに着目して考えてみる。 3 回目 教育課程と学習指導要領 ～言語活動を通して、指導事項を身につける～ これまでの学習指導要領の変遷を辿るとともに、平成29年に告示された新学習指導要領を中心に、国語科の教科の目標や指導事項、構成等について学ぶ。 4 回目 話すこと・聞くことの学習 ～「実の場」で生きる子どものことばをどう育てるか～ スピーチや学級討論会などの活動等を経験し、音声言語の指導のあり方を体験的、実践的に学ぶ。 5 回目 書くことの学習 ～子どもがきらいな「作文」の力をどうつけるか～ 子どもの書く力をつけるための基本的な学習内容やトレーニング、家庭学習のさせ方などについて学ぶ。 6 回目 読むことの学習（説明的文章） ～「ありの行列」で何を学ぶか～ 説明的文章の学習を通して子どもたちにどんな力をつけるのか、教材研究の方法を理解するとともに、指導のあり方を考える。 7 回目 読むことの学習（文学的文章）下学年 ～「くじらぐも」で何を学ぶか～ 下学年（1～3年）の文学的文章の学習を通して子どもたちにどんな力をつけるのか、教材研究の方法を理解するとともに、指導のあり方を考える。 8 回目 読むことの学習（文学的文章）上学年 ～「やまなし」で何を学ぶか～ 上学年（4～6年）の文学的文章の学習を通して子どもたちにどんな力をつけるのか、教材研究の方法を理解するとともに、指導のあり方を考える。 9 回目 我が国の言語文化に関する事項の内容（主に古典） ～小学生にとって「古典」とは何か～ 学習指導要領にある我が国の言語文化の事項（主として古典）について、教科書にある教材をもとに、その授業化について体験的に学ぶとともに、古典を学ぶ意義について中学校での古典の学びとの関連から考えてみる。 10 回目 国語科における「知識・技能」 ～漢字や文法の力をどうつけるか～ 学習指導要領にある「知識・技能」の指導事項について、教科書にある材料をもとに、その授業化について体験的に学ぶとともに、主として漢字や文法を定着させる工夫を考える。 11 回目 書写の指導内容と情報機器及び教材の活用 ～整った字を子どもに書かせるには～ 書写の授業の進め方を、具体的な活動を通して学ぶとともに情報機器の活用について学ぶ。 12 回目 国語科における評価・評定 ～子どもを伸ばさなければ評価ではない～ 国語科の授業を通して、子どもをどのように評価したらよいのか、その観点や方法などをこれまでに学んだことをふりかえりながら考察する。 13 回目 学習指導案の作成 ～子ども主体の授業をどう構想するか～ 学習指導案の仕組み、項目について具体的に学び、学習材をきめてグループで相談しながら指導案を作成してみる。 14 回目 学習指導案の作成と模擬授業 ～子ども主体の授業をどう実践するか～ 前回の授業で作成した指導案をもとに、各グループで模擬授業を行い、お互いに評価し合う。 15 回目 まとめ ～ エピローグ 国語の授業とは何か、そして小学校の「教師」になるとは～ 今までの授業や学生が行った模擬授業をもとに内容をまとめ、もう一度、よりよい授業とはどんな授業なのか考える。また、テストを実施することで、これまでの学びの定着を図る。最後に小学校の教師になるというのは、どういうことなのか、考えてみる。		
到達目標	学習指導要領における国語科の役割や目標を知り、その達成のための具体的な指導内容や指導方法について理解を深める。		
授業時間外の学習	配付した資料をよく読んでおく。		
評価方法	授業への参加意欲・態度、提出物（60％）、授業内試験・レポート（40％）で評価する。		

テキスト	『小学校学習指導要領解説国語』文部科学省
参考書	授業の中で紹介する。
備考	書写の指導法では、習字道具を使用する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	2 単位	必修
担当教員			
都留 寛 教授			
添付ファイル			

授業の概要	①初等社会科の教科理念を把握し、社会科の性格や目標・内容・授業構成の在り方、学習計画の立案と評価の方法等、社会科の授業づくりに関する基本を理解できるようにする。 ②子どもの「学ぶ力」を育てる指導法について理解し、授業づくりに生かすことができるようにする。 ③「中央教育審議会答申」の趣旨を理解し、「新学習指導要領」における社会学習指導のポイントと指導法を具体的に理解できるようにする。 尚、学習成果の指標は、B－②である。 遠隔授業を実施する場合は、①課題型学修(「Google Classroom」を利用)と②同時・双方向学修(「Google meet」を利用)とを組み合わせる実施する。		
授業計画	1 回目	自立した学習者を育てる社会科の学習法 ・社会事象の見方・考え方・社会事象と事実・社会事象と歴史的事象の分析・事象分析と再構造化・あらゆる社会的事象を読み取る方法・新聞から事象を読み取る方法・社会科の学習法・問題解決学習・社会科学学習の目的・考える社会科・「自立した学習者を育てる意味」についてディスカッションし、実践事例についての感想をまとめる	
	2 回目	地域の消費活動についての実践事例 ・自動販売機と土地利用の学習・コンビニエンスストアと販売の工夫の学習・スーパーマーケットと人々の生活の学習・「教材・学習活動・学習目標の関係」についてディスカッションし、実践事例についての感想をまとめる	
	3 回目	地域の歴史と継承・保存の実践事例 ・昔の生活と人々の生活の学習・祭り与人々の願いの学習・継承と保存に関する学習・昔の人々の開発に関する学習・「中学年における歴史学習の展開の方法」についてディスカッションし、実践事例についての考えをまとめる	
	4 回目	安心・安全な暮らしについての実践事例 ・健康な生活を守る上水道・中水道・下水道の学習・安全・安心な生活を守る警察の仕事の学習・安全・安心な生活を守る消防の仕事の学習・「健康な生活や安心・安全な生活を守る仕事の学習を展開する方法」についてディスカッションし、実践事例についての考えをまとめる	
	5 回目	様々な土地で暮らす人々と日本の国土についての実践事例 ・沖縄と北海道で暮らす人々の学習・高地と低地で暮らす人々の学習・山手線と東京のまちづくりの学習・中央線と東京都の地形の学習・「様々な土地の暮らしを調べる学習方法」についてディスカッションし、実践事例についての考えをまとめる	
	6 回目	日本の食料生産と工業生産についての実践事例 ・魚沼産コシヒカリの謎の学習・トヨタの「改善」と自動車の未来の学習・日本の工業の盛んな地域の学習・日本の工業生産の特徴の学習・輸入・輸出と日本の貿易の学習・日本の宝は中小工場の技術の学習・「日本の食料生産と工業生産の資料を読み取る力を育てる学習方法」についてディスカッションし、実践事例についての考えをまとめる	
	7 回目	自然災害と環境問題についての実践事例 ・東日本大震災と防災の学習・水俣病と四大公害裁判の学習・北九州市の公害と市民の活躍の学習・桜前線と国土の特徴の学習・様々な環境問題と自然保護の学習・「自然災害と環境問題についての考えをまとめる学習方法」についてディスカッションし、実践事例についての考えをまとめる	
	8 回目	情報と流通についての実践事例 ・コンビニエンスストアとポスシステムの学習・セブンイレブンと流通革命の学習・クロネコヤマトと情報物流の学習・情報を生かす医療や産業の学習・ニュースを作る人・見る人の学習・災害時の情報リテラシーの学習・「情報についての学習をまとめる板書の技術」についてディスカッションし、実践事例についての考えをまとめる	
	9 回目	日本の歴史についての実践事例① ・縄文、弥生時代から江戸時代までの学習・縄文土器と弥生土器の学習・大山古墳と大和政権の学習・聖徳太子と大工さんの学習・奈良の大仏と聖武天皇の学習 等・「歴史的遺物や建造物などの資料から歴史的事実を読み取る力を養う技術」についてディスカッションし、実践事例についての考えをまとめる	
	1 0 回目	日本の歴史についての実践事例② ・近世から現代まで・幕藩体制と江戸幕府の学習・黒船来航と討幕運動の学習・日清・日露戦争と日本の近代化の学習・1 5 年戦争と日本の民主化の学習・戦後の復興とオリンピックの学習・国際連合と国際的な舞台への復帰の学習 等・「歴史的資料を活用して思考力を育てる技術」についてディスカッションし、実践事例についての考えをまとめる	
	1 1 回目	公民の学習についての実践事例 ・憲法改正と憲法「第 9 条」の学習・日本の政治と制度の学習・国際紛争と日本の立場の学習・「公民学習を進めるポイントと政治的中立性」についてディスカッションし、実践事例についての考えをまとめる	
	1 2 回目	指導案の書き方 ・指導案の形式・内容と書き方について知る・教材研究と教材開発について知る・ワークグループに別れて、指導案の学習場面を決定し、教材研究の計画を立てる・「学習場面、教材研究の計	

	画」についてディスカッションし、学習計画まとめる 1 3 回目 指導計画と評価 ・年間指導計画・学年計画・単元計画・本時の計画の立て方を知る・評価基準と評価の方法の作り方を知る・ワークグループに別れて「年間指導計画・学年計画・単元計画・本時の計画・評価基準と評価の方法」を考え、小レポートにまとめる 1 4 回目 本時の計画と実践 ・学習活動と本時の展開の作り方を知る・板書と発言、学習活動と活動の留意点の作り方を知る・教師の関わりと子どもの見取りのポイントを知る 等・ワークグループに別れて「本時の計画」についてディスカッションし、指導案を作成する 1 5 回目 模擬授業と実践の振り返り ・ワークグループ毎に模擬授業を展開する（プレゼンテーションによって発表しても良い）・模擬授業について全体で振り返りの話し合いをする・授業の記録の取り方・授業研究の方法と改善の方法・「授業実践で大切にしたいこと」についてディスカッションし、自分なりの考えをレポートにまとめる
到達目標	①初等社会科の教科理念について理解し、説明できる。 ②社会科の性格・目標・方法・内容構成について理解し、説明できる。 ③授業構成の方法、学習計画の立案、評価の方法を理解し、説明できる。 ④学習指導案の書き方を理解し、指導案を立案できる。 ⑤子どもの「学ぶ力」を育てる指導法について理解し、授業づくりに生かすことができる。 ⑥「中央教育審議会答申」の趣旨を理解し、「新学習指導要領」における社会学習指導のポイントと指導法を具体的に理解できる。
授業時間外の学習	①授業中に適時ノートを取り、ノートそのものが参考資料となるようにまとめておくこと。 ②授業中に配布した資料はファイルし、整理しておくこと。 ③「小学校 新学習指導要領解説 社会科編」を参照し、指導内容を確認しておくこと。 ④授業内で指定された参考文献や授業中に配布されたプリントなどは必ず読み、授業に生かす努力をすること。 ⑤グループワーク（指導案作成、教材づくり、模擬授業、プレゼンテーション）等を行うので、自分なりのアイデア（思いつきでも良い）を持って授業に臨むこと。 ⑥公共の図書館などを利用し、授業に関連した書籍や情報を進んで調べること。 ⑦日頃から可能な限り、児童と関わる体験を積み重ねる努力をしていくこと。
評価方法	①毎回の授業の理解度についての小レポート（20%） ②ディスカッション、学習指導案、模擬授業、プレゼンテーション（20%） ③期末レポート（20%） ④学期末の筆記試験（40%） に基づき評価する。 遠隔授業へ変更した場合は、 ①毎回の授業の理解度についての小レポート（60%） ②ディスカッション、プレゼンテーション、まとめ（20%） ③期末レポート（20%） に基づいて評価する。
テキスト	文部科学省『小学校 新学習指導要領解説 社会編』東洋館出版社 2017年 ¥156 ISBN-10 : 4536590099 ISBN-13 : 978-4536590099
参考書	① 筑波大学附属小学校・社会科教育研究部著 「筑波発 社会を考えて創る子どもを育てる社会科授業」東洋館出版 2015年 ¥1,900 ISBN-10 : 4491031371 ISBN-13 : 978-4491031378 ② 都留 覚著 「小学校社会科 授業づくりと基礎スキル」東洋館出版 2009年 ¥2,200 ISBN-10 : 449102443X ISBN-13 : 978-4491024431 ③ 都留 覚著 「使える社会科ベーシック③ 調べ学習 五感を使って『まち』を見直すシティサファリ」学事出版 2004年 ¥1,400 ISBN-10 : 4761910437 ISBN-13 : 978-4761910433 ④ 都留 覚編・著 「活用力の基礎を育む授業ベーシック 必備！社会科の定番授業 小学校3年」学事出版 2010年 ¥1,800 ISBN-10 : 4761917237 ISBN-13 : 978-4761917234
備考	新型コロナウイルス感染拡大の状況により、遠隔授業を行う場合がある。 公立学校15年間、附属小学校での社会科教育実戦経験25年間。全国発表会での授業公開50回以上。小学校社会科教科書執筆12年間。海外教育使節団での社会科指導歴10年間の経験を持ち、学習指導要領の改訂に影響を与えた実践を積んできた実績を生かした授業を行う。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	2 単位	必修
担当教員			
橋本美智明 講師			
添付ファイル			

授業の概要	①学習指導案の意義、作成方法を理解する。 ②授業構想をもとに学習指導案を作成する。 ③学習指導案により模擬授業を行う。 ④模擬授業後に、参観者と研究協議を行い学習指導案を完成させる。 以上を通して、授業における教師の役割や基本的な指導技術を身に付けるとともに、児童の学習過程と学習の成立について学ぶ。 なお、学習成果の指標はB－②である。 遠隔授業を実施する場合には、①課題型学修により実施する。
授業計画	1 回目 「学習指導案」について 「学習指導案」の意義、内容、作成方法を理解する。 2 回目 模擬授業の構想・立案 模擬授業を行う学年、単元等、授業の構想を立てる。 3 回目 指導案の作成① 単元観、教材観等を作成する。 4 回目 指導案の作成② 児童観、指導観等を作成する。 5 回目 指導案の作成③ 目標、評価規準、単元計画を作成する。 6 回目 指導案の作成④ 本時の展開案等を作成する。 7 回目 指導案の作成⑤ 指導案を完成させ、教材等を作成する。 8 回目 模擬授業① 一人30分程度の授業を行う。 授業者以外は児童役で参加する。 授業後、授業に対するコメントを書き、研究協議を行う。 9 回目 模擬授業② 上記8回目と同様 10 回目 模擬授業③ 上記8回目と同様 11 回目 模擬授業④ 上記8回目と同様 12 回目 模擬授業⑤ 上記8回目と同様 13 回目 模擬授業⑥ 上記8回目と同様 14 回目 指導案の完成 模擬授業をもとに指導案を修正し完成させる。 15 回目 振り返り 指導案の作成・模擬授業・研究協議を通して、自分の取組を省察する。
到達目標	学習指導案を作成し、模擬授業を実施することができる。
授業時間外の学習	学習指導案の作成と教材研究。
評価方法	授業への参加意欲・態度（40％）、模擬授業用指導案（30％）、模擬授業（30％） 遠隔授業になった場合は、授業への参加意欲・態度（40％）、指導案（60％）
テキスト	文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年度告示）解説 算数編』（日本文教出版、2018年）
参考書	授業の中で紹介する。
備考	持ち物：授業づくりに必要な算数教科書 パソコン（指導案づくりでは、修正を何度も行うので便利である。） 必要に応じて、各自で準備する。

	作図道具（三角定規、分度器、コンパス等） 工作道具（はさみ、カッター、テープ、のり等）
--	--

講義科目名称： 教科教育法 理科

授業コード： 221003

英文科目名称： Teaching Methods of Science

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	2 単位	必修
担当教員			
森田和良 講師			
添付ファイル			

授業の概要	子どもが主体的に自然の事物や現象に関心を持ち、探究する力を育てるために、小学校理科教育の目標及び内容についての十分な理解を図るとともに、物質・エネルギーにかかわるA区分及び生命・地球にかかわるB区分のそれぞれの実験法や用具、観察法や観察手続きなどを含め、理科教育の指導法、教育法とその授業構想や指導案の作成を学修する。具体的に学習指導案を作成し、グループごとに模擬授業を行い見合うことによって理科の授業に対する理解を深めていく。 なお、学習成果の指標はB-②と③である。 本授業は、対面授業を中心に実施するが、遠隔授業になった場合は、課題型学修（「Google Classroom」を利用）とオンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）とを組み合わせる。
授業計画	1 回目 オリエンテーション・飼育栽培活動のある授業のポイントについて学ぶ 理科の授業に関するアンケート調査や小学校合力状況調査などについて学ぶ 2 回目 「ものづくり」のある授業のポイントについて学ぶ 3 年「電気」：電気ロボットの製作を通して、「ものづくり」の授業のポイントを学ぶ 3 回目 4 年生A区分（物質・エネルギー）の授業例から内容特性を学ぶ 4 年「ものの温まり方」「ものの体積と温度」：本単元で扱う実験を通して、授業のポイントを学ぶ 4 回目 4 年生B区分（生命・地球）の授業例から内容特性を学ぶ 4 年「月と星」：月や星の学習のポイントを学ぶ 5 回目 5 年生A区分の授業例から内容特性を学ぶ 5 年「ふりこの規則性」：本単元で扱う実験を通して、授業のポイントを学ぶ 6 回目 5 年生B区分の授業例から内容特性を学ぶ 5 年「植物の成長・結実」：本単元で扱う観察等を通して、授業のポイントを学ぶ 7 回目 3 年生A区分の授業例から内容特性を学ぶ 3 年「風のはたらき」：本単元で扱う実験を通して、授業のポイントを学ぶ 8 回目 3 年生B区分の授業例から内容特性を学ぶ 3 年「昆虫」：本単元で扱う虫について調べ、授業のポイントを学ぶ 9 回目 6 年生A区分の授業例から内容特性を学ぶ 6 年「燃焼」：本単元で扱う実験を通して、授業のポイントを学ぶ 1 0 回目 6 年生B区分の授業例から内容特性を学ぶ 6 年「水の通り道」：本単元で扱う観察等を通して、授業のポイントを学ぶ 1 1 回目 模擬授業の指導案作り（1）教材研究をする 教科書を活用した教材研究の仕方を学ぶ 1 2 回目 模擬授業の指導案作り（2）本時の展開を構想する 模擬授業の展開案を作成する 1 3 回目 学生による模擬授業と協議（1）中学年 学生による模擬授業を行い、その内容について研究協議をする 1 4 回目 学生による模擬授業と協議（2）高学年 学生による模擬授業を行い、その内容について研究協議をする 1 5 回目 情報機器及び教材の活用 情報機器を活用した実践例をもとに、その効果と留意点について協議する
到達目標	本講を受けることで、理科の授業に関わる教材研究のあり方、学習指導案の書き方、授業の展開の仕方を理解することができる。また、実際に模擬授業を通すことで実感的に授業感覚と児童の理解やつまずきについて学ぶことができる。 ・学習指導要領の趣旨に基づいて思考し、授業改善への内容と方法等について説明することができる。 ・模擬授業にかかわる授業づくりの活動において、よりよい授業にするために仲間と協働し、意欲的に参加するという共同意識、参加意識を身につける。
授業時間外の学習	事前に本時に関わる箇所の「学習指導要領解説（理科）」と小学校理科教科書の該当単元に目を通しておき、重要な語句や内容については下調べをしておく。 授業後は、配付資料やノート記述をもとに講義内容をまとめるとともに、児童に指導する際のポイントについてもまとめておく。
評価方法	毎時間の振り返りの記録（30%）、授業への参加意欲（30%）、期末レポート（40%）などに基づき評価する。 遠隔授業に変更した場合には、提出する講義レポートのうち、「活動の記録」（30%）と「振り返りコメント」（30%）を評価対象とし、期末レポート（40%）には変更はない。

テキスト	・『小学校学習指導要領解説（理科）』文部科学省 東洋館出版社 ・講義ごとに必要なプリントを配布する
参考書	『小学校理科教科書』第3学年～第6学年（学校図書他）
備考	

講義科目名称： 教科教育法 生活

授業コード： 243008

英文科目名称： Teaching Methods of Life Environment Studies

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	2 単位	必修
担当教員			
後藤正人 教授			
添付ファイル			

授業の概要	生活科の改訂のたびに具体的な活動や体験の一層の重視が強調されてきている。現代は、生活が便利になりすぎた結果、人・社会・自然とのかかわりが希薄になり、四季と生活の工夫が見えにくくなってきている。だからこそ、子どもが人・社会・自然と直接的にかかわることが大切になる。かかわりを大切にしている生活科の実践から得られる資質・能力は、人間形成に深く影響を及ぼしていることを学習していく。さらに、充実した学級経営が生活科の授業向上に強くつながることも学習していく。なお、学習成果の指標はB一②である。 本講義科目は、対面授業を中心に実施するが、遠隔になった場合は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と②同時・双方向型学修（「Google Meet」を利用）とを組み合わせる実施する。		
授業計画	1 回目 生活科のイメージをつかむ（オリエンテーション） 2 回目 生活科の授業の要点 3 回目 教科書を活かした授業の進め方 4 回目 単元「学校大好き」の指導法を考え、模擬授業を行う 5 回目 単元「学内探検」から見えてくるもの 6 回目 学内探検を踏まえた表現活動 7 回目 単元「季節と遊ぶ」の指導法を探り、模擬授業を行う 8 回目 表現活動への挑戦とその意義（ゲスト講師：臨床美術士） 9 回目 表現活動の指導と評価 1 0 回目 表現と伝達の教育的意義 1 1 回目 「思索の森」でザリガニ釣りに挑戦 1 2 回目 生活科の授業を活性化する学級通信の役割 1 3 回目 学級経営と生活科 1 4 回目 情報機器及び教材の効果的な活用法 1 5 回目 学習の振り返りと、未来志向の生活を展望		
到達目標	人とかかわりが希薄になり、四季と生活の工夫が見えにくくなってきている現実を踏まえ、子どもが人・社会・自然と直接的にかかわることが大切であることを学習すると共に、人間形成に深く影響を及ぼしている生活科の本質を理解することができる。		
授業時間外の学習	教育実習では、積極的に生活科の授業を参観したり、率先して研究授業を行ったりする。		
評価方法	「レポート」（60%）および「授業への参加意欲」（40%）を評価基準とする。なお、遠隔授業に変更した場合も概ね評価方法に変更はない。		
テキスト	『小学校学習指導要領解説生活編』日本文教出版 『教育の泉6』（後藤正人・文溪堂）		
参考書			
備考	その都度、講義資料を配布。 諸般の事情により、授業計画を変更する場合がある。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	1 年次	2 単位	必修
担当教員			
名取初穂 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	小学校における図画工作科教育の教科理念を把握し、目的・目標及び内容、学習計画の立案と評価の方法等、基礎的な事項について理解する。学習指導要領の示す「A表現」・「B鑑賞」それぞれの区分の授業構造を知る。 また、図画工作科の学習指導案を作成できるようにする。 なお、学習成果の指標は B-②である。 ◆遠隔授業授業実施が必要な環境が生じた場合には【オンデマンド（配信型）】を併用して学修する。
授業計画	1 回目 図画工作科教育の意義と目標・歴史 2 回目 図画工作科における主体的・対話的で深い学び 3 回目 図画工作の造形的な見方・考え方、育みたい資質・能力 4 回目 図画工作科の学習指導要領の構造・指導計画 5 回目 図画工作科学習指導案の作成・評価 6 回目 授業研究 造形遊びをする活動（1）子どもの姿・指導の留意点 7 回目 授業研究 造形遊びをする活動（2）模擬授業 8 回目 授業研究 絵に表す活動（1）子どもの姿・指導の留意点 9 回目 授業研究 絵に表す活動（2）模擬授業 10 回目 授業研究 立体に表す活動（1）子どもの姿・指導の留意点 11 回目 授業研究 立体に表す活動（2）模擬授業 12 回目 授業研究 工作に表す活動（1）子どもの姿・指導の留意点 13 回目 授業研究 工作に表す活動（2）模擬授業 14 回目 授業研究 鑑賞・ICTの活用 15 回目 まとめ 学習指導案の提出
到達目標	1. 図画工作科教育の基礎知識を身につける。指導計画を学び、学習指導案を書くことができる。 2. 図画工作科の目的を理解し、多角的な視点で実践的に思考することができる。 3. 図画工作科の「表現」および「鑑賞」の活動において、他者の見方や考え方を尊重し、受容できる。
授業時間外の学習	1. テキストの予習・復習 学習指導要領を読み込む。自分なりに教科書題材を掘り下げ、研究を深める。 2. 日常的な素材の収集 与えられた課題等の教材準備を意識し、日常的に身の回りの廃材等を収集する。 3. 自主的な省察 与えられた実習課題等の振り返りを行い、理解を深める。
評価方法	関心・意欲・態度（40％）、授業内容に関するワークシート等（30％）、課題と振り返り（30％） ◆遠隔授業を実施した際の評価方法は、考察（40％）、課題への取り組み（60％）とする。
テキスト	1. 小学校図画工作科教科書 『ずがこうさく1・2上』『ずがこうさく1・2下』『図画工作3・4上』『図画工作3・4下』『図画工作5・6上』『図画工作5・6下』/ 日本文教出版 / 2020年

	2.『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 図画工作編』/ 文部科学省 / 2018年
参考書	1. 新野貴則・福岡知子 編著 / 『明日の小学校教諭を目指して 子どもの資質・能力を育む 図画工作科教育法』/ 萌文書林 / 2019年 2. 北沢昌代・畠山智宏・中村光絵 著 / 『子どもの造形表現 ワークシートで学ぶ』/ 開成出版 / 2018年版
備考	テキストと道具箱「七つ道具」を授業時に持参すること。 ※ ただし初回については特に何も用意しなくて良い。 ※ 「七つ道具」の詳細については、授業の中で説明する。 「七つ道具」の内容例：はさみ、のり、セロハンテープ、木工用ボンド、定規、カッター・カッター版、ホチキス、クレヨン、色鉛筆、マーカーなど

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	2 単位	必修
担当教員			
早川富美子 教授			
添付ファイル			

授業の概要	小学校における音楽授業の目的、目標、指導内容、教材、指導計画、指導の展開と方法、評価等について、講義、模擬授業、演習などを通して、小学校音楽科の授業のあり方について総合的に展開していく。 音楽的な力量を高め、実習や教育現場で活かしていくために、歌唱共通教材の歌唱、伴奏、指揮、さらに音楽づくりのグループ発表、小太鼓の基礎練習等、体験を取り入れながら進めていく。 なお、学習成果の指標はB-②である。 遠隔授業を実施する場合には、①課題型学修（「Google classroom」を利用）と②同時・双方向型学修（Google classroom」と利用）とを組み合わせ実施する。
授業計画	1 回目 ガイダンス、音楽科の目標、歌唱共通教材、小太鼓のスティックの確認、常時活動の分担 2 回目 教育課程、学習指導要領、指揮、小太鼓の基礎（スティックの持ち方と練習方法）、音楽づくり（身体） 3 回目 音楽科の指導内容、〔共通事項〕、歌唱共通教材、小太鼓の基礎（四分音符、八分音符）、音楽づくり（ことば） 4 回目 指導計画、学習指導案、評価、小太鼓の基礎（三連符、十六分音符）、音楽づくり（身の回りのもの） 5 回目 歌唱指導法、小太鼓の基礎（ロール）、音楽づくり（鍵盤楽器） 6 回目 器楽指導法、器楽合奏、小太鼓の基礎（二重奏、三重奏）、 7 回目 鑑賞の指導法、小太鼓の応用（アンサンブル） 8 回目 音楽づくりの指導法、グループ発表 9 回目 他教科との連携による音楽活動 1（実践の紹介） 1 0 回目 他教科との連携による音楽活動 2 ゲストティーチャーとの共同 1 1 回目 日本の音楽 1（楽器） 1 2 回目 日本の音楽 2（わらべうた、民謡） 1 3 回目 模擬授業 1（1 年生～3 年生） 1 4 回目 模擬授業 2（4 年生～6 年生） 1 5 回目 まとめ、小学校での実践、表現活動発表にむけて
到達目標	1. 知識・技能→小学校における音楽授業の指導の展開と方法や技術を身につけることができる。 2. 思考力・判断力・表現力→学年や児童の実態に応じた指導法を思考し、自分でも演奏するなど表現する力を身につけることができる。 3. 学びに向かう力→音楽づくりや合奏、アンサンブルの活動など、仲間と協働して活動ができる。教育実習や教育現場で活用できる実践的な力を身につけることができる。
授業時間外の学習	歌唱共通教材の伴奏や弾き歌いは、全曲できるようにする。 小太鼓の練習はリズムを理解して演奏できるように、継続的に練習をしておく。 小学校の教科書に掲載されている鑑賞教材は聴いておく。 日頃から多様な音楽にふれ、音楽に親しむことが大切である。
評価方法	小テスト（50%）平常点（50%） *遠隔授業に変更にした場合も評価方法に変更はない。
テキスト	新実徳英他『音楽のおくりもの 1～6』（教育出版、2020） 文部科学省『小学校学習指導要領解説音楽編—平成29年7月』（東洋館出版社、2018）

	初等科音楽研究会編『小学校教員養成課程用 最新 初等科音楽教育法 2017年告示「小学校学習指導要領」準拠』（音楽之友社、2020年） 坪能由紀子、他共著『みんなピアノだい好き！』（全音楽譜出版社・2019）＊2年次も継続使用
参考書	授業の中で紹介する。
備考	授業計画については履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。 鍵盤ハーモニカ、リコーダー、小太鼓のスティック等は、各自準備してください。 コロナ対策のため、鍵盤ハーモニカやリコーダーは使用しない場合があります。

講義科目名称： 教科教育法 体育

授業コード： 251004

英文科目名称： Teaching Methods of Physical Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	2 単位	必修
担当教員			
戸村貴史 講師			
添付ファイル			

授業の概要	体育科教育学の基礎やよい体育の授業実践をするために必要な知識について講義を通して学び、自らも教材づくりに必要な資料の収集を行う。またグループでの議論を通してよい体育の授業実践について理解を深める。本講義では、児童たちの運動機能の発達段階に応じた指導方法や教材の提供方法などを学ぶとともに、実際に指導案を作成し発表する機会を持つ。発表の機会を通して、子どものつまずきやそれに対応した適切な指導法に関する知識や技能を身に付けるとともに、自身の知識を批判的に省察し、授業改善を図る能力を身に付ける。 なお学習成果の指標はB-②である。 遠隔授業になった場合は①課題型学修（「Google Classroom」を利用）、②同時・双方向型学習（「Google Meet 利用」）、③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）とを組み合わせる。
授業計画	1 回目 体育教育で学ぶこと 2 回目 よい体育授業をつくるための条件 3 回目 現代の子どもの体力・運動能力の現状及び測定方法 4 回目 体育の教科としての目標と内容及びカリキュラムの構成、他教科との連携の提案 5 回目 保健体育科の学習指導要領の変遷 6 回目 学習指導要領の記述に対応した単元計画、本時案の構成と模擬授業の進め方 7 回目 体づくり運動・器械運動系・陸上競技（運動）系の教材研究及び指導案の作成 8 回目 体づくり運動・器械運動系・陸上競技（運動）系の模擬授業の実践と集団討議 9 回目 球技（ゴール型・ネット型・ベースボール型）の教材研究及び指導案の作成 1 0 回目 球技（ゴール型・ネット型・ベースボール型）の模擬授業の実践と集団討議 1 1 回目 武道・ダンスの教材研究及び指導案の作成 1 2 回目 武道・ダンスの模擬授業の実践と集団討議 1 3 回目 模擬授業の意義と省察方法について 1 4 回目 学習の評価方法 1 5 回目 運動の楽しさを伝える技術とは何か
到達目標	・運動種目に応じて体育科の授業内容を計画することができる。 ・子どもたちの動きの様子を観察し、子どもたちそれぞれに対応した指導方法を考えることができる。 ・模擬授業において教師役と児童役をそれぞれ経験し、自分の意見を述べたり、友人からの助言を聞いたりすることにより、今後教員となった際に、有益となる話し合いをすることができる。 ・他教科との連携を通して、さまざまな分野の知見を活かし、協働的な学びを深めることができる。
授業時間外の学習	担当する個別領域にみられる子どものつまずきとそれに対応した指導法に関する情報を収集する。学習指導要領の記述並びに収集した情報を基に、子どもたちに指導する際に、身に付けさせたいことや気を付けなければならないことを踏まえ、指導案を作成する。
評価方法	対面授業の場合以下の項目で評価する。授業への参加意欲・態度（20%）、教材案・マイクロティーチング（50%）、レポート（30%） 全面遠隔授業の場合以下の項目で評価します。「レポート」（50%）及び「指導案の発表」（50%）
テキスト	『小学校学習指導要領解説体育編』文部科学省http://www.fuku-c.ed.jp/center/contents/kaisetsu/taiiku.pdf

参考書	『新版体育科教育学入門』高橋健夫ほか大修館書店
備考	実技の授業時は、運動着・運動靴（中履き）を着用する。 適切な服装が守られていないと判断された場合は、その時間の受講を許可しない。 また、必ず1人1回、模擬授業を行い、児童役と教師役をそれぞれ経験する。

講義科目名称： 教科教育法 家庭

授業コード： 242008

英文科目名称： Teaching Methods of Home Economics

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	2 単位	必修
担当教員			
仲田郁子 教授			
添付ファイル			

授業の概要	小学校家庭科の教科発足の歴史及び小学校学習指導要領に基づき、家庭科の目標・内容・指導方法、指導計画の作成などについての理解を深めるとともに、模擬授業等を通して学習者にとって意義ある指導計画とは何かを考え、教科指導に必要な実践力の基礎を養う。 なお、学習成果の指標はB-②である。 本授業は、対面授業を中心に実施するが、遠隔授業となった場合は①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と②同時・双方向型学修（「Google Meet」を利用）を組み合わせる。																															
授業計画	<table><tr><td>1 回目</td><td>ガイダンス、小学校家庭科の歴史と教育的意義</td></tr><tr><td>2 回目</td><td>小学校学習指導要領における家庭科の教育目標、内容、指導上の注意</td></tr><tr><td>3 回目</td><td>年間指導計画（第5学年・第6学年）と小学校家庭科の評価</td></tr><tr><td>4 回目</td><td>題材の指導計画の作成方法</td></tr><tr><td>5 回目</td><td>小学校家庭科学習指導案の作成方法</td></tr><tr><td>6 回目</td><td>家庭科の教育方法① 調理実習（実習室の管理、食材の準備、食物アレルギー、示範、指導の注意、評価）</td></tr><tr><td>7 回目</td><td>家庭科の教育方法② 被服実習（器具の準備・点検、示範、指導上の注意、評価）</td></tr><tr><td>8 回目</td><td>家庭科の教育方法③ 問題解決学習（ホームプロジェクト、他教科と連携した調べ学習など）</td></tr><tr><td>9 回目</td><td>家庭科の教育方法④ 保護者や校内・地域の環境・人材との連携</td></tr><tr><td>1 0 回目</td><td>家庭科の教育方法⑤ ICTの活用</td></tr><tr><td>1 1 回目</td><td>模擬授業① 家庭生活</td></tr><tr><td>1 2 回目</td><td>模擬授業② 衣生活</td></tr><tr><td>1 3 回目</td><td>模擬授業③ 食生活</td></tr><tr><td>1 4 回目</td><td>模擬授業④ 消費生活と環境</td></tr><tr><td>1 5 回目</td><td>小学校における家庭科教育の現状と課題</td></tr></table>		1 回目	ガイダンス、小学校家庭科の歴史と教育的意義	2 回目	小学校学習指導要領における家庭科の教育目標、内容、指導上の注意	3 回目	年間指導計画（第5学年・第6学年）と小学校家庭科の評価	4 回目	題材の指導計画の作成方法	5 回目	小学校家庭科学習指導案の作成方法	6 回目	家庭科の教育方法① 調理実習（実習室の管理、食材の準備、食物アレルギー、示範、指導の注意、評価）	7 回目	家庭科の教育方法② 被服実習（器具の準備・点検、示範、指導上の注意、評価）	8 回目	家庭科の教育方法③ 問題解決学習（ホームプロジェクト、他教科と連携した調べ学習など）	9 回目	家庭科の教育方法④ 保護者や校内・地域の環境・人材との連携	1 0 回目	家庭科の教育方法⑤ ICTの活用	1 1 回目	模擬授業① 家庭生活	1 2 回目	模擬授業② 衣生活	1 3 回目	模擬授業③ 食生活	1 4 回目	模擬授業④ 消費生活と環境	1 5 回目	小学校における家庭科教育の現状と課題
1 回目	ガイダンス、小学校家庭科の歴史と教育的意義																															
2 回目	小学校学習指導要領における家庭科の教育目標、内容、指導上の注意																															
3 回目	年間指導計画（第5学年・第6学年）と小学校家庭科の評価																															
4 回目	題材の指導計画の作成方法																															
5 回目	小学校家庭科学習指導案の作成方法																															
6 回目	家庭科の教育方法① 調理実習（実習室の管理、食材の準備、食物アレルギー、示範、指導の注意、評価）																															
7 回目	家庭科の教育方法② 被服実習（器具の準備・点検、示範、指導上の注意、評価）																															
8 回目	家庭科の教育方法③ 問題解決学習（ホームプロジェクト、他教科と連携した調べ学習など）																															
9 回目	家庭科の教育方法④ 保護者や校内・地域の環境・人材との連携																															
1 0 回目	家庭科の教育方法⑤ ICTの活用																															
1 1 回目	模擬授業① 家庭生活																															
1 2 回目	模擬授業② 衣生活																															
1 3 回目	模擬授業③ 食生活																															
1 4 回目	模擬授業④ 消費生活と環境																															
1 5 回目	小学校における家庭科教育の現状と課題																															
到達目標	小学校家庭科の教育目標、内容、指導方法、評価について理解を深め、教科指導に必要な基礎知識・基礎技能を養うことができる。また、子どもたちにとって意義のある指導計画、教材を作成し、安全に配慮した指導をすることができる。																															
授業時間外の学習	食物アレルギーを持つ児童の増加や子育て家庭の貧困率の上昇等、子どもたちの家庭状況は、社会の影響を受け刻々と変化する。衣食住の生活環境も時代とともに大きく変化しており、小学校家庭科の指導や学習指導案の作成にあたっては、教材研究が何より重要となる。日常的に教師として相応しい生活に関する知識・技能を高める時間を設けると共に、実際に子どもと家族の様子を観察する機会をつくり、小学生の生活の様子に関心を持てるようにすること。																															
評価方法	平常点（30％）、模擬授業（30％）、授業への参加意欲（40％）の結果をもとに評価する。 遠隔授業に変更した場合も評価方法に変更はない。																															
テキスト	『わたしたちの家庭科』（開隆堂） 文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 家庭編』（東洋館出版、2018） （教科専門家庭と同じ）																															

参考書	流田直監修『家庭科の基本』（学研教育みらい、2020） （教科専門家庭と同じ）
備考	授業の展開により、授業の内容・順番が一部変更される可能性がある。

講義科目名称： 教科教育法 英語

授業コード： 232010

英文科目名称： Teaching Methods of English

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	2 単位	必修
担当教員			
倉井典子 講師			
添付ファイル			

授業の概要	小学校における外国語活動，外国語について小学校学習指導要領等に基づき，目標や内容，指導方法等について理解していく。また，指導案を作成して模擬授業を行うことによって，指導者としての資質や能力を高めていく。なお，学習成果の指標は、B②と③である。 本授業は，対面授業を中心に実施するが，遠隔授業になった場合は，①課題型学修（Google Classroomを利用）を実施する。		
授業計画	1 回目 オリエンテーション 小学校における外国語の授業のイメージ 2 回目 学習指導要領 外国語活動と外国語の目標、内容 3 回目 学習指導要領 指導計画の作成と内容の取扱い 4 回目 外国語の指導法（１）コミュニケーションの目的や場面、状況等を明確にした言語活動 5 回目 外国語の指導法（２）題材の選定と教材、学習評価 6 回目 外国語活動の指導法（１）外国語活動のねらいと活動の在り方 7 回目 外国語活動の指導法（２）チームティーチングによる指導の在り方 8 回目 外国語に関する専門的事項（１）第二言語習得に関する基本的な知識 9 回目 外国語に関する専門的事項（２）異文化理解 10 回目 学習指導案の作成方法 11 回目 学習指導案の作成 本時の展開 12 回目 模擬授業と協議（１） 13 回目 模擬授業と協議（２） 14 回目 模擬授業と協議（３） 15 回目 まとめ これまでの学習の振り返り		
到達目標	小学校における外国語活動・外国語の学習，指導，評価に関する基本的な知識を理解し，授業実践力を身に付けることができる。 模擬授業後の協議において、互いの意見を尊重し合い、皆でよりよい授業を作ることを通して、協働意識を身に付ける。		
授業時間外の学習	英語の発音を繰り返し声に出して練習し、日常的に使い慣れる。 日常生活の様々な場面や状況を、外国語の自作題材や自作教材と結び付ける。		
評価方法	通常授業の場合は，確認テスト（50%），平常点（50%）とする。 遠隔授業に変更した場合は，レポート（100%）とする。		
テキスト	文部科学省『小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編』平成29年7月—平成29年告示 吉田研作・小川隆夫・東仁美『小学校英語 はじめる教科書』改訂版 外国語科・外国語活動指導者養成のために—コア・カリキュラムに沿って— 株式会社mpi松香フォニックス、2021年		
参考書	授業の中で紹介する。		

備考	
----	--

講義科目名称： 道徳教育の理論及び指導法

授業コード： 132010

英文科目名称： Theory and Teaching Methods of Moral Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	2 年次	2 単位	教職必修
担当教員			
島田芳行 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	人格の完成を目指すという教育の目的を達成する上で、豊かな人間性を育む道徳教育は学校教育の最も重要な柱の一つである。道徳教育は、学校のすべての教育活動に関わり、その要となるのが道徳科の授業である。本講義では、道徳教育の目的や意義、内容等の理論を学ぶとともに、道徳科の授業の指導法について、模擬授業を通して実践的に探究しながら、その技法を習得することを目的とする。 なお、学習成果の指標はB－①とB－②である。 遠隔授業を実施する場合は、①課題型学修（Google Classroomを利用）と③オンデマンド型学修（Google Meetを利用）を組み合わせる実施する。
授業計画	1 回目 道徳教育の目的 2 回目 道徳教育の歴史 3 回目 道徳性の発達 4 回目 道徳科の目標と内容 5 回目 道徳教育の全体計画及び年間指導計画 6 回目 道徳科の学習指導の在り方 7 回目 道徳科の指導案の作成方法 8 回目 道徳科の指導法①（道徳科の特質を踏まえた学習） 9 回目 道徳科の指導法②（問題解決的な学習などの多様な指導法） 1 0 回目 道徳科の指導法③（道徳科の授業と他の教育活動との関連） 1 1 回目 模擬授業の計画 1 2 回目 模擬授業①（テーマ：教材の取扱いと発問の工夫） 1 3 回目 模擬授業②（テーマ：道徳的価値の自覚を深める指導法の工夫） 1 4 回目 模擬授業③（テーマ：道徳科の評価） 1 5 回目 今後の道徳教育と目指す道徳科の授業
到達目標	道徳教育の目的や意義、内容を理解することができる。道徳科授業の指導案の作成や模擬授業を通して、発問や板書等の基本的な指導法を身に付けることができる。グループワークを通して主体的かつ協働的に学び合い、よりよい道徳科の授業の在り方を探究し、実践的な力を身に付けることができる。
授業時間外の学習	常に人間として、社会人として、また教職を目指す者として、倫理観、道徳観の確立に努め、規範意識を持って行動する。 模擬授業を行う際は教材分析、指導案作成、板書計画等の事前研究を主体的かつ計画的に行うとともに、授業後は自らの授業を省察し、改善案を作成するようにする。
評価方法	授業への参加意欲（30％）、模擬授業や課題提出等の平常点（70％）の結果を基に評価する。遠隔授業にした場合も評価方法に変更はない。
テキスト	『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編』文部科学省・廣済堂あかつき
参考書	『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編』文部科学省・東洋館出版社、永田繁雄編著『小学校新学習指導要領の展開 特別の教科道徳編』明治図書、月刊『初等教育資料』文部科学省教育課程課／幼稚園課・東洋館出版社、月刊『道徳教育』明治図書
備考	諸般の事情により授業計画を変更する場合がある。

講義科目名称： 総合的な学習の時間の指導法

授業コード： 113005

英文科目名称： Teaching Methods of General Studies

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	2 年次	2 単位	必修
担当教員			
島田芳行 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	総合的な学習の時間の創設の背景を理解し、その目標及び内容、そして各学校の特色を生かした総合的な学習の時間の在り方についての理論を学ぶ。また、総合的な学習の時間の指導法については、各自、母校等の現在の総合的な学習の時間の実施状況を調査し、それをもとにグループワークを行い、主体的対話的な深い学びを目指す探究学習の在り方やポイント等について議論を深める。その上で、総合的な学習の時間の年間指導計画や単元計画の設定方法、効果的な学習指導の工夫や留意点についての理解を深める。 なお、学習成果の指標はA-①とA-②である。 遠隔授業になった場合は、①課題型学修（Google Classroomを利用）と③オンデマンド型学修（Google Meetを利用）を組み合わせて実施する。
授業計画	1 回目 「総合的な学習の時間」創設の背景 2 回目 総合的な学習の時間の目標と構成の趣旨 3 回目 各学校が定める目標 4 回目 各学校が扱う内容 5 回目 指導計画作成にあたっての配慮事項 6 回目 内容の取扱いについての配慮事項 7 回目 年間指導計画と単元配列 8 回目 単元計画の作成 9 回目 総合的な学習の時間の指導法の探究①（地域・児童の実態と単元の取扱い） 1 0 回目 総合的な学習の時間の指導法の探究②（探究学習に関わる教師の留意点） 1 1 回目 総合的な学習の時間の指導法の探究③（主体的・対話的な深い学びのための留意点） 1 2 回目 総合的な学習の時間の指導法の探究④（多様な指導法） 1 3 回目 総合的な学習の時間の学習評価 1 4 回目 総合的な学習の時間を充実させるための体制づくり 1 5 回目 まとめと振り返り
到達目標	総合的な学習の時間の創設の背景と関連づけながら、総合的な学習の時間の目標及び内容の設定の意味を理解することができる。児童生徒が主体的に探究学習に取り組めるよう、各学校の実態を踏まえた特色ある年間指導計画及び単元計画を設定していることが理解できる。総合的な学習の時間の現状や課題を把握するための調査や課題解決のためのディスカッションを通して、単元計画や学習指導法、評価方法等についての基本的な知識と技能を身に付けることができる。
授業時間外の学習	シラバスをもとに予習を行うとともに、学習した内容はテキストで再度復習し、内容の定着を図る。また、総合的な学習の時間の指導法についての議論を深めるため、各自、母校等で聞き取りを行い、取り組みの現状のよさや課題を整理しておくようにする。
評価方法	授業への参加意欲（30％）、レポート（70％）。遠隔授業に変更した場合も評価方法に変更なし。
テキスト	『小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』 文部科学省 平成29年
参考書	朝倉 淳・永田忠道共著『総合的な学習の時間・総合的な探究の時間の新展開』（学術図書出版社、2019）その他、必要に応じてプリントを配布する。
備考	実務教員：初等教育・中等教育前期学校教諭、管理職また教育研究所主事として38年間勤務。

講義科目名称： 特別活動指導法

授業コード： 122007

英文科目名称： Teaching Methods of Extracurricular Activities

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	2 年次	2 単位	教職必修
担当教員			
倉持 博 教授			
添付ファイル			

授業の概要	特別活動は、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、豊かな学校生活を築くとともに、生徒一人一人に自主的、実践的な態度や社会性をはぐくむことをねらいとしている。また、特別活動は、全ての教師がかかわる教育活動であり、児童生徒の人間形成にとって重要な役割を担う教育活動である。本講義では、特別活動の教育課程上の位置づけや内容、指導方法、特別活動ではぐくむ資質・能力、評価などにおける特質から、人間形成における特別活動の意義や役割を理解する。授業では、講義とともにグループワーク等も行い、主体的・協働的に取り組む力の育成もねらいとする。 なお、学習成果の指標はB－②と③である。 諸般の事情により遠隔授業になる場合は、①課題型学修（Google Classroomを利用）となる。
授業計画	1 回目 オリエンテーション 特別活動の思い出 2 回目 特別活動の特質・意義 3 回目 特別活動の教育課程上の位置づけと変遷 4 回目 特別活動の目標と内容 5 回目 特別活動における人間関係形成と話し合い活動 6 回目 特別活動の指導計画の作成と指導と評価 7 回目 特別活動と組織的取組 8 回目 特別活動と道徳教育 9 回目 特別活動とキャリア教育 1 0 回目 特別活動と生徒指導 1 1 回目 特別活動と学級経営 1 2 回目 学級活動・ホームルーム活動の実践 1 3 回目 児童会・生徒会活動の実践 1 4 回目 クラブ活動、部活動の実践 1 5 回目 学校行事の実践、まとめ
到達目標	・学習指導要領における特別活動の目標及び内容等について理解することができる。特に、特別活動の三つの視点（人間関係形成・社会参画・自己実現）の重要性について理解することができる。 ・教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連について理解し、説明することができる。 ・学級活動・ホームルーム活動の特質について理解し、授業を構想し、指導案にまとめ、説明することができる。 ・児童会・生徒会活動、クラブ活動、学校行事の特質について理解し、実践事例を踏まえながら、各活動等の具体的に計画することができる。 ・特別活動と道徳教育、キャリア教育、生徒指導、学級経営、部活動等との関連について理解し、効果的な指導の在り方について話し合い、学びを深めることができる。 ・合意形成や意思決定につながる話し合い活動の指導及び集団活動の意義や指導の在り方について理解し、具体的に例示することができる。 ・特別活動における評価の意義、評価の対象、評価の計画、評価の方法等について理解し、学習過程を通して

	どのよ うに評価するか、議論し、考えを深めることができる。 ・特別活動と保護者・地域との連携の在り方、特別活動とカリキュラムマネジメント等を踏まえ、特別活動の全体計画を構想することができる。
授業時間外の学習	・事前にシラバスで授業内容を確認し、テキストをよく読み、予習をして、授業に生かすようにする。 ・授業後は、授業中にまとめたワークシート等を見直し、復習をするようにする。
評価方法	・筆記試験（50％）、授業への参加意欲（30％）、提出課題（20％）等を踏まえて総合的に評価する。 ・遠隔授業の場合は、レポート（70％）、授業への参加意欲（30％）とする。
テキスト	・編者：渡部邦雄、緑川哲夫、桑原憲一 「平成29年・30年告示学習指導要領準拠 特別活動指導法改訂2版」（日本 文教出版（株）・令和2年）
参考書	・文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター 「特別活動指導資料 みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動 小学校編」（文溪堂・2019年） ・その他、必要に応じてプリントを配布する。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	2 年次	2 単位	必修
担当教員			
平岡秀美 講師			
添付ファイル			

授業の概要	本講義は、教育方法学に関する基礎的知識の習得を通じて、教職における実践的指導力の土台を構築することを目指す。ここでいう実践的指導力とは、教師が教育実践において、知識や技能を伝達するだけでなく、むしろそれらを通じた人格育成を目指し、子どもたちにはたらきかける方法と技術の力量を意図している。だが、学校教育において、子どもの「知ること」と「振る舞うこと」とを教師が直線的に結びつけることの困難さは自明である（何かを知ったからといって、それに従って振る舞えるとは限らない）。本講義では、こうした教育実践における教育方法上の様々な「つまづき」を、教育方法の実践活動の背後に働いている理論に照らして考察する。確かに、残念ながら（そして幸いなことに）大学で教育方法の理論を学ぶことが、「良い」授業を行うことに直接的に役立つとは限らない。だがそれでも、「理論に基づかない実践は、ことの成り行きを見て有利な方につこうとする日和見主義になり、子どもを混迷に落とし込む」（長谷川 2008: 2）のであれば、教師の職業科学である教育方法学の理論を学ぶことは不可欠である。なお、学習成果の指標は A-②、③とB-②、③である。		
授業計画	1 回目	2023年度の「教育方法学」の講義計画と本講義の進め方：本講義では何が目指され、どのように行われるのか	
	2 回目	「実践的指導力」と実践科学としての教育方法学：なぜ大学で教育方法学を学ぶのか	
	3 回目	教育方法学の学問的性格と現代的課題：教育方法学はどのような学問なのか	
	4 回目	学校教育の目的とカリキュラム：学校教育における授業は何を目指すのか	
	5 回目	教育技術と教育的タクト：「良い」教え方はどのように身につくのか	
	6 回目	〈新しい能力〉論と学校の役割：学校では何を教え、何を教えないのか	
	7 回目	一斉授業とその克服：授業形態にはどのような意味があるのか	
	8 回目	学級集団と「学級」の歴史学：「学級」とはどのような場なのか	
	9 回目	教育的関係と教育における非対称性：教育を語ることができるのは誰か	
	1 0 回目	子ども理解とマイノリティ：「多様」な子どもたちをどのように理解するか	
	1 1 回目	授業づくりと教材研究：授業はどのように作られうるのか	
	1 2 回目	授業における「問い」と子どもの問い：授業における「問い」とは何であり、何であるべきか	
	1 3 回目	講義に対する質疑応答とレポート作成について（1）：講義	
	1 4 回目	講義に対する質疑応答とレポート作成について（2）：グループワーク	
	1 5 回目	期末レポートのフィードバックと本講義の振り返り：「実践的指導力」とは何であったのか	
到達目標	(1)教育方法学の基礎的な理論について、その概要を説明することができる。 (2)上記の理論について、多様な立場があることを知り、それらを理論的に読み解き、相対的に把握することができる。 (3)上記の諸理論の把握に基づいて、自身の受けてきた（あるいは行なってきた）教育経験を反省的に観察することができる。		
授業時間外の学習	毎回の講義の参加に向けて、復習課題と予習課題の提出をすることが授業出席の条件となります。つまり、各講義に身体的に来ていただけでは出席とはみなしません。予習復習がなされていない場合、自分自身の学習や成績の妨げになるばかりでなく、話し合い活動をはじめとした授業の進行の妨げになることも予想されます。とりわけ予習課題としては、予習用資料の精読とそれについての簡単なレジュメの作成をしていただきます（詳細は、第一回の講義において説明します）。なおこの予習課題には、1時間半から2時間程度の授業外学習が毎週必要であると思われます。		
評価方法	各講義内容についてのコメントシートの提出（18%）		

	各講義での予習課題の提出 (27%) 期末レポートの提出 (55%) ※基本的に、遠隔授業に変更となった場合も評価方法に変更はありません。
テキスト	教科書は使用しません。講義において講義プリントを配布します。
参考書	Benner, D. (1987) : Allgemeine Paedagogik. Weinheim und Basel. (ディートリッヒ・ベンナー著／牛田伸一訳 (2014) 『一般教育学』協同出版。) 長谷川榮 (2018) 『教育方法学』協同出版。 ※その他、授業のなかで適宜推薦します。
備考	本授業は対面形式で行います。諸般の事情により、遠隔授業となった場合は、同時・双方型学修〔Google Meetを利用〕) となります。

講義科目名称： I C T活用実践論

授業コード： 221004 222007

英文科目名称： Utilization practice theory of ICT

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	2 年次	1 単位	必修
担当教員			
西田憲五 講師			
添付ファイル			

授業の概要	本講義ではICT活用の意義と理論、ICTを活用した学習指導や校務の推進、児童・生徒の情報活用能力（情報モラルを含む）育成のための指導方法の習得を実践的・体験的に学修する。なお、学習成果の指標はA－③とB－②である。遠隔授業になった場合は①課題型学修（「Google Classroom」を利用）で実施する。使用する主なソフトウェアはMicrosoft Office(Word,Excel,Powerpoint)を想定している。		
授業計画	1 回目	現代社会におけるICTの役割と学習指導要領における情報活用能力の育成 ・情報活用能力の要素 ・【課題】情報活用能力とは	
	2 回目	GIGAスクール構想によるICT環境の整備 ・PISA学習到達度調査 ・教育DX ・情報機器の整備	
	3 回目	教師として身に付けるべきICT活用能力とICT活用指導力 ・ICTを活用した校務の推進と教育データの活用 ・活用能力育成のための学習内容（情報モラルとセキュリティを含む） ・【課題】児童・生徒のICT活用能力を育てるためには何をすべきか。	
	4 回目	コンピュータシステムの基礎知識と基本操作 ・五大装置 ・ファイルやフォルダの操作	
	5 回目	アプリケーション実習（1） ・プレゼンテーションツールの基本操作	
	6 回目	画像・音声・動画の基礎知識と活用 ・プレゼンテーションツール等への取り込み ・情報発信における情報の取り扱いとトラブルの防止	
	7 回目	アプリケーション実習（2） ・文書作成ソフト ・表計算ソフト ・【課題】差し込み印刷の操作方法を教えるための教材作成	
	8 回目	プログラミング教育の必要性と育成する資質・能力 ・プログラミング教育のねらい ・アンブラグドプログラミング	
	9 回目	VBAを使用したプログラミング実習のための準備と一連の流れ ・VBA使用環境の設定 ・操作方法の習得と実習体験	
	1 0 回目	VBAを使用したプログラミングの基礎（1） ・実習を通したVBA構文の理解（1）	
	1 1 回目	VBAを使用したプログラミングの基礎（2） ・実習を通したVBA構文の理解（2） ・プログラムの例示（1）	
	1 2 回目	VBAを使用したプログラミング実習 ・プログラムの例示（2） ・【課題】VBAを使用したプログラム作成	
	1 3 回目	学習指導におけるICTの効果的活用（2-1） ・ICTを効果的に活用した指導事例 ・オンデマンド授業を前提とした教材作成の事前準備	
	1 4 回目	学習指導におけるICTの効果的活用（2-2） ・【課題】オンデマンド授業を前提とした教材作成	
	1 5 回目	ふりかえり	
到達目標	ICT活用の実践的な学修を通してICT活用の意義と在り方を理解し、基礎的な知識・技術が習得できる。教師自身のICT活用能力並びに児童・生徒のICT活用能力を育成するための指導力を身に付けることができる。		
授業時間外の学習	文部科学省等のホームページで教育に関する情報にできるだけ触れておく。また、社会の変化とともに教育の在り方も変化するので、特にICT関連についても関心を持って情報を収集すること。		
評価方法	授業への参加意欲（10%） 平常点（小テストや課題を含む）（90%）で評価する。 遠隔授業に変更した場合は「提出された課題」で評価する。		

テキスト	教科書は使用せず。 必要に応じて資料等を配付（インターネット使用による情報収集を含む）する。
参考書	稲垣忠・佐藤和紀（編著）2021 『ICT活用の理論と実践』 北大路書房 日経パソコン（編） 2022 『よくわかる教育D X』 日経B P 文部科学省 H29.7 『小学校学習指導要領 （総則編）』 文部科学省 H29.7 『中学校学習指導要領 （総則編）』 文部科学省等のホームページ
備考	

講義科目名称： 保育方法・技術論

授業コード： 213007

英文科目名称： Early Childhood Educational Methods and Skills

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	2 年次	2 単位	必修
担当教員			
出井芳江 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	様々な保育形態や保育方法があることへの理解を深めるとともに、具体的事例から保育者の指導や援助のあり方を実践的かつ現実的に学ぶことで、保育観の構築を目指す。 なお、学習成果の指標はB-②、③である。 本授業は、対面授業を中心に実施するが、遠隔授業になった場合は、課題型学修（「Google Classroom」を利用）と同時・双方向型学修（「Google Meet」を利用）とを組み合わせ実施する。
授業計画	1 回目 オリエンテーション「保育方法とは何か？」 2 回目 保育方法のポイント「どう関わる？どう保育する？」 3 回目 子どもの理解と支援方法 4 回目 保育方法の基盤となる「養護的な関わり」 5 回目 子どもにとってふさわしい園生活 6 回目 養護と教育が一体となった保育 7 回目 環境を通した保育 8 回目 遊びを通した保育 9 回目 個と集団を活かした保育 1 0 回目 0, 1, 2 歳児の発達に応じた保育方法 1 1 回目 3, 4, 5 歳児の発達に応じた保育方法 1 2 回目 小学校への接続を考える 1 3 回目 教材や情報機器を活かした保育方法 1 4 回目 保育方法の理論と技術からの学び 1 5 回目 保育方法の理解と実践への総括
到達目標	多様な保育方法を理解し、保育観を構築する。
授業時間外の学習	教育実習や保育実習における実践を通して、子どもの発達や保育者の関わり及び保育方法を理解する。適宜、指示されたレポートを提出する。
評価方法	授業後のレポート及び課題レポート：70%、授業への参加意欲・態度：30%に基づき総合的に評価する。遠隔授業になった場合も、評価方法に変更はない。
テキスト	教科書を使用せず、必要に応じて資料等を配付する。
参考書	適宜、授業内で紹介する。
備考	諸般の事情により、授業計画が変更になる場合もある。

講義科目名称： 生徒・進路指導論

授業コード： 123014

英文科目名称： Theory of Students Guidance and Career Counseling

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	2 年次	2 単位	必修
担当教員			
星 雄一郎 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	本講義では、生徒の自己実現の達成とそれに必要とされる自己指導能力や問題解決能力を育成できるような教師の資質・能力の向上を目指し、心理学の科学的根拠に基づき学習、議論をします。 今日、学校教育においては「不登校」「いじめ」「無気力」「非行」など、子どもたちの問題行動がさまざま指摘されています。このような状況の中、子どもたちの現実在即し、彼らが人間らしい生き方ができることを目指す生徒指導の本質を十分に吟味し、その基本原理について理解すること。そして、カウンセリング・マインドを活かした子どもへの関わりを基本に、発達段階に即した集団及び個別の指導支援方法を学び、具体的なアプローチを検討すること。講義を通して、心理学の知見に基づいた科学的な指導方法を身につけ、効果的な生徒指導ができるようになることを講義の目的とします。 本講義の学習成果の指標はB-②、③である。「教職課程コアカリキュラム」に即したものである。		
授業計画	第1回 オリエンテーション 【「生徒指導」とは？ 意義と役割を考える】 第2回 教師の基本的態度 【カウンセリング・マインド】 第3回 生徒指導のための組織 【校内指導体制】 第4回 進路指導論とキャリア教育の実践【キャリア発達と教育実践】 第5回 気がかりな生徒の理解 【問題行動、発達障害の理解と行動分析学】 第6回 “行動” を教える技法 【行動分析学】 第7回 生徒指導に必要な発達心理Ⅰ 【感情と欲求、思考と言語】 第8回 生徒指導に必要な発達心理Ⅱ 【思いやりと社会性】 第9回 問題行動と発達に応じた対処方法Ⅰ 【いじめ】 第10回 問題行動と発達に応じた対処方法Ⅱ 【友だちができない】 第11回 問題行動と発達に応じた対処方法Ⅲ 【非行】 第12回 問題行動と発達に応じた対処方法Ⅳ 【無気力】 第13回 問題行動と発達に応じた対処方法Ⅴ 【不登校】 第14回 問題行動と発達に応じた対処方法Ⅵ 【神経発達症群】 第15回 生徒指導に必要な技法 【SSTやSGE】		
到達目標	【学修到達目標】 1. 生徒指導の目標・内容および方法について、理論的に理解する。 2. 生徒指導に必要な発達心理学、教育心理学を理解する。 3. 生徒指導における運営指導上の問題点や課題等を検討し、生徒の状況に応じた指導法を身につける。 4. 学校・地域および関係諸機関・家庭との連携のあり方を理解する。 5. 生徒指導の計画を PDCA に沿って具体的に考案できるようになる。 6. エヴィデンス・ベーストな指導ができるようになる。 7. キャリア教育について理解し、発達段階に合わせた進路指導について理解する。		
授業時間外の学習	講義時間外での学習を求める。事前・事後学修については Google Classroom にて指示する。 【事前学修】 30 分程度 1. Google Classroom に事前課題が出題される場合がある。事前課題に取り組み、回答を行ってから講義へ参加してください。 2. 教科書の当該範囲や関連書籍を読み、内容理解を深めること。 【事後学修】 30 分程度		

	1. Google Classroom に事後課題が出題される場合がある。事後課題に取り組み、回答を行ってから講義で学んだこと、考えたことなどをふりかえってください。 2. 講義資料やノートを再確認し、内容理解を深めること。 3. グループディスカッションの内容について、必要であれば議論を行うこと。結果をまとめること。 各課題は、Google Classroom に定められた期日までにオンライン提出を求める。
評価方法	【評価基準】 1. 教育実践場面にいかすことのできる教育心理学の知識を身につける。 2. 講義にて学んだことを元に、教育活動を分析し、説明することができる。 3. 講義にて学んだことを元に、自らの教育実践活動を具体的に立案、計画できる。 【評価方法】 1. 事前・事後課題への回答 15% 2. 講義への参画度 20% 3. 講義で出題された課題の提出とその内容 15% 4. 学期末試験 50% (定期試験期間中に実施。100 点満点の試験の得点を 1/2 し、50 点満点で評価) 【非対面での実施となった場合】 1. 事前・事後課題への回答 15% 2. 講義への参画度 20% 3. 講義で出題された課題の提出とその内容 15% 4. 学期末レポート課題 50% 上記の 4 点から評価する。成績評価の基準は國學院大學栃木短期大学の基準に準拠する。
テキスト	渡辺弥生・丹羽洋子・篠田晴男・堀内 ゆかり編著 (2000). 学校だからできる生徒指導・教育相談 北樹出版 (2,300 円) ただし、講義の中でテキストを開き、読み合わせをするようなことはない (限られた講義時間を有効に利用するため)。必ずしも購入する必要はないが、テキストは授業時間外学習への回答のため、講義時間では呈示しきれない情報の補填のために用いる。 また、各講義で資料を適宜配布する。
参考書	・小学校学習指導要領 (最新版) ・中学校学習指導要領 (最新版) ・生徒指導提要 (最新版) ・渡辺弥生・小林朋子編著 (2009). 10代を育てるソーシャルスキル教育 北樹出版 (2,000 円) ・平石賢二編著 (2008). 思春期・青年期のこころ 北樹出版 (2,000 円) ・山本淳一・池田聡子編著 (2005). 応用行動分析で特別支援教育が変わる—子どもへの指導方略を見つける方程式 図書文化社 (2,520 円) ・山本淳一・池田聡子編著 (2007). できる!をのばす行動と学習の支援—応用行動分析によるポジティブ思考の特別支援教育 日本標準 (2,100 円) 他にも適宜紹介する。
備考	【指導方法】 1. 基本的に講義形式です。レジュメとスライドの他に必要に応じて視聴覚資料を使用します。 2. 講義への参画度を高く評価します。講義にただ出席するだけでなく、講義内での積極的な発言、参加を高く評価します。 3. 質問は講義前後の時間、毎回の出席調査票によって受け付けます。質問への回答は講義内で行います。 4. 通常は講義形式で行うが、グループ討論や演習などを行うので積極的に参加すること。 本講義は、対面授業を中心に実施する。また、学修内容に応じて、Google Classroom を活用し、反転学習などの多様な学修を実施する場合がある。 また、遠隔講義が必要となる状況になった場合は、Google Meet などを用いた②同時・双方向型学修を中心に実施し、Google Classroom などを用いた①課題型学修・③オンデマンド型学修を組み合わせる。

講義科目名称： 幼児理解

授業コード： 225004

英文科目名称： Infant Understanding Studies

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	2 単位	必修
担当教員			
星 雄一郎 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	【講義の目的・内容】 人間の発達を、新しい生命の誕生から胎児期・乳児期・幼児期・児童期・思春期・青年期の発達から捉え、その心身の形態と機能が変容していく過程を理解し、さらに様々な領域における研究の状況や新たな発展、実践への応用を展望する。 子どもは、社会・文化的な環境と他者との相互作用を通して、身体的、情緒的、認知的にも変化を遂げる。幼稚園教諭、保育士は、子ども一人ひとりの置かれた状況をより正確に把握し、子どもの発達の特徴とそれに応じた支援や対応を身につけることが必要になる。 胎児期・乳児期・幼児期・児童期・思春期・青年期の基本的な心身の発達の過程について、心理学的な知見を学修し、子どもの実態と発達の在り方、またその多様性を学ぶ。また、保育、幼児教育における発達援助・支援について演習、グループワークを通して学んでいく。本講義での学びを通して、子どもの発達を理解し、適切な支援を行い、子育て家庭とその保護者を支援する幼稚園教諭、保育士の課題を検討していく。 本講義の学習成果の指標はB-②、B-③である。「教職課程コアカリキュラム」に即したものである。
授業計画	1 回目 人間の発達を連続的にとらえる 2 回目 幼児理解の必要性と概要 3 回目 子どもの権利に関する法規と児童福祉法 4 回目 人間学の視点からみた発達段階 5 回目 愛着の形成について 6 回目 心理学的視点からみた発達段階と発達過程 7 回目 幼児理解のための行動観察 8 回目 幼児理解の知的行動 9 回目 幼児のパーソナリティ 1 0 回目 幼児の対人関係の発達と援助 1 1 回目 保育カンファレンスと幼児理解 1 2 回目 子どもの個性と集団遊び 1 3 回目 特別支援を必要とする子どもの支援と親支援について 1 4 回目 幼児とかかわる教師の姿勢（肯定的見方の意義） 1 5 回目 保育における評価と改善の視点について
到達目標	【学修到達目標】 1. 胎児期から青年期までの子どもの発達と発達課題について説明できる。 2. 幼児教育、保育実践において直面する子どもの問題について、発達心理学の観点から考察することができる。 3. 幼児教育、保育実践において直面する子どもの問題について、発達の援助・支援の在り方について理解することができる。 4. 子育て家庭と保護者の支援について、具体的な課題を理解し、幼稚園教諭、保育士の専門性を発揮する方法について理解できる。 5. 虐待などの養育困難を抱えた保護者と子どもの支援に関する具体的な方法を理解することができる。
授業時間外の学習	【事前・事後学修】 講義時間外での学習を求める。事前・事後学習については Google Classroom にて指示する。その他にも各自積極的に学修内容を活用した観察などを行い、積極的に学びを深めること。

	・事前学修：講義資料を講義時間までに精読し、適宜、資料等を活用し、理解を深める。（30 分程度） ・事後学修：講義終了後には、各時間での学習のまとめ、事後課題を指示する場合がある。また、日常生活の中で子どもとその保護者を観察し、学修内容を元に考察するなどの自主的な学修を求める。（45 分程度） 各課題は、Google Classroom に定められた期日までにオンライン提出を求める。
評価方法	【成績評価の方法・基準】 國學院大學栃木短期大学の成績評価の基準に準拠する。 1. レポート課題 50 % 2. 講義内での演習課題，グループワークでの成果物 20 % 3. 講義への参画度，積極性 30% 評価方法・基準の詳細については、初回の講義にて説明する。
テキスト	谷田貝 公昭・大沢 裕（2018）．新版 幼児理解．一藝社 必要によって資料は、講義内で適宜配布する。 詳細は初回講義時に説明する。
参考書	必要によって資料は、講義内で適宜配布する。
備考	【指導方法】 1. 講義形式で行う。学修内容に応じて、演習およびグループワークを行う。 2. 演習・グループワークを通し、積極的に討議、意見交換を行い、幼児教育、保育、保護者・家庭の支援について体験的に学修を行う。 3. 映像教材などさまざまな教材、多様な子どもの発達を理解するための事例から、発達援助・支援の実践について理解を深めることができるように指導を行う。 本講義は、対面授業を中心に実施する。また、学修内容に応じて、Google Classroom を活用し、反転学習などの多様な学修を実施する場合がある。 また、遠隔講義が必要となる状況になった場合は、Google Meet などを用いた②同時・双方向型学修を中心に実施し、Google Classroom などを用いた①課題型学修・③オンデマンド型学修を組み合わせる。

講義科目名称： 教育相談（カウンセリングを含む）

授業コード： 222008

英文科目名称： Educational Counseling

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	2 年次	2 単位	必修
担当教員			
星 雄一郎 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	保育・教育現場において幼児・児童・生徒を理解し、諸問題に対応するための理論的、実践的知識を学ぶ。初めに、保育・教育現場における教育相談の有り様、家庭、地域、関係機関との連携について学ぶ。次に、代表的な心理臨床の理論・心理療法について学ぶ。各理論・療法とその的確な適用を学ぶことで実践力を高める。後半では、理論的、実践的知識に基づいて、不適応状態に陥った幼児・児童の再適応を助け、問題の予防を目的とした援助や自己実現を助ける開発的援助の方法について学習する。 本講義の学習成果の指標はA-③及びB-②，③である。「教職課程コアカリキュラム」に即したものである。本講義は、対面授業を中心に実施する。また、学修内容に応じて、Google Classroom を活用し、反転学習などの多様な学修を実施する場合がある。 また、遠隔講義が必要となる状況になった場合は、Google Meet などを用いた②同時・双方向型学修を中心に実施し、Google Classroom などを用いた①課題型学修・③オンデマンド型学修を組み合わせる実施する。
授業計画	1 回目 オリエンテーション 教育相談の意義と役割 2 回目 教師に求められるカウンセリングスキル カウンセリングマインドの理解と実践 3 回目 学校心理学の考え方および“チーム学校”におけるスクールカウンセラ・スクールソーシャルワーカーの役割 4 回目 “チーム学校”と連携 学校組織と関連機関および家庭との連携 5 回目 学級経営と教師のメンタルヘルス 6 回目 アセスメントと関わる技法Ⅰ 理論の理解 7 回目 アセスメントと関わる技法Ⅱ 教育実践への応用 8 回目 学校危機予防の考え方と予防の在り方 9 回目 幼児・児童・生徒の学校適応の問題と対応Ⅰ 不登校 10 回目 幼児・児童・生徒の学校適応の問題と対応Ⅱ 非行・虐待 11 回目 幼児・児童・生徒の学校適応の問題と対応Ⅲ いじめ 12 回目 幼児・児童・生徒の学校適応の問題と対応Ⅳ 無気力 13 回目 事例とロールプレイで学ぶ教育相談と面接技法 14 回目 神経発達症群への対応 自閉スペクトラム症，限局性学習症，注意欠如・多動症 15 回目 求められる教育相談の在り方 教員として必要な教育相談の視点と活用のポイント
到達目標	1. 学校における教育相談の役割や体制について理解することができる。 2. 児童生徒の発達課題を正しく理解し，子どものニーズに沿った関わりについて考えることができる。 3. いじめや不登校，特別な支援を要する児童生徒に対する基礎的な知識を身に付けることができる。 4. 支援が必要な児童生徒にスクールカウンセリングの理論や視点を援用し，適切に対応していくための見通しを持つことができる。
授業時間外の学習	講義時間外での学習を求める。事前・事後学修については Google Classroom にて指示する。その他にも各自積極的に学修内容を活用した観察などを行い，積極的に学びを深めること。 【事前学修】 30 分程度 1. Google Classroom に事前課題が出題される場合がある。事前課題に取り組み，回答を行ってから講義へ参加してください。 2. 教科書の当該範囲や関連書籍を読み，内容理解を深めること。 【事後学修】 30 分程度

	1. Google Classroom に事後課題が出題される場合がある。事後課題に取り組み、講義で学んだこと、考えたことなどをふりかえってください。 2. 講義資料やノートを再確認し、内容理解を深めること。 各課題は、Google Classroom に定められた期日までにオンライン提出を求める。
評価方法	【評価基準】 1. 教育相談の基礎となる発達心理学，臨床心理学の知識を身につける。 2. 児童生徒，保護者などのニーズを把握し，教育相談の観点から分析できるようになる。 3. 児童生徒の問題を解決するための教育実践活動を具体的に立案，計画できる。 【評価方法】 1. 事前・事後課題の提出と回答 30% 2. 講義への参画度 20% 3. 学期末試験 50%（定期試験期間中に実施。100 点満点の試験の得点を 1/2 し，50 点満点で評価） 【非対面での実施となった場合】 1. 事前課題と事後課題への回答 30% 2. 講義への参画度 20% 3. 小テスト，レポート，課題などの提出物 50 % 上記の 3 点から評価をします。成績評価の基準は國學院大學栃木短期大学の基準に準拠します。 評価方法・基準の詳細については，初回の講義にて説明する。
テキスト	渡辺弥生・西山久子（編著）（2018）．必携：生徒指導と教育相談（生徒理解，進路相談そして学校危機予防まで）北樹出版（2,310 円） ただし，講義の中でテキストを開き，読み合わせをするようなことはありません（限られた講義時間を有効に利用するため）。テキストは事前事後学修への回答のため，講義時間では呈示しきれない情報の補填のために用います。
参考書	講義内にて適宜紹介します。
備考	【指導方法】 1. 基本的に講義形式です。レジュメとスライドの他に必要に応じて視聴覚資料を使用します。 2. 講義への参画度を高く評価します。講義にただ出席するだけでなく，講義内での積極的な発言，参加を高く評価します。 3. 質問は講義前後の時間，毎回の出席調査票によって受け付けます。質問への回答は講義内で行います。 4. 通常は講義形式で行うが，グループ討論やロールプレイなどの実習を行うので積極的に参加すること。

講義科目名称： 教育実習Ⅰ（事前事後指導1単位を含む）

授業コード： 224007

英文科目名称： Practice Teaching 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	2 単位	選択
担当教員			
後藤正人 教授			
添付ファイル			

授業の概要	教育実習ⅡA・ⅡB（現場実習）の事前指導は、入学直後1年次の夏期教育研修から始まっている。教育実習ⅡA・ⅡB（現場実習）に臨むには、心構えと周到的な準備が必要である。本授業では、教育実習とは何かを理解し、教育実習に関する基本的事項について学ぶ。 教育実習ⅡA・ⅡB（現場実習）の事後指導では、自己の教育実習（現場実習）を省察する。 教育実習ⅡA・ⅡB（現場実習）における事前・事後指導は、必要に応じて、ス花アワー（水曜の4限）にも行う。 なお、学習成果の指標はB-②である。 授業は対面形式で行う。諸般の事情により遠隔で行う場合は、①課題学修（Google Classroomを利用）と②同時・双方型学修（Google Meetを利用）とを組み合わせる実施する。
授業計画	1 回目 オリエンテーションー教育実習の位置づけ 2 回目 教育実習の意義と目標 3 回目 幼稚園教育実習の心構えと心得 4 回目 幼稚園教育実習の形態とプロセス 5 回目 幼稚園教育実習の実際 6 回目 「幼稚園教育実習の記録」の記入の仕方 7 回目 幼稚園の教育課程・全体的な計画と指導計画 8 回目 指導案（日案）の作成と作成上の留意点 9 回目 小学校教育実習の意義と目標 10 回目 小学校教育実習の心構えと心得 11 回目 小学校教育実習の形態とプロセス 12 回目 小学校教育実習の実際 13 回目 「小学校教育実習の記録」の記入の仕方 14 回目 小学校の教育課程と指導計画 15 回目 指導案の作成と作成上の留意点
到達目標	1. 教職がどんなに意義深く、尊いものであるかを理解することができる。 2. 教育実習の意義を理解し、教育実習に臨む心構えや心得を身につける。 3. 教育実習の内容を理解することができる。 4. 教育実習を終えて教育実習を省察することができる。 5. 学習指導案を作成することができる。
授業時間外の学習	○日頃から挨拶、返事、姿勢に気をつけて行動する。 ○ピアノの練習をする。 ○手遊び歌、エブロンシアター等のレパートリーを増やす。 ○教材研究をし、学習指導案を作成する。 ○板書の練習をする。 ○機会を見つけて、幼稚園、小学校、中学校を訪問し、ボランティア活動をする。 ○課題を出された場合は速やかに行い、提出を要する場合は期限を守る。
評価方法	授業への参加意欲・小レポート・課題の提出（50%）、授業時に行う小テストの結果（50%）等に基づいて評価する。遠隔授業になった場合も同様である。

テキスト	
参考書	『幼稚園教育要領解説』文部科学省・フレーベル館、『小学校学習指導要領』とその解説、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』、『教育法規集』など
備考	諸般の事情により授業計画を変更する場合がある。

講義科目名称： 教職実践演習（小学校・幼稚園）

授業コード： 233028

英文科目名称： Seminar in Teaching Practice

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	2 年次	2 単位	必修
担当教員			
後藤正人教授 早川富美子教授 都留寛教授 島田芳行准教授			
添付ファイル			

授業の概要	○小学校や幼稚園での現地調査、模擬授業や模擬保育、表現演習等を通して、教職に関する資質能力についての自己確認を行うことができるようにする。 ○これまでに身に付けた資質能力が、教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかについて 確認をするとともに、教員になる上で何が必要であるかを自覚し、不足している知識・技能等を補い、教職生活を円滑にスタートできるようにする。 尚、学習成果の指標は、B-②である。 遠隔授業を実施する場合は、①課題型学修(「Google Classroom」を利用)と②同時・双方向学修(「Google meet」を利用)とを組み合わせる実施する。
授業計画	1 回目 ガイダンス及び履修カルテの記入（後藤） 2 回目 小学校現地調査の事前指導（都留） 栃木市教育研究発表会に参加し、実践での研究について触れると共にこれからの学習に生かす方向を捉える。 3 回目 小学校現地調査①（国語・社会の授業）（全担当教員） 栃木市内の小学校 4 回目 小学校現地調査②（算数・理科の授業）（全担当教員） 栃木市内の小学校 5 回目 小学校現地調査③（音楽・図工・家庭・体育・道徳の授業）（全担当教員） 栃木市内の小学校 6 回目 模擬授業、模擬保育の事前指導（全担当教員） 7 回目 模擬授業①（国語・算数）、模擬保育①（基礎）（全担当教員） 8 回目 模擬授業②（社会・理科）、模擬保育②（応用）（全担当教員） 9 回目 模擬授業③（音楽・体育・道徳）、模擬保育③（展開）（全担当教員） 1 0 回目 模擬授業④（図工・生活）、模擬保育④（中間発表）（全担当教員） 1 1 回目 模擬授業・模擬保育の振り返り（全担当教員） 1 2 回目 表現演習①（基礎）（全担当教員） 1 3 回目 表現演習②（応用）（全担当教員） 1 4 回目 表現演習③（展開）（全担当教員） 1 5 回目 ゲストティチャー・ワークショップ（全担当教員） 栃木市教育委員会の指導主事をゲストティチャー（講師）として要請
到達目標	小学校や幼稚園での現地調査、模擬授業や模擬保育、表現演習等を通して、自らの学びを振り返り、教育者・保育者として必要な知識・技能を修得したことを自己確認することができる。
授業時間外の学習	教育実習などを通して、教員になる上で何が課題であるかを自覚し、不足している知識・技能等を補い、教職生活を円滑にスタートできるように日々自己研鑽に励む。
評価方法	レポートや実践記録を含む履修カルテ（50%）、主体的かつ共同的な学びへの態度（50%）に基づき総合的に評価する。 遠隔授業へ変更した場合も同様の評価を行う。
テキスト	『教育の泉6』（後藤正人・文溪堂）
参考書	授業の中で指示する。
備考	必要に応じてその都度プリントを配布する。

講義科目名称： 教育実習Ⅱ（現場実習）（小・幼）

授業コード： 700004

英文科目名称： Practice Teaching 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2 年次	4 単位	必修
担当教員			
後藤正人 教授			
添付ファイル			

授業の概要	本学では小学校教諭並びに幼稚園教諭の二種免許状を同時に取得することができる。教育実習は免許状を取得するための必修科目である。教育実習はⅡ A とⅡ B に分けられる。教育実習Ⅱ A においては、これまで学んできた幼児教育や小学校教育をより深く理解するために、幼稚園或いは小学校の教育現場で指導教諭の指導を受けながら教育の実践を観察し、可能な限りその教育に参加して、教育を体験的に学び教育実習Ⅱ B につなげる。教育実習Ⅱ B においては、Ⅱ A で小学校実習を行ったものは幼稚園、幼稚園実習を行ったものは小学校で行い、これまで培ってきた人間性や専門的な知識技能そして教育実習Ⅱ A の成果等を一体的に活用して、総合的実践力と教育者・保育者としての情熱を養う。なお、学習成果の指標は、B-②である。
授業計画	幼稚園教育実習・小学校教育実習は、幼稚園・小学校において教師の職能全般に関して体験し、学校教育についての理解を深めるとともに教師としての自覚を深めることに主眼を置く。実習中に学ぶべき職能は広範囲にわたる。教育実習Ⅱ A は1年次2月に1週間、栃木市内の小学校あるいは幼稚園において行う。Ⅱ A においては、幼稚園教育や小学校教育の実践を理解するために観察実習や指導教諭の指導の下に、教師の仕事の内容を体験的に理解し認識する参加実習が主になる。 Ⅱ B は2年次6月に学生本人希望の園・校の承諾を得て3週間にわたって行う。Ⅱ B においては観察や参加を踏まえて指導教諭と同様に学級の全教育活動を通して幼児・児童と触れ合い、教師としての人格並びに職能を学ぶ取る。その内容は広範囲にわたるが特に指導案を作成して臨む保育実習・授業実習を行うことが主になる。
到達目標	1. 大学で学んだ教育理論や自らの体験を教育現場で確かめ、教育の仕事がどんなに意義深く、かつ楽しいものであるかを感じ得ることができる。 2. 幼児・児童の発達や生活の様子を理解している。 3. 教育課程と指導計画との関係を理解した上で、指導案を作成し保育や授業を行うことができる。 4. 教職に必要な専門知識や技能を習得して実践力を身に付け、教師としての自覚、使命感、責任感を深めることができる。 5. 実習を省察し記録に残すことができる。 6. 幼稚園教育と小学校教育の類似点と相違点や幼稚園と小学校との連携の実態を把握できる。 7. 将来教師を目指すうえでの自己課題を把握することができる。
授業時間外の学習	・健康・体力を養う。基本的・社会的生活習慣を身につける。 ・『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』『小学校学習指導要領』とその解説書をよく読み、理解しておく。 ・ピアノの練習をする。 ・教材研究をしっかり行い、指導案を作成する。
評価方法	実習校・実習園による評価（50％）と『教育実習の記録』の内容、提出状況による評価（50％）をもとに総合的に評価する。遠隔になった場合には、文科省の指針を踏まえ、教育実習に替わる授業を行うが、評価方法に変更はない。
テキスト	
参考書	
備考	

講義科目名称： 教育実習Ⅱ（現場実習）（幼）

授業コード： 700005

英文科目名称： Practice Teaching (On-the-Job Practice)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2 年次	4 単位	必修
担当教員			
後藤正人 教授			
添付ファイル			

授業の概要	教育実習は、幼稚園教諭の免許状を取得するための必修科目であり、教育実習ⅡA・ⅡBに分けられる。教育実習ⅡAは、保育実習Ⅰ（保育所）終了後、1年次3月に1週間、法人関係園で行う。教育実習ⅡAにおいては、幼児や保育者、幼稚園教育を理解するための観察実習や参加実習が主になる。 ⅡBは2年次6月に、学生本人希望の幼稚園の承諾を得て3週間にわたって行う。ⅡBは、これまで培ってきた人間性や専門的な知識技能、そして教育実習ⅡAの成果を踏まえて、指導教諭と同様に学級の全保育・教育活動を通して幼児と触れ合い、教師としての人格並びに職能を学び取る研究活動である。その内容は広範囲にわたるが特に指導案を作成して臨む部分実習や責任（全日）実習を行い、総合的実践力と保育者としての情熱を養う。なお、学習成果の指標はB-②である。
授業計画	教育実習ⅡAにおいては、観察・参加実習が主となり、幼稚園における幼児の生活や活動を理解し、保育者の役割を体得する。また、教育課程、全体計画、指導計画の意義を理解し幼稚園教育の実態を学ぶ。 ⅡBにおける1週目は、実習園の理解と一日の保育・生活の流れや幼児の園生活について学ぶ観察・参加実習が主となる。2週目は、一日の保育の一部分を実習する部分実習に進み、幼児を理解し援助する研究活動が主になる。3週目においては、保育者の役割や専門性を体得するために、観察や参加を踏まえて登園から降園までの日指導計画（日案）を作成して実践し、今後の学修課題を把握する。
到達目標	1. 大学で学んだ教育理論や自らの体験を教育現場で確かめ、教育の仕事がどんなに意義深く、かつ楽しいものであるかを感じ得ることができる。 2. 幼児の発達や生活の様子を理解している。 3. 教育課程や全体計画と指導計画との関係を理解した上で、指導案を作成し保育を行うことができる。 4. 教職に必要な専門知識や技能を習得して実践力を身に付け、教師としての自覚、使命感、責任感を深めることができる。 5. 実習を省察し記録に残すことができる。 6. 幼稚園教育と小学校教育、幼稚園教育と保育所保育の類似点と相違点や幼稚園と小学校との連携の実態を把握できる。 7. 幼稚園における子育て支援の実態を理解できる。 8. 将来保育教諭を目指すうえでの自己課題を把握することができる。
授業時間外の学習	・健康・体力を養う。基本的・社会的生活習慣を身に付ける。 ・『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』『小学校学習指導要領』とその解説書をよく読み、理解しておく。 ・ピアノの練習をする。 ・教材研究をしっかりと行い、指導案を作成する。
評価方法	実習園による評価（50%）と『教育実習の記録』の内容、提出状況による評価（50%）をもとに総合的に評価する。遠隔になった場合には、文科省の指針を踏まえ、教育実習に替わる授業を行うが、評価方法に変更はない。
テキスト	
参考書	
備考	

講義科目名称： 健康指導法

授業コード： 261002

英文科目名称： Teaching Methods of Health

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	2 年次	1 単位	必修
担当教員			
長谷部せり 講師			
添付ファイル			

授業の概要	生活のリズムを整えることや健康に生きていくために必要な基本的生活習慣の獲得の時期における適切な援助の方法について学ぶ。健康で安全に生活していくための基礎を培うために、子どもたちに身につけさせなければならないことを、遊びを通して獲得させていく支援方法についても理解する。さらに、幼児理解と共に保育中の評価の方法についても理解を深め、小学校の教科とのつながりをもたせられるような保育内容についても理解する。学習成果はB-②と③である。 遠隔授業を実施する場合は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と②同時・双方向型学修（「Google Meet」を利用）と組み合わせて実施する。
授業計画	1 回目 オリエンテーション 2 回目 「健康」について 3 回目 子どもの心身の発達 4 回目 現代の子どもの諸問題 5 回目 子どもの遊び① 6 回目 子どもの遊び② 7 回目 生活習慣の形成① 8 回目 生活習慣の形成② 9 回目 子どもの健康と「食」 1 0 回目 子どもの病気や怪我 1 1 回目 安全に対する意識 1 2 回目 健康指導の実際と評価① 1 3 回目 健康指導の実際と評価② 1 4 回目 幼小接続について 1 5 回目 リフレクション
到達目標	人間の成長と家庭生活に深くかかわる健康の分野について学び、健康の領域における専門的な知識や実践的な能力等を身に付けることができる。 幼児期の発育発達の基本的な知識を得て、子どもたちに適切な援助ができるようになる。 特に健康領域の観点から、幼児期における運動遊びの保育内容や教材等を考えることができる。
授業時間外の学習	幼児期の子どもの発育発達に関する資料を収集する。 情報収集の際に、自分が保育者となった際に子どもたちに身につけさせたいことについて考えておく。
評価方法	授業への参加意欲・態度（40%）、レポート（60%）等で総合的に評価する。 遠隔授業に変更した場合は授業への参加意欲・態度（40%）、レポート（60%）
テキスト	教科書を使用せず。必要に応じて授業時に資料を配布することとする。
参考書	『幼稚園教育要領（最新版）』 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領（最新版）』 その他、必要に応じて講義の中で紹介する。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	2 年次	1 単位	必修
担当教員			
都留 寛 教授			
添付ファイル			

授業の概要	①子どもを取り巻く環境や発達の過程を踏まえた上で、人とのかかわる力の育ちの重要性を理解させる。 ②領域「人間関係」と他領域の関連性を解説し、事例に学ばせながら総合的に保育を捉える力の習得を目指す。 ③「保育所保育指針解説書」「新幼稚園教育要領解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の解説と改正のポイントを理解させる。 ④「中央教育審議会 答申」における提言を理解させる。 尚、学習成果の指標は、B－②である。 遠隔授業を実施する場合は、①課題型学修(「Google Classroom」を利用)と②同時・双方向学修(「Google meet」を利用)とを組み合わせる。		
授業計画	1 回目	中央教育審議会の提言 ・中央教育審議会の答申を読み解き、「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の変遷と改訂のポイントについて理解する。 ・「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における領域「人間関係」の内容を分析・比較・整理してまとめる	
	2 回目	人とのかかわる力の発達と様相① ・DVD「乳幼児の心理発達とその不思議」を視聴し、認知(模倣、認知と行動、認知と発達、記憶)・社会性(コミュニケーション、愛着関係、大人との関係、友達との関係)・言語(言語の発達、音の好み、言葉の理解、読み聞かせ)の発達と様相について調べ、まとめる	
	3 回目	おおむね 6 か月未満児の人間関係 ・おおむね 6 か月未満児の人間関係の発達と様相について調べてまとめる ・DVD「乳幼児保育の実践(前半)」を視聴し、おおむね 6 か月未満児の人間関係についての保育の実践について調べ、まとめる	
	4 回目	おおむね 6 か月から 1 歳未満児の人間関係 ・おおむね 6 か月から 1 歳未満児の人間関係の発達と様相について調べてまとめる ・DVD「乳幼児保育の実践(後半)」を視聴し、おおむね 6 か月からの 1 歳未満児の人間関係についての保育の実践について調べ、まとめる	
	5 回目	おおむね 1 歳から 2 歳未満児の人間関係 ・おおむね 1 歳から 2 歳未満児の人間関係の発達と様相について調べてまとめる ・DVD「低年齢児の保育(1 歳児)」を視聴し、おおむね 1 歳からの 2 歳未満児の人間関係についての保育の実践について調べ、まとめる	
	6 回目	おおむね 2 歳から 3 歳未満児の人間関係 ・おおむね 2 歳から 3 歳未満児の人間関係の発達と様相について調べてまとめる ・DVD「低年齢児の保育(1 歳児)」を視聴し、おおむね 2 歳からの 3 歳未満児の人間関係についての保育の実践について調べ、まとめる	
	7 回目	人とのかかわる力の発達と様相② ・DVD「3 歳児からの心理発達」を視聴し、認知(実行機能、短期記憶、作業記憶、展望記憶、基本的な図形の模写、描画(人物))・概念・思考(保存概念、数の操作、自己中心性、他者の誤信念理解、視点の心的操作、道徳性)・言語(語彙、文法、音韻意識、会話、論理的説明)・社会性(話し合いによる問題解決、競争意識、新しいルールの学習、公平な分配)の発達と様相について調べ、まとめる	
	8 回目	おおむね 3 歳児前半の人間関係 ・おおむね 3 歳児前半の人間関係の発達と様相について調べてまとめる ・DVD「3 年間の保育記録 3 歳児編 前半 ①よりどころを求めて」を視聴し、主題「よりどころを求めて」の意味についてディスカッションしたりディベートをしたりしておおむね 3 歳児前半の人間関係の発達と様相について理解する	
	9 回目	おおむね 3 歳児後半の人間関係 ・おおむね 3 歳児前半の人間関係の発達と様相について調べてまとめる ・DVD「3 年間の保育記録 3 歳児編 後半 ②やりたい でも、できない」を視聴し、主題「やりたい でも、できない」の意味についてディスカッションしたりディベートをしたりしておおむね 3 歳児後半の人間関係の発達と様相について理解する	
	1 0 回目	おおむね 4 歳児の人間関係 ・おおむね 4 歳児の人間関係の発達と様相について調べてまとめる ・DVD「3 年間の保育記録 4 歳児編 ③先生とともに」を視聴し、主題「先生とともに」の意味についてディスカッションしたりディベートをしたりしておおむね 4 歳児の人間関係の発達と様相について理解する	
	1 1 回目	おおむね 5 歳児の人間関係 ・おおむね 5 歳児の人間関係の発達と様相について調べてまとめる ・DVD「3 年間の保育記録 5 歳児編 ④育ちあい 学びあう 生活のなかで」を視聴し、主題「育ちあい 学びあう 生活のなかで」の意味についてディスカッションしたりディベートをしたりしておおむね 5 歳児前半の人間関係の発達と様相について理解する	
	1 2 回目	子どもを取り巻く環境と人間関係	

	・地域社会と人間関係(地域社会の変化と教育力の低下、地域社会における子どもの生活と人間関係、地域社会における教育力の再生・向上)について理解する ・家庭と人間関係(家庭の変化と教育力の低下、家庭における子どもの生活と人間関係、家庭における教育力の再生・向上)について理解する ・幼稚園・保育所・認定こども園等と人間関係(園における子どもの生活と人間関係、現代の保育現場における保育の課題)について理解する 1 3 回目 保育者と子どもの「人間関係」 ・乳幼児の心理的安定の基盤としての保育者のかかわりについて事例を元に考え理解する ・幼児の仲間づくりと保育者のかかわりについて事例を元に考え理解する ・子どもの自立心と仲間との育ち合いについて事例を元に考え理解する 1 4 回目 「人間関係」でちょっと気になる子ども ・誰が、なぜ、気になるのか(保育の中で気になる子どもの姿と自分の子どもの見方にきづくということ)について事例を元に考え理解する ・子どもの育っていくプロセスにおける"特別な配慮"(集団のなかで育っている一人ひとりをどうとらえるか、"みんなと同じ"という価値観、なぜ、"特別"が必要なのか)について事例を元に考え理解する 1 5 回目 子育て支援にかかわる人間関係 ・子育て支援とは何か(乳幼児をめぐる家庭の人間関係の変化と地域子育て支援のはじまり、乳幼児の人間関係をはぐくむために)について事例を元に考え理解する ・人間関係の育ちを図る子育て支援(人間関係の育ちを図る地域子育て支援の実践、人間関係の育ちを図る子育て支援の担い手)について事例を元に考え理解する ・これからの子育て支援(支援から協働へ、情報化社会におけるこれからの子育て支援、子育て支援から子育て協働をめざして)について事例を元に考え理解する
到達目標	①子どもを取り巻く環境と領域「人間関係」との関係について理解する。 ②「保育所保育指針」「新幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に示されている領域「人間関係」について理解し、説明できる。 ③人間関係の発達の特徴を説明できる。 ④人間関係の発達に関する「遊び」や「生活」などの役割について説明できる。 ⑤保育実践の事例を通して子どもの人間関係について見取る視点を理解し、自分の考えを持つことができる。 ⑥子どもの人間関係を育てる保育者の関わり方について関心を持ち、環境設定や遊びを考慮した指導案を作成し、模擬保育に意欲的に取り組むことができる。 ⑦他者の意見を尊重し、保育内容や保育方法の理解のための議論が行える。 ⑧保育方法や保育技能を高めるための創意工夫ができる。
授業時間外の学習	①授業中に適時ノートを取り、ノートそのものが参考資料となるようにまとめておくこと。 ②授業中に配布した資料はファイルし、整理しておくこと。 ③「保育所保育指針解説書」「新幼稚園教育要領解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」を参照し、保育内容を確認し、指導案作成の際に活用できるようにしておくこと。 ④授業内で指定された参考文献や授業中に配布されたプリントなどは必ず読み、授業に生かす努力をすること。 ⑤グループワーク(指導案作成、教材づくり、発表、ディスカッション)等を行うので、自分なりのアイデア(思いつきでも良い)を持って授業に臨むこと。 ⑥公共の図書館などを利用し、授業に関連した書籍や情報を進んで調べること。 ⑦日頃から可能な限り、乳幼児と関わる体験を積み重ねる努力をしていくこと。
評価方法	①毎回の授業の理解度についての小レポート(20%) ②ディスカッション、指導案、教材づくり、ノート(20%) ③期末レポート(20%) ④学期末の筆記試験(40%) に基づき評価する。 遠隔授業へ変更した場合は、 ①毎回の授業の理解度についての小レポート(60%) ②ディスカッション、プレゼンテーション、まとめ(20%) ③期末レポート(20%) に基づいて評価する。
テキスト	厚生労働省 「保育所保育指針解説書」 フレーベル館 2018年 ISBN-10 : 4577812428 ISBN-13 : 978-4577812426 文部科学省 「新幼稚園教育要領解説」 フレーベル館 2018年 ISBN-10 : 4577814471 ISBN-13 : 978-4577814475 内閣府・文部科学省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」 フレーベル館 2018年 ISBN-10 : 4577814498 ISBN-13 : 978-4577814499
参考書	授業の中で指示する。 GoogleClassroomで資料を公開し、事前・事後の学習に生かせるようにする。
備考	公立学校15年間、附属小学校での社会科教育実戦経験25年間。全国発表会での授業公開50回以上。小学校社会科教科書執筆12年間。海外教育使節団での社会科指導歴10年間の経験を持ち、学習指導要領の改訂に影響を与えた実践を積んできた実績を生かした授業を行う。

講義科目名称： 環境指導法

授業コード： 121007

英文科目名称： Teaching Methods of Environment

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	2 年次	1 単位	必修
担当教員			
森田和良 講師			
添付ファイル			

授業の概要	乳幼児の心身の発達を踏まえながら適時、適切な素材と環境（場）を意図的・計画的に提供することによって、乳幼児の経験を広めていくことが大切である。そのために保育者はどうあればよいかを追究していく。乳幼児が周囲の環境に関わることは情動的経験と深く結びついている。探究活動やいたずら、遊びといった子どもが自発的に行う活動では、自分の興味に沿って自由に関わる楽しさや未知のものに驚いたり、美しいものに感動したりという心を揺さぶられる体験を伴う。このような豊かな体験を学生自身も実体験できるような講義を設定し、子どもの心身の発達が子どもの周囲の環境と深く関わることや、その環境を保育者が支えることの重要性を明らかにするとともに、適切な環境を設定するための指導法について学ぶ。なお、学習成果の指標は②と③である。本授業は、対面授業を中心に実施するが、遠隔授業になった場合は、課題型学修（「Google Classroom」を利用）とオンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）とを組み合わせる実施する。
授業計画	1 回目 ガイダンス（幼稚園教育要領と保育所保育指針の比較，幼児と自然環境） 2 回目 春の野外観察とその指導方法 3 回目 紙を使った工作遊び（折り紙でつぼう，ブーメランなど）とその指導方法 4 回目 伝承遊び（こま・あやとり）とその指導方法 5 回目 ネイチャークラフトづくり（自然物を使った工作遊び）とその指導方法 6 回目 生き物（虫など）の世話とその指導方法 7 回目 空気砲づくりとその指導方法 8 回目 シャボン玉遊びとその指導方法 9 回目 どろだんごづくりとその指導方法 1 0 回目 工作遊び（割り箸でつぼう）とその指導方法 1 1 回目 五感遊び【味覚】（野菜クイズ，水のソムリエ）とその指導方法 1 2 回目 教材研究 図形遊び（タングラム）などを活用した保育例を学ぶ 1 3 回目 指導案づくり 科学遊び（ぶんぶんごま・ベンハムのこま）を活用した保育例を学ぶ 1 4 回目 模擬保育 学生による模擬保育，協議を行う 1 5 回目 振り返り 模擬授業の振り返りを行う。伝承遊び（けん玉）を活用した保育例を学ぶ
到達目標	・本講義を学ぶことによって乳幼児の心身の発達を踏まえた指導ができる。また、適切な素材と環境（場）を意図的・計画的に提供していくために保育者はどうあればよいか理解できる。 ・幼稚園教育要領の趣旨に基づいて、適切な環境について説明することができる。 ・環境で扱う具体的な活動を仲間とともに体験する活動を通して、協働意識，参加意識を身につける。
授業時間外の学習	授業内容に合わせて「幼稚園教育要領」に目を通し、重要な語句や内容については下調べをしておく。授業後は習った内容をよく整理し習熟を図るとともに、幼児に指導する際のポイントをまとめておく。
評価方法	毎時間のまとめ記録（30％），学習への参加意欲（30％），期末レポート（40％）などに基つき評価する。 遠隔授業に変更した場合には、提出する講義レポートのうち、「活動の記録」（30％）と「振り返りコメント」（30％）を評価対象とし、期末レポート（40％）には変更はない。
テキスト	講義・製作ごとに資料を配付する。『幼稚園教育要領解説』（文部科学省）
参考書	・『工作図鑑』（福音館書店） ・『遊び図鑑』（福音館書店） ・『五感力は生きる力』（鈴木出版）など

備考	
----	--

講義科目名称： 言葉指導法

授業コード： 255005

英文科目名称： Teaching Methods of Language

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	2 年次	1 単位	必修
担当教員			
阿久津清美 講師			
添付ファイル			

授業の概要	①子どもがどのように言葉を獲得し発達させていくか、言葉の力を養うとはどういうことか、言葉の問題をどう考えるか等の課題を通して子どもが楽しさや喜びを感じながら言葉を獲得できるように、保育者としての必要な力を養う。 ②子どもの発達段階を踏まえて幼児がどのようにして言葉を獲得していくか、系統立てて考え、その特徴を捉える。 ③さまざまなことば遊びを通して、子どもの言葉の力を養う活動について習得する。 なお、学習成果の指標はB-②である。 遠隔授業を実施する場合は、①課題型学修(「GoogleClassroom」を利用)と③オンデマンド学修(「GoogleClassroom」を利用)とを組み合わせる。
授業計画	1 回目 ガイダンス 2 回目 幼稚園要領・保育指針の理解（言葉の領域） 3 回目 前言語期のコミュニケーションと保育 4 回目 乳幼児の言葉の発達（0歳から就学前） 5 回目 言葉の指導(言葉遊び...しりとり遊び、なぞなぞ遊び) 6 回目 言葉の指導(言葉遊び...回文、連想ゲーム) 7 回目 言葉の指導(絵本を使った指導) オノマトペ、まねっこ遊び 8 回目 言葉の指導(絵本の読み聞かせの発表) 9 回目 ゲストティーチャーによる「幼児の言葉の発達」のお話 10 回目 劇や物語(パネルシアター・エプロンシアター) 11 回目 言葉の指導(ごっこ遊び・ジェスチャー) 12 回目 言葉の指導（ストーリーテリング） 13 回目 言葉の指導（紙芝居作り） 14 回目 言葉の指導(紙芝居の発表) 15 回目 まとめ
到達目標	言葉の領域における様々な活動を通して、子どもの言語の獲得の過程において保育者の援助や働きかけをどのようにすればよいか具体的に知り実践することができる。
授業時間外の学習	授業内に終わらなかった作品作りが課題になることがある。
評価方法	授業への参加意欲・態度、提出物（60％）、授業内発表（40％）で評価する。
テキスト	文部科学省『幼稚園教育要領解説』平成30年 3月 厚生労働省『保育所保育指針解説』平成30年 3月
参考書	授業の中で紹介する。 随時プリントを配布する。
備考	

講義科目名称： 表現Ⅰ（造形）指導法

授業コード： 131006

英文科目名称： Teaching Methods of Expression 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	2 年次	1 単位	必修
担当教員			
名取初穂 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	1. 知識及び技能の基礎 乳児から幼児・児童に至るまでの子どもの表現の発達課程について知識を深め、基礎的な表現技能を身に付ける。 2. 思考力・判断力・表現力等の基礎 幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領を踏まえた保育の造形表現を理解する。 3. 学びに向かう力・人間性等 五感を働かせて表現を楽しむ。また、部分実習指導案を作成し模擬授業をイメージしながら指導案の書き方を体験的に学ぶ。各課題に取り組む中で、保育・教育現場で活用できる実践力を身に付ける。 なお、学習成果の指標は B-②である。 ◆遠隔授業授業実施が必要な環境が生じた場合には【オンデマンド（配信型）】を併用して学修する。
授業計画	1 回目 オリエンテーション 2 回目 領域「表現」のねらいと内容 3 回目 子どもの発達と表現 4 回目 新聞紙の可能性 5 回目 紙コップの造形遊び 6 回目 カラーユニバーサル 7 回目 アールブリュット ―多様な表現の現場を知る 8 回目 片栗粉粘土と指導案 9 回目 木工のおさらい 1 0 回目 版表現 基礎知識 1 1 回目 版表現 応用 1 2 回目 立体表現 1 3 回目 表現の可能性 ―素材の開拓 1 4 回目 表現の可能性 ―自由研究 1 5 回目 まとめと振り返り
到達目標	1. 子どもの表現の発達課程について理解している。また、基礎的な表現技能が身に付いている。 2. 幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領を踏まえた保育の造形表現をイメージできる。 3. 五感を働かせて表現を楽しんでいる。各課題に取り組む中で、保育・教育現場で活用できる実践力を身に付けている。
授業時間外の学習	1. 幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領の領域「表現」について、日常的に読み込み、理解を深める。 2. 身の周りの素材収集に努め、その応用をイメージする。 3. 多様な保育現場への関心を持ち、そこでの造形表現について調べたりすることで自身の経験値を広げる。
評価方法	関心・意欲・態度（40％）、ワークシート等（20％）、課題への取り組み（40％）により評価する。 ◆遠隔授業を実施した際の評価方法は、考察（40％）、課題への取り組み（60％）とする。

テキスト	テキストを使用せず
参考書	北沢昌代・畠山智宏・中村光絵 著 / 『子どもの造形表現 ワークシートで学ぶ』 / 開成出版 / 2018年版
備考	道具箱「七つ道具」を使用する。 ※「七つ道具」の内容例：はさみ、のり、セロハンテープ、木工用ボンド、定規、カッター・カッター版、ホチキス、クレヨン、色鉛筆、マーカー等

講義科目名称： 表現Ⅱ(音楽)指導法

授業コード： 222009

英文科目名称： Teaching Methods of Expression 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	1 単位	必修
担当教員			
阿久津清美 講師			
添付ファイル			

授業の概要	幼児の音楽活動を通して、音楽教育の意義と音楽活動の実践を考えていく。子どもが遊びの中で様々な体験をし、自ら成長していくことを考えれば、幼児の音楽教育も遊びの意義を考えながら創造的な活動になるのが望ましい。保育者が豊かな感性を磨き豊かな自己表現力がつくように理論と実技を習得する。 なお、学習成果の指標はB-②である。 遠隔授業を実施する場合は、①課題型学修(「GoogleClassroom」を利用)と②同時・双方向型学修(「GoogleMeet」を利用)とを組み合わせる。
授業計画	1 回目 オリエンテーション 2 回目 乳幼児教育における音楽的表現の指導について (保育所保育指針、幼稚園教育要領をふまえて) 3 回目 歌う表現活動①(歌唱、手遊び) 4 回目 子どもの身体表現 (音楽に合わせて身体を動かす) 5 回目 様々な打楽器の知識と活用 6 回目 身体から生まれるリズム (ボディーパーカッション) 7 回目 ゲストティーチャーによる音楽を使った絵本の読み聞かせ 8 回目 音楽を使った絵本の読み聞かせの実践 (指導計画を立案する) グループワーク 9 回目 音楽を使った絵本の読み聞かせの実践 (作品を発表する) グループワーク 1 0 回目 歌う表現活動② (合唱、カノン) 1 1 回目 リトミックによる表現活動①(物語の中で様々な表現活動「魔女たちの朝ごはん」) 1 2 回目 リトミックによる表現活動②(物語の中で様々な表現活動「りすのぼうしやさん」) 1 3 回目 音楽遊び集会の企画 (立案と計画の作成) グループワーク 1 4 回目 音楽遊び集会の発表 グループワーク 1 5 回目 総まとめ・復習
到達目標	①幼児の音楽活動を通して、音楽表現に関する基礎的な知識と技能の多面的な習得を目指すことができる。 ②年齢に応じた歌唱、手遊び、音楽遊びなどの実技を習得し、保育者としての実践力を身につけることができる。
授業時間外の学習	子どもの様々な遊び(集団伝承遊び等)について調べ、授業の中で共有できるようにする。
評価方法	平常点：100% 遠隔授業に変更した場合も評価方法に変更はない
テキスト	全国大学音楽教育学会 編著『日本の子どもの歌』音楽之友社、2013年 阿部恵 編著『たのしい手あそびうた』ナツメ社、2008年 駒久美子・味府美香 編著『コンパス音楽表現』建帛社、2020年 その他必要に応じて資料配布します。
参考書	『幼稚園教育要領』文部科学省 その他、授業の中で紹介する。
備考	

講義科目名称： 子ども家庭福祉

授業コード： 255004

英文科目名称： Child and Family Welfare

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	2 単位	必修
担当教員			
野城 尚代 講師			
添付ファイル			

授業の概要	子ども家庭福祉の意義及び歴史的展開、法制度、サービスの現状等児童福祉全般についての理解を深める。子ども家庭福祉は社会福祉の一分野であること、現代の子ども家庭福祉は多くの先覚者の実践のうえに成り立っていることを学ぶ。そのうえで、保育士は福祉の専門職であることを理解する。子ども家庭福祉に関する話題を適宜取り入れていくことにより、現状を多面的にとらえる。なお、学習成果の指標はB－②である。 本授業は、対面授業を中心に実施するが、遠隔授業を実施する場合は、①課題型学修（「GoogleClassroom」を利用）と②同時・双方向型学修（「GoogleMeet」を利用）とを組み合わせる。		
授業計画	1 回目 子ども家庭福祉の理念と概念 2 回目 子ども家庭福祉の歴史的変遷と諸外国の動向 3 回目 子どもの人権擁護 4 回目 子ども家庭福祉の制度と実施体制 5 回目 子ども家庭福祉の施設と専門職 6 回目 少子化と地域子育て支援 7 回目 母子保健と子どもの健全育成 8 回目 多様な保育ニーズへの対応 9 回目 子ども虐待・ドメスティックバイオレンスとその防止 1 0 回目 貧困家庭、外国籍の子どもとその家庭への対応 1 1 回目 社会的養護 1 2 回目 障害のある子どもへの対応 1 3 回目 少年非行等への対応 1 4 回目 次世代育成支援と子ども家庭福祉の推進 1 5 回目 地域における連携協力とネットワーク		
到達目標	様々な場面で問われている「児童の最善の利益」「子どもの人権」について説明できる。少子・高齢社会における子どもと家庭への影響とその対策について説明できる。児童虐待やDV、子どもの貧困などの実態と課題について理解する。		
授業時間外の学習	(1) 講義予定の項目に該当する箇所をテキストで予習し、疑問点をまとめておく。 (2) 新聞等から、子ども家庭福祉に関連する記事を読んで把握する。		
評価方法	授業時の小レポートと課題を50%、期末試験（または期末レポート）を50%とする。		
テキスト	(新・基本保育シリーズ3) 児童育成協会監修／新保幸男、小林理編集『子ども家庭福祉〔第2版〕』中央法規、2023年1月。		
参考書	全国保育士養成協議会監修／宮島清、山縣文治編集『ひと目でわかる 保育者のための子ども家庭福祉データブック2023』中央法規、2022年12月。		
備考			

講義科目名称： 社会福祉

授業コード： 142009

英文科目名称： Social Welfare

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	1 年次	2 単位	必修
担当教員			
仲田郁子 教授			
添付ファイル			

授業の概要	現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷、社会福祉と児童福祉との関連性について理解する。また、社会福祉の制度や実施体系について理解し、社会福祉の動向と課題を知る。 学習成果の指標はB-②である。 本授業は、対面授業を中心に実施するが、遠隔授業となった場合は①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と②同時・双方向型学修（「Google Meet」を利用）を組み合わせる。		
授業計画	1 回目 ガイダンス、社会福祉とは 2 回目 人の一生と社会福祉 3 回目 社会福祉の歴史の変遷 4 回目 子ども家庭支援と社会福祉 5 回目 社会福祉を支える法律と財政 6 回目 社会保険と私たちの生活 7 回目 社会福祉の専門職・実践者 8 回目 社会福祉における利用者の保護にかかわる仕組み 9 回目 社会保障と関連制度 10 回目 相談援助の理論、意義、機能、対象 11 回目 相談援助の過程、方法、技術 12 回目 少子高齢社会における子育て支援 13 回目 共生社会の実現と障がい者施設 14 回目 他分野との連携とネットワーク 15 回目 ふりかえりとまとめ		
到達目標	現代社会における様々な問題と多様化した社会福祉へのニーズについて知り、社会福祉の意義・理念や制度・実施体系の現状を理解することができる。また、社会福祉の一つとして保育が行われる意義について考えることができる。		
授業時間外の学習	年金や医療保険、介護保険等の社会保険制度、社会福祉の財源としての税に関する情報は、連日のように新聞やニュース等で報道されている。本科目の受講を機に、それらの情報に関心を持ち、報道内容を吟味できるようになり、新たな国の決定が、現実の保育の世界にどのように影響を与えるのか、自分なりに考えてみることを期待する。また、本科目は、専門用語が多いため、授業後に講義内容の復習をすること。		
評価方法	授業への参加意欲（20%）、レポート（30%）、小テスト（50%）の結果をもとに評価する。 遠隔授業に変更した場合も評価方法に変更はない。		
テキスト	吉田真理『生活事例からはじめる新版社会福祉』（青鞥社、2019）		
参考書			
備考	授業の展開により、授業の内容・順番が一部変更される可能性がある。		

講義科目名称： 子ども家庭支援論

授業コード： 122008

英文科目名称： Family Support

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	1 年次	2 単位	必修
担当教員			
仲田郁子 教授			
添付ファイル			

授業の概要	現代社会における多様な家族のあり方を知り、家庭の機能や家族の歴史的な変化について学ぶことを通して、子育て家庭を支援する意義を理解する。また、子育て家庭の支援体制の現状と期待される保育者の役割について知る。 学習成果の指標はB－②である。 本授業は、対面授業を中心に実施するが、遠隔授業となった場合は①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と②同時・双方向型学修（「Google Meet」を利用）を組み合わせる。	
授業計画	1 回目	ガイダンス、子ども家庭支援の意義と必要性
	2 回目	子ども家庭支援の目標と機能
	3 回目	子ども家庭支援における保育士の役割
	4 回目	保育士に求められる基本的態度
	5 回目	保育の特性と保育士の専門性を生かした子ども家庭支援
	6 回目	保護者との相互理解と信頼関係の形成
	7 回目	家庭の状況に応じた支援
	8 回目	地域の資源の活用と関係諸機関との連携・協力
	9 回目	子育て家庭の福祉を図るための社会資源
	1 0 回目	子育て支援施策・次世代育成支援策の推進
	1 1 回目	子ども家庭支援の内容と対象
	1 2 回目	保育所等利用児童の家庭への支援
	1 3 回目	地域の子育て家庭への支援
	1 4 回目	要保護児童およびその家庭に対する支援
	1 5 回目	子ども家庭支援の現状と課題、まとめ
到達目標	子育て家庭を取り巻く社会的状況の歴史的な変化を知り、子どもの人権擁護について理解すると共に、現代において子育て家庭を支援する意義や支援体制の現状について理解することができる。	
授業時間外の学習	日本の家族の現状について、新聞やニュース、自分の住む自治体のHP等で情報収集をするとともに、日常的に地域で出会う様々な年代の方々の生活の様子に気を配り、子育て家庭を支援する上で必要となる生活感覚を養うこと。休日や放課後には、できるだけ地域の子育て家庭が集まりそうな場（公園、図書館、スーパー等）に出かけ、定期的に子育て家庭の様子を観察することが望ましい。	
評価方法	授業への参加意欲（20％）、課題レポート（30％）、期末レポート（50％）の結果をもとに評価する。 遠隔授業に変更した場合も評価方法に変更はない。	
テキスト	松村和子編著『子ども家庭支援論』（建帛社、2021）	
参考書		
備考	授業の展開により、授業の内容・順番が一部変更される可能性がある。	

講義科目名称： 社会的養護 I

授業コード： 214009

英文科目名称： Social Protective Care 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	2 単位	必修
担当教員			
熊倉志乃 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	我が国の児童養護の歴史、海外における児童養護の歴史、児童養護の概念、児童福祉施設の目的や意義について学ぶ。 児童福祉法、児童憲章「子どもの権利条約」を通して、養育・保育・ケアなどの社会的養護の概念・児童養護について詳しく学ぶ。 現代社会の養護問題については個々の考えを深められるようグループ討議を行う。 なお、学習成果の指標は、B-②である。 遠隔授業を実施する場合には②同時・双方向型学修（「GoogleMeet」を利用）と③オンデマンド型学修を組み合わせる。
授業計画	1 回目 社会的養護の理念と概念 2 回目 社会的養護の歴史的変遷 3 回目 社会的養護の子どもの人権擁護と社会的養護 4 回目 社会的養護の基本原則 5 回目 社会的養護に於ける保育士等の倫理と責務 6 回目 社会的養護の制度と法体系 7 回目 社会的養護のしくみと実施体系 8 回目 社会的養護とファミリーソーシャルワーク 9 回目 社会的養護の対象と支援のあり方 1 0 回目 家庭養護と施設養護 1 1 回目 社会的養護にかかわる専門職 1 2 回目 社会的養護に関する社会的状況 1 3 回目 施設等の運営管理の現状と課題 1 4 回目 被措置児童等の虐待防止の現状と課題 1 5 回目 社会的養護と地域福祉の現状の課題・まとめ
到達目標	社会的養護の概念、児童福祉施設の目的や意義の学びを通して、職員としての役割を理解することができる。 児童養護の仕組み、児童福祉法、「子どもの権利条約」について基本的事項を理解することができる。 児童養護にかかわる専門職としての資質を高めることができる。
授業時間外の学習	事前に講義予定の内容を予習し、疑問点を確認しておく。 ネグレクト・虐待に関する新聞記事に関心をもち、自分の考えをまとめ提出する。
評価方法	授業への参加意欲・態度（20%）、課題提出（30%）、定期試験（50%）等総合的に評価する。 遠隔授業に変更した場合及び定期試験を実施しない場合については、授業への参加意欲・態度（30%）、課題提出（70%）で評価する。
テキスト	相澤仁・林浩康編集『社会的養護 I』（中央法規出版, 2019年）
参考書	『児童福祉小六法』 中央法規出版(株) ※必携ではない
備考	必要に応じ資料を配付する。

講義科目名称： 保育者論

授業コード： 141006

英文科目名称： Theory of Nursery School and Kindergarten Teacher

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	1 年次	2 単位	必修
担当教員			
出井芳江 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	遵守すべき条文を確認しながら、保育者とは何かを考えていく。子どもの最善の利益を保障し、一人一人の多様な育ちと生活に介入していくために必要な専門性の理解を深める。保育者としての自覚や自身の価値を育み、社会人としての心構えや大人としてのマナーを根底に、保育者の役割、職務、人間性、専門性を理解し、保育者になるための学びと保育者になることへの自覚を深める。コミュニケーション能力・自発性・協同性などの保育の営みにおける保育者の役割について学び、さらには、様々な人の意見を聞くことで、保育観構築の基礎を作っていく。 なお、学習成果の指標はB-②、③である。 本授業は、対面授業を中心に実施するが、遠隔授業になった場合は、課題型学修（「Google Classroom」を利用）と同時・双方向型学修（「Google Meet」を利用）とを組み合わせる。		
授業計画	1 回目 オリエンテーション【授業の進め方・授業の必要性 等】 2 回目 保育者とは （１）保育とは・保育者とは何か 3 回目 保育者とは （２）「理想の保育と保育者像」 4 回目 保育者の職務 （１）幼稚園における保育者の役割 5 回目 保育者の職務 （２）保育所における保育者の役割 6 回目 保育者の職務 （３）その他の児童福祉施設における保育者の役割 7 回目 保育者の職務 （４）地域社会における保育者の役割 8 回目 保育者に求められる人間性とは 【倫理観】 9 回目 保育者に求められる専門性とは （１）子ども理解 1 0 回目 保育者に求められる専門性とは （２）遊びの重要性 1 1 回目 保育者に求められる専門性とは （３）保育者集団の協働 1 2 回目 保育者の体験談から保育者になる意味を問い直す 1 3 回目 保育者のメンタルヘルス 1 4 回目 保育者としての専門性の向上とキャリア形成 1 5 回目 これからの保育者のあり方を考える		
到達目標	保育者としてあるべき姿を学び、保育観の基盤を形成することができる。		
授業時間外の学習	日常生活の中で見かけた親子や子どもの姿を観察したり、保育に関する国の動向や保育事故、虐待等の報道に関心を深めたりする。 適宜、指示されたレポート等を提出する。		
評価方法	授業後のレポート及び課題レポート：70%、授業への参加意欲・態度：30%に基づき総合的に評価する。 遠隔授業になった場合も、評価方法に変更はない。		
テキスト	教科書を使用せず、必要に応じて資料等を配付する。		
参考書	適宜、授業内で紹介する。		
備考	諸般の事情により、授業計画が変更になる場合もある。		

講義科目名称： 保育の心理学

授業コード： 112008

英文科目名称： Psychology of Childcare

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	2 年次	2 単位	必修
担当教員			
熊倉志乃 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	講義を通して保育実践にかかわる発達理論等の心理学的知識を学ぶ。さらに実証的研究で明らかにされてきた子どもの発達過程を、社会情動的発達、身体的機能と運動機能の発達、認知の発達の視点から深く理解する。なお、学習成果の指標は、B-②である。遠隔授業を実施する場合には②同時・双方向型学修（「GoogleMeet」を利用）と③オンデマンド型学修を組み合わせて実施する。		
授業計画	1 回目 子どもの発達の理解とその意義 2 回目 子どもの発達と環境 3 回目 発達観、子ども観と保育観 4 回目 保育実践の評価 5 回目 社会情動的発達①自己と感情 6 回目 社会情動的発達②他者理解 7 回目 社会情動的発達③他者とのかかわり 8 回目 身体的機能と運動機能の発達 9 回目 認知の発達①認識の基礎 1 0 回目 認知の発達②数と形 1 1 回目 認知の発達③言葉と文字 1 2 回目 乳幼児期の学びにかかわる理論 1 3 回目 乳幼児期の学びの過程と特性①認知的学び 1 4 回目 乳幼児期の学びの過程と特性②社会情動的学び 1 5 回目 乳幼児期の学びを支える保育		
到達目標	発達理論等の心理学的知識を習得し、子どもの発達という視点から保育実践について理解を深めることができる。		
授業時間外の学習	授業で学んだ基本的な項目や解説について、テキストや資料を活用し各自復習する。		
評価方法	授業への参加意欲・態度（30%）、課題提出（70%）等総合的に評価する。遠隔授業に変更した場合も、評価方法に変更はない。		
テキスト	松本峰雄監修 大野雄子・小池庸生・小林玄・前川洋子著『保育の心理学演習ブック [第2版]』（ミネルヴァ書房, 2021年）		
参考書	授業内で紹介する。		
備考			

講義科目名称： 子ども家庭支援の心理学

授業コード： 243009

英文科目名称： Psychology of Family Support for Children

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	2 年次	2 単位	必修
担当教員			
仲田郁子 教授			
添付ファイル			

授業の概要	人の発達過程を知ることを通して生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得すると同時に、現代社会における家族・家庭の意義や機能を理解し、さらに子どもの心身の健康と保健について理解を深める。また、共感的保護者理解の基本を身につけるため、日常的に地域の保護者を観察し（子育てウォッチング）、事例報告を行う。 学習成果の指標はB－②である。 本授業は、対面授業を中心に実施するが、遠隔授業となった場合は①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と②同時・双方向型学修（「Google Meet」を利用）を組み合わせる。		
授業計画	1 回目	ガイダンス、乳幼児期から学童期にかけての発達の特徴	
	2 回目	思春期から青年期の発達の特徴	
	3 回目	成人期から高齢期の発達の特徴	
	4 回目	家族システムと家族発達	
	5 回目	親としての養育スタイルの形成過程と世代間伝達	
	6 回目	子育て環境の社会状況的变化	
	7 回目	ライフコースとワークライフバランス	
	8 回目	多様な子育て家庭への支援	
	9 回目	特別な配慮を必要とする家庭への支援	
	1 0 回目	子どもを取り巻く生活環境と心身の健康	
	1 1 回目	「子育てウォッチング」 報告会	
	1 2 回目	子どもの心と健康	
	1 3 回目	障害のある子どもの理解と対応	
	1 4 回目	災害と子ども	
	1 5 回目	ふりかえりとまとめ	
到達目標	乳幼児期から老齢期までの人の発達過程を知り、生涯発達に関する基礎的な知識を習得する。現代社会における家族・家庭の意義や機能を理解し、子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題を考える。子どもの心身の健康について理解を深め、子どもの生活環境と子育て支援について考えることができる。		
授業時間外の学習	日常的に地域の保護者の姿を観察し（子育てウォッチング）、事例としてまとめること（3例以上が望ましい）。授業内で発表したのち、レポートを作成する。		
評価方法	授業への参加意欲・態度50%、期末レポート50%の結果を元に評価する。		
	遠隔授業に変更した場合も評価方法に変更はない。		
テキスト	本郷一夫・神谷哲司編著『子ども家庭支援の心理学』（建帛社、2019）		
参考書			
備考	授業の展開により、授業の内容・順番が一部変更される可能性がある。		

講義科目名称： 子どもの理解と援助

授業コード： 232012

英文科目名称： Understanding of and Support for children

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	2 年次	1 単位	必修
担当教員			
熊倉志乃 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	一人一人の子どもの実態を理解することは、個の発達に合わせた支援を行う上で重要である。本講義では、子どもの体験や学びの過程において子どもを理解する上での基本的な考え方を学ぶ。既習の「保育の心理学」の内容をさらに発展させ、子どもの発達や学びに関する心理学の知見を単なる知識にとどめず、保育者が実践に即して使いこなすことができるよう、具体的な支援方法を考える演習を適宜行う。 なお、学習成果の指標は、B-②である。 遠隔授業を実施する場合には②同時・双方向型学修（「GoogleMeet」を利用）と③オンデマンド型学修を組み合わせ実施する。		
授業計画	1 回目 保育における子どもの理解の意義 2 回目 子どもに対するかかわりと共感的理解 3 回目 子どもの生活と遊び 4 回目 保育の人的環境としての保育者と子どもの発達 5 回目 子ども相互のかかわりと関係づくり 6 回目 集団における経験と子どもの育ち 7 回目 発達における葛藤とつまずき 8 回目 保育の環境の理解と構成 9 回目 環境の変化や移行 1 0 回目 子ども理解のための観察・記録と省察・評価 1 1 回目 子ども理解のための職員間の対話 1 2 回目 子ども理解のための保護者との情報共有 1 3 回目 発達の課題に応じた援助とかかわり 1 4 回目 特別な配慮を必要とする子どもの理解と援助 1 5 回目 発達の連続性と就学への支援		
到達目標	個々の実態に応じた子どもの心身の発達や学びを把握することの意義について理解することができる。 体験や学びの過程の中から子どもを理解するための具体的な方法について理解することができる。 子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解することができる。		
授業時間外の学習	事前にテキストを読み、授業の概要を把握し、疑問点を整理してから授業に臨む。 授業で得た視点を保育、教育実習での実践、日誌への記述等に生かす。		
評価方法	授業への参加意欲・態度（30%）、課題提出（70%）等総合的に評価する。遠隔授業に変更した場合も評価方法に変更はない。		
テキスト	松本峰雄監修 伊藤雄一郎・小山朝子・佐藤信雄・澁谷美枝子・増南太志・村松良太著『子どもの理解と援助演習ブック』（ミネルヴァ書房, 2021）		
参考書			
備考			

講義科目名称： 子どもの保健

授業コード： 132011

英文科目名称： Children's Health

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	2 年次	2 単位	必修
担当教員			
村井佐代子 教授			
添付ファイル			

授業の概要	子どもの心身の発育発達機能について学び、心身の健康や保健の意義について理解する。また、子どもに多い疾病と特徴について学び、その予防や適切な対応についての基礎知識や保健指導について学ぶ。 なお、学習成果の指標はB-②である。 遠隔授業を実施する場合は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）とを組み合わせる。		
授業計画	1 回目 保健活動の意義と目的 2 回目 健康の概念と健康指標 3 回目 現代社会における子どもの健康に関する現状と課題 4 回目 地域における保健活動と児童虐待防止 5 回目 身体発育と保健 6 回目 運動機能の発達と保健 7 回目 生理的機能の発達と保健 8 回目 健康状態の観察 9 回目 体調不良等の早期発見 1 0 回目 発育・発達の把握と健康診断 1 1 回目 保護者との情報共有 1 2 回目 子どもの疾病の特徴 1 3 回目 疾病の予防と適切な対応（感染症・アレルギー疾患） 1 4 回目 疾病の予防と適切な対応（口と歯の健康・先天性疾患） 1 5 回目 疾病の予防と適切な対応（その他の疾病）		
到達目標	子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。子どもの身体的な発達と保健について理解する。子どもの心身の健康状態と把握の方法について理解する。子どもの疾病とその予防法及び多職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。		
授業時間外の学習	実習時だけではなく、身近な子どもに目を向け、発育・発達の特徴を捉えておく。		
評価方法	「平常点（小テスト等を含む）」(100%)で評価する。 遠隔授業に変更した場合も、評価方法に変更はない。		
テキスト	『子どもの保健』 遠藤郁夫・三宅捷太 編集 ・学建書院		
参考書	『学校の感染症対策』 岡田晴恵 ・東山書房		
備考	適時資料（データ）を配付する。		

講義科目名称： 子どもの食と栄養Ⅰ

授業コード： 123013

英文科目名称： Children's Food and Nutrition 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	2 年次	1 単位	必修
担当教員			
張替泰子 講師			
添付ファイル			

授業の概要	食えることは、ヒトの健康を維持・増進させ、子どもにおいては発育・発達の礎となる。本授業では、子どもの心身の著しい成長を的確に捉え、乳汁から離乳食、幼児食へと導いていくために必要な小児栄養の基礎知識を学ぶ。特に乳児期・幼児期に重点をおくが、生涯を見通した健康・栄養・食生活に関する知識も併せて学ぶ。また、青年期を生きる自己の食事の記録・評価・改善案の検討を行い、食と栄養への意識を高める。なお、学習成果の指標はB-①と②である。 授業の形式は、テキストの内容をベースに、テキストの内容で補いきれない部分については、配布資料等を用いて進める。適宜、演習を取り入れる。 遠隔授業をする場合は①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と②同時・双方向型学修（「Google Meet」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）を組み合わせる。		
授業計画	1 回目 オリエンテーション（小児の栄養と食生活の意義）小児の発育・発達と栄養 2 回目 栄養に関する基礎知識（1）栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能、「日本人の食事摂取基準」 3 回目 栄養に関する基礎知識（2）自己の食生活の振り返り〔演習①〕食事バランスガイド、食品構成、献立作成 4 回目 乳児期の食生活（1）乳汁栄養〔演習②実習含む〕調乳 5 回目 乳児期の食生活（2）離乳の意義と進め方〔演習③実習含む〕離乳の開始 お粥の作り方 6 回目 乳児期の食生活（3）離乳の意義と進め方〔演習④実習含む〕和食の基本である「だし」 7 回目 乳児期の食生活（4）離乳食・幼児食の実情および問題解決①「課題」 8 回目 乳児期の食生活（5）離乳食・幼児食の実情および問題解決② まとめ 9 回目 幼児期の食生活（1）〔演習⑤実習含む〕鉄分を補う工夫、手づかみ食べの重要性 10 回目 幼児期の食生活（2）食機能の発達と成長、栄養・食生活〔演習⑥〕3・1・2弁当箱法 11 回目 幼児期の食生活（3）子どもが楽しく食べるために〔演習⑦〕好き・嫌いの対応 献立作成 12 回目 幼児期の食生活（4）子どもが楽しく食べるために〔演習⑧実習含む〕献立の実践 「食事づくり、準備にかかわる子ども」を育む食事のあり方 13 回目 学童期・思春期の食生活 身体的特徴、食生活上の問題、学校給食 14 回目 生涯発達と食生活 妊娠期の食事 〔演習⑨実習含む〕 15 回目 まとめと振り返り		
到達目標	1. 子どもの健康な生活の基本として、食生活の意義や栄養に関する基本的知識を習得する。 2. 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解する。		
授業時間外の学習	予習：テキストの該当部分を読み、不明な点や疑問に思う点を明らかにしておく。演習課題のための準備をする。 復習：テキストを再読し、学修内容の定着を図る。		
評価方法	テスト（50%）演習レポート（30%）平常点（20%）、遠隔授業に変更した場合も評価方法に変更はない。		
テキスト	上田玲子編著『子どもの食生活《第6版》』（ななみ書房、2022年）		
参考書	授業の中で紹介する。		
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	2 年次	1 単位	必修
担当教員			
小川聖子 講師			
添付ファイル			

授業の概要	「子どもの食と栄養Ⅰ」で学んだ小児栄養の基礎知識を実践に結びつけるため、前半は食育の基本とその内容、特別な配慮を要する子どもの食事、家庭や児童福祉施設における食生活について学びを深める。後半は、身近な対象者（ひとり暮らしの大学生）を想定したレシピ集を作成し、子どもの食事に応用するための方策を検討する。後半はグループ演習である。 なお、学習成果の指標はB-②と③である。 授業の形式は、テキストの内容をベースに、テキストの内容で補いきれない部分については、配布資料等を用いて進める。適宜、演習を取り入れる。 遠隔授業をする場合は①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と②同時・双方向型学修（「Google Meet」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）を組み合わせる。		
授業計画	1回目 特別な配慮を要する子どもの食と栄養（疾病及び体調不良の子どもへの対応） 2回目 特別な配慮を要する子どもの食と栄養（体調不良の子どもへの対応）〔演習①〕 3回目 特別な配慮を要する子どもの食と栄養（食物アレルギーのある子どもへの対応、障がいをもつ小児の食生活） 4回目 特別な配慮を要する子どもの食と栄養（食物アレルギーのある子どもへの対応）〔演習②〕 5回目 家庭や児童福祉施設における食生活（児童福祉施設と家庭の連携、給食の基本方針） 6回目 家庭や児童福祉施設における食生活（児童福祉施設における実際の食生活と望まれる保育者の対応） 7回目 食育（保育所における食育の意義・目的・基本的考え方・内容・計画・評価） 8回目 食育（食育のための環境、地域の関係機関や職員間の連携、保護者への支援） 9回目 食育（食育計画の作成）〔演習③〕 10回目 実践編～レシピ集作り①（グループ分け、テーマ相談、1週間の献立計画立案） 11回目 実践編～レシピ集作り②（1日分ずつのレシピと手順表の作成） 12回目 実践編～レシピ集作り③（1週間の献立計画、1日分ずつのレシピ・手順表の修正） 13回目 実践編～レシピ集作り④（教員による実演） 14回目 実践編～レシピ集作り⑤（印刷原稿完成） 15回目 まとめと振り返り		
到達目標	1. 養護及び教育の一体性をふまえた保育における食育の意義・目的、基本的考え方、その内容等について理解する。 2. 家庭や児童福祉施設における子どもの食生活の現状と課題について理解する。 3. 関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。		
授業時間外の学習	予習：テキストの該当部分を読み、不明な点や疑問に思う点を明らかにしておく。演習課題のための準備をする。 復習：テキストを再読し、学修内容の定着を図る。		
評価方法	演習レポート（50％）平常点（50％），遠隔授業に変更した場合も評価方法に変更はない。		
テキスト	上田玲子編著『子どもの食生活《第6版》』（ななみ書房、2020年）		
参考書	授業の中で紹介する。		

備考	
----	--

講義科目名称： 保育の計画と評価

授業コード： 145004

英文科目名称： Planning and Evaluation of Childcare

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	1 年次	2 単位	必修
担当教員			
中山年江 講師			
添付ファイル			

授業の概要	幼稚園、保育所には教育課程、保育課程、指導計画があり、実際（毎日）の保育は、その計画に添って展開されている。その関係について学び、乳幼児にふさわしい生活が展開される、保育の基本と内容、方法を理解し養育（生命の保持、情緒の安定）と教育（健康、人間関係、環境、言葉、表現）が一体的に展開することを具体的な保育実践につなげて理解する。 ・教育課程、保育課程の編成と指導作成について具体的に理解する。・計画、実践、省察、評価、改善の過程についての構造について理解する。なお、学習成果の指標はB-②である。 遠隔授業を実施する場合は、①課題型学修（「GoogleClassroom」を利用）と②同時・双方向型学修（「GoogleMeet」を利用）とを組み合わせる。		
授業計画	1 回目 オリエンテーション 2 回目 保育の基本と保育課程について 3 回目 指導計画の種類と役割 4 回目 保育における計画の考え方（幼児のあそび・学び） 5 回目 保育における計画の考え方（発達と領域） 6 回目 日案から週案の作成（2・3歳児） 7 回目 日案から週案の作成（4・5歳児） 8 回目 教育課程の編成と基本的な考え方 9 回目 保育課程の編成と基本的な考え方 10 回目 指導計画の実際（2歳児） 11 回目 指導計画の実際（3歳児） 12 回目 指導計画の実際（4歳児） 13 回目 指導計画の実際（5歳児） 14 回目 指導計画の実際（1・2歳児） 15 回目 総まとめ・復習		
到達目標	保育課程、教育課程の意義を理解し、それらに基づいて指導計画を編成するための基礎知識を、「実例」を通して習得し、実際に指導計画を作成する技術を身に付ける。		
授業時間外の学習	自主的に時間を作りボランティア等で現場での様子を見学、観察、手伝いなどを心がけ、その園の指導計画等から学ぶ。		
評価方法	授業への参加意欲・態度：30%、課題提出：30%、レポート：40% 遠隔授業に変更した場合も評価方法に変更はない		
テキスト	『幼稚園教育要領解説』文部科学省、『保育所保育指針解説書』厚生労働省、『たのしい手あそびうた』ナツメ社		
参考書	授業の中で紹介する。		
備考	その時に応じて、幼稚園観察を行う		

講義科目名称： 保育内容総論

授業コード： 155004

英文科目名称： Outline of Contents of Childcare

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	2 年次	1 単位	必修
担当教員			
阿久津清美 講師			
添付ファイル			

授業の概要	本授業では、保育内容を総合的に捉える視点を養う。幼稚園教育要領や保育所保育指針のねらいと内容を中心に、保育の基本、指導の在り方、各領域の捉え方を理解して、総合的に指導することの重要性について学んでいく。子どもの生活や遊びなどは、ある領域に偏って指導されるものではなく、子どもの発達や生活に基づき各領域の間で相互に関連を持ちながら総合的に展開するということを学んでいく。 なお、学習成果の指標はB-②である。 遠隔授業を実施する場合は、①課題型学修(「GoogleClassroom」を利用)と②同時・双方向型学修(「GoogleMeet」を利用)とを組み合わせる。		
授業計画	1 回目 オリエンテーション 保育内容を捉える 2 回目 保育の全体構造と保育内容 3 回目 子どもの発達や生活に即した保育内容(1歳から3歳児) 4 回目 子どもの発達や生活に即した保育内容(3歳以上) 5 回目 個と集団の発達を踏まえた保育 6 回目 生活や遊びによる総合的な保育(わらべうた・うたあそび) 7 回目 生活やあそびによる総合的な保育(ペープサート) 8 回目 生活やあそびによる総合的な保育(スケッチブック絵本) 9 回目 幼児の遊びと発達(夏祭りの企画、立案) 1 0 回目 幼児の遊びと発達(夏祭りの為の制作) 1 1 回目 幼児の遊びと発達(夏祭りの活動の発表) 1 2 回目 ゲストティーチャーによる保育の実際 1 3 回目 生活や発達の連続性に考慮した保育 1 4 回目 幼稚園、保育園と小学校や地域との連携 1 5 回目 復習とまとめ		
到達目標	①「幼稚園教育要領」および「保育所保育指針」を理解すると共に、これらを理解したうえで実践への展開を行うことができる。 ②保育現場における保育者の役割に対する理解を深めることができる。		
授業時間外の学習	子どもたちが興味、関心を示す教材、教具等への材料研究等を研究心、探求心を持って行う。 授業時間内に終わらなかった作品作りが課題になる場合がある。		
評価方法	授業への参加意欲、授業態度、提出物：60% 授業の中での発表：40% 遠隔授業に変更した場合も評価方法に変更はない		
テキスト	文部科学省『幼稚園教育要領解説』平成30年 3月 厚生労働省『保育所保育指針解説』平成30年 3月		
参考書	授業の中で紹介する。 随時プリントを配布する。		
備考			

講義科目名称： 保育内容演習 健康

授業コード： 262003

英文科目名称： Contents of Childcare: Health

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	2 年次	1 単位	必修
担当教員			
長谷部せり 講師			
添付ファイル			

授業の概要	経年的に低下傾向にある子どもの体力・運動能力の回復向上の取り組みの一助として、幼児期から適切な運動経験をもたせることの重要性は、繰り返し述べられている。また、乳幼児期の子どもの心と体は未分化であり、身体の発達を支援することは、心の発達の支援にもつながる。本講義では、運動遊びに着目し、遊びを通して子どもたちの心と体を育む支援の方法について理解する。学習成果はB-②と③である。 遠隔授業を実施する場合は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と②同時・双方向型学修（「Google Meet」を利用）と組み合わせて実施する。
授業計画	1 回目 オリエンテーション 2 回目 「健康」とは何か 3 回目 運動機能の発達 4 回目 現代の子どもの身体の問題点 5 回目 子どもの遊びと運動意欲 6 回目 運動遊びの実際と指導① 7 回目 運動遊びの実際と指導② 8 回目 運動遊びの実際と指導③ 9 回目 生活習慣の形成① 10 回目 生活習慣の形成② 11 回目 子どもの健康と「食」 12 回目 健康指導の実際と評価① 13 回目 健康指導の実際と評価② 14 回目 教材研究，教材作成 15 回目 リフレクション
到達目標	人間の成長と家庭生活に深くかかわる健康の分野について学び、健康の領域における専門的な知識や実践的な能力等を身に付けることができる。 幼児期の子どもたちに必要な運動経験や生活習慣について知識を深め、保育者となった際に子どもたちに適切に援助することができるようになる。 保育における運動遊びについて考え、保育の指導案を作成したり教材を考えたりすることができる。
授業時間外の学習	保育内容の健康領域の観点から考えられる子どもの発育発達に必要なだと考えられることについての情報収集を行う。
評価方法	授業への参加意欲・態度（40%）、レポート（60%）等で総合的に評価する。 遠隔授業に変更した場合は授業への参加意欲・態度（40%）、レポート（60%）
テキスト	教科書を使用せず。必要に応じて授業時に資料を配布することとする。
参考書	『幼稚園教育要領（最新版）』 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領（最新版）』 その他、必要に応じて講義の中で紹介する。
備考	実技の授業時は、運動着・運動靴（中履き）を着用する。 適切な服装が守られていないと判断された場合は、その時間の受講を許可しない。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	1 単位	必修
担当教員			
都留 寛 教授			
添付ファイル			

授業の概要	①「保育所保育指針」及び「新幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における領域「人間関係」のねらいと内容を理解し、子どもの人間関係の発達過程を踏まえた上で、人との豊かな関わりを育む保育・教育実践に必要な基礎的能力の育成を目指す。 ②人は、人との関わり合いを通して人格を形成し、様々な能力や技能を獲得していく。乳幼児期は、身近な人達との相互作用により、人間としての基礎を作る重要な時期である。本講義では、「人と関わり合う力」の発達について学び、「人と関わり合う力」を豊かに育む保育と保育者の役割について理解を深める。 尚、学習成果の指標は、B－②である。 遠隔授業を実施する場合は、①課題型学修(「Google Classroom」を利用)と②同時・双方向学修(「Google meet」を利用)とを組み合わせる。		
授業計画	1 回目	中央教育審議会の提言 ・中央教育審議会の答申を読み解き、「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の変遷と改訂のポイントについて理解する。 ・「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における領域「人間関係」の内容を分析・比較・整理してまとめる	
	2 回目	人とのかかわる力の発達と様相① ・DVD「乳幼児の心理発達とその不思議」を視聴し、認知(模倣、認知と行動、認知と発達、記憶)・社会性(コミュニケーション、愛着関係、大人との関係、友達との関係)・言語(言語の発達、音の好み、言葉の理解、読み聞かせ)の発達と様相について調べ、まとめる	
	3 回目	おおむね 6 か月未満児の人間関係 ・おおむね 6 か月未満児の人間関係の発達と様相について調べてまとめる ・DVD「乳幼児保育の実際(前半)」を視聴し、おおむね 6 か月未満児の人間関係についての保育の実際について調べ、まとめる	
	4 回目	おおむね 6 か月から 1 歳未満児の人間関係 ・おおむね 6 か月から 1 歳未満児の人間関係の発達と様相について調べてまとめる ・DVD「乳幼児保育の実際(後半)」を視聴し、おおむね 6 か月からの 1 歳未満児の人間関係についての保育の実際について調べ、まとめる	
	5 回目	おおむね 1 歳から 2 歳未満児の人間関係 ・おおむね 1 歳から 2 歳未満児の人間関係の発達と様相について調べてまとめる ・DVD「低年齢児の保育(1 歳児)」を視聴し、おおむね 1 歳からの 2 歳未満児の人間関係についての保育の実際について調べ、まとめる	
	6 回目	おおむね 2 歳から 3 歳未満児の人間関係 ・おおむね 2 歳から 3 歳未満児の人間関係の発達と様相について調べてまとめる ・DVD「低年齢児の保育(1 歳児)」を視聴し、おおむね 2 歳からの 3 歳未満児の人間関係についての保育の実際について調べ、まとめる	
	7 回目	人とのかかわる力の発達と様相② ・DVD「3 歳児からの心理発達」を視聴し、認知(実行機能、短期記憶、作業記憶、展望記憶、基本的な図形の模写、描画(人物))・概念・思考(保存概念、数の操作、自己中心性、他者の誤信念理解、視点の心的操作、道徳性)・言語(語彙、文法、音韻意識、会話、論理的説明)・社会性(話し合いによる問題解決、競争意識、新しいルールの学習、公平な分配)の発達と様相について調べ、まとめる	
	8 回目	おおむね 3 歳児前半の人間関係 ・おおむね 3 歳児前半の人間関係の発達と様相について調べてまとめる ・DVD「3 年間の保育記録 3 歳児編 前半 ①よりどころを求めて」を視聴し、主題「よりどころを求めて」の意味についてディスカッションしたりディベートをしたりしておおむね 3 歳児前半の人間関係の発達と様相について理解する	
	9 回目	おおむね 3 歳児後半の人間関係 ・おおむね 3 歳児前半の人間関係の発達と様相について調べてまとめる ・DVD「3 年間の保育記録 3 歳児編 後半 ②やりたい でも、できない」を視聴し、主題「やりたい でも、できない」の意味についてディスカッションしたりディベートをしたりしておおむね 3 歳児後半の人間関係の発達と様相について理解する	
	1 0 回目	おおむね 4 歳児の人間関係 ・おおむね 4 歳児の人間関係の発達と様相について調べてまとめる ・DVD「3 年間の保育記録 4 歳児編 ③先生とともに」を視聴し、主題「先生とともに」の意味についてディスカッションしたりディベートをしたりしておおむね 4 歳児の人間関係の発達と様相について理解する	
	1 1 回目	おおむね 5 歳児の人間関係 ・おおむね 5 歳児の人間関係の発達と様相について調べてまとめる ・DVD「3 年間の保育記録 5 歳児編 ④育ちあい 学びあう 生活のなかで」を視聴し、主題「育ちあい 学びあう 生活のなかで」の意味についてディスカッションしたりディベートをしたりしておおむね 5 歳児前半の人間関係の発達と様相について理解する	
	1 2 回目	子どもを取り巻く環境と人間関係	

	・地域社会と人間関係(地域社会の変化と教育力の低下、地域社会における子どもの生活と人間関係、地域社会における教育力の再生・向上)について理解する ・家庭と人間関係(家庭の変化と教育力の低下、家庭における子どもの生活と人間関係、家庭における教育力の再生・向上)について理解する ・幼稚園・保育所・認定こども園等と人間関係(園における子どもの生活と人間関係、現代の保育現場における保育の課題)について理解する 1 3 回目 保育者と子どもの「人間関係」 ・乳幼児の心理的安定の基盤としての保育者のかかわりについて事例を元に考え理解する ・幼児の仲間づくりと保育者のかかわりについて事例を元に考え理解する ・子どもの自立心と仲間との育ち合いについて事例を元に考え理解する 1 4 回目 「人間関係」でちょっと気になる子ども ・誰が、なぜ、気になるのか(保育の中で気になる子どもの姿と自分の子どもの見方にきづくということ)について事例を元に考え理解する ・子どもの育っていくプロセスにおける"特別な配慮"(集団のなかで育てている一人ひとりをどうとらえるか、"みんなと同じ"という価値観、なぜ、"特別"が必要なのか)について事例を元に考え理解する 1 5 回目 子育て支援にかかわる人間関係 ・子育て支援とは何か(乳幼児をめぐる家庭の人間関係の変化と地域子育て支援のはじまり、乳幼児の人間関係をはぐくむために)について事例を元に考え理解する ・人間関係の育ちを図る子育て支援(人間関係の育ちを図る地域子育て支援の実践、人間関係の育ちを図る子育て支援の担い手)について事例を元に考え理解する ・これからの子育て支援(支援から協働へ、情報化社会におけるこれからの子育て支援、子育て支援から子育て協働をめざして)について事例を元に考え理解する
到達目標	①「乳幼児期の人間関係力の発達」について理解し、説明できる。 ②「発達に応じた保育」「発達を促す保育」について理解し、説明できる。 ③領域「人間関係」に関する「遊び」や「活動」について理解し、説明できる。 ④乳幼児期の様々な生活場面における「個と集団の育ち」について理解し、説明できる。 ⑤中央教育審議会答申を基盤とした「保育所保育指針」及び「新幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の改訂のポイント、及び、今後の課題について理解し、説明できる。
授業時間外の学習	①授業中に適時ノートを取り、ノートそのものが参考資料となるようにまとめておくこと。 ②授業中に配布した資料はファイルし、整理しておくこと。 ③「保育所保育指針解説書」「新幼稚園教育要領解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」を参照し、保育内容を確認し、指導案作成の際に活用できるようにしておくこと。 ④授業内で指定された参考文献や授業中に配布されたプリントなどは必ず読み、授業に生かす努力をすること。 ⑤グループワーク（ディスカッション）等を行うので、自分なりのアイデア（思いつきでも良い）を持って授業に臨むこと。 ⑥公共の図書館などを利用し、授業に関連した書籍や情報を進んで調べること。 ⑦日頃から可能な限り、乳幼児と関わる体験を積み重ねる努力をしていくこと。
評価方法	①毎回の授業の理解度についての小レポート（20%） ②ディスカッション、ノート（20%） ③期末レポート（20%） ④学期末の筆記試験（40%）に基づき評価する。 遠隔授業へ変更した場合は、 ①毎回の授業の理解度についての小レポート（60%） ②ディスカッション、プレゼンテーション、まとめ（20%） ③期末レポート（20%）に基づいて評価する。
テキスト	厚生労働省 「保育所保育指針解説書」 フレーベル館 2018年 ISBN-10 : 4577812428 ISBN-13 : 978-4577812426 文部科学省 「新幼稚園教育要領解説」 フレーベル館 2018年 ISBN-10 : 4577814471 ISBN-13 : 978-4577814475 内閣府・文部科学省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」 フレーベル館 2018年 ISBN-10 : 4577814498 ISBN-13 : 978-4577814499
参考書	授業の中で指示する。 GoogleClassroomで資料を公開し、事前事後の学習に生かせるようにする。
備考	公立学校15年間、附属小学校での社会科教育実戦経験25年間。全国発表会での授業公開50回以上。小学校社会科教科書執筆12年間。海外教育使節団での社会科指導歴10年間の経験を持ち、学習指導要領の改訂に影響を与えた実践を積んできた実績を生かした授業を行う。

講義科目名称： 保育内容演習 環境

授業コード： 222010

英文科目名称： Contents of Childcare: Environment

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	1 単位	必修
担当教員			
森田和良 講師			
添付ファイル			

授業の概要	乳幼児の心身の発達を踏まえながら適時、適切な素材と環境（場）を意図的・計画的に提供することによって、乳幼児の経験を広めていくことが大切である。そのために保育者はどうあればよいかを追究していく。 乳幼児が周囲の環境に関わることは情動的経験と深く結びついている。探究活動やいたずら、遊びといった子どもが自発的に行う活動では、自分の興味に沿って自由に関わる楽しさや未知のものに驚いたり、美しいものに感動したりという心を揺さぶられる体験を伴う。このような豊かな体験が、子どもの周囲の環境と深く関わり、より深く知ることを支えることを明らかにする。なお、学習成果の指標はB-②と③である。 本授業は、対面授業を中心に実施するが、遠隔授業になった場合は、課題型学修（「Google Classroom」を利用）とオンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）とを組み合わせる。
授業計画	1 回目 ガイダンス（幼稚園教育要領と保育所保育指針、幼児と自然環境） 2 回目 だるま遊び・だるまご作り 3 回目 生き物（虫取り）、スケッチ、すみか作り 4 回目 紙工作（ブーメラン・紙鉄砲） 5 回目 空気砲づくり 6 回目 落ち葉・木の実あつめ、しおりづくり、落ち葉アート 7 回目 シャボン玉遊び 8 回目 ネイチャークラフト（木の実・豆・石など自然物をを使った工作） 9 回目 伝承遊び①（こま、あやとり） 10 回目 工作（割り箸鉄砲） 11 回目 五感遊び①【聴覚】 糸電話・ストロー笛（球根植え） 12 回目 五感遊び②【味覚】 野菜クイズ、水ソムリエ（味調べ） 13 回目 図形遊び（タングラム） 14 回目 科学遊び（ペンハムのコマ、ぶんぶんごま） 15 回目 伝承遊び②（けん玉）
到達目標	・乳幼児の心身の発達を踏まえた適切な素材と環境（場）を提供することができる。また、意図的・計画的に乳幼児の経験を広めていくための保育者のあり方を理解できる。 ・保育所保育指針の趣旨に基づいて、適切な環境について思考し、その効果について説明することができる。 ・環境で扱う具体的な活動を仲間とともに体験する活動を通して、協働意識、参加意識を身につけることができる。
授業時間外の学習	事前に授業の内容に関する「保育所保育指針解説書」の箇所を目を通し、重要な語句や内容については下調べをしておく。また、授業後は学んだ知識を定着させ、習得した技能を習熟を図るとともに、幼児に指導する際のポイントについてもまとめるなど、しっかりと復習しておく。
評価方法	毎時間の振り返りの記録（30%）、学習への参加意欲（30%）、期末レポート（40%）などに基づき評価する。 遠隔授業に変更した場合には、提出する講義レポートのうち、「活動の記録」（30%）と「振り返りコメント」（30%）を評価対象とし、期末レポート（40%）には変更はない。
テキスト	講義・製作ごとに資料を配付する。『保育所保育指針解説書』（厚生労働省）。
参考書	・『工作図鑑』（福音館書店）・『遊び図鑑』（福音館書店）・『五感力は生きる力』（鈴木出版）など

備考	
----	--

講義科目名称： 保育内容演習 言葉

授業コード： 225005

英文科目名称： Contents of Childcare: Language

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	2 年次	1 単位	必修
担当教員			
阿久津清美 講師			
添付ファイル			

授業の概要	乳幼児の言葉の発達を踏まえながら領域「言葉」のねらいや内容を理解し、子どもがどのように言葉の楽しさに気づき、言葉を獲得していくかというものの理解を深める。 なお、学習成果の指標はB-②である。 遠隔授業を実施する場合は、①課題型学修(「GoogleClassroom」を利用)と③オンデマンド学修(「GoogleClassroom」を利用)とを組み合わせる。
授業計画	1 回目 ガイダンス 2 回目 幼稚園教育要領、保育所保育指針の理解 3 回目 前言語期のコミュニケーションと保育 4 回目 乳幼児の言葉の発達(0歳から就学前) 5 回目 言葉の指導(言葉遊び... しりとり遊び、なぞなぞ遊び) 6 回目 言葉の指導(言葉遊び... 回文、連想ゲーム) 7 回目 言葉の指導(絵本を使った指導) オノマトペ、まねっこ遊び 8 回目 言葉の指導(絵本の読み聞かせの発表) 9 回目 ゲストティーチャーによる「幼児の言葉の発達」のお話 10 回目 劇や物語(パネルシアター・エプロンシアター) 11 回目 言葉の指導(ごっこ遊び、ジェスチャー) 12 回目 言葉の指導(ストーリーテリング) 13 回目 言葉の指導(紙芝居の制作) 14 回目 言葉の指導の教材 (紙芝居の作品発表) 15 回目 まとめ
到達目標	乳幼児の言葉の発達を理解し、個々の子どもの言葉の育ちに合った具体的な指導や支援の方法を理解することができる。
授業時間外の学習	授業時間内に終わらなかった作品作りの続きが課題になる場合がある。
評価方法	授業への参加意欲・態度、提出物(60%)、授業内発表(40%)で評価する。 授業時間内に終わらなかった作品作りの続きが課題になる場合がある。
テキスト	文部科学省『幼稚園教育要領解説』平成30年 3月 厚生労働省『保育所保育指針解説』平成30年 3月
参考書	授業の中で紹介する。 随時プリントを配布する。
備考	

講義科目名称： 保育内容演習 音楽表現 I

授業コード： 221007

英文科目名称： Contents of Childcare: Musical Expression 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	1 単位	必修
担当教員			
阿久津清美 講師			
添付ファイル			

授業の概要	幼児の音楽活動を通して、音楽教育の意義と音楽活動の実践を考えていく。子どもが遊びの中で色々な発見をし、自ら成長していくことを考えれば、幼児の音楽教育も遊びの意義を考えながら創造的な活動になるのが望ましい。保育者が豊かな感性を磨き、豊かな自己表現力が身につくように理論と実技を習得する。 なお、学習成果の指標はB-②である。 遠隔授業を実施する場合は、①課題型学修(「GoogleClassroom」を利用)と②同時・双方向型学修(「GoogleMeet」を利用)とを組み合わせる。
授業計画	1 回目 オリエンテーション 2 回目 乳幼児教育における音楽的表現の指導について (保育所保育指針、幼稚園教育要領をふまえて) 3 回目 歌う表現活動①(歌唱・手あそび) 4 回目 子どもの身体表現(音楽に合わせて身体を動かす) 5 回目 様々な打楽器の知識と活用 6 回目 身体から生まれるリズム (ボディーパーカッション) 7 回目 ゲストティーチャーによる音楽表現 8 回目 音楽を使った絵本の読み聞かせの実践① (指導計画を立案する) グループワーク 9 回目 音楽を使った絵本の読み聞かせの実践② (作品を発表する) グループワーク 10 回目 歌う表現活動②(合唱、カノン) 11 回目 リトミックによる表現活動①(物語の中で様々な表現活動「魔女たちの朝ごはん」) 12 回目 リトミックによる表現活動②(物語の中で様々な表現活動「りすのぼうし屋さん」) 13 回目 音楽遊び集会の企画 (立案と計画の作成) グループワーク 14 回目 音楽遊び集会の発表 グループワーク 15 回目 総まとめ・復習
到達目標	①幼児の音楽表現に関する基礎的な知識と技能の多面的な習得を目指すことができる。 ②年齢に応じた歌唱、手遊び、音楽遊びなどの実技を習得し、保育者としての実践力を身につけることができる。
授業時間外の学習	
評価方法	平常点：100% 遠隔授業に変更した場合も評価方法に変更はない
テキスト	阿部恵『たのしい手あそびうた』ナツメ社、2008年 全国大学音楽教育学会 編著『日本の子どもの歌』音楽之友社、2013年 駒久美子・味府美香 編著『コンパス音楽表現』建帛社、2020年 その他、必要に応じて資料を配布します。
参考書	授業の中で紹介する。 随時プリントを配布する。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	1 単位	必修
担当教員			
穴澤秀隆 講師			
添付ファイル			

授業の概要	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の示す、領域「表現」のねらいを踏まえ、子どもの発達過程に即した保育の造形表現について考え、理解することにより、保育実習において活かすことのできる実践力を身につける。 本授業は、コロナウイルスによる感染状況の推移によっては、①課題型学修（「Google Classroom」を利用／クラスコード：未定）と②同時・双方向型学修（「Google Meet」を利用）とを組み合わせ実施することも考慮する。なお、学習成果の指標はB-②である。		
授業計画	1 回目	オリエンテーション／子どもの絵と表現／児童画のはじまり 造形・美術教育を学ぶことの意味について学修する。 講師の自己紹介と学生との相互交流を行う。 この授業の目当てと教科の構造について、他教科との比較において学修する。 世界の児童画を鑑賞することにより、児童画の起源と変遷を知り、その表現の特徴や意味について学修する。 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の示す、領域「表現」の概要とその構造について学修する。	
	2 回目	幼児の絵画表現を理解する制作活動／モダンテクニックの実習（1）技法の修得と制作 デカルコマニー、マーブリング、スパッタリング、フロッタージュ、バチック、スクラッチ、吹き流しなどの技法を実修することにより、絵に表す活動について学修する。	
	3 回目	幼児の絵画表現を理解する制作活動／モダンテクニックの実習（2）制作と鑑賞・評価・共同制作 デカルコマニー、マーブリング、スパッタリング、フロッタージュ、バチック、スクラッチ、吹き流しなどの技法を実修することにより、絵に表す活動について学修する。 他の受講生と協力して制作を行う。 他の受講生の作品を鑑賞し、批評し合うことにより、他者の表現に関する理解を深める。	
	4 回目	色彩の原理と色の世界／Water color circle 色の三属性（色相、明度、彩度）や混色、重色、補色など、色彩の基本的な理論と原理について学修する。 色彩に関する理論を応用して、色水による色相環づくりのワークショップを実修する。	
	5 回目	幼児の表現活動を理解する活動／子どもの絵の見方と発達論 幼稚園教育要領「表現」、保育所指導指針「表現」、及び、幼保連携型認定こども園教育・保育要領「表現」に示されている「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」の内容に基づき、「子ども」という概念の誕生から、子どもの絵の歴史と見方について学修し、子どもの絵の発達の基本的な考え方を学修する。	
	6 回目	幼児の鑑賞活動を理解する活動／陶芸・工芸／参考館鑑賞 幼稚園教育要領「表現」に示されている「いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ」及び、保育所指導指針「表現」に示されている「身体の諸感覚の経験を豊かにし、様々な感覚を味わう」に基づき、鑑賞する活動を行う。 國學院大學栃木學園参考館を見学し、鑑賞活動（対話型鑑賞教育）とギャリートークを行う。 郷土の美術である益子焼や縄文土器など多様な美術作品に触れ、陶芸作品への関心を高める。 また、益子焼に関連する「民藝運動」について学修し、「用の美」（生活雑器の美しさ）に関する理解を深める。	
	7 回目	幼児の立体表現を理解する制作活動／油粘土を使った制作／制作と鑑賞・評価 幼児教育現場で最も多く使用されている油粘土を使用して、素材の特性や表現方法について学修する。 他の受講生の作品を鑑賞し、批評し合うことにより、他者の表現に関する理解を深める。	
	8 回目	幼児の生活と視覚文化（1）／子どもにとっての写真と映像／写真表現 今日の視覚文化の中心である写真と映像の基本的原理と歴史について学修し、その子どもへの影響について学修する。 また、デジタル・ビジュアル表現の子どもへの影響について学修する。 映像文化のうち写真表現につき、作品を鑑賞し、理解を深める。	
	9 回目	幼児の生活と視覚文化（2）／子どもにとってのデジタル機器／映画・映像表現 デジタルカメラ、デジタルビデオ、スマートフォン、タブレット端末、ノートパソコンなどのデジタル機器を用いて、写真や動画を個人やグループで撮影し、表現することを実修する。 また、デジタル・ビジュアル表現の子どもへの影響について学修する。 映像文化のうち映画・映像表現につき、作品を鑑賞し、理解を深める。	
	10 回目	幼児の生活と視覚文化（3）／子どもにとってのビジュアル表現／アニメーション 個人やグループで制作した写真や動画を鑑賞し、相互に批評し合うことにより、デジタル・ビジュアル表現のさまざまな表現方法について学修する。 また、デジタル・ビジュアル表現の子どもへの影響について学修する。 映像文化のうちアニメーションの表現につき、作品を鑑賞し、理解を深める。	
	11 回目	幼児の絵画表現を理解する制作活動／感じたことを絵に表現する（1）／理論と制作 幼稚園教育要領「表現」、保育所指導指針「表現」及び、幼保連携型認定こども園教育・保育要領「表現」に示されている「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな	

	感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」の内容に基づき、様々な描画材を用いて、発想力や構想力を生かして、感じたことを絵に表現する。 1 2 回目 幼児の絵画表現を理解する制作活動／感じたことを絵に表現する（２）／制作と鑑賞 前時に学修した内容を基にして、様々な描画材を用いて、発想力や構想力を生かして、感じたことを絵に表現する。 1 3 回目 他の受講生の作品を鑑賞し、批評し合うことにより、他者の表現に関する理解を深める。 幼児の立体表現を理解する制作活動／ストーンアート 幼稚園教育要領「表現」、保育所指導指針「表現」に示されている「いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ」及び、幼保連携型認定こども園教育・保育要領「表現」に示されている「水、砂、土、紙、粘土など様々な素材に触れて楽しむ」に基づいて、石を使った造形活動に取り組むことにより、立体に表す活動を実修する。 1 4 回目 幼児の鑑賞活動を理解する活動／児童画の鑑賞と発展的ワークショップ 世界の児童画を用いて、カレンダーづくりを構想する。 グループで制作をし、互いの作品を鑑賞し、批評し合う。 ワークショップの企画を体験し、アクティブ・ラーニング（主体的・対話的で深い学び）に関し、実際的な理解を深める。 1 5 回目 秋セメのまとめとディスカッション／ラウンドテーブル 自分が興味・関心がある美術作品、サブカルチャー、視覚・映像文化、商業デザイン、ファッションなどについて、秋セメ全般を通じて学修した内容を反映させ発表する。 他の受講生の発表を批評し、ディスカッションをすることにより、主体的・対話的で深い学びについて体験的に学修する。 また、授業は公式（オフィシャル）な場であることから、ディスカッションにおける態度や言葉遣いについても指導する。
到達目標	◆ 1 歳以上 3 歳未満児の保育に関わるねらいから ① 身体の諸感覚の経験を豊かにし、様々な感覚を味わうことができる。 ② 感じたことや考えたことなどを自分なりに表現しようとしている。 ③ 生活や遊びの様々な体験を通して、イメージや感性が豊かになっている。 ◆ 3 歳以上児の保育に関するねらいから ① いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性を持っている。 ② 感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しんでいる。 ③ 生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむことができる。
授業時間外の学習	1. 資料等の予習 授業で使用する幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領等の資料を事前によく読み込み、毎回の授業に臨むようにする。 2. 日常的な視覚文化情報の収集 与えられた課題等を意識し、日常的に身の回りの視覚文化に関心を持ち、興味ある情報を収集しておく。 3. 自主的な省察 最終時程のラウンドテーブルでの発表に備えて、各自が自主的に研究することにより、主体的で深い学修を実践する。
評価方法	平常点（50％）、授業への参加意欲（20％）、作品（30％）により評価する。 遠隔授業に変更した場合も評価方法は対面授業と同様である。
テキスト	教科書は使用せず。
参考書	・北沢昌代・畠山智宏・中村光絵 『子どもの造形表現 ワークシートで学ぼう』（開成出版、2018年版） ・文部科学省『幼稚園教育要領解説』（平成30年） ・厚生労働省『保育所保育指針解説』（平成30年） ・内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（平成30年）
備考	通常の対面授業の際には、講師の指示により、道具箱「七つ道具」を持参すること。また、その際には、実技的内容を多く取り入れ、幼児の造形表現の指導に必要な「技能」を身に付けることを目指す。 ※ ただし、初回については特に何も用意しなくてよい。 ※ 「七つ道具」の詳細については、授業の中で説明する。 「七つ道具」の内容例：はさみ、のり、セロハンテープ、木工用ボンド、定規、カッター・カッター版、ホチキス、クレヨン、色鉛筆、マーカーなど。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	1 年次	1 単位	必修
担当教員			
早川富美子教授 澤村恵子講師			
添付ファイル			

授業の概要	ピアノ演奏の基礎的な力を養成し、豊かな音楽表現力の向上を目指していく。実習や教育現場で活用できる曲を中心に学修していく。本学が設定した課題に取り組み、（１）ピアノ演奏の基礎技能の習得（２）音楽の基礎知識の理解（３）楽曲構成の理解（４）こどもの歌、歌唱共通教材等の弾き歌い の向上を目指す。 なお、学習成果の指標はB－②である。 遠隔授業を実施する場合には、①課題型学修（「Google classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google classroom」を利用）とを組み合わせる。		
授業計画	1 回目	ガイダンス、課題把握、ピアノ基礎奏法の確認、A（初心者）：「メリーさんのひつじ」、B,C（経験者）：共通・選択曲より1曲目。音階、練習曲：各自のグレードに応じた練習曲を指示。	
	2 回目	A（初心者）：「かえるの合唱」、（音符の理解）、ハ長調（右手、左手）、B,C：共通・選択曲より2曲目。音階、練習曲：各自のグレードに応じた練習曲より1曲目。	
	3 回目	A（初心者）：「きらきらぼし」、ハ長調（右手、左手、両手）、（ヘ音記号の理解）、B,C：共通・選択曲より3曲目。音階、練習曲：各自のグレードに応じた練習曲より2曲目。	
	4 回目	A（初心者）：「ぶんぶんぶん」、ハ長調（両手）、B,C：共通・選択曲より4曲目。音階、練習曲：各自のグレードに応じた練習曲より3曲目。	
	5 回目	A（初心者）：「チューリップ」「ちょうちょう」、ハ長調、ヘ長調、B,C：共通・選択曲より5曲目。音階、練習曲：各自のグレードに応じた練習曲より4曲目。	
	6 回目	A（初心者）：「チューリップ」「ちょうちょう」、ハ長調、ヘ長調、B,C：共通・選択曲より6曲目。音階、練習曲：各自のグレードに応じた練習曲より5曲目。	
	7 回目	課題の到達確認1（ハ長調音階、練習曲、子どもの歌）と発表	
	8 回目	A（初心者）：「むすんでひらいて」、和音、スタッカート、B,C：共通・選択曲より7曲目。音階、練習曲：各自のグレードに応じた練習曲より6曲目。	
	9 回目	A（初心者）：「かっこう」、分散和音、B,C：共通・選択曲より8曲目。音階、練習曲：各自のグレードに応じた練習曲（バイエル、ツェルニー）より7曲目。	
	10 回目	A：「うみ」、調号、ト長調、B,C：共通・選択曲より9曲目。音階、練習曲：各自のグレードに応じた練習曲（バイエル、ツェルニー）より8曲目。	
	11 回目	A：「たなばたさま」、調号、ヘ長調、スラー、B,C：共通・選択曲より10曲目。音階、練習曲：各自のグレードに応じた練習曲より9曲目。	
	12 回目	A：「こいのぼり」、跳躍、二長調、B,C：共通・選択曲より11曲目。音階、練習曲：各自のグレードに応じた練習曲より10曲目。	
	13 回目	A：「かたつむり」、付点音符、イ長調、B,C：共通・選択曲より12,13 曲目。音階、練習曲：各自のグレードに応じた練習曲より11曲目。	
	14 回目	A：「森のくまさん」、臨時記号、音階の復習、B,C：共通・選択曲より14, 15曲目。音階の復習、練習曲：各自のグレードに応じた練習曲より12曲目。	
	15 回目	課題到達の確認2と発表会	
到達目標	1. 知識・技能→音楽の基礎知識を高め、ピアノ演奏の基礎的な技術を習得することができる。子どもの歌や小学校学習指導要領に示された歌唱共通教材等の伴奏をすることができる。 2. 思考力・判断力・表現力→楽譜を読み取り、楽曲構成を理解しながら、表現力のあるピアノ演奏ができる。 3. 学びに向かう力→授業での学びを生かし、実習、保育や教育現場等で実践できる力を身につける。		

授業時間外の学習	・練習時間を確保して、継続的に取り組むこと。 ・「練習記録」に練習内容を記入し、各自の取り組みを振り返りながら学修していくこと。 ・「練習記録」は毎週授業前日にclassroomに提出する。 ・楽語や記号の意味などは、音楽辞典やテキストなどで確認しながら練習をすること。
評価方法	授業への参加意欲・練習記録の提出・平常点（30%）、課題到達度（70%） *遠隔授業に変更にした場合も評価方法に変更はない。
テキスト	大海由香ほか編曲『保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集第1巻改訂版』（学研、2016年）、 大海由香ほか編曲『保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集第2巻改訂版』（学研、2017年） 木村ケイ編『指づかいつきバイエルピアノ教則本』（全音楽譜出版社、1998年） 坪能由紀子、他共著『みんなピアノだい好き!』（全音楽譜出版社、2019年） 全国大学音楽教育学会編著『明日へ歌い継ぐ日本の子どもの歌ー唱歌童謡140年の歩みー』（音楽之友社、2013年） *練習曲は履修者のレベルに応じて指示します。 *テキストは、他の音楽関係の授業や2年次でも継続使用します。
参考書	授業の中で紹介する。
備考	実務教員：初等・前期中等教育学校音楽科目教諭として21年間勤務。 本学が設定したグレードで、子どもの歌の共通課題、選択課題、音階、練習曲等に取り組んでいただきます。 子どもの歌の伴奏は、履修者のレベルに応じて簡易伴奏、本格伴奏を指示します。 練習曲は『バイエル教則本』、『みんなピアノだい好き!』等より、履修者のレベルに応じて指示します。 どのグレードでも継続的に練習を重ねて取り組むことが大切です。 *授業計画については履修している学生に対して、事前に説明があったうえで変更される場合があります。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	1 単位	必修
担当教員			
早川富美子教授 澤村恵子講師			
添付ファイル			

授業の概要	「教科専門 音楽（ピアノ）Ⅰ」に続いて、（１）ピアノ演奏の基礎技能の習得（２）音楽の基礎知識の理解（３）楽曲構成の理解（４）歌唱共通教材、こどもの歌の弾き歌い のさらなる向上を目指し、各自のレベルに応じた個人レッスンを行う。幼稚園、小学校教諭に求められるピアノ奏法の基礎的技能を学びながら、応用力を身に付ける。 なお、学習成果の指標はB－②である。 本授業は、対面授業を中心に実施するが、遠隔授業になった場合には、①課題型学修（「Google classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google classroom」を利用）とを組み合わせる。		
授業計画	1 回目	ガイダンス、春セメスタの課題達成度、姿勢やフォーム、弾き歌い等の確認。共通・選択課題より1曲目弾き歌い。音階・練習曲の確認と選択。	
	2 回目	共通課題「かたつむり」付点音符の確認と弾き歌い。選択課題より 2 曲目弾き歌い。音階（ハ長調の復習）・練習曲より2曲目。	
	3 回目	共通課題「たなばたさま」調号の確認と弾き歌い。選択課題より 3 曲目弾き歌い。音階（ヘ長調の復習）・練習曲より 3 曲目。	
	4 回目	共通課題「森のくまさん」応答と弾き歌い。選択課題より 4 曲目弾き歌い。音階（ト長調の復習）・練習曲より 4 曲目。	
	5 回目	共通課題「思い出のアルバム」 6 / 8 拍子の理解、弾き歌い。選択課題より 5 曲目弾き歌い。音階（二長調の復習）・練習曲より 5 曲目。	
	6 回目	共通課題「おべんとう」付点音符の復習、弾き歌い。選択課題より 6 曲目弾き歌い。音階（イ長調）・練習曲より 6 曲目。	
	7 回目	課題の到達確認	
	8 回目	共通課題「さんぽ」リズム確認、片手で弾き歌い。選択課題より 7 曲目弾き歌い。音階（ホ長調）・練習曲より 7 曲目。	
	9 回目	共通課題「さんぽ」両手で弾き歌い。選択課題より 8 曲目弾き歌い。音階（変ロ長調）・練習曲より 8 曲目。	
	1 0 回目	共通課題「おはよう」複付点音符、弾き歌い。選択課題より 9 曲目弾き歌い。音階（変ホ長調）・練習曲より 9 曲目。	
	1 1 回目	共通課題「おかえりのうた」付点音符、弾き歌い。選択課題より10曲目弾き歌い。音階（イ短調）・練習曲より10曲目。	
	1 2 回目	共通課題「おかたづけ」リズム、弾き歌い。選択課題より11曲目弾き歌い。半音階（片手ずつ）・練習曲より11曲目。	
	1 3 回目	共通課題「さようならのうた」弾き歌い。選択課題より12曲目弾き歌い。半音階（両手）・練習曲より12曲目。	
	1 4 回目	共通課題の復習、弾き歌い。選択課題より13曲目弾き歌い。音階の復習・練習曲13曲目。	
	1 5 回目	課題達成の確認とまとめ	
到達目標	1．知識・技能→音楽の基礎知識を高め、ピアノ演奏の基礎的な技術を修得することができる。子どもの歌のレパートリーを広げ、弾き歌いすることができる。 2．思考力・判断力・表現力→楽譜を読み取り、楽曲構成を理解しながら、表現力のあるピアノ演奏や弾き歌		

	いができる。 3. 学びに向かう力→授業での学びを生かし、さらに音楽的な表現を向上させて、実習や教育現場等で実践できる力を身につける。
授業時間外の学習	・練習計画を立て、練習時間を確保して取り組むこと。 ・「練習記録」に毎日記入し、各自の取り組みを振り返りながら学修していくこと。 ・「練習記録」は、授業前日にclassroomに提出すること。 ・楽語や記号の意味などは、音楽辞典やテキストなどで確認しながら練習をすること。 ・子どもの歌の弾き歌いは、伸びやかな声で歌いながらピアノ伴奏ができるように練習すること。
評価方法	授業への参加意欲・練習記録の提出・平常点（30%）、課題到達度（70%） *遠隔授業に変更にした場合も評価方法に変更はない。
テキスト	大海由香ほか編曲『保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集第1巻改訂版』（学研、2016年） 大海由香ほか編曲『保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集第2巻改訂版』（学研、2017年） 木村ケイ編『指づかいつきバイエルピアノ教則本』（全音楽譜出版社、1998年） 坪能由紀子、他共著『みんなピアノだい好き！』（全音楽譜出版社、2019年） 全国大学音楽教育学会編著『明日へ歌い継ぐ日本の子どもの歌ー唱歌童謡140年の歩みー』（音楽之友社、2013年） *練習曲は履修者のレベルに応じて指示します。 *テキストは、他の音楽関係の授業や2年次でも継続使用します。
参考書	授業の中で紹介する。
備考	実務教員：初等・前期中等教育学校音楽科目教諭として21年間勤務。 グレードは本学が設定したグレードです。 履修者のレベルに応じて、子どもの歌は簡易伴奏や本格伴奏を指示します。 どのグレードでも継続的に練習を重ねて取り組むことが大切です。 *授業計画については履修している学生に対して、事前に説明があったうえで変更される場合があります。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	1 年次	1 単位	必修
担当教員			
早川富美子 教授			
添付ファイル			

授業の概要	将来、保育や教育現場の指導するために必要な歌唱や器楽の基礎技能を学び、表現力の向上を目指す。 歌唱は、保幼小のつながりやピアノの弾き歌いとの関連も踏まえ、発声法や呼吸法を学びながら、こどもの歌や小学校歌唱共通教材等の知見を広げる。 器楽は、様々な楽器（ピアノ以外、日本の楽器も含む）を中心に、身体や自然素材も打楽器として活用しながら、基礎的な奏法を学んだ後、簡単な音楽づくりにつなげて楽しめるようにする。 以上、（１）歌唱や楽器演奏の基礎技能の習得（２）音楽理論の習得（３）読譜力の向上（４）簡単な音楽づくりを目指して学修していく。 なお、学習成果の指標はB-②である。 遠隔授業を実施する場合には、①課題型学修（「Google classroom」を利用）と②同時双方向型学修（「Google classroom」を利用）とを組み合わせる。
授業計画	1 回目 ガイダンス、歌唱の基礎、校歌、楽器についての説明 2 回目 校歌、わらべうた、体を楽器とした表現 3 回目 春のうた①、ボディパーカッションの創作 4 回目 春のうた②、教育楽器についての知識、小太鼓の基礎 5 回目 ゲストティーチャーによる打楽器の基礎と演奏 6 回目 夏の歌①、教育楽器（木・金属・皮）の基礎奏法 7 回目 夏の歌②、鍵盤楽器（マリンバ、鉄琴、木琴）の基礎奏法 8 回目 日本の楽器（箏）の基礎奏法、箏のゲストティーチャーによる演奏 9 回目 わらべうたを箏で演奏 10 回目 生活の歌①、自然素材を楽器とした音遊び 11 回目 生活の歌②、トガトンで音楽づくり 12 回目 動物の歌、トーンチャイムやミュージックベルの基礎奏法 13 回目 乗り物の歌、トーンチャイムで音楽づくり 14 回目 発表会の練習、学習した楽器を使った小アンサンブル 15 回目 まとめ、歌と楽器の発表会
到達目標	1. 知識・技能→歌唱や器楽の演奏を通して各自の表現技能を高めるとともに、音楽の基礎知識を習得することができる。 2. 思考力・判断力・表現力→音楽の基礎的な知識・技能を土台として、子どもたちの音楽活動を支えるために必要な豊かな表現力を身につけることができる。 3. 学びに向かう力→他者の音楽表現を受容したり、仲間と協働して音楽をつくっていくことができる。
授業時間外の学習	歌のレパートリーを増やしていくために、予習、復習をして1人で歌えるようにする。 様々な楽器に興味・関心をもち、取り組んでみる。 歌唱や器楽の練習をするときは、楽典も復習しながら取り組むこと。
評価方法	小テスト・発表（40％）、平常点（60％）とする。遠隔授業に変更した場合も同様である。
テキスト	大海由香ほか編曲『保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集 第1巻改訂版』（学研、2016年） 大海由香ほか編曲『保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集 第2巻改訂版』（学研、2017年） 阿部恵著『DVD+CDたのしい手あそびうた』（ナツメ社、2008年） 坪能由紀子他、共著『みんなピアノだい好き！』（全音楽譜出版社、2019）

	駒久美子・味府美香編著『コンパス音楽表現』（建帛社, 2020年） 全国大学音楽教育学会編著『明日へ歌い継ぐ日本の子どもの歌ー唱歌童謡140年の歩みー』（音楽之友社、2013年） ＊テキストは、他の音楽関係の授業や2年次でも継続使用します。
参考書	授業時に必要に応じて紹介する。
備考	授業計画については、履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。 鍵盤ハーモニカ、カスタネット、小太鼓のスティック等は各自準備をしてください。 実務教員：初等・前期中等教育学校音楽科目教諭として21年間勤務。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	1 単位	必修
担当教員			
早川富美子 教授			
添付ファイル			

授業の概要	「音楽（歌と楽器）Ⅰ」をもとに、将来、保育や教育現場の指導するために必要な歌唱や器楽の基礎技能を学び、表現力のさらなる向上を目指す。 歌唱は、保幼小のつながりやピアノの弾き歌いとの関連も踏まえ、発声法や呼吸法を学びながら、こどもの歌や小学校歌唱共通教材等の知見を広げる。 器楽は、様々な楽器（ピアノ以外、日本の楽器も含む）を中心に、身体や自然素材も打楽器として活用しながら、基礎的な奏法を学んだ後、簡単な音楽づくりにつなげて楽しめるようにする。 以上、（１）歌唱や楽器演奏の基礎技能の習得（２）音楽理論の習得（３）読譜力の向上（４）簡単な音楽づくりを目指して学修していく。 なお、学習成果の指標はB-②である。 遠隔授業を実施する場合には、①課題型学修（「Google classroom」を利用）②同時双方向型学修（「Google classroom」を利用）とを組み合わせる。
授業計画	1 回目 ガイダンス、校歌、小物打楽器を使った演奏 2 回目 秋の歌①、小太鼓、大太鼓 3 回目 秋の歌②、和太鼓 4 回目 冬の歌①、日本の楽器で合奏 5 回目 冬の歌②、身の回りのモノを楽器として① 6 回目 ゲストティーチャーによる身の回りのモノ（自然素材）と他分野との融合 7 回目 行事の歌、オルフ楽器① 8 回目 童謡・昔話の歌、オルフ楽器② 9 回目 ゲストティーチャーによる指導と演奏 1 0 回目 世界の歌①、ドラムセット 1 1 回目 世界の歌②、クリスマス曲の合奏① 1 2 回目 動物の歌、クリスマス曲の合奏② 1 3 回目 アニメなどの歌、学習した楽器を使って小アンサンブル 1 4 回目 発表の練習 1 5 回目 まとめ、発表
到達目標	1. 知識・技能→歌唱や器楽の演奏を通して各自の表現技能を高めるとともに、音楽の基礎知識を習得することができる。 2. 思考力・判断力・表現力→音楽の基礎的な知識・技能を土台として、子どもたちの音楽活動を支えるために必要な豊かな表現力を身につけることができる。 3. 学びに向かう力→他者の音楽表現を受容したり、仲間と協働して音楽をつくっていくことができる。
授業時間外の学習	歌のレパートリーを増やしていくために、予習、復習をして1人で歌えるようにする。 様々な楽器に興味・関心をもち、取り組んでみる。 歌唱や器楽の練習をするときは、楽典も復習しながら取り組むこと。
評価方法	小テスト・発表（40％）、平常点（60％）とする。遠隔授業に変更した場合も同様である。
テキスト	大海由香ほか編曲『保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集 第1巻改訂版』（学研、2016年） 大海由香ほか編曲『保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集 第2巻改訂版』（学研、2017年） 阿部恵著『DVD+CDたのしい手あそびうた』（ナツメ社、2008年）

	坪能由紀子他、共著『みんなピアノだい好き!』（全音楽譜出版社、2019年） 駒久美子・味府美香編著『コンパス音楽表現』（建帛社、2020年） 全国大学音楽教育学会編著『明日へ歌い継ぐ日本の子どもの歌ー唱歌童謡140年の歩みー』（音楽之友社、2013年） *必要に応じてプリントを配布する。 *テキストは他の音楽関連の科目でも併用し、2年次も継続使用する。
参考書	授業時に必要に応じて紹介する。
備考	授業計画については、履修している学生に対して、事前に説明があった上で、変更される場合があります。 鍵盤ハーモニカ、カスタネット、小太鼓のスティック等は各自準備をしてください。 実務教員：初等・前期中等教育学校音楽科目教諭として21年間勤務。

講義科目名称： 保育内容の理解と方法 造形 I

授業コード： 151005

英文科目名称： Understanding and Method of Childcare: Plastic 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	1 年次	1 単位	必修
担当教員			
名取初穂 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	1. 幼稚園教育要領、保育所保育指針、および幼保連携型認定こども園教育・保育要領の基本的な考え方や専門的な知識に関して「造形表現」に焦点を当て、学修する。 2. 紙、クレヨン、パス、はさみ、のりなど、身近で扱いやすいものに関する基礎的な知識を習得し、実技実習に備える。 3. 幼児の「表現」に関するイメージを広げるとともに、子どもの発達過程に即した造形表現を知り、理解する。また、ダイナミックな造形遊びに取り組むことで経験の幅を広げ、柔軟な思考力を身に付けながら表現の可能性を追求する。 なお、学習成果の指標は B-②である。 ◆遠隔授業授業実施が必要な環境が生じた場合には【オンデマンド（配信型）】を併用して学修する。
授業計画	1 回目 オリエンテーション 七つ道具について 2 回目 素材と用具の研究Ⅰ はさみ・のり 3 回目 素材と用具の研究Ⅱ 紙の種類と応用 4 回目 素材と用具の研究Ⅲ クレヨン・パスの基礎知識 5 回目 表現技法の探究 ーモダンテクニック 基礎 6 回目 表現技法の探究 ーモダンテクニック 応用 7 回目 表現技法の探究 ーモダンテクニック 発展 8 回目 表現技法の探究 ーモダンテクニック 自由制作 9 回目 油粘土、紙粘土、小麦粉粘土などの基礎知識と実習 10 回目 水、砂、土などの素材に触れる 11 回目 ダンボールを使って 12 回目 自然素材に触れる ー藍 13 回目 絞り染め実習 14 回目 色彩の基礎 ースライムの色遊び 15 回目 春セメスターのまとめ
到達目標	1. 身近な素材に関心を持ち、材料・用具についての基礎的な知識と技能が身に付いている。 2. 感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにすることができる。 3. 鑑賞の活動を通して、作品などに対する自分の見方や感じ方を広げることができると共に、他者の意見を尊重し、受容できる。
授業時間外の学習	1. テキストの予習・復習 授業で取り扱う題材の他にも、興味・関心を持った題材については自主的に試行する。 2. 素材の収集 日常的に、身の回りの素材（廃材）に着目し、活用イメージを働かせながら収集する。
評価方法	関心・意欲・態度（30％）、ワークシート（30％）、各課題への取り組み（40％）により評価する。 ◆遠隔授業を実施した際の評価方法は、考察（40％）、課題への取り組み（60％）とする。
テキスト	北沢昌代・畠山智宏・中村光絵 著 / 『子どもの造形表現 ーワークシートで学ぶー』 / 開成出版 / 2018年版

参考書	
備考	テキストと、道具箱「七つ道具」を持参すること。 ※初回に関しては持ち物なし。 ※「七つ道具」の詳細については、授業の中で説明する。 「七つ道具」の内容例：はさみ、のり、セロハンテープ、木工用ボンド、定規、カッター・カッター版、ホチキス、クレヨン、色鉛筆、マーカーなど

講義科目名称： 保育内容の理解と方法 造形Ⅱ

授業コード： 254008

英文科目名称： Understanding and Method of Childcare: Plastic 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	1 単位	必修
担当教員			
名取初穂 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	秋セメスターにおいては、主に身近な材料を中心とした多様な素材研究を行い、豊富な表現体験を積む。また、子どもの造形表現に関する理解を深め、多角的な視点を持つ。 材料や用具に関しては、新たに粘土やのこぎり・金槌・釘などについて基礎的な知識・技能を学修し、応用する。 なお、学習成果の指標は B-②である。 ◆遠隔授業授業実施が必要な環境が生じた場合には【オンデマンド（配信型）】を併用して学修する。
授業計画	1 回目 オリエンテーション 2 回目 自然素材に触れる 3 回目 玉ねぎ染め実習 4 回目 身近な素材で遊ぶ 一割ピンを使って 5 回目 木工Ⅰ のこぎり・金槌の基礎知識 6 回目 木工Ⅱ 糸のこぎりの使い方 7 回目 木を使った人形づくり 8 回目 木工制作のまとめ 9 回目 陶芸の基礎知識 10 回目 陶芸実習 11 回目 紙素材のバリエーション 12 回目 身近な材料でつくる玩具 張り子の制作 13 回目 片栗粉粘土で遊ぶ 14 回目 部分実習指導案の演習 15 回目 秋セメスターのまとめ
到達目標	1. 素材を自由自在に扱い、材料・用具を適切に使用しながら自身の表現に応用することができる。 2. 感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにすることができる。 3. 鑑賞する活動を通して、作品などに対する自分の見方や感じ方を広げることができる。また、他者の創意工夫を読み取り、理解を深めることができる。
授業時間外の学習	日常的に身の周りの素材に対する興味・関心を持ち、収集すること。 各授業回で学んだ内容については、ワークシートに振り返りを記入し復習すること。
評価方法	関心・意欲・態度（30％）、ワークシート（30％）、各課題への取り組み（40％） ◆遠隔授業を実施した際の評価方法は、考察（40％）、課題への取り組み（60％）とする。
テキスト	北沢昌代・畠山智宏・中村光絵 著 / 『子どもの造形表現 ―ワークシートで学ぶ―』 / 開成出版 / 2018年版
参考書	
備考	テキストと道具箱「七つ道具」を持参すること。

講義科目名称： 保育内容の理解と方法 体育 I

授業コード： 252008

英文科目名称： Understanding and Method of Childcare: P.E. 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	1 単位	必修
担当教員			
戸村貴史 講師			
添付ファイル			

授業の概要	幼児期における身体表現及び運動の役割について学ぶ。本講義では、表現ダンスを課題として取り上げ、グループ活動を通して、課題に対してイメージを膨らませ、色々な動きを見つけて、仲間と協和することを楽しむようにする。本講義を通して自ら感じたことを表現することの楽しさや方法を学ぶ。また、保育者となった際に、子どもの興味や関心に寄り添い、子どもたちのイメージを引き出し表現する方法を伝える援助の仕方についても学ぶ。パラバルーンや創作ダンスを通してグループで協力し合いながら身体表現をすることの喜びを味わい、保育者として乳幼児の遊びや表現活動を実施するための資質を養う。 なお、学習成果の指標はB-②である。 基本対面授業としますが、本授業は遠隔で実施する場合に①課題型学修（「Google Classroom」を利用）、②同時・双方向型学習（「Google Meet 利用」）、③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）とを組み合わせて実施する。
授業計画	1 回目 オリエンテーション 2 回目 乳幼児期における表現と遊び 3 回目 幼児期における運動能力の発達 4 回目 運動会を楽しもう！ 5 回目 パラバルーンを使って友達と協力して表現しよう！ 6 回目 パラバルーン発表会 7 回目 簡単な動作を使って表現①（じゃんけんで遊ぼう！） 8 回目 簡単な動作を使って表現②（身体を使ったコミュニケーション） 9 回目 簡単な動作を使って表現③（ミラーの世界と影の世界へ） 1 0 回目 簡単な動作を使って表現④（フォークダンス） 1 1 回目 創作ダンスの作り方 1 2 回目 グループワーク①（課題の設定） 1 3 回目 グループワーク②（ダンスの構成の検討） 1 4 回目 創作ダンス発表会 1 5 回目 まとめ（身体の表現を考える）
到達目標	・幼児期における心身の発達において運動及び身体表現の役割を理解する。 ・音楽にのることを楽しみ、音楽に合わせて身体を動かすことの面白さを知る。 ・グループの中で協同的にパラバルーンや創作ダンスの作品に取り組み、自信をもって発表することができる。 ・幼児の自由な表現をひきだせる援助の仕方を身につける。
授業時間外の学習	ダンスに関する教材や映像を確認し、授業でいかせるようにする。 毎時間受講した授業を振り返り、気づいたことや身につけたいことについて各自復習する。
評価方法	対面授業の場合以下の項目で評価します。授業への参加意欲・態度（30%）、表現リズム遊び（パラバルーン・創作ダンス）の発表（50%）、レポート（20%） 遠隔授業の場合以下の項目で評価します。「課題提出」（50%）及び「創作ダンス発表（オンデマンドを用いて）」（50%）
テキスト	『保育と幼稚園児期の運動遊び』岩崎洋子萌文書林

参考書	『幼稚園教育要領ハンドブック』無藤隆学習研究社 『幼稚園教育要領解説』文部科学省 http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/youkaisetsu.pdf
備考	実技の授業時は、運動着・運動靴（中履き）を着用する。 適切な服装が守られていないと判断された場合は、その時間の受講を許可しない。

講義科目名称： 保育内容の理解と方法 体育Ⅱ

授業コード： 151006

英文科目名称： Understanding and Method of Childcare: P.E.2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	2 年次	1 単位	必修
担当教員			
戸村貴史 講師			
添付ファイル			

授業の概要	保育内容の「健康」についての知識理解として教育・保育の原理を確認し、生理学・保健学の領域から子どもの育ちの基礎知識を学ぶ。また、科学的知見からの身体の発育と、心の発達についての知識を学び、乳幼児への理解を深めるとともに、年齢別身体発育に欠かせない運動や遊びについて学び、知識を深める。 なお、学習成果の指標はB-②である。 本授業は対面授業を中心的に実施するが、遠隔授業になった場合は①課題型学修（「Google Classroom」を利用）、②同時・双方向型学習（「Google Meet 利用」）、③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）とを組み合わせる。
授業計画	1 回目 「健康」とは 2 回目 乳幼児の発育 3 回目 乳幼児の運動発達 4 回目 3 歳時のからだの育ちと生活 5 回目 4 歳児のからだの育ちと生活 6 回目 5 歳児のからだの育ちと生活 7 回目 0 歳児のからだの育ちと生活 8 回目 1 歳児のからだの育ちと生活 9 回目 2 歳児のからだの育ちと生活 1 0 回目 生活に関する指導 1 1 回目 健康教育に関する指導 1 2 回目 安全教育に関する指導 1 3 回目 けがや病気の対応 1 4 回目 乳幼児の生活環境と体の育ち 1 5 回目 病気の子どもの保育
到達目標	乳幼児のより良い成長のために、からだの発育と心の発達を学び、保育者として関わるができる。運動や遊びは、からだや心の発達とともに大きく変化していくことを知り、遊び方を工夫できる。
授業時間外の学習	新聞やテレビなどメディア情報から、乳幼児を取り巻く今日的な問題や課題を理解しておく。
評価方法	「課題提出」（50%）及び「グループ発表」（50%）遠隔授業に変更した場合も、評価方法に変更はない。
テキスト	健康の指導法 宮崎豊・田澤里喜著 玉川大学出版部
参考書	
備考	適時資料（データ）を配布する。

講義科目名称： 保育内容の理解と方法 児童文化

授業コード： 253007

英文科目名称： Understanding and Method of Childcare: Child

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	1 単位	必修
担当教員			
早川富美子 教授			
添付ファイル			

授業の概要	本授業では、以下の点を踏まえ、様々な児童文化財について学び、実践を通して表現力を向上させるとともに、それらを実習や保育現場で活用し、子どもの遊びへと展開していくための力を身に付ける。 (1) 子どもの遊びを展開する際の、子どもの他者（保育士や他の子ども）との関係や集団の中での育ちを理解する。 (2) 子どもの遊びを展開する際の、様々な遊具や用具、素材や教材等の特性を理解し、それらの活用や作成に必要な技術を実践的に習得する。 (3) 子どもの遊びを展開する際に、子どもの遊びやイメージを豊かにし、感性を養うための環境の構成と保育の展開について理解する。 (4) 絵本、紙芝居、人形劇、ストーリーテリング 等に関する知識と技術を習得し、発表しあう。 なお、学習成果の指標はB-②である。 遠隔授業になった場合には、①課題型学修（「Google classroom」を利用）と②同時・双方向型学修（Google classroom」と利用）とを組み合わせる実施する。
授業計画	1 回目 ガイダンス、児童文化財とは何か、保育の現場で活用される児童文化財を知る 2 回目 パネルシアターの製作 1 パネルシアターとは、材料、仕掛けの方法、作品の選択 3 回目 パネルシアターの製作 2 彩色 4 回目 パネルシアターの発表 5 回目 人形劇 1 歴史と特徴、様々な人形を知る 6 回目 人形劇 2 指人形等を用いて即興的に表現 7 回目 紙芝居の歴史と演じ方、お話、童話 8 回目 様々な絵本の種類を知る、日本の昔話 9 回目 絵本を活用した表現の実際（音楽との関わりから） 10 回目 伝承あそび（お手玉、すごろく、こま、おはじき、あやとり、わらべうた、えかきうた等） 11 回目 様々な児童文化財（エプロンシアター、パネルシアター、ペープサート、手袋人形、うちわシアター等） 12 回目 発表に向けての計画と教材研究 13 回目 児童文化財を取り入れた発表の準備 1（構成と役割分担） 14 回目 児童文化財を取り入れた発表の準備 2（練習） 15 回目 まとめと発表
到達目標	1. 知識・技能→子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を習得する 2. 思考力・判断力・表現力→保育の環境構成及び具体的展開のために、教材等を製作したり、様々な表現を工夫することができる。

	3. 学びに向かう力→自己の表現力を向上させるとともに、仲間と協働で発表に取り組み、実習や保育現場等で実践できる力を身につける。
授業時間外の学習	様々な児童文化財にふれ視野を広げ、自らも楽しみながら教材をつくること。 課題が終わらない時は、授業以外にも取り組むこと。 授業での学習を生かし、冬休みには実習で活用できる教材を各自で製作する。
評価方法	児童文化財の製作と発表（50％）平常点（50％） ＊遠隔授業に変更にした場合も評価方法に変更はない。
テキスト	駒久美子・味府美香編著『コンパス音楽表現』（建帛社, 2020年） その他必要に応じて資料を配布する。
参考書	小川清美編著『演習児童文化』萌文書林, 2010 皆川美恵子・武田京子編著『新版児童文化』ななみ書房, 2016 その他、授業の中で紹介する。
備考	授業計画については履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。 教材製作に必要な材料等は各自準備すること。 授業での学びを生かし、へ表現活動や大学祭で上演予定です。 冬休みに、実習に活用できる教材を各自製作すること。

講義科目名称： 乳児保育 I

授業コード： 113004

英文科目名称： Baby Childcare Studies 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	2 年次	2 単位	必修
担当教員			
出井芳江 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	乳児期は、人としての基礎を培う大切な時期である。乳児保育の意義、目的と歴史の変遷及び役割について理解し、乳児の発育や発達及びそれを保障するために必要な保育や保護者・保育者間、関係機関との連携や協働について学ぶ。具体的な事例により、乳児保育を担当する保育者の役割を理解し、乳児保育の理論や知識、技術の基本を習得する。 なお、学習成果の指標はB-②、③である。 本授業は、対面授業を中心に実施するが、遠隔授業になった場合は、①課題型学修（Google Classroom）と②同時・双方向型学修（Google Meet）とを組み合わせる。
授業計画	1 回目 オリエンテーション・乳児保育の意義、目的と歴史の変遷 2 回目 乳児保育及び子育て家庭への支援等の課題 3 回目 保育所における乳児保育 4 回目 児童福祉施設（乳児院等）における乳児保育 5 回目 家庭的保育・小規模保育等における乳児保育 6 回目 3歳未満児の生活と環境 7 回目 3歳未満児の遊びと環境 8 回目 3 歳以上児の保育に移行する時期の保育 9 回目 3 歳未満児の発育・発達を踏まえた援助や関わり 1 0 回目 3 歳未満児の発育・発達を踏まえた保育における配慮 1 1 回目 乳児保育の計画・記録・評価とその意義 1 2 回目 職員間の連携・協働 1 3 回目 保護者との連携・協働 1 4 回目 自治体や地域の関連機関等との連携・協働 1 5 回目 乳児保育 I の総括
到達目標	乳児を対象とする発達援助における様々な専門性を身につける。 生涯発達の観点に基づき、知識、技術、判断、倫理に関する専門性を学び、子どもの成長に合った保育環境、保護者への相談支援の知識を習得し、保育や子どもに対する理解を深める。
授業時間外の学習	保育実習等において、乳児の様子を観察し積極的に関わりながら発達理解を深める。 適宜、指示されたレポート等を提出する。
評価方法	授業後のレポート及び課題レポート：70%、授業への参加意欲・態度：30%に基づき総合的に評価する。 遠隔授業になった場合も、評価方法に変更はない。
テキスト	教科書を使用せず、必要に応じて資料等を配付する。
参考書	『0・1・2歳児の発達と保育 ～乳幼児の遊びと生活～』乳幼児の発達と保育研究会〔著〕郁洋舎 適時、授業内で紹介する。
備考	諸般の事情により、授業計画が変更になる場合もある。

講義科目名称： 乳児保育Ⅱ

授業コード： 212006

英文科目名称： Baby Childcare Studies 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	2 年次	1 単位	必修
担当教員			
出井芳江 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	乳児保育の歴史や今後の課題について学び、保育の普遍的理論と現代における乳児保育のニーズを捉え、現代に即した保育を考察する。また、3歳未満児の発育・発達過程や特性、養護及び教育の一体性を踏まえた援助の基本的な考え方や計画の作成について理解する。 なお、学習成果の指標は、B-②、③である。 本授業は、対面授業を中心に実施するが、遠隔授業になった場合は、①課題型学修（Google Classroom）と②同時・双方向型学修（Google Meet）とを組み合わせ実施する。
授業計画	1 回目 オリエンテーション（乳児保育Ⅰの復習）・乳児保育の基本 2 回目 0歳児の生活の流れ 3 回目 0歳児の保育環境 4 回目 0歳児の援助 5 回目 1歳児の生活の流れ 6 回目 1歳児の保育環境 7 回目 1歳児の援助 8 回目 2歳児の生活の流れ 9 回目 2歳児の保育環境 10 回目 2歳児の援助 11 回目 子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮 12 回目 集団での生活における配慮 13 回目 環境の変化や移行に対する配慮 14 回目 長期的・短期的指導計画、及び個別的・集団の指導計画 15 回目 乳児保育Ⅱの総括
到達目標	乳児保育Ⅰで学習したことを基に、乳児保育に求められる知識や技術の理解を深める。 乳児保育の歴史や今後の課題について学び、保育の普遍的理論と現代における乳児保育のニーズを捉え、それに即した保育のあり方を理解する。 3歳未満児の発育・発達過程や特性及び、養護と教育の一体性を踏まえた援助や配慮、関わりの基本的な考え方を理解する。
授業時間外の学習	保育実習等において、乳児の様子を観察し積極的に関わりながら発達理解を深める。 適宜、指示されたレポート等を提出する。
評価方法	授業後のレポート及び課題レポート：70%、授業への参加意欲・態度：30%に基づき総合的に評価する。 遠隔授業になった場合も、評価方法に変更はない。
テキスト	教科書は使用せず、必要に応じて資料等を配付する。
参考書	『0・1・2歳児の発達と保育 ～乳幼児の遊びと生活～』乳幼児の発達と保育研究会〔著〕郁洋舎 適宜、授業内で紹介する。
備考	諸般の事情により、授業計画が変更になる場合もある。

講義科目名称： 子どもの健康と安全

授業コード： 152009

英文科目名称： Children's Health and Safety

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	2 年次	1 単位	必修
担当教員			
阿部淳子 講師			
添付ファイル			

授業の概要	子どもの心身の成長、発達、保育者を含めた保育環境が大きな影響を与える。乳幼児にとっては一日の大半を過ごす保育施設の環境を整え、子どもが安全に健康に成長・発達するための方法、技術を学ぶ。そこには、健康な乳幼児の発育はもちろん、アレルギー疾患や発達障害をもつ子どもへの援助方法、事故予防、救急対応についても含まれる。そして、時代、社会の変化に伴った多様化した家庭環境の変化の中の親子関係にも目を向けて、子どもが安全に健やかに成長していくための方法、技術を学ぶ。 本授業は、対面授業を中心に実施するが、遠隔授業になった場合は、課題学修(「Google Classroom」を利用)として実施する。 学習成果の指標は、B-②である。
授業計画	1 回目 子どもの健康と保育の環境 現代の子どもを取り巻く環境と子どもが安全に健康に過ごすための保育環境について学ぶ。 2 回目 保育における健康及び安全の管理 施設内の環境、施設外の環境と衛生管理について学ぶ。 3 回目 子どもの健康の評価 子どもの健康評価のための体温、呼吸、脈拍の正しい測定法を学び、子どもの健康観察ができるようになる。 4 回目 子どもに起こりやすい事故、事故予防、安全対策 乳幼児に起こりやすい事故その原因、予防について学ぶ。 5 回目 子どもの体調不良に対する適切な対応① 子どもに起こりやすい体調不良とケアについて学ぶ。 6 回目 子どもの体調不良に対する適切な対応② 子どもに起こりやすい事故の応急処置について学ぶ。 救急処置及び蘇生法。 7 回目 感染症対策① 感染症発生の経路と対応 8 回目 感染症対策② 感染症予防の基本と予防接種 9 回目 保育における保健的対応① 保育における保健的対応の基本的考え方 1 0 回目 保育における保健的対応② 養護の実際を学ぶ (安全な抱き方・寝かせ方・排泄の世話・身体の清潔とスキンケア) 1 1 回目 保育における保健的対応③ 食事の世話 (調乳・離乳食の進め方、与え方と注意点) 子どもの成長・発達評価のための身体計測について学ぶ。 1 2 回目 演習授業 安全に保育するための技術 (身体計測・検温・抱き方・オムツ交換・調乳・沐浴など) 1 3 回目 健康及び安全の管理の実施体制① 職員間の連携と組織的取り組み 保育活動の計画 1 4 回目 健康及び安全の管理の実施体制② 母子保健・地域保健における自治体との連携 1 5 回目 まとめ
到達目標	乳幼児が成長発達途上にあり、心身ともに健康に発育するためには周囲の人々が子どもの環境を整えられ、安全に対しての対策を整えられてこそ健やかに育っていくことを理解して、その養護の方法が実施できる。
授業時間外の学習	買い物などで外出した時に子どもを連れた親子や公園で遊ぶ子どもを観察したり、動き回る子どもの様子を見て年齢の違いによる子どもの動きや体格、服装、など観察をすることで子どもの理解を深めていく。
評価方法	平常点(小テストを含む70%)とレポート(20%)、授業への参加意欲(10%)により評価する。 遠隔授業の時間が過半数時間を超えた場合は、レポート+小テスト(70%:対面授業と遠隔授業の割合により決める)授業への参加意欲(30%)とする。
テキスト	「子どもの健康と安全」中根淳子、佐藤直子 編著 ななみ書房
参考書	「子どもの健康と安全」大西文子 編集/執筆 中山書店 「子どもの保健.実習」すこやかな育ちをサポートするために 兼松百合子・荒木暁子・羽室俊子 編著 同文書院

備考	
----	--

講義科目名称： 障害児保育 I

授業コード： 232013

英文科目名称： Early Childhood Special Needs Education 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	1 単位	必修
担当教員			
人見ケエ子 講師			
添付ファイル			

授業の概要	幼稚園教員・保育士の免許・資格の取得をめざし (1)「保育所保育指針」「認定こども園教育・保育要領」「幼稚園教育要領」に基づき障害児保育・教育の実際を理解できることをめざす。 (2)・障害の特性や発達に適切に把握し判断する能力を育てることができる。 ・子どもの障害や発達に適切に対応できる実践的指導力を身につけることができる。 ・障害のある子どもの保護者や同僚とのコミュニケーションを適切に図る能力や協働性を身につけることができる。 なお、学習成果の指標はB-②である。 本授業は、対面授業を中心に実施するが、遠隔授業になった場合は、課題学修（「Google Classroom」を利用）を行う。		
授業計画	1 回目 特別支援教育と障害児保育の現状 （歴史と制度の概要及び現状） 2 回目 障害児保育の概要 3 回目 障害の特性と理解・発達援助 （1） 知的障害①（理解） 4 回目 障害の特性と理解・発達援助 （2） 知的障害②（支援と演習） 5 回目 障害の特性と理解・発達援助 （3） 自閉症・自閉症スペクトラム障害①（理解） 6 回目 障害の特性と理解・発達援助 （4） 自閉症・自閉症スペクトラム障害②（支援と演習） 7 回目 障害の特性と理解・発達援助 （5） 注意欠如多動症①（理解） 8 回目 障害の特性と理解・発達援助 （6） 注意欠如多動症②（支援と演習） 9 回目 障害の特性と理解・発達援助 （7） 言語障害・学習障害（理解と支援） 10 回目 障害の特性と理解・発達援助 （8） （1）から（7）について理解と支援のまとめ 11 回目 障害の特性と理解・発達援助 （9） 視覚障害・聴覚障害の理解と支援 12 回目 障害の特性と理解・発達援助 （10） 肢体不自由・病弱の理解と支援 13 回目 その他の特別な教育的支援を必要とする乳幼児の理解と支援 14 回目 障害児保育と自立活動の支援の実際 15 回目 これからの障害児保育における主体的な学びの実践 学修のまとめと振り返り		
到達目標	・様々な障がい児の特性や発達について理解し、保育の中で障がい児に対してどのように対応すればよいか説明することができる。 ・グループディスカッションやグループワーク活動に積極的に参加し、協働意識やコミュニケーション能力を身につけ、授業内容に積極的に向かい協働意識・参加意識を身につける。		
授業時間外の学習	幼稚園、保育園及び施設の観察、実践交流、積極的な保育現場へのボランティア活動を通して、障害児及び支援の必要な乳幼児と積極的に関わる。		
評価方法	授業への参加意欲・態度：30%、定期試験70%（定期試験中止の場合；レポート等の提出物・小テスト70%。遠隔授業の場合でも同じ）に基づき総合的に評価する。		
テキスト	「教科書を使用せず」		
参考書	授業時に適宜紹介する		
備考	諸般の事情により、授業計画を変更する場合があります		

講義科目名称： 障害児保育Ⅱ

授業コード： 142010

英文科目名称： Early Childhood Special Needs Education 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	2 年次	1 単位	必修
担当教員			
人見ケエ子 講師			
添付ファイル			

授業の概要	現在、幼稚園・認定こども園・保育所等においては、障がいのある子どもをはじめ、特別な支援を必要とする子どもたちの受け入れがすすんでいる。本授業では、幼稚園教員や保育士を目指す学生に「障害や子どもの発達について理解する能力」「個々の子どもの障害や特性に適切な指導で対応できる能力」「子どもの将来を見通した適切な対応実践力」また、「障害のある子どもの保護者と適切なコミュニケーションを図る能力や同僚と協力して対応する協働性」を育てることをめざす。 なお、学習成果の指標はB-②である。 本授業では、対面授業を中心に実施するが、遠隔授業になった場合は、課題学修（「Google Classroom」を利用）を行う。		
授業計画	1 回目 障害児保育の現状と実際 インクルーシブ教育システムを含めた障害児保育のあり方 2 回目 障害児保育の実際（1）個々の発達を促す生活や遊びの環境 3 回目 障害児保育の実際（2）子ども同士のかかわりと育ち、保育者間の協働 4 回目 障害のある子どものいる保育（1） 保育所 5 回目 障害のある子どものいる保育（2） 幼稚園 認定こども園 6 回目 障害のある子どものいる保育（3）療育施設の種類と指導の実際 7 回目 実践事例検討（1） パニック 注意 乱暴 集団困難 8 回目 実践事例検討（2） 切り替え こだわり 行事をめぐっての諸問題 9 回目 家族及び関係機関との連携（1）保護者 兄弟姉妹 10 回目 家族及び関係機関との連携（2）地域の専門機関 11 回目 発達支援と5歳児観察・巡回相談・就学相談及び就学支援 12 回目 自立活動の支援の実際 13 回目 個別の教育支援計画・個別指導計画の必要性和作成（1） 14 回目 個別の教育支援計画・個別指導計画の必要性和作成（2） 15 回目 これからの保育者における主体的な学びの実践 学修のまとめと振り返り		
到達目標	障害児保育Ⅰで学んだ障害に関する諸理論をふまえ、 ・一人ひとりのニーズに応じた保育を理解し具体的な支援方法を表現することができる。 ・障害児保育を充実させるため、保育者間の連携・協働のあり方について考えたり、関係機関や家庭との連携について理解したりし自己の学びを相対化できる。 ・保育カンファレンスの形式を用いたグループディスカッションやグループワーク等の演習的な活動に積極的に参加しインクルーシブ保育実践について理解し協働意識や参加意識を身につけることができる。		
授業時間外の学習	幼稚園及び保育園、認定こども園、施設実習で接した障がい児及び支援を必要とする乳幼児に対して有効な援助の方法を考え積極的ににかかわる。		
評価方法	授業への参加意欲・態度：30%、定期試験：70%、（定期試験中止の場合レポート提出物・小テスト：70%）に基づき総合的に評価する。遠隔授業でも同じ。		
テキスト	「教科書を使用せず」		
参考書	授業時に適宜紹介する。		
備考	諸般の事情により、授業計画を変更する場合があります。		

講義科目名称： 社会的養護Ⅱ

授業コード： 131007

英文科目名称： Social Protective Care 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	2 年次	1 単位	必修
担当教員			
熊倉志乃 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	児童家庭福祉、社会的養護で学んだ基本的知識を踏まえ、児童福祉施設・里親で暮らす子どもたちの最善の利益のために、専門職としての保育士がどのように支援するかを学ぶ。児童養護の基本的な理解を深め、施設養護・家庭養護の現状を把握し、それぞれの環境下にある児童の自立に向けての具体的な支援内容と方法を考える。 なお、学習成果の指標は、B-②である。 遠隔授業を実施する場合には②同時・双方向型学修（「GoogleMeet」を利用）と③オンデマンド型学修を組み合わせ実施する。
授業計画	1 回目 社会的養護における子どもの理解 2 回目 日常生活支援 3 回目 治療的支援 4 回目 施設養護の生活特性及び実際 5 回目 自立支援 6 回目 家庭養護の生活特性及び実際 7 回目 アセスメント 8 回目 個別支援計画の作成 9 回目 記録及び自己評価 1 0 回目 保育の専門性に関わる知識・技術とその実践 1 1 回目 社会的養護に関わる相談援助の知識・技術 1 2 回目 社会的養護に関わる相談援助の実践 1 3 回目 社会的養護における事例検討 1 4 回目 社会的養護における家庭支援 1 5 回目 社会的養護の課題と展望
到達目標	社会的養護下の児童の最善の利益のために、保育士が果たす役割について理解することができる。 施設養護、家庭養護の現状を把握し、児童の自立に向けての具体的な支援内容と方法を考えることができる。
授業時間外の学習	新聞紙上等で児童福祉に関連する記事について、多角的に調べ自分の意見をまとめる。 テキストの中で授業内容に該当する章を読み、重要事項を各自復習する。 授業で学んだ観点を施設実習に生かす。
評価方法	授業への参加意欲：20%、課題提出：50%、筆記試験：30%等を基に総合的に評価する。 遠隔授業に変更した場合は、授業への参加意欲：30%、課題提出70%にて評価する。
テキスト	新基本保育シリーズ『社会的養護Ⅱ』（中央法規出版, 2019年）
参考書	
備考	

講義科目名称： 子育て支援

授業コード： 242011

英文科目名称： Support for Child Rearing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	2 年次	1 単位	必修
担当教員			
出井芳江 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	保育者の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に理解する。 子育て支援について、様々な場や対象に即した内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。 なお、学習成果の指標はB-②、③である。 本授業は、対面授業を中心に実施するが、遠隔授業になった場合は、課題型学修（「Google Classroom」を利用）と同時・双方向型学修（「Google Meet」を利用）とを組み合わせる。
授業計画	1 回目 子育て支援とは（講義全体の概要説明） 2 回目 現代の家庭を取り巻く社会状況や子育て家庭に関わる諸問題について 3 回目 親子関係を形成するコミュニケーションツール 4 回目 保育とソーシャルワーク 5 回目 事例から学ぶ保育現場における子育て支援 6 回目 事例から学ぶ地域子育て支援の内容と方法 7 回目 子育て支援における地域、関係機関との連携・協働 8 回目 障害のある子どもとその家族、家庭への支援 9 回目 子ども虐待や不適切な子育て等に関わる支援 1 0 回目 子育て支援の現状を考える 1 1 回目 保護者理解と信頼関係の構築 1 2 回目 保育者が行う子育て支援の展開と実践（記録・評価・ケース会議） 1 3 回目 諸外国の子育て支援 1 4 回目 職員間の連携と協働 1 5 回目 子育て支援の今後に向けて
到達目標	子育て支援に必要とされる基礎的概念を学び、保護者との信頼関係の大切さを理解する。また、具体的展開方法についての理論と技術や事例分析を通して、保育における支援のあり方について理解を深める。 保育現場で向き合う様々なケースについて知識を深め、専門職としての保育者の責務を理解する。
授業時間外の学習	子育て支援のこれまでの経緯を踏まえて現状を理解し、国の支援策について関心を持つ。 適宜、指示されるレポート等を提出する。
評価方法	授業後のレポート及び課題レポート：70%、授業への参加意欲・態度：30%に基づき総合的に評価する。 遠隔授業になった場合も、評価方法に変更はない。
テキスト	教科書を使用せず、必要に応じて資料等を配付する。
参考書	適宜、授業内で紹介する。
備考	諸般の事情により、授業計画が変更になる場合もある。

講義科目名称： 保育実習指導 I A

授業コード： 132012

英文科目名称： Guidance of Practical Training 1A

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	1 年次	1 単位	必修
担当教員			
星 雄一郎准教授 出井芳江准教授			
添付ファイル			

授業の概要	保育実習の意義、目的、内容を理解し、実習生としての姿勢や態度を十分理解した上で、実習に対する意欲と目的意識を高める。また、実習に際しての必要な知識・技術を習得するとともに、目標を持って実習ができるように課題を明確にする。 なお、学習成果の指標はB-②である。 本講義は、対面授業を中心に実施する。また、学修内容に応じて、Google Classroom を活用し、反転学習などの多様な学修を実施する場合がある。 また、遠隔講義が必要となる状況になった場合は、Google Meet などを用いた②同時・双方向型学修を中心に実施し、Google Classroom などを用いた①課題型学修・③オンデマンド型学修を組み合わせる。
授業計画	1 回目 オリエンテーション（担当者：出井・星） 2 回目 保育実習の意義、目的、内容（担当者：出井） 3 回目 実習園・施設の理解 （1） 保育所① 乳児（担当者：星） 4 回目 実習園・施設の理解 （2） 保育所② 幼児①（担当者：星） 5 回目 実習園・施設の理解 （3） 保育所③ 幼児②（担当者：星） 6 回目 実習園・施設の理解 （4） 児童福祉施設等（担当者：出井） 7 回目 実習園・施設の理解 （5） 保育士の役割と専門性（担当者：出井） 8 回目 保育実習の段階と方法（担当者：星） 9 回目 保育実習の目標と課題のたて方（担当者：星） 10 回目 保育実習での基本的接遇と心構え（担当者：出井） 11 回目 保育実習の記録について （1） 種類と配慮（担当者：出井） 12 回目 保育実習の記録について （2） 方法と留意点（担当者：出井） 13 回目 観察について （1） 方法と留意点（担当者：星） 14 回目 観察について （2） 記録と振り返り（担当者：星） 15 回目 まとめと補足（担当者：出井・星）
到達目標	保育実習に必要な知識や観察記録の意味理解、作成方法を習得することができる。 また、ロールプレイングによる体験型学習により、どのように子どもたちと向き合い、かかわり、寄り添っていくべきかを考察していくことができる。 本講義は、対面授業を中心に実施する。また、学修内容に応じて、Google Classroom を活用し、反転学習などの多様な学修を実施する場合がある。 また、遠隔講義が必要となる状況になった場合は、Google Meet などを用いた②同時・双方向型学修を中心に実施し、Google Classroom などを用いた①課題型学修・③オンデマンド型学修を組み合わせる。
授業時間外の学習	講義時間外での学習を求める。以下の項目について、各自積極的に学修を行い、積極的に学びを深めること。 1. 日頃から挨拶、返事、姿勢に気をつけて行動する。 2. ピアノの練習をする。手遊び、エプロンシアタのレパートリを増やす。 3. 幼稚園や保育所の観察体験をもとにして、日誌を作成する。 4. 教材研究をし、指導案を作成する。 5. 板書の練習をする。 6. 保育園及び施設観察、積極的な保育現場でのボランティア活動を通して保育士の役割、子どもたちへの関わり方について積極的に考える。

評価方法	授業への参加意欲・態度：50%、レポート等の提出物：50%に基づき総合的に評価する。
テキスト	厚生労働省編『保育所保育指針解説書』（フレーベル館 2018 年） 柏女霊峰監修、全国保育士会編『全国保育士会倫理綱領ガイドブック』（全国社会福祉協議会 2018 年）
参考書	授業時に指示する。
備考	※保育実習終了までに、ガイダンス・講師講演・報告会・引継ぎ会等の実習に関わる内容を含む講座を受講する。また、諸般の事情により、授業計画を変更する場合もある。

講義科目名称： 保育実習指導 I B

授業コード： 243010

英文科目名称： Guidance of Practical Training 1B

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	1 単位	必修
担当教員			
星 雄一郎准教授 出井芳江准教授			
添付ファイル			

授業の概要	体験的カリキュラムにある実際の体験を通して質の高い実践力のある保育士としての自覚につなげる。また、個別と全体の事後指導における実習のふりかえりや自己評価をもとに、今後の学習課題を明確にする。なお、学習成果の指標はB-②である。 本講義は、対面授業を中心に実施する。また、学修内容に応じて、Google Classroom を活用し、反転学習などの多様な学修を実施する場合がある。また、遠隔講義が必要となる状況になった場合は、Google Meet などを用いた②同時・双方向型学修を中心に実施し、Google Classroom などを用いた①課題型学修・③オンデマンド型学修を組み合わせる。
授業計画	1 回目 保育の実際（１）（担当者：出井） 2 回目 保育の実際（２）（担当者：出井） 3 回目 日誌について （１） 種類と方法（担当者：出井） 4 回目 日誌について （２） ロールプレイング① 保育所①（担当者：出井） 5 回目 日誌について （３） ロールプレイング② 保育所②（担当者：出井） 6 回目 実習園での子ども理解 （１） ロールプレイング③ 保育計画（担当者：星） 7 回目 実習園での子ども理解 （２） ロールプレイング④ 模擬保育（担当者：星） 8 回目 実習園での子ども理解 （３） ロールプレイング⑤ 記録と振り返り（担当者：星） 9 回目 実習園・施設での子ども及び利用者理解 （４） 児童福祉施設及び障害者福祉施設①（担当者：星） 1 0 回目 実習園・施設での子ども及び利用者理解 （５） 児童福祉施設及び障害者福祉施設②（担当者：星） 1 1 回目 日誌について （４） ロールプレイング⑥ 保育計画（担当者：星） 1 2 回目 日誌について （５） ロールプレイング⑦ 模擬保育（担当者：星） 1 3 回目 日誌について （６） ロールプレイング⑧ 記録と振り返り（担当者：出井） 1 4 回目 直前準備指導・実習服務心得・留意事項（担当者：出井・星） 1 5 回目 全体事後指導 自己評価と自己課題（担当者：出井・星）
到達目標	保育実習に必要な知識や実習日誌の意味理解、作成方法を習得することができる。また、ロールプレイングによる実際の体験を想定した学びを通して乳幼児の理解を深め、どのように向き合い、かかわり、寄り添っていくかを考えることができる。実習日誌を書く力を身につける。
授業時間外の学習	講義時間外での学習を求める。以下の項目について、各自積極的に学修を行い、積極的に学びを深めること。 1. 日頃から挨拶、返事、姿勢に気をつけて行動する。 2. ピアノの練習をする。手遊び、エプロンシアタのレパートリーを増やす。 3. 幼稚園や保育所の観察体験をもとにして、日誌を作成する。 4. 教材研究をし、指導案を作成する。 5. 板書の練習をする。
評価方法	授業への参加意欲・態度：50%、レポート等の提出物：50%に基づき総合的に評価する。
テキスト	厚生労働省編『保育所保育指針解説書』（フレーベル館 2018 年）

	柏女霊峰監修、全国保育士会編『全国保育士会倫理綱領ガイドブック』（全国社会福祉協議会 2018 年）
参考書	授業で紹介する。
備考	※保育実習終了までに、ガイダンス・講師講演・報告会・引継ぎ会等の実習に関わる内容を含む講座を受講します。また、諸般の事情により、授業計画を変更する場合があります。

講義科目名称： 保育実習指導Ⅱ・Ⅲ

授業コード： 143010

英文科目名称： Guidance of Practical Training 2・3

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	2 年次	1 単位	必修
担当教員			
星 雄一郎准教授 出井芳江准教授			
添付ファイル			

授業の概要	既習の教科や体験的カリキュラムにある実際の体験、保育実習Ⅰの経験を通して質の高い実践力のある保育士としての自覚につなげる。また、個別と全体の事後指導における実習の総括や自己評価をもとに、今後の学習課題を明確にする。 本講義の学習成果の指標はB-②，③である。 本講義は、対面授業を中心に実施する。また、学修内容に応じて、Google Classroom を活用し、反転学習などの多様な学修を実施する場合がある。 また、遠隔講義が必要となる状況になった場合は、Google Meet などを用いた②同時・双方向型学修を中心に実施し、Google Classroom などを用いた①課題型学修・③オンデマンド型学修を組み合わせる。
授業計画	1 回目 保育実習Ⅰからの課題（担当者：星） 2 回目 保育実習Ⅱ・Ⅲに向けた課題 ねらいと内容、課題設定（担当者：星） 3 回目 指導計画案について （1） 方法と留意点（担当者：出井） 4 回目 指導計画案について （2） 子どもの実態（担当者：出井） 5 回目 指導計画案について （3） ねらい・内容（担当者：出井） 6 回目 指導計画案について （4） 環境構成（担当者：出井） 7 回目 指導計画案について （5） かかわり・留意点（担当者：出井） 8 回目 指導計画案について （6） 教材研究（担当者：出井） 9 回目 実習園・施設での子どもの理解 児童福祉施設（担当者：星） 10 回目 実習施設での利用者理解 障害者福祉施設（担当者：星） 11 回目 責任実習について （1） 模擬保育①（低年齢）（担当者：星） 12 回目 責任実習について （2） 模擬保育②（高年齢）（担当者：星） 13 回目 直前準備指導（担当者：出井・星） 14 回目 保育実習のふりかえり 報告と反省 自己評価と自己課題（担当者：出井・星） 15 回目 全体事後指導 総括（担当者：出井・星）
到達目標	保育実習に必要な知識や指導計画案の意味理解、作成方法を習得する。また、模擬保育や教材研究等の体験を通して、保育への理解を深め、乳幼児及び保護者に対して、どのように向き合い、かかわり、寄り添っていくかを考える。
授業時間外の学習	講義時間外での学習を求める。以下の項目について、各自積極的に学修を行い、積極的に学びを深めること。 1. 日頃から挨拶、返事、姿勢に気をつけて行動する。 2. ピアノの練習をする。手遊び、エプロンシアタのレパートリーを増やす。 3. 幼稚園や保育所の観察体験をもとにして、日誌を作成する。 4. 教材研究をし、指導案を作成する。 5. 板書の練習をする。 6. 保育に必要な絵本や紙芝居の読み聞かせ、手遊び歌、製作課題など、保育場面で必要な技術を自主的に身につける。
評価方法	授業への参加意欲・態度：50%、課題・レポートの提出物：50%に基づき総合的に評価する。

テキスト	『保育所保育指針解説書』厚生労働省編・フレーベル館『全国保育士会倫理綱領ガイドブック』柏女霊峰監修、全国保育士会編・全国社会福祉協議会
参考書	講義中に適宜紹介する。
備考	※保育実習終了までに、ガイダンス・講師講演・報告会・引継ぎ会等の実習に関わる内容を含む講座を受講します。また、諸般の事情により、授業計画を変更する場合があります。

講義科目名称： 保育教職実践演習

授業コード： 233029

英文科目名称： Practical Seminar of Teacher Training

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	2 年次	2 単位	必修
担当教員			
名取初穂准教授 星雄一郎准教授 出井芳江准教授 平岡秀美講師			
添付ファイル			

授業の概要	教職課程科目・保育士養成課程科目の履修や教育実習・保育実習を通して得た保育者として必要な知識技能が確実に身に付いているかを確認する。 特別支援学校での現地調査を行う。 各自の自己課題についてグループ討論やロールプレイング等を通して省察し実践力を高める。 なお、学習成果の指標はB-②、③である。 遠隔授業になる場合は、課題型学修（Google Classroomを利用）あるいは同時・双方向型学修（Google Meetを利用）となる。
授業計画	1 回目 ガイダンス・履修カルテの確認 2 回目 グループ別ワークのグルーピング及び事前指導 3 回目 特別支援学校観察の事前研究 4 回目 特別支援学校観察 ① 校内観察 5 回目 特別支援学校観察 ② 授業参観 6 回目 特別支援学校観察 ③ 事後研究、振り返り 7 回目 グループ別ワーク・模擬保育・ケーススタディの研究 【A 問題状況の把握】 8 回目 グループ別ワーク・模擬保育・ケーススタディの研究 【B 課題の設定】 9 回目 グループ別ワーク・模擬保育・ケーススタディの研究 【C 課題の仮説】 1 0 回目 グループ別ワーク・模擬保育・ケーススタディの研究 【D 課題の仮説の検証】 1 1 回目 グループ別ワーク・模擬保育・ケーススタディの研究 【E 応用】 1 2 回目 グループ別ワーク・模擬保育・ケーススタディの研究 【F 展開】 1 3 回目 総合発表 1 4 回目 ゲストティーチャーワークショップ 1 5 回目 まとめ、自己評価と今後の学習課題の把握、履修カルテの確認
到達目標	特別支援学校等の観察を通して、教育が意義深いものであるかを理解する。 模擬保育やディスカッションを通して乳幼児の主体性を重視した保育ができるようになる。また幼児理解を深め、保育者の援助を追究することから教育や保育の魅力を探求することができる。 自己課題を把握し、グループで協力して課題解決をはかることができる。 2年間の学びを省察し、不足している知識・技能を補うことができる。
授業時間外の学習	教職履修カルテの記入。 グループの課題の探求。 総合発表の資料づくり。
評価方法	グループ活動が主になるので、グループの担当教員がレポートや実践記録を含む履修カルテやレポートの提出（50%）、主体的かつ共同的な学びへの態度（50%）に基づき総合的に評価する。 遠隔授業になった場合も評価方法に変更はない。
テキスト	必要に応じて資料等を配付する。
参考書	適宜、授業内で紹介する。

備考	諸般の事情により授業計画を変更する場合がある。
----	-------------------------

講義科目名称： 保育実習Ⅱ・Ⅲ

授業コード：

英文科目名称： Practical Training in Nursery School 2・3

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2 年次	2 単位	必修
担当教員			
星 雄一郎講師 出井芳江講師			
添付ファイル			

授業の概要	
授業計画	
到達目標	
授業時間外の学習	
評価方法	
テキスト	
参考書	
備考	

講義科目名称： 子育ての歴史

授業コード： 133017

英文科目名称： History of Child Rearing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	2 年次	2 単位	選択
担当教員			
平岡秀美 講師			
添付ファイル			

授業の概要	本講義には、1年次科目「保育原理」あるいは「教育原理」からの継続的・発展的内容を取り扱うという意図がある。特に「保育原理」では、子どもを育てるということを、とりわけ初期教育制度としての保育という営みに焦点化して取り扱った。だが、子どもを育てるということは、文字通りそれに留まる概念ではない。本講義では、1年次で学んだ初期教育制度（就学前教育制度）としての保育と関連づけながらも、それ以外の「子育て」の歴史についても含め、より広義に考察していく。初期教育制度以外で行われる「子育て」といわれると「親による子育て」を真っ先に連想する人が多いかもしれない。しかし本講義では、日本における「子育て」の歴史を概観した上で、「子育て」を「親業」とする社会認識を再考し、「アロマザリング」（「母親以外の個体による世話」）の枠組みから、「子育て」についてより広義に把握することを目指す。これにより、履修者が、既存の「子育ての歴史」を相対化し、「子育て」に対する自らの考えを持つことができるということを、本講義は最終的に目指す。（原則対面形式。遠隔の場合は、同時・双方型学修（Meetを利用）。学習成果の指標は、A-①、③とB-①、③。）
授業計画	1 回目 2022年度の「子育ての歴史」の講義計画と本講義の進め方（オリエンテーション） 2 回目 「子育て」と「子育て支援」の語られ方 参考図書第6章 3 回目 日本における幼児教育と成立と子育ての課題 参考図書9章第3節 4 回目 責任・担い手の変容から見る「子ども観」と「子育て」 丹治恭子(2016)「第5章 子どもとはいかなる営みか」、岡本智周、丹治恭子、平野直子、熊本博之、笹野悦子、麦倉泰子、和田修一、坂口真康、大黒屋貴稔『共生の社会学』、太郎次郎社エディタス。 5 回目 歴史の中のアロマザリング 教科書第4章 6 回目 アロマザリングの文化比較 教科書第5章 7 回目 愛着からソーシャル・ネットワークへ 教科書第6章 8 回目 父親によるアロマザリング 教科書第7章 9 回目 アロマザリングを阻む文化 教科書第8章 1 0 回目 保育園におけるアロマザリング 教科書第9章 1 1 回目 子どもの安全とアロマザリング 教科書第10章 1 2 回目 祖父母によるアロマザリング 教科書第11章 1 3 回目 養子縁組における育て親のアロマザリング 教科書第12章 1 4 回目 子育て支援の実践とこれからの子育て 教科書第13章 1 5 回目 本授業の総括と質疑応答
到達目標	(1) 日本の「子育て」の基礎的な歴史について、その概要を説明することができる。 (2) 上記の「子育ての歴史」を相対化し、「子育て」に対する自らの考えを持つことができる。
授業時間外の学習	本授業は、テキスト理解をもとにした議論による読書会形式を採用する。詳細は第一回授業の際に説明するが、受講者には、各回授業に備えて、教科書や参考資料の指定箇所を精読し、疑問点や論点を複数考え、それをclassroomに投稿しておくことが求められる。この授業時間外学習には、おおよそ1時間半の時間を要することが予想される。
評価方法	各回授業に向けての疑問点・論点の提示（56%）、書評レポート（44%）等をもとに評価する。遠隔で授業を行わなければならなかった場合も同様とする。
テキスト	根ヶ山光一・柏木恵子 編著（2010）『ヒトの子育ての進化と文化：アロマザリングの役割を考える』有斐閣。
参考書	岡本智周、丹治恭子、平野直子、熊本博之、笹野悦子、麦倉泰子、和田修一、坂口真康、大黒屋貴稔（2016）

	『共生の社会学』、太郎次郎社エディタス。 ※その他、授業内で適宜推薦します。
備考	一年次科目「保育原理」（あるいは「教育原理」）の内容を前提に進める場合が多くあることを想定しています。もちろん必須ではありませんが、「子育ての歴史」履修にあたっては、事前に「保育原理」か「教育原理」を履修していることが望ましいと考えます。都合により「保育原理」か「教育原理」が履修ができない場合は、担当教員に事前にメールにてご相談ください。

講義科目名称： 地域福祉論

授業コード： 153010

英文科目名称： Community Welfare Theory

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	2 年次	2 単位	選択
担当教員			
野城 尚代 講師			
添付ファイル			

授業の概要	少子・高齢社会のなか、持続可能な社会保障制度をどのように構築していくかが議論されている。各地域で生活者が自分らしくより良く生きるためにはどのような福祉サービスが必要であろうか。本授業では生活者の視点から地域福祉について考えていく。なお、学習成果の指標はB-②と③である。 本授業は対面授業とするが、遠隔授業になった場合は①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と②同時・双方型学修（「Google meet」を利用）を組み合わせ実施する。
授業計画	1 回目 地域福祉とは 2 回目 地域福祉の主体 3 回目 少子・高齢社会と世帯構造の変化 4 回目 多様な福祉ニーズと社会的包摂 5 回目 事例①地域交流 6 回目 事例②食を通じた支援 7 回目 事例③困窮支援 8 回目 事例④福祉体験 9 回目 事例⑤多様性理解 1 0 回目 地域福祉に見る連携（意義、効果） 1 1 回目 地域福祉にみる連携（高齢者福祉、介護保険等） 1 2 番目 地域福祉に関する制度・政策①行政、団体等 1 3 回目 地域福祉に関する制度・政策②地域福祉権利擁護事業等 1 4 回目 地域福祉に関する制度・政策③生活福祉資金、共同募金等 1 5 回目 地域福祉の課題
到達目標	「地域福祉」を理解し、地域福祉に関わる福祉制度・政策を説明することができる。地域におけるさまざまな福祉の活動主体を具体的に説明できる。地域の福祉活動について、自ら調べて理解を深める。
授業時間外の学習	事前にテキストを精読し、わからない専門用語を調べてノートにまとめておく。任意の自治体のホームページにアクセスして、福祉に関する情報を得る。
評価方法	授業時の小レポートと課題を50%、期末レポートを50%とし、総合的に評価する。
テキスト	東京都社会福祉協議会『チームで取り組む地域共生社会づくり』東京都社会福祉協議会、2022年4月。 適宜、資料の閲覧（行政、社会福祉協議会のホームページ等）を指示する。
参考書	授業時に指示する。
備考	

講義科目名称： 乳幼児のためのリトミック

授業コード： 153011

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	2 年次	2 単位	選択
担当教員			
阿久津清美 講師			
添付ファイル			

授業の概要	リトミック教育を通して、単に音楽の向上だけではなく、保育、幼児教育の場における音楽の意味及び重要性を考えながら、音楽活動や表現活動に必要な知識、技能、実践力を身につけることができる。 学習成果の指標はB-②である。 遠隔授業を実施する場合は、①課題型学修(「GoogleClassroom」を利用)と②同時・双方向型学修(「GoogleMeet」を利用)とを組み合わせる。
授業計画	1 回目 オリエンテーション 乳幼児とリトミックについて 2 回目 基礎リズムの確認 3 回目 アクセント・拍子 4 回目 音の高低・和音 5 回目 リズムパターン・フレーズ 6 回目 複リズム・リズムカノン・輪唱 7 回目 物語の中での自由な表現①(既成のお話を使つての実践) 8 回目 物語りの中での自由な表現②(創作したお話を使つての実践) 9 回目 休符・補足リズム 1 0 回目 ゲストティーチャーによる乳幼児のリトミックの実践報告 1 1 回目 絵本とリトミック 1 2 回目 拍子①3拍子・8分の6拍子 1 3 回目 拍子②2拍子・4拍子 1 4 回目 乳児のためのリトミック 1 5 回目 まとめ
到達目標	①乳幼児にとっての音楽や遊びを考察すると共に、子どもが音楽を聴いて《感じ取る→考える→行動する》事が出来るように、リトミックの目的を理解することができる。 ②リトミックを実施する中で子どもが社会性、協調性、感受性、積極性、創造性を伸ばせるように指導することができる。
授業時間外の学習	乳幼児が興味、関心を示す教材、教具等への材料研究等を行う。
評価方法	平常点(100%) 遠隔授業に変更した場合も評価方法に変更はない
テキスト	坂本真理子 『こんにちわリトミック さあはじめよう』スタイルノート、2017年
参考書	授業の中で紹介する。 随時プリントを配布する。
備考	

講義科目名称： 音楽と絵本

授業コード： 125005

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	2 年次	2 単位	選択
担当教員			
阿久津清美 講師			
添付ファイル			

授業の概要	①絵本に音楽が加わることで、乳幼児の表現の幅を広げると共に、豊かな感性を引き出せる方法を習得する。 ②絵本を読む時の、選び方、読み方、音楽を使った表現方法などを習得する。 なお、学習成果の指標はB-②である。 遠隔授業を実施する場合は、①課題型学修(「GoogleClassroom」を利用)と②同時・双方向型学修(「GoogleMeet」を利用)とを組み合わせる。
授業計画	1 回目 オリエンテーション 2 回目 動物に関する絵本と音楽 3 回目 乗り物に関する絵本と音楽 4 回目 食べ物に関する絵本と音楽 5 回目 季節に関わる音楽と絵本①春 6 回目 季節に関わる音楽と絵本②夏 7 回目 季節に関わる音楽と絵本③秋 8 回目 季節に関わる音楽と絵本④冬 9 回目 色に関わる音楽と絵本 1 0 回目 ゲストティーチャーによるお話 1 1 回目 行事に関わる音楽と絵本①入学・進級 1 2 回目 行事に関わる音楽と絵本②夏祭り 1 3 回目 行事に関わる音楽と絵本③収穫 1 4 回目 行事に関わる音楽と絵本④クリスマス 1 5 回目 まとめ・復習
到達目標	①子どもに絵本を読むときに、豊かな感性をもって、表情豊かに読むことができる。 ②読み聞かせる際に、子どもの想像力が膨らむような環境を設定することができる。
授業時間外の学習	子どもたちが興味、関心を示す教材、教具等への材料研究等を研究心、探求心を持って行う。
評価方法	平常点(100%) 遠隔授業に変更した場合も評価方法に変わりはない。
テキスト	
参考書	授業の中で紹介する。 随時、プリントを配布する。
備考	

講義科目名称： 子どもの生活と社会

授業コード： 211005

英文科目名称： Children's Life and Society

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	2 単位	選択
担当教員			
都留 寛 教授			
添付ファイル			

授業の概要	特に、SDGs と子どもの生活について解説する。 ①子どもを取り巻く現代社会の様々な事象（問題点や課題を含む）について学習し、多面的に理解し、深く考えることができるようにする。 ②現代的な社会的事象を取り上げ、能動的・協同的・創造的思考方法を体験的に学びながら、様々な課題を解決する技術を解説し、使えるようにする。 ③21世紀を生き抜くために必要だといわれている「新しい能力」について明らかにし、社会事象を読み解く方法について解説する。 尚、学習成果の指標は、B－①と③である。 遠隔授業を実施する場合は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と②同時・双方向学修（「Google meet」を利用）とを組み合わせる実施する。		
授業計画	1 回目	子どもを取り巻く様々な社会的課題 子どもを取り巻く現代社会における諸問題を捉え、自分たちなりに課題を整理したり、解決方法を考えたりして、これからの学習の方向を捉え小レポートにまとめる	
	2 回目	子どもの生活と家族構成の変化 戦前・戦後を通じた家族に中での子どもの役割や位置と、現代の家族に中での子どもの位置や役割とを比較し、子どもが家族に中でのどのように意識され、どのように扱われてきたかを学習し、子どもという存在についての認識を深め、小レポートにまとめる	
	3 回目	子どもの生活と地域社会の変化 地域社会における子どもに対する見方を歴史的に観察することによって、子どもに対する社会の見方が変化してきたことを捉え、子どもが本来持っている権利について深く考えて、小レポートにまとめる	
	4 回目	子どもの生活と政治の変化 待機児童問題や少子化、子どもの貧困など、現代社会の様々な問題を取り上げ、政治的な解決や地域のボランティアの活動などについて知り、小レポートにまとめる	
	5 回目	子どもの生活と農産物 アレルギー等を引き起こす原因物質を子どもに与えないためにどのような農産物を選べば良いかなど、子どもの食に関わる「子どもの生活と農産物のかかわり」について調べ、ディスカッションしながら分析・理解し、小レポートに学習内容を整理する	
	6 回目	子どもの生活と水産物 私たちの知らないところで進んでいる代用魚の取り扱いや近年の魚の変化などを取り上げ、子どもの食に関わる「子どもの生活と水産物のかかわり」について調べ、ディスカッションしながら分析・理解し、小レポートに学習内容を整理する	
	7 回目	子どもの生活と工業製品 子どもの身の回りにある様々な講義用製品を取り上げ、市要否生活センターに届けられた様々な問題と照らし合わせながら、安全で安心して使える工業製品について学習し、「子どもの生活と工業製品のかかわり」について、ディスカッションしながら分析・理解し、小レポートに学習内容を整理する	
	8 回目	子どもの生活と情報社会 情報端末の広がりにより、子どもたちが電波による脳への影響を受けていたり、スマートホンの光による視力への影響を受けていたりするという調査のデータなどから、「子どもの生活と情報社会のかかわり」について調べ、ディスカッションしながら分析・理解し、小レポートに学習内容を整理する	
	9 回目	子どもの生活と高齢化社会 保育園建設に反対する住民運動や児童相談所建設に反対する住民運動など、高齢者の生活と子どもの生活の違いによる様々な問題や家族構成の中での高齢者と子どもの関係、これか背の日本の人口構成と福祉社会のあり方などを取り上げ、「子どもの生活と高齢化社会のかかわり」について調べ、ディスカッションしながら分析・理解し、小レポートに学習内容を整理する	
	10 回目	子どもの生活と自然環境 子どもの身の回りの自然と自然に関わる子どもたちの姿の変化、保護司や世代の自然に対する関わり方と自然観の変化など、「子どもの生活と自然環境のかかわり」について調べ、ディスカッションしながら分析・理解し、小レポートに学習内容を整理する	
	11 回目	子どもの生活と自然災害 東日本大震災を事例に、子どもの教育に携わる人々がどのように子どもたちに関わり、教育の現場を支えてきたかを学習し、「子どもの生活と自然災害のかかわり」について調べ、ディスカッションしながら分析・理解し、小レポートに学習内容を整理する	
	12 回目	子どもの生活と福祉 子どもの貧困や虐待、いじめ等から守られ、保護されるべき子どもたちの実態と様々な活動を通して、子どもたちを守る働きをしている福祉の現場について知り、「子どもの生活と福祉のかかわり」について、ディスカッションしながら分析・理解し、小レポートに学習内容を整理する	
	13 回目	子どもの生活と貧困 子どもの貧困の現状・原因や子ども食堂の活動などについて学び、「子どもの生活と貧困のか	

	かわり」について調べ、ディスカッションしながら分析・理解し、小レポートに学習内容を整理する 1 4 回目 子どもの生活と伝統文化 ・年中行事など日本の伝統的な文化について学習し、「子どもの日本文化とのかかわり」について調べ、ディスカッションしながら分析・理解し、小レポートに学習内容を整理する 1 5 回目 子どもの生活と社会のかかわり ・「子どもの生活と社会のかかわり」について学んだ内容について、ディスカッションしながら分析・理解し、課題レポートに整理し、自分なりの考えをまとめる
到達目標	①「新しい能力」について理解し、説明できる ②「新しい能力を開発する方法」について理解し、使うことができる ③現代社会の諸問題を事例として、「アクティブラーニングやクリエイティブシンキングの方法を使い、自分なりの考えを持つこと」ができる ④様々な課題について「能動的・協同的・創造的に取り組むこと」ができる
授業時間外の学習	①自分なりの意見をディスカッションの中で発言できるように、シラバスの授業内容について、友だちとの会話の話題にしたり、専門家に聞いて調べたりして、自分なりの意見（思いつきでも良い）を持って授業に参加できるように努力すること ②日頃から可能な限り、公共の図書館などを利用して、授業に関連した書籍や情報を進んで調べる努力をすること
評価方法	①毎回の授業の理解についての小レポート（20%） ②ディスカッション・ノート・発表（20%） ③期末レポート（20%） ④学期末の筆記試験（40%） に基づき評価する 遠隔授業へ変更した場合は、 ①毎回の授業の理解度についての小レポート（60%） ②ディスカッション、プレゼンテーション、まとめ（20%） ③期末レポート（20%） に基づいて評価する。
テキスト	必要に応じてその都度プリントを配布する。
参考書	松下 佳代 著 「“新しい能力”は教育を変えるかー学力・リテラシー・コンピテンシー」 ミネルヴァ書房 2010年 ¥4,860 ISBN-10 : 462305859X ISBN-13 : 978-4623058594 GoogleClassroomで資料を公開し、事前・事後の学習に生かせるようにする。
備考	公立学校15年間、附属小学校での社会科教育実戦経験25年間。全国発表会での授業公開50回以上。小学校社会科教科書執筆12年間。海外教育使節団での社会科指導歴10年間の経験を持ち、学習指導要領の改訂に影響を与えた実践を積んできた実績を生かした授業を行う。

講義科目名称： 子ども文化の創造

授業コード： 143011

英文科目名称： Children's Culture Creation

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	1 年次	2 単位	選択
担当教員			
後藤正人 教授			
添付ファイル			

授業の概要	子どもの世界は、本来夢と希望に満ちあふれている。それらは、子どもの遊びの中から容易に伺い知ることができる。社会の急速な変化と価値観の多様化が進む中、人間として力強く生き抜くための重要な基礎となる「子ども文化」について制作活動を通して、具体的に検証し、学習を深め、課題と今後の展望を明らかにしていく。なお、学習成果の指標はB-②である。 本講義科目は、対面授業を中心に実施するが、遠隔になった場合は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と ②同時・双方向型学修（「Google Meet」を利用）とを組み合わせる。
授業計画	1 回目 本授業の目的・内容・計画（オリエンテーション） 2 回目 子ども文化の成立と普及ー子ども文化の意義と課題ー 3 回目 子どもの遊びと生活（子どもが受け継ぐ遊び・創る遊び） 4 回目 遊びと学びと保護者との関わり 5 回目 遊びを疎外する要因 6 回目 テレビの普及による遊びの変化と影響 7 回目 コンピュータゲームの普及による遊びの変化と影響 8 回目 ものを作る活動の意義（ゲスト講師：臨床美術士） 9 回目 折り紙の世界 1 0 回目 童話や絵本の世界 1 1 回目 紙芝居の世界 1 2 回目 身近材（段ボールなど）の再利用における教育的意義 1 3 回目 風やゴムで走る自動車づくりに挑戦 1 4 回目 おもりで動くおもちゃづくりに挑戦 1 5 回目 創造性を開発する遊び（まとめ）
到達目標	社会の急速な変化と価値観の多様化が進む中、子どもが人間として力強く生き抜いていくための重要な基礎となる「子ども文化」について理解を深めていくと同時に子ども文化を創造しながら、子どもの世界についての見方・考え方を一層深めていくことができる。
授業時間外の学習	子どもの世界は、本来夢と希望に満ちあふれている。それらは、子どもの遊びの中から容易に伺い知ることができる。そこで、日頃から、実習などを通して、子どもの遊びに関心をもって、子どもに積極的に接するようにする。
評価方法	「レポート」（60%）および「授業への参加意欲」（40%）を評価基準とする。なお、遠隔授業に変更した場合も概ね評価方法に変更はない。
テキスト	『幼稚園教育要領解説』文部科学省 『保育所保育指針解説書』厚生労働省 『教育の泉6』（後藤正人・文溪堂）
参考書	
備考	その都度、講義資料を配布。 諸般の事情により、授業計画を変更する場合がある。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	2 年次	1 単位	選択
担当教員			
穴澤秀隆 講師			
添付ファイル			

授業の概要	1 年次に学んだ材料や用具などの扱いについては、その知識や技術をさらに高め、総合的に生かすことのできる能力を身につける。 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の示す、領域「表現」のねらいを踏まえ、子どもの発達過程に即した保育の造形表現について考え、理解することにより、保育実習において活かすことのできる実践力を身につける。 本授業は、コロナウイルスによる感染状況の推移によっては、①課題型学修（「Google Classroom」を利用／クラスコード：未定）と②同時・双方向型学修（「Google Meet」を利用）とを組み合わせることも考慮する。なお、学習成果の指標はB-②である。
授業計画	1 回目 オリエンテーション／領域「表現」の概要と子どもの表現 造形・美術教育を学ぶことの意味について学修する。 講師の自己紹介と学生との相互交流を行う。 この授業の目当てと教科の構造について、他教科との比較において学修する。 世界の児童画を鑑賞することにより、児童画の起源と変遷を知り、その表現の特徴や意味について学修する。 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の示す、領域「表現」の概要とその構造について学修する。 2 回目 幼児の絵画表現を理解する制作活動／モダンテクニックの実習（1）／技法の修得と制作 デカルコマニー、マープリング、スパッタリング、フロッタージュ、バチック、スクラッチ、吹き流しなどの技法を実修することにより、絵に表す活動について学修する。 3 回目 幼児の絵画表現を理解する制作活動／モダンテクニックの実習（2）／制作と鑑賞・評価・共同制作 デカルコマニー、マープリング、スパッタリング、フロッタージュ、バチック、スクラッチ、吹き流しなどの技法を実修することにより、絵に表す活動について学修する。 他の受講生と協力して制作を行う。 他の受講生の作品を鑑賞し、批評し合うことにより、他者の表現に関する理解を深める。 4 回目 色彩の原理と色の世界／Water color circle 色の三属性（色相、明度、彩度）や混色、重色、補色など、色彩の基本的な理論と原理について学修する。 色彩に関する理論を応用して、色水による色相環づくりのワークショップを実修する。 5 回目 幼児の絵画表現を理解する制作活動／風景画（1）／紫陽花のスケッチ（太平山あじさい坂にて） 紫陽花の名所として知られている「太平山あじさい坂」にて、紫陽花のスケッチを行う。 屋外での子どもの制作活動に際して、安全面等の配慮すべき事項に関し、体験を通じて学修する。 雨天の場合は無理のない範囲での実施とする。 ただし荒天時は実施を見送り、静物画のスケッチなど、室内での代替えの活動とする。 ※野外での活動となるため、服装や靴に気をつけること。 6 回目 幼児の絵画表現を理解する制作活動／風景画（2）／作品鑑賞会 紫陽花を主題とした作品の完成後、鑑賞会を行い、アートコーディネーターやアートディレクションにも配慮した一貫した表現活動を体験的に学修する。 子どもの作品の展示や保育室内の効果的な壁面装飾等について学修する。 7 回目 幼児の生活と環境構成（1）／暮らしの中のデザインと子ども 幼稚園教育要領「表現」に示されている「生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ」及び、保育所指導指針「表現」に示されている「生活や遊びの様々な体験を通して、イメージや感性が豊かになる」及び、幼保連携型認定こども園教育・保育要領「表現」に示されている、「生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ」に基づき、幼児の環境を快適にするデザインや空間構成について学修する。 子どもたちの身近な商品や製品やファッションやインテリアなどに関心を持ち、子どもの生活環境とデザインについて学修する。 8 回目 幼児の生活と環境構成（2）／色彩文化と子どものデザイン 色の三属性（色相、明度、彩度）や混色、重色、補色など、色彩の基本的な理論と原理について学修する。 色彩に関する理論を応用して、子どもをとり巻くデザイン環境について学修する。 お菓子や食料品、化粧品などの身近なパッケージ・デザインや、それらの広告に注目し、子どもの生活環境とデザインについて学修する。 9 回目 幼児の生活と環境構成（3）／子ども文化のデザインとコミュニケーション 玩具やファッション、インテリアなど子どもの環境を取り巻くデザインとコミュニケーションについて学修する。 幼稚園や保育園、認定こども園などの保育室を楽しくする環境構成や壁面装飾について、実例を元にして学修する。 10 回目 幼児の視覚文化を理解する制作活動／絵本の世界 幼稚園教育要領「言葉」、保育所指導指針「言葉」及び、幼保連携型認定こども園教育・保育要領「言葉」に示されている、「絵本や物語などに親しみ、興味をもって聞き、想像をする楽しさ

	を味わう」に関連して、絵本表現を元に、幼児の視覚文化の理解について学修する。 1 1 回目 幼児の絵画表現を理解する制作活動／人物画を描く（１）／事前鑑賞と制作 幼稚園教育要領「表現」、保育所指導指針「表現」及び、幼保連携型認定こども園教育・保育要領「表現」に示されている、「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」の内容に基づき、様々な描画材を用いて人物を絵に表現することを学修する。 1 2 回目 制作に際しては、事前に、我が国や海外の著名な人物画を鑑賞し、参照する。 幼児の絵画表現を理解する制作活動／人物画を描く（２）／制作と相互鑑賞・評価 前回の授業で学修した内容に基づき、さまざまな描画材を用いて自画像を描く。 完成した作品を鑑賞し、相互に批評し合うことにより、他者の表現に関する理解を深める。 1 3 回目 幼児の立体表現を理解する制作活動／BOX ARTの制作（１）／材料と素材 幼稚園教育要領「表現」、保育所指導指針「表現」に示されている「いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ」、及び、幼保連携型認定こども園教育・保育要領「表現」に示されている「水、砂、土、紙、粘土など様々な素材に触れて楽しむ」に基づいて、立体に表す活動を行う。 様々な素材をコンパイン（統合）させて、新たなイメージの作品を創造することにより、立体による心象表現について学修する。 自分のお気に入りのものや端材を持ち寄って、箱の中に自分だけの世界を創造する。 1 4 回目 制作の過程において、さまざまな素材の特性や加工に用いる道具の扱いについて学修する。 幼児の立体表現を理解する制作活動／BOX ARTの制作（２）／道具と制作・鑑賞と評価 立体による適応表現と心象表現について、それぞれの意義と目的を学修する。 制作の過程において、さまざまな素材の特性や加工に用いる道具の扱いについて学修する。 完成したBOX ARTの作品を相互に鑑賞することにより、立体による適応表現と心象表現について学修する。 1 5 回目 春セメのまとめとディスカッション／ラウンドテーブル 自分が興味・関心がある美術作品、サブカルチャー、視覚・映像文化、商業デザイン、ファッションなどについて、春セメ全般を通じて学修した内容を反映させ発表する。 他の受講生の発表を批評し、ディスカッションをすることにより、主体的・対話的で深い学びについて体験的に学修する。 また、授業は公式（オフィシャル）な場であることから、ディスカッションにおける態度や言葉遣いについても指導する。
到達目標	感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにすることができる。 その際に、保育所保育指針の示す以下の「内容」に注視しながら、自身の経験や技能をより深化させることができるようにする。 - 生活や遊びの中で様々なものに触れ、音、形、色、手触りなどに気付き、感覚の働きを豊かにする。 ※乳児保育に関わるねらい及び内容 - 生活の中で様々な音、形、色、手触り、動き、味、香りなどに気付いたり、感じたりして楽しむ。 ※1歳以上3歳未満児の保育に関わるねらい及び内容 - 生活の中で様々な音、形、色、手触り、動きなどに気付いたり、感じたりするなどして楽しむ。 ※3歳以上児の保育に関するねらい及び内容
授業時間外の学習	1. 資料等の予習 授業で使用する幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領等の資料を事前によく読み込み、毎回の授業に臨むようにする。 2. 日常的な視覚文化情報の収集 与えられた課題等を意識し、日常的に身の回りの視覚文化に関心を持ち、興味ある情報を収集しておく。 3. 自主的な省察 最終時程のラウンドテーブルでの発表に備えて、各自が自主的に研究することにより、主体的で深い学修を实践する。
評価方法	平常点（５０％）、授業への参加意欲（２０％）、作品（３０％）により評価する。 遠隔授業に変更した場合も評価方法は対面授業と同様である。
テキスト	テキスト教科書は使用せず。
参考書	・北沢昌代・畠山智宏・中村光絵『子どもの造形表現 ワークシートで学ぶ』（開成出版、2018年版） ・文部科学省『幼稚園教育要領解説』（平成30年） ・厚生労働省『保育所保育指針解説』（平成30年） ・内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（平成30年）
備考	通常の対面授業の際には、講師の指示により、道具箱「七つ道具」を持参すること。また、その際には、実技的内容を多く取り入れ、幼児の造形表現の指導に必要な「技能」を身に付けることを目指す。 ※「七つ道具」の詳細については、授業の中で説明する。 「七つ道具」の内容例：はさみ、のり、セロハンテープ、木工用ボンド、定規、カッター・カッター版、ホチキス、クレヨン、色鉛筆、マーカーなど。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	2 年次	1 単位	選択
担当教員			
名取初穂 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	これまで学んできた内容の集大成として、自由制作を中心に各自が課題を抽出し、修得した知識と技術をより深化させる機会とする。 前半では特に『水、砂、土、紙、粘土など様々な素材に触れて楽しむ』（※新保育所保育指針：3歳以上児の保育に関するねらい及び内容）ことを意識し、自由にかいたり、つくったりなどする。 後半において、さらに『いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ』（※新保育所保育指針：1歳以上3歳未満児の保育に関わるねらい及び内容）ことに重点を置き、かいたり、つくったりすることを楽しみ、遊びに使ったり、飾ったりなどすることを視野に入れて活動を展開する。 子どもが『保育士等からの話や、生活や遊びの中での出来事を通して、イメージを豊かにする』（※新保育所保育指針：1歳以上3歳未満児の保育に関わるねらい及び内容）ことのできる保育について考える。 なお、学習成果の指標は B-②である。 ◆遠隔授業授業実施が必要な環境が生じた場合には【オンデマンド（配信型）】を併用して学修する。
授業計画	1 回目 砂を使った造形遊び 2 回目 自然素材を使った遊びの展開 3 回目 子どもの描画理解 ― 「かく」 楽しさを知る 4 回目 展示の工夫 ― 「かく」、「つくる」の展開を考える 5 回目 フィンガーペイント 6 回目 身近な素材を使った編み遊び 7 回目 生活の中の造形Ⅰ ランプシェード（構想） 8 回目 生活の中の造形Ⅱ ランプシェード（制作） 9 回目 生活の中の造形Ⅲ ランプシェード（仕上げと鑑賞） 1 0 回目 陶芸実習 技法の復習と構想 1 1 回目 陶芸実習 制作と仕上げ 1 2 回目 キャンドル制作 1 3 回目 陶芸 焼成作品の絵付けと施釉 1 4 回目 自由研究 構想 1 5 回目 自由研究 まとめ
到達目標	感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにすることができる。 その際に、新保育所保育指針の示す以下の「内容」に注視しながら、自身の経験や技能をより深化させるようにする。 ・玩具や身の回りのものを、つまむ、つかむ、たたく、引っ張るなど、手や指を使って遊ぶ。（※乳児保育に関わるねらい及び内容） ・生活や遊びの中で、興味のあることや経験したことなどを自分なりに表現する。（※1歳以上3歳未満児の保育に関わるねらい及び内容） ・生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする。（※3歳以上児の保育に関するねらい及び内容）
授業時間外の学習	日常的に、身近な素材の中から自分なりの発想や工夫を見つけ、イメージを豊かにするトレーニングを行うこと。

評価方法	関心・意欲・態度（５０％）、作品（５０％）により評価する。 ◆遠隔授業を実施した際の評価方法は、考察（４０％）、課題への取り組み（６０％）とする。
テキスト	北沢昌代・畠山智宏・中村光絵 著 / 『子どもの造形表現 ワークシートで学ぶ』 / 開成出版 / 2018年
参考書	
備考	道具箱「七つ道具」を持参すること。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	2 年次	1 単位	選択
担当教員			
早川富美子教授 阿久津清美講師			
添付ファイル			

授業の概要	1. ピアノ、教育楽器の演奏、竹楽器の製作、音楽づくり等の活動を通して、音楽の楽しさを味わいながら音楽的な視野を広げ、保育や教育現場での実践に生かせるようにする。 2. 保育や教育現場で応用し実践できるように、コード伴奏、即興的な表現、様々な楽器によるグループでのアンサンブルや簡単な音楽づくり、リトミック等を学ぶ。 3. 実習や採用試験に向けたピアノ伴奏と弾き歌い、歌唱指導法を学ぶとともに、保育や教育現場での応用、発展を考えていく。 なお、学習成果の指標はB-②である。 遠隔授業を実施する場合には、①課題型学修（「Google classroom」を利用）と②同時・双方向型学修（Google classroom」を利用）③オンデマンド型学修（「Google classroom」を利用）とを組み合わせる。		
授業計画	1 回目 ガイダンス、コード伴奏や実習等で取り組む曲の確認、リトミックの説明 2 回目 子どもの歌（生活の歌）、コード伴奏（1 音）ダルクローズの音楽教育 3 回目 子どもの歌（季節、行事の歌）、コード伴奏（2 音）、リトミック①リズム 4 回目 竹楽器の製作（トガトン）、コード伴奏（3 音）、リトミック②拍 5 回目 竹楽器（トガトン）による音楽づくり、コード伴奏（4 音）、リトミック③フレーズ 6 回目 身の回りのモノによる音楽づくり、リトミック④アナクルーシス、クルーシス 7 回目 小物打楽器の奏法と音楽づくり、リトミック⑤カノン 8 回目 オルフの音楽教育とオルフ楽器を使った音楽づくり 9 回目 ゲストティーチャーによる演奏と指導法 1 0 回目 ドラムセット、鍵盤打楽器（木琴、鉄琴等）の奏法と音楽遊び、リトミック⑥音階 1 1 回目 ドラムセット、鍵盤打楽器（木琴、鉄琴等）の奏法とアンサンブル、リトミック⑦応用 1 2 回目 和楽器で音あそび 1 3 回目 保・幼・小の連携における音楽教育の検討①（保・幼・小の教材） 1 4 回目 保・幼・小の連携における音楽教育の検討②（低学年教材研究） 1 5 回目 保・幼・小の連携における音楽教育の検討③（実践に向けた模擬練習）とまとめ		
到達目標	1. 知識・技能→コード伴奏、様々な楽器演奏やアンサンブル、音楽づくり、リトミック等の活動を通して、実習や保育や教育現場で指導できる力を身につける。 2. 思考力・判断力・表現力→音楽活動における知識や技能を生かし、さらに自己の表現力を高めることができる。 3. 学びに向かう力→多様な音楽活動を通して、仲間とコミュニケーションをとりながら、積極的に音楽活動に取り組むことができる。		
授業時間外の学習	日頃から多様な音楽や楽器に興味関心を持ち、鑑賞をしたり触れる機会をもつようにする。 特にピアノ、鍵盤ハーモニカは、実習や教育現場でも模範演奏ができるようにレパートリーを増やしておくこと。 ピアノは、楽譜を見て弾くだけでなく、簡単な即興やコード伴奏ができるように継続して練習し、レパートリーを広げるようにする。		

評価方法	平常点100% *遠隔授業に変更にした場合も評価方法に変更はない。
テキスト	坪能由紀子他共著『みんなピアノだい好き』（全音楽譜出版社，2016年） 駒久美子・味府美香編著『コンパス音楽表現』（建帛社，2020年） その他、必要に応じてプリントを配布する。 *以上のテキストは1年次の授業で使用したものを継続使用。
参考書	授業の中で紹介する。
備考	鍵盤ハーモニカ、カスタネットは、各自で準備をしてください。 コロナ対策として、鍵盤ハーモニカ等の演奏が不可能な場合は、他の楽器に変更する場合があります。 授業計画については履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。

講義科目名称： 音楽表現演習Ⅱ

授業コード： 223015

英文科目名称： Seminar in Expressions by Music 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	2 年次	1 単位	選択
担当教員			
早川富美子教授 阿久津清美講師			
添付ファイル			

授業の概要	「音楽表現演習Ⅰ」をふまえて、さらに多様な音楽の体験を通して、将来教育現場に携わる指導者として必要な音楽的な力、豊かな表現力、実践力を高めていく。 ピアノの演奏や即興、様々な楽器の習得や音楽づくりの活動、リトミック、子どものうたをもとにしたドラムジカの制作と発表等、体験を通して学んでいく。また、授業で取り組んだ内容を大学祭や表現活動などで発表する予定である。 なお、学習成果の指標はB-②である。 遠隔授業を実施する場合には、①課題型学修（「Google classroom」を利用）と②同時・双方向型学修（「Google classroom」を利用）③オンデマンド型学修（「Google classroom」を利用）とを組み合わせる。		
授業計画	1 回目 ガイダンス、大学祭での演奏について 2 回目 ミュージックベル、トーンチャイムによる演奏と音楽づくり 3 回目 トガトンによる音楽づくりとバンブーダンスの創作 4 回目 ゲストティーチャーによる演奏と指導法 5 回目 身体や身近なものによる音楽づくり 6 回目 大学祭での演奏曲の練習 7 回目 ドラムジカの制作①（子どもの歌を選曲） 8 回目 ドラムジカの制作②（ストーリーを構想） 9 回目 ドラムジカの制作③（練習） 10 回目 ドラムジカの制作④（中間発表） 11 回目 ドラムジカの制作⑤（修正と練習） 12 回目 ドラムジカの制作⑥（発表会） 13 回目 保・幼・小との連携における実践の検討1（低学年の楽曲研究） 14 回目 保・幼・小との連携における実践の検討2（模擬実践1） 15 回目 保・幼・小との連携における実践の検討3（模擬実践2）とまとめ		
到達目標	1. 知識・技能→様々な楽器演奏、即興、アンサンブル、音楽づくり等の活動を通して、実習や教育現場で指導できる力を身につける。 2. 思考力・判断力・表現力→音楽活動における知識や技能を生かし、さらに自己の表現力を高めることができる。 3. 学びに向かう力→多様な音楽活動を通して、仲間とコミュニケーションをとりながら、積極的に音楽活動に取り組むことができる。		
授業時間外の学習	日頃から多様な音楽や楽器に興味関心を持ち、鑑賞をしたり、触れる機会をもつこと。 ピアノは継続して練習し、レパートリーを広げ、実習や採用試験等に対応できる力を身につけること。 発表に向けて、個人やグループで自主的に練習に取り組むこと。		
評価方法	平常点100% *遠隔授業に変更にした場合も評価方法に変更はない。		

テキスト	坪能由紀子他共著『みんなピアノだい好き』（全音楽譜出版社，2016年） 駒久美子，味府美香編著『コンパス音楽表現』（建帛社，2020年） その他、プリントを配布予定である。 以上のテキストは、1年次からの継続使用。
参考書	授業の中で紹介する。
備考	鍵盤ハーモニカ、カスタネットは各自で準備してください。 コロナ対策のため、使用する楽器が変更になる場合があります。 授業計画については履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。

講義科目名称： 教育実習Ⅰ（事前事後指導1単位を含む）

授業コード： 244010

英文科目名称： Practice Teaching 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	2 単位	必修
担当教員			
星 雄一郎 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	幼稚園教育実習の意義、目標、内容を理解し、目標を持って実習ができるように課題を明確にする。また、将来、教育者、保育者となることを自覚し、実習生としての姿勢や態度を身につけ、実践力のある質の高い教育者、保育者を目指す。 幼稚園教育実習に必要な知識を深め、教育課程や指導計画、実習日誌の作成方法を習得する。また、模擬保育や教材研究等の体験を通して、幼児の理解を深め、幼児とどのように向き合い、かかわり、幼児に寄り添っていくかを考える。 教育実習Ⅱ・Ⅲ（現場実習）における事前事後指導は、必要に応じて斯花アワー（水曜日・4時限）などの正規の授業時間外にも行う。 本講義の学習成果の指標はB-②、③である。 本講義は、対面授業を中心に実施する。また、学修内容に応じて、Google Classroom を活用し、反転学習などの多様な学修を実施する場合がある。 また、遠隔講義が必要となる状況になった場合は、Google Meet などを用いた②同時・双方向型学修を中心に実施し、Google Classroom などを用いた①課題型学修・③オンデマンド型学修を組み合わせ実施する。
授業計画	1 回目 幼稚園教育実習と保育実習／幼稚園教育実習の意義と目標 2 回目 幼稚園教育実習の形態とプロセス／幼稚園教育実習に臨む心構えと服務心得 3 回目 幼稚園・認定こども園の理解／幼稚園・認定こども園における幼児理解 4 回目 幼稚園・認定こども園における保育者の役割と専門性 5 回目 幼児理解を深める観察の観点と観察方法 6 回目 観察を活かした観察記録の記述方法 7 回目 教育課程・全体計画と指導計画 8 回目 「教育実習の記録」記入上の留意点と記入の方法 9 回目 指導案作成上の留意点と指導案の作成（1）：記述方法と指導案の目的 1 0 回目 指導案作成上の留意点と指導案の作成（2）：発達段階に見合った計画 1 1 回目 幼稚園教育実習の実際（1）教材研究① 製作 1 2 回目 幼稚園教育実習の実際（2）教材研究② 絵本 1 3 回目 幼稚園教育実習の実際（3）教材研究③ 紙芝居・絵本の読み聞かせ 1 4 回目 幼稚園教育実習の実際（4）模擬保育 1 5 回目 幼稚園教育実習に臨むにあたって直前指導
到達目標	【学修到達目標】 1. 教育実習の意義を理解し、教育実習に臨む心構えや心得を身につける。 2. 教育実習の内容が理解できる。 3. 教育実習を終えて教育実習を省察することができる。 4. 日誌、指導計画案が作成できる。
授業時間外の学習	講義時間外での学習を求める。以下の項目について、各自積極的に学修を行い、積極的に学びを深めること。 1. 日頃から挨拶、返事、姿勢に気をつけて行動する。 2. ピアノの練習をする。手遊び、エプロンシアタのレパートリーを増やす。 3. 幼稚園や保育所の観察体験をもとにして、日誌を作成する。 4. 教材研究をし、指導案を作成する。 5. 板書の練習をする。

評価方法	1. 講義への参加意欲・態度 40% 2. 課題・提出物 40% 3. 学修内容の習得度 20% 上記の 3 点から評価をします。成績評価の基準は國學院大學栃木短期大学の基準に準拠します。 評価方法・基準の詳細については、初回の講義にて説明する。
テキスト	『幼稚園教育要領解説』文部科学省編・フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省・フレーベル館
参考書	『幼稚園教育指導資料第 1 ～ 4 集』文部科学省編・フレーベル館 『はじめての幼保連携型認定こども園教育・保育要領ガイドブック』無藤 隆・フレーベル館
備考	

講義科目名称： 栄養学

授業コード： 142011

英文科目名称： Nutrition

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	2 年次	2 単位	選択必修
担当教員			
真田知恵子 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	食は命の源である。食育は知育・徳育・体育の基礎であり、生きる上での基本である。ここではパワーポイントを利用して、食と健康を考える栄養学の基礎を理解し、養護教諭の立場から食生活の乱れ、肥満・痩身、食物アレルギーなど現代的健康課題を抱える子供たちへの支援ができる力を培いたい。 なお、学習成果の指標はB-②である。 本授業は、対面授業を中心に実施するが、遠隔授業になった場合、③オンデマンド型学修を実施する。オンデマンド型学修となった場合、オンデマンド授業後に出された課題を提出し（「Google classroom」を利用）、その提出をもって出席とする。
授業計画	1 回目 第1章 健康と栄養 2 回目 第2章 体の仕組み 3 回目 第3章 食事と栄養 1. 栄養と栄養素 2. 三大栄養素 4 回目 3. ミネラル・ビタミンの機能 5 回目 4. 水の働きと出納 5. エネルギー消費 6 回目 第4章 食事と健康 7 回目 第5章 健康づくりのための食生活指針 8 回目 第6章 健康とダイエット 9 回目 第7章 ライフステージと栄養 1. 妊娠・授乳期、新生児期・乳児期 10 回目 2. 幼児期、学童期、思春期 3. 成人期 4. 高齢期 11 回目 第8章 生活習慣病と栄養 1. 生活習慣病 (1) 肥満 (2) 脂質異常症 (3) 高血圧症 12 回目 (4) 糖尿病 (5) 動脈硬化 (6) 脳卒中 (7) 骨粗鬆症 など 13 回目 2. リスクファクターと食事の影響 3. 生活習慣病と食事 14 回目 第9章 免疫と栄養 15 回目 第10章 まとめ
到達目標	栄養学の基礎を学び、食と健康について養護教諭の視点から現状と課題を考えることができる。
授業時間外の学習	事前に授業内容のプリントを配布するので、予習し、特に分からない項目を調べる。 また、授業の始めに前回の内容の分の小テストを行うので、復習し分からないところは個人的に質問にくるなどして解消しておくようにする。
評価方法	授業への参加意欲（50％）、授業中の小テスト（オンデマンド授業後出された課題の提出の評価）（50％）に基づき、総合的に評価する。
テキスト	『三訂栄養と健康』（社）日本フードスペシャリスト協会編・建帛社
参考書	
備考	授業進度によりシラバスに一部変更がある場合があります。

講義科目名称： 栄養と健康

授業コード： 143012

英文科目名称： Nutrition and Health

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	2 年次	2 単位	選択必修
担当教員			
真田知恵子 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	食は生命の基本である。栄養学は、食生活を通して人間の健康を維持・増進し、豊かな生活を営むための学問として重要である。ここでは資料等のプリントを配布して栄養学の基礎を理解し、身近な食生活のあり方と健康との関係を考える。質疑応答を重視したい。 なお、学習成果の指標はB-②である。 本授業は対面授業を中心に実施するが、遠隔授業になった場合は、③オンデマンド型学修を実施する。オンデマンド型学修となった場合、オンデマンド授業後出された課題の提出（「Google classroomを利用）をもって、出席とする。		
授業計画	1 回目 第1章 健康と栄養 1. 健康とは 2. 栄養とは 2 回目 3. 健康増進と栄養 4. 生活時間と生体リズム（バイオリズム） 3 回目 第2章 体の仕組み 1. ヒトの体の構成単位 2. 体の働きの調節 4 回目 3. 消化と吸収 5 回目 4. 酵素の性質と代謝における酵素の働き 6 回目 第3章 食事と栄養 1. 栄養と栄養素 7 回目 2. 三大栄養素 (1) 炭水化物 (2) 脂質 8 回目 (3) たんぱく質 9 回目 3. ミネラル・ビタミンの機能 (1) 無機質 10 回目 (2) ビタミン 11 回目 4. 水の働きと出納 5. エネルギー消費 12 回目 第4章 食事と健康 1. 栄養状態の判定 13 回目 2. 日本人の食事摂取基準（2015年版） 14 回目 第5章 健康づくりのための政策・指針 1. わが国の食生活の変化と健康状況 15 回目 まとめ		
到達目標	栄養学の基礎を理解し、栄養と健康の関係を考えることができる。		
授業時間外の学習	予習としては事前にテキストを読んでおくように。前回の授業の内容の小テストを行うので、主に復習に力を入れ、分からない箇所は個人的に質問するなどして解消しておくこと。		
評価方法	授業への参加意欲(50%)、毎授業の終わりに行う小テスト、オンデマンド型学修の場合は課題(50%)に基づき、総合的に評価する。		
テキスト	『三訂栄養と健康』（社）日本フードスペシャリスト協会編・建帛社		
参考書			
備考	授業の進度によりシラバスの内容に一部変更があることがあります。		

講義科目名称： 食品科学

授業コード： 141007

英文科目名称： Food Science

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	1 年次	2 単位	選択必修
担当教員			
真田知恵子 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	養護教諭としての保健教育及び肥満、痩身及びアレルギー疾患などの現代的な健康課題解決にあたって不可欠である「食べ物」に関する基礎的事項を体系的に学習し、正しい知識と科学的な考え方を修得する。食品と健康、食品の分類とその特性、食品の化学構造と特性、食品成分表並びに食品成分の変化と栄養について講義する。 なお、学習成果の指標はB-②である。 本授業は、対面授業を中心に実施するが、遠隔授業になった場合は③オンデマンド型学修を実施する。オンデマンド型学修の場合、オンデマンド授業後だされた課題の提出（「Google Classroom」を利用）をもって、出席とする。	
授業計画	1 回目	食品の3要素、基本単位
	2 回目	「もの」の化学ー原子と分子
	3 回目	栄養素の種類と機能
	4 回目	エネルギーとカロリー計算
	5 回目	原料による分類とその特性
	6 回目	主栄養源を基にした分類
	7 回目	食習慣による分類
	8 回目	食品成分と栄養素
	9 回目	食品成分の化学ー水分・糖質
	1 0 回目	食品成分の化学ータンパク質・脂質
	1 1 回目	食品成分の化学ービタミン・ミネラル
	1 2 回目	食品成分表
	1 3 回目	食品成分の化学的变化
	1 4 回目	食品成分の酵素的変化
	1 5 回目	まとめ
到達目標	日常摂取している食品がどのような成分から構成されており、体内でどのように健康維持に関わっているか理解できる。	
授業時間外の学習	予習として事前にテキストを読んおく。前回の授業の内容の小テストを行うため、復習し分からない箇所は個人的に質問に来るなどして解消しておくように。授業で得た知識を毎日の食生活に反映することを意識してほしい。	
評価方法	授業への参加意欲(50%)、毎回の小テスト、オンデマンド授業後に課題の提出(50%)、に基づいて評価する。	
テキスト	『食物学Ⅰ－食品の成分と機能－』（公社）日本フードスペシャリスト協会 編 建帛社	
参考書		
備考	授業の進度によりシラバスの内容に一部変更があることがあります。	

講義科目名称： 食品学

授業コード： 152010

英文科目名称： Food Chemistry

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	1 年次	2 単位	選択必修
担当教員			
真田知恵子 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	食品の主要成分の性質、食品の品質、種々の食品原料の特性などについて、基礎事項を体系的に学習し、食品に関する正しい知識と科学的な考え方を修得する。 食品の主要成分である水、タンパク質、糖質、脂質、無機質、ビタミンについて、その構造と性質の関係を食品の品質の観点から講義する。さらに、各種食品成分の化学変化や食品の物性についても、品質への影響を中心に講義する。 なお、学習成果の指標はB-②である。 本授業は対面授業を中心に実施するが、遠隔授業になった場合は、③オンデマンド型学修を実施する。オンデマンド型学修の場合、オンデマンド授業後に出された課題の提出（「Google Classroom」を利用）をもって、出席とする。		
授業計画	1 回目 食品を構成する物質に関する基礎化学 2 回目 食品の定義、食を取り巻く環境、分類 3 回目 食品成分－水 4 回目 食品成分－アミノ酸 5 回目 食品成分－タンパク質 6 回目 食品成分－単糖類 7 回目 食品成分－多糖類 8 回目 食品成分－脂肪酸 9 回目 食品成分－脂質 1 0 回目 食品成分－無機質 1 1 回目 食品成分－ビタミン、核酸 1 2 回目 特殊成分－嗜好・有害成分 1 3 回目 食品成分の化学変化 1 4 回目 食品の栄養価・物性 1 5 回目 まとめ		
到達目標	食品の栄養成分(炭水化物、脂質、タンパク質、ビタミン、無機質)、食物繊維、嗜好成分(味、香り、色素成分)の種類、構造、性質について説明できる。		
授業時間外の学習	予習は授業の内容についてテキストをよく読んでおくこと。 また、前回の授業の内容の小テストを行うので、復習をしておくこと。わからないところがある場合は、個人的に質問に来るなどして解消しておくように。		
評価方法	授業への参加意欲(50%)、毎回の小テスト（オンデマンド型学修の場合、出された課題の評価）(50%)、に基づいて評価する。		
テキスト	『食物学Ⅰ－食品の成分と機能－』（公社）日本フードスペシャリスト協会 編 建帛社		
参考書			
備考	授業の進度によりシラバスの内容に一部変更があることがあります。		

講義科目名称： 食品加工学

授業コード： 252010

英文科目名称： Food Processing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	2 単位	選択
担当教員			
真田知恵子 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	食品の加工・貯蔵の理論と実際について学習し、加工食品の衛生、規格と表示、消費動向など、加工食品について、供給・消費の両側面から考察を加える。なお、フードスペシャリスト資格試験への対策を考慮して、やや高度なレベルを目指す。 社会環境の変化に伴って変貌している我々の食生活の中で、加工食品が果たす役割は極めて大きい。現代の食生活における加工食品に対する正しい知識を身につけることに焦点をおく。各種加工食品の成分と製造方法との関係を中心に講義する。 なお、学習成果の指標はB-②である。 本授業は、対面授業を中心に実施するが、遠隔授業になった場合は③オンデマンド型学修を実施する。オンデマンド型学修になった場合は、オンデマンド授業後に出された課題の提出（「Google Classroom」を利用する）をもって出席とする。
授業計画	1 回目 食品加工の目的、意義、原理 2 回目 加工食品各論-農産物：穀類 3 回目 加工食品各論-農産物：豆類・いも類 4 回目 加工食品各論-農産物：野菜類・果実類など 5 回目 加工食品各論-畜産物：食肉類 6 回目 加工食品各論-畜産物：乳類 7 回目 加工食品各論-畜産物：卵類 8 回目 加工食品各論-水産食品：水産冷蔵・冷凍品 9 回目 加工食品各論-水産食品：水産冷蔵・冷凍品乾燥品・塩蔵品 1 0 回目 加工食品各論-水産食品：練り製品・調味品・海藻類 1 1 回目 加工食品各論-食用油脂・調味食品 1 2 回目 加工食品各論-嗜好食品・インスタント食品 1 3 回目 食品の加工法・保存法 1 4 回目 食品の規格と表示・包装 1 5 回目 食品の官能評価
到達目標	加工食品について、加工食品の意義、特性、さらに加工、貯蔵に関する技術を理解し、日常の食生活に対応できる知識を身につける。
授業時間外の学習	予習としては各回の授業の内容についてテキストをよく読んでおく。毎回、前回の内容の小テストを行うので、よく復習しておくように。わからないところは個人的に質問しにくるなどして解消しておくように。
評価方法	授業への参加意欲(50%)、毎回の小テスト（オンデマンド型学修の場合提出された課題の評価）(50%)、に基づいて総合的に評価する。
テキスト	『食物理学Ⅱ - 食品材料と加工、貯蔵・流通技術 - 』（公社）日本フーズスペシャリスト協会 編 建帛社
参考書	
備考	授業の進度によりシラバスの内容に一部変更があることがあります。

講義科目名称： 食品学実験

授業コード： 243011 244011

英文科目名称： Food Chemistry and Processing Laboratory

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	1 単位	選択必修
担当教員			
真田知恵子 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	食品を構成する基本成分であるタンパク質・脂質・炭水化物・水分・灰分の定量を行う。また、特別実験として食品の機能性を評価する実験法を習得する。 なお、学習成果の指標はB-②である。 本授業は、対面授業を中心に実施するが、遠隔授業となった場合は②同時・双方向型学修を実施する
授業計画	1 回目 実験の心得と食品の水分と灰分の測定 2 回目 食品の水分と灰分の測定 3 回目 タンパク質の呈色反応 4 回目 タンパク質の凝固・沈殿反応 5 回目 糖質の定性反応 6 回目 デンプンの加水分解 7 回目 脂質に関する実験(エステル合成と加水分解) 8 回目 脂質に関する実験(不飽和脂肪酸と過酸化脂質の検出) 9 回目 食酢の中和滴定 1 0 回目 植物色素のpHによる色の変化 1 1 回目 小麦粉からのグルテンの分離 1 2 回目 半透膜と浸透 1 3 回目 果実の加工(ミカンの内果皮の？皮とジャムの試作) 1 4 回目 食肉加工食品の試作(ソーセージ) 1 5 回目 鶏卵の鮮度測定
到達目標	栄養学に係わる課題を解決するための実験をし、成功感や達成感を実感できる。身近な食材について、栄養と健康の関係を考えることができる。
授業時間外の学習	実験項目のマニュアルを事前に配布するので予習をし、操作をイメージする。実験後は、その結果を考察し、レポートを提出する。
評価方法	授業への参加意欲(50%)、レポート(50%)を基に、総合的に評価する。遠隔授業となった場合でも、録画された実験の様子をオンデマンドには視聴し、実験のレポートは提出してもらう。
テキスト	
参考書	
備考	授業の進度によりシラバスの内容に一部変更があることがあります。

講義科目名称： 食品評価・鑑別論演習Ⅰ

授業コード： 253009

英文科目名称： Evaluation of Food Quality 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	1 単位	選択
担当教員			
真田知恵子 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	わが国の食品は多様化しているが、これからの食品はいかにあるべきか。すなわち、食品の品質をどう評価するか。ここでは、そのための種々の方法の原理を理解すると同時に食品規格や表示義務が法律でどのように規定されているかも学習する。なお、本科目はフーズスペシャリスト資格取得希望者を対象とする。各種食品の原料および製品の品質、それらの評価方法について、演習形式で講義する。特に官能検査については、評価方法の原理、実施方法などを実際の例を取り上げて学ぶ。 なお、学習成果の指標はB-②である。 本授業は、対面授業を中心に実施するが、遠隔授業になった場合は③オンデマンド型学修を実施する。オンデマンド型学修となった場合は、オンデマンド授業後出された課題の提出（「Google Classroom」を利用）をもって出席とする。		
授業計画	1 回目 食品品質の概要、食品の表示 2 回目 官能評価の概要 3 回目 官能評価のパネルの構成 4 回目 官能評価のテストの管理 5 回目 官能評価の手法の選択 6 回目 水分と食品の保存性 7 回目 食品の外観と成分 8 回目 褐変反応 9 回目 色と鮮度 1 0 回目 化学的品質評価 1 1 回目 食品の状態 1 2 回目 レオロジーとテクスチャー 1 3 回目 レオロジーの評価法 1 4 回目 非破壊検査法 1 5 回目 まとめ		
到達目標	食品を選択する上で、習得した健康と生活の領域における専門的知識を活かし、品質を見抜くことができる。		
授業時間外の学習	予習としては各回の授業の内容についてテキストをよく読んでおくこと。毎回、前回の授業の小テストを行うので、よく復習するよう。わからない箇所は個人的に質問に来るなどして解消しておくこと。		
評価方法	授業への参加意欲(50%)、毎回の小テスト（オンデマンド型学修の場合は提出された課題の評価）(50%)に基づいて総合的に評価する。		
テキスト	『新版食品の官能評価・鑑別演習』日本フーズスペシャリスト協会編・建帛社		
参考書			
備考	授業の進度によりシラバスの内容に一部変更があることがあります。		

講義科目名称： 食品評価・鑑別論演習Ⅱ

授業コード： 132013

英文科目名称： Evaluation of Food Quality 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	2 年次	1 単位	選択
担当教員			
真田知恵子 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	各種食品のどのような特性を利用して評価・鑑別が行われているかを学ぶ。また、新規食品の安全性や新しい評価法についても学ぶ。なお、本科目はフードスペシャリスト資格取得希望者を対象とする。個別食品として農産・畜産・水産食品の主たる製品に重点をおく。さらに、調味料、嗜好品などを含めた日常消費する加工食品の品質についても演習形式で講義する。 なお、学習成果の指標はB-②である。 本授業は、対面授業を中心に実施するが、遠隔授業になった場合は、③オンデマンド型学修を実施する。オンデマンド型学修の場合、オンデマンド授業後の課題の提出（「Google Classroom」の利用）をもって出席とする。	
授業計画	1 回目	米とその製品
	2 回目	小麦粉とその製品
	3 回目	そばとイモ類
	4 回目	豆類・種実類
	5 回目	野菜・キノコ・果実類
	6 回目	肉類
	7 回目	乳と乳製品
	8 回目	卵とその加工品
	9 回目	魚介類とその加工品
	1 0 回目	食用油脂
	1 1 回目	醸造食品
	1 2 回目	調味料・香辛料
	1 3 回目	酒類・茶類
	1 4 回目	清涼飲料・菓子類
	1 5 回目	まとめ
到達目標	食品を選択あるいは提供するためには、食品に関する知識と品質を見抜く能力が必要である（食品評価・鑑別論演習Ⅰ）。本授業では、食品の品質を評価する方法として主観的評価（官能評価）、客観的評価（化学的評価法・物理的評価方法）を学習し理解を深める。また、食品の鑑別について解説することにより、各食品の種類、選択・保存方法など学ぶことができる。	
授業時間外の学習	予習としては各回の授業の内容についてテキストをよく読んでおく。毎回、前回の授業の内容の小テストを行うので主に復習に力を入れ、分からないところは個人的に質問にくるなどして解消しておくこと。	
評価方法	授業への参加意欲(50%)、毎回の小テスト（オンデマンド型学修の場合は提出された課題の評価）(50%)、に基づいて総合的に評価する。	
テキスト	『新版食品の官能評価・鑑別演習』日本フードスペシャリスト協会編・建帛社	
参考書		
備考	授業の進度によりシラバスの内容に一部変更があることがあります。	

講義科目名称： 食品流通論

授業コード： 232014

英文科目名称： Food Distribution System

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	2 年次	2 単位	選択
担当教員			
真田知恵子 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	わが国の食品流通技術やシステム、日本人の食生活形態、輸入食料や自給率、今後の食料生産構造、食料資源と環境問題などを学ぶ。なお、本科目はフードスペシャリスト資格取得希望者を対象とする。食品の消費と流通の実態を理解し、消費者がよりよい食品選択を行う方法を会得するための基本的な考え方を講義する。具体的には、近年の消費の現状とその変化、わが国の食品流通の実態、現在関心が高い環境問題に焦点を当てる。 なお、学習成果の指標はB-②である。 本授業は、対面授業を中心に実施するが、遠隔授業になった場合は、③オンデマンド型学修を実施する。オンデマンド型学修となった場合、オンデマンド授業後出された課題の提出（「Google Classroom」を利用）をもって出席とする。		
授業計画	1 回目 食生活形態の変化 2 回目 食品消費の変化 3 回目 食生活とフードマーケティング 4 回目 食料品の間流通 5 回目 食料品の小売流通 6 回目 家庭内食と食品小売業 7 回目 スーパーマーケットの台頭 8 回目 外食と外食産業 9 回目 チェーンレストランの発展 1 0 回目 中食と中食産業 1 1 回目 コンビニエンスストアのビジネスモデル 1 2 回目 食品消費と環境問題 13回目 食品消費と安全 14回目 基本関連統計資料の概要 1 5 回目 まとめ		
到達目標	農業や加工、マーケティング、小売りや外食といったフードシステムを構成する食品流通を、身近な食品を通じて理解できる。		
授業時間外の学習	予習としてはテキストをよく読んでおくこと。毎回、前回の授業の小テストをおこなうので、主に復習に力をおきわからないところは個人的に質問にくるなどして解消しておくように。日常的に食に関して関心を持つよう心掛ける。		
評価方法	授業への参加意欲(50%)、毎回の小テスト（オンデマンド型学修の場合は提出された課題の評価）(50%)、に基づいて総合的に評価する。		
テキスト	『食品の消費と流通』日本フードスペシャリスト協会編・建帛社		
参考書			
備考	授業の進度によりシラバスの内容に一部変更があることがあります。		

講義科目名称： 調理学

授業コード： 124011

英文科目名称： Cookery Science

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	1 年次	2 単位	必修
担当教員			
張替泰子 講師			
添付ファイル			

授業の概要	安全で栄養バランスのとれた美味しい食事づくりの実践に役立つように、調理操作による食材料の栄養・物性の変化、及び各食材料の調理特性について学ぶ。また、合理的な加熱操作ができるように、各加熱方式の特性についても学ぶ。さらに、食べものの嗜好性の評価方法についても科学的に理解する。 なお、学習成果の指標はB-①と②である。 授業の形式は、テキストの内容をベースに、テキストの内容で補いきれない部分については補足資料を用いて進める。ミニテスト（理解度チェックテスト）を行う。 遠隔授業をする場合は①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と②同時・双方向型学修（「Google Meet」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）を組み合わせる。
授業計画	1 回目 オリエンテーション、自然と食（調理の意義、食物連鎖） 2 回目 経済・環境問題と食、食事文化、食の嗜好性 3 回目 調理の科学1（米・米粉の調理性） 4 回目 調理の科学2（小麦粉の調理性） 5 回目 調理の科学3（肉類の調理性） 6 回目 調理の科学4（魚介類の調理性） 7 回目 調理の科学5（卵、乳製品の調理性） 8 回目 調理の科学6（野菜・果物の調理性） 9 回目 調理の科学7（芋類、きのこ類、豆類の調理性） 1 0 回目 調理の科学8（でんぷん、砂糖、油脂の調理性） 1 1 回目 調理の科学9（ゲル化剤と嗜好飲料） 1 2 回目 調理の科学10（調理熱源と熱伝導の特徴） 1 3 回目 調理の科学11（加熱調理操作と調理機器） 1 4 回目 調理の科学12（非加熱操作と調理器具） 1 5 回目 まとめと振り返り
到達目標	家庭科教諭、養護教諭、フードスペシャリストに必要な食事づくりに関する基礎的な知識を習得する。食物の嗜好性・栄養性に及ぼす調理の影響や各種食材料の調理性を説明でき、食事設計や食物調製に活用できる。
授業時間外の学習	予習：テキストの該当部分を読み、不明な点や疑問に思う点を明らかにしておく。 復習：テキストを再読し、学修内容の定着を図る。ミニテストの誤答部分を見直す。
評価方法	テスト（50％）ミニテスト（理解度チェックテスト）（30％）平常点（20％）、遠隔授業に変更した場合も評価方法に変更はない。
テキスト	柳沢幸江・柴田圭子編著『改訂第2版 調理学－健康・栄養・調理－』（アイ・ケイ コーポレーション、2020年）
参考書	授業内で紹介する。
備考	

講義科目名称： 調理実習 I

授業コード： 213008 214010

英文科目名称： Cooking Practice 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	1 単位	必修
担当教員			
小川聖子 講師			
添付ファイル			

授業の概要	・調理実習は調理学で学ぶ理論を実践する場である。 ・健康に直結する美味しい食事を作るための基本的な技術を習得する。 ・様式別調理（日本・中国・西洋料理）の日常食を献立形式で作る中で、栄養的・嗜好的に満足を得られる食事を作る力を身に着ける。 ・調理上の食品の変化や調理操作を通して生じる現象を調理科学的にとらえ、理解する力を養う。 ・学習成果の指標はB-1と②である。 対面授業を原則とするが、遠隔授業をする場合は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）を組み合わせて実施する。		
授業計画	1 回目 オリエンテーション（調理実習の心構え、調理実習室の使い方、計量スプーンの使い方、など） 2 回目 西洋料理1（なすカレーの献立：ルウを用いずに作るカレー、卵の茹で時間と固まり状態、手作りマヨネーズ） 3 回目 中国料理1（麻婆豆腐の献立：中国料理の日常食、薄焼き卵の焼き方、簡単な中国風菓子） 4 回目 日本料理1（鮭のホイル焼きの献立：包み焼の利点、かきたま汁のコツ、乾物の戻し倍率） 5 回目 西洋料理2（ポークピカタの献立：応用範囲の広い主菜、人参を使ったドレッシング） 6 回目 日本料理2（親子丼の献立：一人分が調理しやすい献立、煮干しを用いたみそ汁、飾り切り） 7 回目 中国料理2（餃子の献立：餃子の皮の作り方、寒天を使った冷菓） 8 回目 日本料理3（アジの生姜焼きの献立：魚の三枚おろし、青菜のゆで方） 9 回目 西洋料理3（ロールキャベツの献立：ホワイトソースの作り方、キャベツの使いまわし、せん切りの練習） 1 0 回目 中国料理3（酢豚の献立：中国料理の名称、揚げ物の温度管理、イカのさばき方） 1 1 回目 行事食1（クリスマス料理） 1 2 回目 行事食2（巻き寿司といなり寿司の献立） 1 3 回目 自主調理の発表 1 4 回目 調理技術の習得の確認 1 5 回目 授業の振り返り		
到達目標	食品や調理法の特徴を理解した上で調理を実践することができる。日本料理・中国料理・西洋料理の日常食を、様式の特徴を理解して作ることができる。		
授業時間外の学習	予習：教員が事前にClassroomに提示している資料をプリントして内容を読んでおく。 復習：毎回の実習の振り返りレポートを書く。レポートは次回の授業開始時に提出する。そのレポートは翌週に返却されるので、保存しておく。毎回のレポートに加え、自宅での調理の復習、調理や食品について調べたものを加えて、最終回に提出する。 ・レポートの内容については授業内で詳しく説明します。		
評価方法	レポート（70%）テスト（10%）平常点（20%），遠隔授業に変更した場合はレポート（80%）平常点（20%）とする。		
テキスト	教員が毎回作成したものを使用する。		

参考書	授業内で紹介する。
備考	

講義科目名称： 調理実習Ⅱ

授業コード： 112010 113006

英文科目名称： Cooking Practice 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	2 年次	1 単位	選択
担当教員			
小川聖子 講師			
添付ファイル			

授業の概要	調理中にみられる食品の変化や現象を調理科学的にとらえ、理解する力を高めるために、調理科学の基礎実験を行いながら日本料理・中国料理・西洋料理の調理方法を学んでいく。 季節の旬の食材と、気温や湿度に適した調理法を学び、その味を経験として蓄積する。 なお、学習成果の指標はB-①と②である。 対面授業を原則とするが、遠隔授業をする場合は、①課題型学修(Google Class)と③オンデマンド型学修(「Google Meet」を利用)を組み合わせる。
授業計画	1 回目 オリエンテーション (調理実習Ⅱの進め方) 2 回目 食材からのアプローチ① (卵・淡色野菜) 3 回目 食材からのアプローチ② (魚・小麦粉) 4 回目 食材からのアプローチ③ (米・肉) 5 回目 食材からのアプローチ④ (ひき肉・緑黄色野菜) 6 回目 調理法からのアプローチ① (汁物) 7 回目 調理法からのアプローチ② (煮物) 8 回目 調理法からのアプローチ③ (蒸し物) 9 回目 調理法からのアプローチ④ (焼き物) 1 0 回目 調理法からのアプローチ⑤ (炒め物) 1 1 回目 調理法からのアプローチ⑥ (揚げ物) 1 2 回目 自主献立 (計画) 1 3 回目 自主献立 (実践) 1 4 回目 調理技術の習得の確認 1 5 回目 まとめと振り返り
到達目標	日本料理・中国料理・西洋料理の日常食献立のレパートリーを増やす。 調理に用いられている食品や、調理法に関する科学的知見を理解し説明することができる。
授業時間外の学習	予習：授業計画を参照し、1年次に学んだ調理学の教科書の該当部分を読んでおく。 復習：毎回の実習の振り返りレポートを書き、翌週の授業開始時に提出する。 レポートは、提出の翌週に返却するので、最終回にそれらをまとめ、追加部分も加えて、提出する。
評価方法	レポート (70%) テスト (10%) 平常点 (20%)。 遠隔授業に変更した場合はレポート (80%) 平常点 (20%) とする。
テキスト	教員が、毎回提示した資料をプリントして授業に臨む。
参考書	香西みどり・綾部園子編著『流れと要点が分かる 調理学実習 第3版－豊富な献立と説明－』(光生館、2021) 高橋敦子・安原安代・松田康子編著『第9版 調理学実習－基礎から応用－』(女子栄養大学出版部、2022)
備考	

講義科目名称： 食品衛生学

授業コード： 231010

英文科目名称： Food Hygiene

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	2 年次	2 単位	選択
担当教員			
真田知恵子 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	私たちが食品を選ぶ際の基準は極めて多様であるが、その基本的な条件として安全性の確保が求められる。食品の安全性について、国・行政や食品関連事業者の責務、また消費者の役割から考え、理解する。なお、本科目はフードスペシャリスト資格希望者を対象とする。 食の安全性を脅かす要因を中心に講義を行い、さらに安全性を確保する手段について実例を挙げながら説明する。 なお、学習成果の指標はB-②である。 本授業は、対面授業を中心に実施するが、遠隔授業になった場合は③オンデマンド型学修を実施する。オンデマンド型学修となった場合、オンデマンド授業後出された課題の提出（「Google Classroom」を利用）をもって出席とする。		
授業計画	1 回目 食品の安全性 2 回目 食品の腐敗・変敗とその防止 3 回目 食中毒の分類と発生状況 4 回目 微生物性食中毒 5 回目 自然毒・化学性食中毒、経口的寄生虫疾患 6 回目 食品の安全性の確保（食肉・水産物・野菜・果実） 7 回目 食品の安全性の確保（乳製品・鶏卵・惣菜類・食用油脂など） 8 回目 家庭における食品の安全保持 9 回目 環境汚染と食品 1 0 回目 器具および容器包装 1 1 回目 水の衛生 1 2 回目 食品の安全流通と表示（食品の表示・添加物・輸入食品） 1 3 回目 食品の安全流通と表示（遺伝子組換え食品・アレルギーなど） 1 4 回目 食品の安全管理 1 5 回目 まとめ		
到達目標	食品衛生法および食品衛生行政の内容を把握し、健康教育と家庭生活の専門家としての必要な知識が得ることができる。安全な食生活を求め食生活全般にかかわる種々の問題点について認識を深めることができる。		
授業時間外の学習	予習としては事前にテキストをよく読んでおく。毎回、前回の授業の小テストを行うので、主に復習に力をおき、わからないところは個人的に質問にくるなどして解消しておくように。 日頃から食の安全に目を向け、情報収集を心掛けておく。		
評価方法	授業への参加意欲(50%)、毎回の小テスト（オンデマンド授業後出された課題の提出の評価）（50%）に基づいて評価する。		
テキスト	『改訂食品の安全性』日本フードスペシャリスト協会編・建帛社		
参考書			
備考	授業の進度によりシラバスの内容に一部変更があることがあります。		

講義科目名称： フードスペシャリスト論

授業コード： 241007

英文科目名称： Theory of Food Specialist

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	2 単位	選択
担当教員			
真田知恵子 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	食の専門職であるフードスペシャリストの意義とその概要を知り、更に食の歴史、食の現状、食品産業、食品の品質規格などについて習得する。 テキストに沿って内容を理解し、フードスペシャリスト認定試験を考慮する。 なお、学習成果の指標はB-②である。 本授業は、対面授業を中心に実施するが、遠隔授業になった場合は③オンデマンド型学修を実施する。オンデマンド型学修となった場合、オンデマンド授業後出された課題の提出（「Google Classroom」を利用）をもって出席とする。
授業計画	1 回目 第 1 章 フードスペシャリストの専門職、概念 2 回目 第2章 人類と食物 3 回目 第 3 章 世界の食 4 回目 第 4 章 日本の食～日本食物史～ 5 回目 第 4 章 日本の食～食の地域差～ 6 回目 第5章 現代の日本の食生活～戦後の食生活から現在～ 7 回目 第5章 現代の日本の食生活～現在の自給率と問題点～ 8 回目 第6章 食品産業の役割～食品製造業と食品卸売業～ 9 回目 食品産業の役割～食品小売業と外食産業～ 1 0 回目 第7章 食品の品質規格と表示～JAS法による規格～ 1 1 回目 食品の品質規格と表示～食品表示法による表示～ 1 2 回目 食品の品質規格と表示～健康や栄養による表示制度～ 1 3 回目 食品の品質規格と表示～健康増進法など～ 1 4 回目 第 8 章 食情報と消費者保護（食情報の発信・受容・濫用） 1 5 回目 まとめ
到達目標	フードスペシャリストが具備すべき基本知識の習得することができる。
授業時間外の学習	予習としては事前にテキストをよく読んでおく。毎回、前回の授業の内容の小テストを行うので、用語の整理など主に復習に力をおき、分からないところは個人的に質問に来るなどして解消しておくように。
評価方法	授業への参加意欲（50％）、授業中に行う小テスト（オンデマンド授業後提出された課題の評価）（50％）を基に、総合的に評価する。
テキスト	『四訂フードスペシャリスト論』日本フードスペシャリスト協会編・建帛社
参考書	
備考	授業の進度によりシラバスの内容に一部変更があることがあります。

講義科目名称： フードコーディネート論

授業コード： 114008

英文科目名称： Theory of Food Coordinating

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	2 年次	2 単位	選択
担当教員			
小川聖子 講師			
添付ファイル			

授業の概要	・本授業は、フードスペシャリスト資格認定試験のための受験資格として必要な単位である。 ・フードコーディネートとは、食のさまざまな場において、複雑な条件を調整し、利用者の要求に沿った状況を演出することであり、その範囲は極めて広い。また、現代の食環境は流動的に変化しており、それには常に対応すべき課題が生じる。それらをふまえ、食に関するコーディネートに必要な食文化・マナー・食情報・食事の場の設計等の知識を習得し、実践力を養う。 ・学習成果の指標はB-②と③である。 ・授業はテキストに沿って進めるが、フードスペシャリスト資格認定試験のためだけの授業ではなく、幅広い食の知識を得る目的も持っている。そのため、教科書以外の食の知識についての教員が作成した資料に基づいての講義も行う。 ・フードスペシャリスト資格認定試験の受験対策も行う。 ・遠隔授業をする場合は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と②同時・双方向型学修（「Google Meet」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）を組み合わせる。
授業計画	1 回目 フードコーディネートの基本理念 （おいしさの本質） 2 回目 フードコーディネートの基本理念 （おいさとフードコーディネート） 3 回目 食事の文化（食事とは？ 食のタブーと宗教，日本の食事） 4 回目 食事の文化（特別な日の食事，外国の食事） 5 回目 食卓のコーディネート（テーブルコーディネートの要点，日本料理の食卓） 6 回目 食卓のコーディネート（中国料理の食卓，西洋料理の食卓） 7 回目 食卓のサービスとマナー（サービスとマナーの基本，日本料理のサービスとマナー） 8 回目 食卓のサービスとマナー（中国料理のサービスとマナー） 9 回目 食卓のサービスとマナー（西洋料理のサービスとマナー，パーティ，プロトコル） 1 0 回目 メニュープランニング（メニュープランニングの要件，料理様式とメニュー開発の基礎） 1 1 回目 食空間のコーディネート（食空間のコーディネートの基礎，食事空間のコーディネート，キッチンのコーディネート） 1 2 回目 フードサービスマネジメント（フードサービスビジネスの動向と特性，マネジメントの基本） 1 3 回目 フードサービスマネジメント（フードサービスの起業，投資計画・収支計画の作成，損益分岐点売上高） 1 4 回目 食企画の実践コーディネート（食企画の流れ，食企画に必要な基礎スキル，食企画の実践現場） 1 5 回目 まとめと振り返り
到達目標	1. フードスペシャリスト受験資格を取得する。 2. フードコーディネートに関する幅広い知識を修得し説明することができる。 3. 実践の場で常に生じる新たな課題に対応することができる。
授業時間外の学習	予習：テキストの該当部分を読み，疑問に思う点を明らかにしておく。 復習：テキストを再読し，学修内容の定着を図る。
評価方法	テスト（50％）平常点（50％），遠隔授業に変更した場合も評価方法に変更はない。
テキスト	日本フードスペシャリスト協会編『三訂 フードコーディネート論』（建帛社、2021）
参考書	授業の中で紹介する。

備考	
----	--

講義科目名称： 被服学概論

授業コード： 131008

英文科目名称： Introduction to Clothing Science

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	1 年次	2 単位	必修
担当教員			
山内見和 教授			
添付ファイル			

授業の概要	人間はなぜ衣服を着用するのか？日常、着用している衣服は何からできているのか？被服の材料は、綿や毛などの天然繊維に加え、様々な性能を持つ化学繊維の開発により多種多様化している。これに伴い、いろいろな素材の衣服が市場に出ている。衣服は、素材や色により寒く感じたり暑く感じたりと体に及ぼす影響も異なる。そこで、消費者として適切な目で衣服を選択し、使用することが必要である。ここでは、生活に必要な衣服の素材が何を原料にしてどのように作られているか、またどのような性質を持っているのか学んでいく。また、衣服が体に及ぼす影響についての知識を習得し、より良い衣生活に役立てる。 なお、学習成果の指標はB－①である。 遠隔授業を実施する場合は、①課題学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）を組み合わせる。		
授業計画	1 回目 人間はなぜ衣服を着るのか 衣服を着る目的を考えてみよう。（1 章） 2 回目 被服の歴史 洋服と和服の違いは？（2・3 章） 3 回目 衣服と健康 健康的な衣服とは？健康に悪い衣服とは？（4 章） 4 回目 衣服の快適性 暑い時、寒い時の衣服の着方は？（5 章） 5 回目 動きやすさと衣服 動きやすい衣服とは？（6 章） 6 回目 衣服の素材と加工 着ている衣服の素材を調べてみよう。（7 章） 7 回目 天然繊維とは 天然繊維の種類とそれぞれの特徴、性能を調べてみよう。（7 章） 8 回目 化学繊維とは 化学繊維の種類とそれぞれの特徴、性能を調べてみよう。（7 章） 9 回目 糸と布 織物と編物の違いは？（7 章） 1 0 回目 衣服の汚れと洗濯 衣服に付いた汚れの種類と落とし方を学ぼう。（8 章） 1 1 回目 人の成長と体つき 衣服のサイズの表記方法を調べよう。（9 章） 1 2 回目 アパレル産業 SDGsを考えてみよう。（1 0 章） 1 3 回目 被服と色 今年の流行色は？（1 1 章） 1 4 回目 衣服と生活 衣服の生活への影響を考えてみよう。 1 5 回目 まとめ 衣服に関するテーマを決め、調べ、発表しよう。		
到達目標	毎日着ている衣服の原料は何か、どのように作られているのかを知ることができる。そして、衣服の体への影響などを理解し、より快適で健康な生活を送ることができる。また、教育者として、身体に適切な衣服とは何かを指導する能力を身に付けることができる。		
授業時間外の学習	衣服の流行、衣服と安全、衣服と健康等について、新聞やインターネットで調べる。		
評価方法	小レポート：30%、期末レポート：70%で評価する。 遠隔授業を実施する場合も評価方法に変更はない。		
テキスト	『ビジュアル衣生活論』岡田宣子編著・建帛社		
参考書			
備考			

講義科目名称： アパレル素材論

授業コード： 245005

英文科目名称： Apparel Materials

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	2 単位	選択
担当教員			
山内見和 教授			
添付ファイル			

授業の概要	生活を営む上で必要不可欠な被服を適切に着用するためには、繊維の種類、性質、構造などについて理解することが必要である。ここでは講義、実験・実習を通して繊維の知識を身につけることを目的とする。繊維の種類を科学的に鑑別する実習を行い、またそれらの繊維がどのような性質を持っているのか、また、衣服による体への影響を調べる。また繊維の性質を利用して、作品製作の実習を行う。 なお、学習成果の指標はB-③である。 遠隔授業を実施する場合は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）を組み合わせる。
授業計画	1 回目 衣服素材の種類と性質 2 回目 天然繊維 実習：繭からの生糸作り 3 回目 化学繊維 実験：ナイロン 6 6 の合成 4 回目 繊維の鑑別 実験：顕微鏡法、呈色反応 5 回目 繊維の鑑別 実験：燃焼法 6 回目 糸と布 7 回目 織物の種類と性能 8 回目 織物 実習：毛糸で織る織物 9 回目 織物 実験：織物の特性—収縮率 1 0 回目 織物 実験：織物の特性—ドレープ性 1 1 回目 織物 実験：織物の特性—吸水性 1 2 回目 編物の種類と性能 1 3 回目 その他の布 実習：フェルトの作製 1 4 回目 衣服の着心地と快適性 1 5 回目 生活の中の衣服
到達目標	講義だけでなく簡単な実験・実習を行うことにより、衣服の素材の性質をより理解することができる。衣服の身体への影響をより理解し、より良い衣生活を営むことができる。
授業時間外の学習	衣服の素材に関する情報を集める。そして、衣服の流行だけではなく、衣服の素材などに関心を持ち、実験を行う。実験後は、そこから解ったこと、さらに興味を持ったことについて知識を深め、実生活に役立てる。
評価方法	期末レポート：100%で評価する。 遠隔授業を実施する場合も評価方法に変更はない。
テキスト	『ビジュアル衣生活論』岡田宣子編著・建帛社
参考書	
備考	

講義科目名称： 衣服管理学

授業コード： 133018

英文科目名称： Clothing Management

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	2 年次	2 単位	選択
担当教員			
山内見和 教授			
添付ファイル			

授業の概要	衣服は着用することにより身体内部また外部から汚染されるが、衣服をきれいに保つことは健康面でも衣服を長持ちさせるためにも必要である。本授業では、洗剤や柔軟剤、糊剤の働きや衣服に適したそれらの選び方を学び、適切な衣服の洗浄方法、洗浄条件、仕上げ方法、また保管方法を身につけ、衣服管理の理解を深めることを目的とする。 実 際に、日常の洗濯でどれくらい汚れが落ちているかを調べ、そこから、より汚れを落とすにはどうしたら良いか、洗濯の最適な条件を探る。また、柔軟剤や糊剤などの仕組みを理解し、日常生活に役立つ知識を得る。 なお、学習成果の指標はB－③である。 遠隔授業を実施する場合は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）を組み合わせる。		
授業計画	1 回目 衣料品の品質と表示 衣服の洗濯方法を考えよう（8 章） 2 回目 衣服の汚れの種類 衣服につく汚れの種類と体への影響を考えよう（8 章） 3 回目 水について 水の種類と洗浄力への影響を調べよう 4 回目 洗剤の種類と役割 洗剤の種類とその働きを調べよう（8 章） 5 回目 石けんについて 石けんをつくろう 6 回目 界面活性剤の種類と働き 界面活性剤とは（8 章） 7 回目 洗浄補助剤・性能向上剤の種類と役割 洗剤を調べよう（8 章） 8 回目 手洗い・電気洗濯機の役割 洗浄力と機械力の関係（8 章） 9 回目 家庭での洗浄 ①洗浄条件（洗剤の濃度、洗浄時間など） 洗浄力を高くするには（8 章） 1 0 回目 家庭での洗浄 ②洗浄の手順と方法 ③実際の洗濯 洗浄力を高くするには（8 章） 1 1 回目 ドライクリーニングとは ドライクリーニングの特徴（8 章） 1 2 回目 漂白と増白 衣服の仕上げ方法（8 章） 1 3 回目 糊付けと仕上げ方法 衣服の仕上げ方法（8 章） 1 4 回目 衣服の保管方法 衣服のきれいな保管方法（8 章） 1 5 回目 衣服の廃棄とリサイクル SDG s について考えよう		
到達目標	洗剤、柔軟剤などの働き、洗浄の仕組みを知ることにより、より効率的な洗濯をすることができる。また、蛍光増白剤、漂白剤など日頃使っている化合物の仕組みを知ることにより、より快適で健康的な衣生活を送ることができる。		
授業時間外の学習	日常行っている洗浄について、衣服だけでなく身体や髪の毛などを傷めずにより汚れを落とすにはどのようにしたら良いかを考える。また、洗剤などの成分を調べる。		
評価方法	期末レポート：100%で評価する。 遠隔授業を実施する場合も評価方法に変更はない。		
テキスト	『ビジュアル衣生活論』岡田宣子編著・建帛社		
参考書			
備考			

講義科目名称： 服飾文化論

授業コード： 214011

英文科目名称： Theory of Fashion Lifestyle

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	2 年次	2 単位	必修
担当教員			
山内見和 教授			
添付ファイル			

授業の概要	人間はなぜ衣服を着用するのか。 衣服は人間が生きていく上で必要不可欠なものである。衣服の歴史と変遷から、衣服を着る目的と必要性、また流行について学び、人間と衣服の関係を探る。そして現在の衣生活がどのようにして成り立っているのかを学び、今後の衣服について考える。 なお、学習成果の指標はB-③である。 遠隔授業を実施する場合は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）を組み合わせる。		
授業計画	1 回目 ヒトはなぜ装うのか 人が被服を着る目的を確認しよう（1 章） 2 回目 気候風土と装い・民族衣装 それぞれの国と民族衣装（2 章） 3 回目 衣服のかたちの変遷・・・西洋の服装の歴史 洋服の歴史（3 章） 4 回目 衣服のかたちの変遷・・・日本の服装の歴史 和服の歴史（3 章） 5 回目 衣服のかたちの変遷・・・平面構成と立体構成 洋服と和服の違い（3 章） 6 回目 装いと健康・・・健康と快適性 衣服と健康（4 章） 7 回目 装いと健康・・・子供服の歴史と安全性 衣服と健康（4 章） 8 回目 装いのコミュニケーション・・・衣服の象徴性 日本の伝統行事と衣装（1 1 章） 9 回目 装いのコミュニケーション・・・色と装い 色の歴史と流行色（1 1 章） 1 0 回目 装いのコミュニケーション・・・服装と流行 ブランドの成り立ち（1 1 章） 1 1 回目 衣服の素材と加工 衣服の素材の歴史（7 章） 1 2 回目 衣服の品質と管理 衣服の洗濯の歴史（8 章） 1 3 回目 装いと生活環境 衣服と環境（1 3 章） 1 4 回目 まとめ ①レポート発表 1 5 回目 まとめ ②レポート発表の総括		
到達目標	衣服と文化の関わりを知ることにより、より良い衣生活を送ることができる。SDG s に貢献する衣服社会とは何かを考えるための、基礎となる知識を得る。		
授業時間外の学習	新聞や雑誌などから衣服に関する情報を得る。流行、ブランドの成り立ち、日本の伝統行事と衣服、衣服の歴史など、衣服と文化の関わり、衣服と社会との関わりを調べる。		
評価方法	小レポート：30%、期末レポート：70%で評価する。 遠隔授業を実施する場合も評価方法に変更はない。		
テキスト	『ビジュアル衣生活論』岡田宣子編著・建帛社		
参考書			
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	1 年次	1 単位	選択
担当教員			
山内見和 教授			
添付ファイル			

授業の概要	人間が生きていくうえで衣服は欠かせないものである。現在、衣服は既製服がほとんどであるが、繕ったりボタンを付けたりと縫う技術を身に付けておくことが必要である。ここでは、洋裁の基礎的な技術を習得することにより洋服や小物を作る楽しさを感じ、日常生活に役立てることを目的とする。 最初に基礎縫いの練習を行い、手縫い、ミシン縫いに慣れることから始める。その後、ファスナー付トートバック、スカートを製作し、基礎的な技法を習得するとともに、ものづくりの楽しさを体感する。 なお、学習成果の指標はB-①である。 遠隔授業を実施する場合は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）で実施する。
授業計画	1 回目 洋裁道具の説明・ミシンの使い方 2 回目 基礎縫い ①手縫いー並縫い・半返し縫いなど 3 回目 基礎縫い ②手縫いーボタン付け・スナップ付けなど 4 回目 基礎縫い ③ミシン縫い 5 回目 エプロン ①型紙の作成・地直し・裁断・印付け 6 回目 エプロン ② 本縫い・仕上げ 7 回目 トートバック ①型紙の作成・地直し・裁断・印付け 8 回目 トートバック ②ファスナー付け・本縫い・仕上げ 9 回目 パンツまたはスカート ①型紙の作成 1 0 回目 パンツまたはスカート ②地直し・裁断・印付け 1 1 回目 パンツまたはスカート ③仮縫い・試着・補正 1 2 回目 パンツまたはスカート ④ポケット付け 1 3 回目 パンツまたはスカート ⑤脇縫い・ベルト付け 1 4 回目 パンツまたはスカート ⑥裾の始末 1 5 回目 パンツまたはスカート ⑦仕上げ・着装
到達目標	洋裁の基本的技術、ミシン縫いや手縫いの技術を身に付ける。そして快適な衣生活を送ることが出来るようになる。
授業時間外の学習	新聞や雑誌などを調べ、どのような衣服が必要か、似合うかを考える。その上で、物を作る楽しさ、必要性を感じてもらい、縫う技術が身につくよう日頃から練習する。
評価方法	提出作品：100%で評価する。 遠隔授業を実施する場合も評価方法に変更はない。
テキスト	プリントを配布する。
参考書	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	1 単位	選択
担当教員			
山内見和 教授			
添付ファイル			

授業の概要	いろいろなデザインの既製服が市販されているが、流行によりデザインは毎年変化している。洋裁の技術があれば、古いデザインをリメイクしたり、サイズを調整し、SDGSに貢献したり、またコスプレを楽しんだりと衣生活を充実したものとするができる。それには、洋裁の技術を習得することが必要である。 授業では、自分の好きな布地で、それぞれのサイズに合わせたブラウス・シャツなどを基本に、各自の技術で作る作品を決める。 なお、学習成果の指標はB-③である。 遠隔授業を実施する場合は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）で実施する。
授業計画	1 回目 作品のデザイン決定 2 回目 ブラウスまたはシャツなど ①型紙の作成 3 回目 ブラウスまたはシャツなど ②地直し・裁断・印付け 4 回目 ブラウスまたはシャツなど ③仮縫い 5 回目 ブラウスまたはシャツなど ④試着・補正 6 回目 ブラウスまたはシャツなど ⑤ポケット付け・襟 7 回目 ブラウスまたはシャツなど ⑥袖付け・脇 8 回目 ブラウスまたはシャツなど ⑦ボタン付けなど 9 回目 ブラウスまたはシャツなど ⑧裾の始末・仕上げ・着装 1 0 回目 ワンピースなど ①型紙の作成 1 1 回目 ワンピースなど ②地直し・裁断・印付け 1 2 回目 ワンピースなど ③仮縫い・試着・補正 1 3 回目 ワンピースなど ④ポケット付け 1 4 回目 ワンピースなど ⑤本縫い 1 5 回目 ワンピースなど ⑥仕上げ・着装
到達目標	洋裁の技術を身につけ、簡単に衣服や小物を作ることができる。
授業時間外の学習	自分に似合う服、自分が欲しい服を考え、それをどの様に作製するかを考える。また、日頃から縫う技術が上達するように練習をする。
評価方法	提出作品：100%で評価する。 遠隔授業を実施する場合も評価方法に変更はない。
テキスト	プリントを配布する。
参考書	
備考	

講義科目名称： ファッション造形・和裁

授業コード： 124012 125006

英文科目名称： Clothing Making / Kimono Making

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	2 年次	1 単位	選択
担当教員			
山内見和 教授			
添付ファイル			

授業の概要	日本の伝統衣装である和服が見直されている。本授業では直線で平面的に構成されている和服の基礎的な知識・名称を理解し、ゆかたの制作を通して布地の選び方、素材に対する適切な縫製技術を習得することを目的とする。 自分のサイズに合ったゆかた（大裁ち女物単衣長着）を製作し、最後にゆかたの着付け・たたみ方などを学ぶ。 なお、学習成果の指標はB－①である。 遠隔授業を実施する場合は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）で実施する。
授業計画	1 回目 和服の基礎知識・和裁に必要な用具 2 回目 和裁の基礎的な縫い方・見積もり・柄あわせ・裁断・印付け 3 回目 背縫い 4 回目 そで作り 5 回目 居敷き当て肩当て付けと始末 6 回目 あげ縫い・おくみ作り 7 回目 おくみ付けと始末 8 回目 わき縫い 9 回目 わきの始末 1 0 回目 そで付け 1 1 回目 そでの始末 1 2 回目 えり付け 1 3 回目 えりの始末 1 4 回目 仕上げ 1 5 回目 着付け
到達目標	和裁の基礎知識を習得し技術を身に付けることにより、ゆかたを縫うことが出来る。そして、自分で着物が着装できる。さらに、日本の異文化を理解することができる。
授業時間外の学習	日頃の生活や本などから和服の良さを感じ、和服のコーディネートなどの感性を磨く。また、日頃から縫う習慣を身に付ける。
評価方法	提出作品：100%で評価する。 遠隔授業を実施する場合も評価方法に変更はない。
テキスト	プリントを配布する。
参考書	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	2 年次	1 単位	選択
担当教員			
山内見和 教授			
添付ファイル			

授業の概要	色々なものが市場にあふれている中、自分の個性に合った、必要なものを自分で製作することは生活していくうえで重要である。ここでは編み物や裁縫など、手芸の基礎的な知識・技術を習得し、自分で物を作ることの楽しさを学ぶ。作品は各自の能力に合わせて制作する。 なお、学習成果の指標はB-①である。 遠隔授業を実施する場合は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）で実施する。
授業計画	1 回目 手縫いで作る小物 2 回目 かぎ編みで作る小物 ①かぎ編みの基礎 3 回目 かぎ編みで作る小物 ②いちごの本体を作製する 4 回目 かぎ編みで作る小物 ③いちごを仕上げる 5 回目 プラバンで作る小物 ①絵をかきオーブンで焼く 6 回目 プラバンで作る小物 ②仕上げる 7 回目 プラバンで作る小物 ③アクセサリーを作る 8 回目 ミサンガ ①糸を組む 9 回目 ミサンガ ②仕上げる 1 0 回目 ステンシルのペンケース ①ステンシル 1 1 回目 ステンシルのペンケース ②縫う 1 2 回目 ステンシルのペンケース ③仕上げ 1 3 回目 ミシンで作るティッシュカバー 1 4 回目 ミシンで作る巾着 1 5 回目 自由作品の制作
到達目標	作品の製作を通して、手縫いの技術、ミシンの使い方、刺繍の仕方、かぎ編みの技術などを習得することができる。
授業時間外の学習	本や作品展などを見て自分の感性を磨く。それを作品づくりに役立てる。
評価方法	提出作品：100%で評価する。 遠隔授業を実施する場合も評価方法に変更はない。
テキスト	プリントを配布する。
参考書	
備考	

講義科目名称： ファッションクラフトⅡ

授業コード： 243012 244012

英文科目名称： Handicraft 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	2 年次	1 単位	選択
担当教員			
山内見和 教授			
添付ファイル			

授業の概要	編み物や革細工などの手芸の技術を身につけ、さらに個性的な作品をすることにより手仕事の楽しさを学ぶ。作品は各自の能力、美的感覚により製作する。 なお、学習成果の指標はB-③である。 遠隔授業を実施する場合は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）で実施する。
授業計画	1 回目 棒編みで編むバック①編み方の説明・ゲージの作成 2 回目 棒編みで編むバック ②本体編み 3 回目 棒編みで編むバック ③本体の仕上げ 4 回目 棒編みで編むバック ④持ち手付け 5 回目 クリスマスリース ①デザイン作り 6 回目 クリスマスリース ②飾り作り・仕上げ 7 回目 毛糸で作るクリスマスリース 8 回目 革の小物 ①プレスレット 9 回目 革の小物 ②靴のキーホルダー 1 0 回目 UVレジンで作る小物 ①土台をつくる 1 1 回目 UVレジンで作る小物 ②仕上げ 1 2 回目 フェルトで作るポーチ ①フェルトの飾りの切断 1 3 回目 フェルトで作るポーチ ②フェルトの飾りの縫い付け・仕上げ 1 4 回目 ビーズで作る小物 1 5 回目 自由作品の制作
到達目標	習得した技術を使い、各自の感性により個性豊かな作品作りを行うことができる。
授業時間外の学習	本やインターネット、また色々な作品や商品を見ることにより、各自の作りたい作品を計画し、それを作成するにはどのようにしたら良いか考えておく。
評価方法	提出作品：100%で評価する。 遠隔授業を実施する場合も評価方法に変更はない。
テキスト	プリントを配布する。
参考書	
備考	

講義科目名称： ファッション販売

授業コード： 241008

英文科目名称： Fashion Sales

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	2 単位	選択
担当教員			
山内見和 教授			
添付ファイル			

授業の概要	アパレル業界では商品を並べて売だけの知識だけではなく、ファッションの知識、お客様への的確な対応、販売に関する専門的な知識、技術が求められる。ここではアパレル業界の基礎知識や、販売のマナーなどを身につけ、販売員としての知識はもちろん、消費者としての役立つ知識を得ることを目的とする。併せて、ファッション業界への就職に役立つ、財団法人日本ファッション教育振興協会主催のファッション販売能力検定試験合格を目指す。 なお、学習成果の指標はB-②である。 遠隔授業を実施する場合は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）を組み合わせる。		
授業計画	1 回目	ファッション販売知識 ①ファッションとは	(1 章)
	2 回目	ファッション販売知識 ②ファッション小売業の業種・業態	(1 章)
	3 回目	ファッション販売知識 ③ファッション販売とお客様	(1 章)
	4 回目	ファッション販売技術 ①基本マナー	(2 章)
	5 回目	ファッション販売技術 ②購買心理について	(2 章)
	6 回目	ファッション販売技術 ③接客の基本	(2 章)
	7 回目	商品知識 ①アイテムの知識・サイズの知識	(3 章)
	8 回目	商品知識 ②素材の種類	(3 章)
	9 回目	商品知識 ③ファッションと色	(3 章)
	1 0 回目	売り場作り ①店舗の環境	(4 章)
	1 1 回目	売り場作り ②マーチャンダイズプレゼンテーション	(4 章)
	1 2 回目	マーケティング ①マーケティングの基礎知識	(5 章)
	1 3 回目	マーケティング ②ファッション店舗のマーケティング	(5 章)
	1 4 回目	販売スタッフの業務 ①販売業務の種類	(6 章)
	1 5 回目	販売スタッフの業務 ②キャリアプラン	(6 章)
到達目標	ファッションの販売知識から商品知識まで、アパレルの基礎知識を習得することができる。併せて、ファッション業界への就職に役立つ、財団法人日本ファッション教育振興協会主催のファッション販売能力検定試験3級さらに2級の資格を得ることができる。		
授業時間外の学習	衣服を購入する際、店の外観、ディスプレイ、販売員の接客方法などを良く観察し、自分の感性を磨く。授業時に、配布されたプリントの予習、復習を行い、ファッション販売能力検定試験合格を目指す。		
評価方法	期末レポート：100%で評価する。 遠隔授業を実施する場合も評価方法に変更はない。		
テキスト	『ファッション販売3』財団法人日本ファッション教育振興協会		
参考書			
備考			

講義科目名称： 生活経営学（家庭経済学を含む）

授業コード： 132014

英文科目名称： Home Economy and Management

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	1 年次	2 単位	必修
担当教員			
仲田郁子 教授			
添付ファイル			

授業の概要	生活経営学の基礎的な概念と理論を学び、生活を社会科学的な視点から捉えなおす。生活を営む上での問題や課題に意欲的に取り組み、解決する生活主体として、自分自身の生活（生活時間、生活資源等）を振り返り、今後の生活設計について考える。 学習成果の指標はB-①である。 本授業は、対面授業を中心に実施するが、遠隔授業となった場合は①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と②同時・双方向型学修（「Google Meet」を利用）を組み合わせる。		
授業計画	1 回目	ガイダンス、生活経営学（家庭経営学）と生活主体の形成	
	2 回目	人の一生と社会保障制度	
	3 回目	生活設計とは何か	
	4 回目	ライフコースの選択	
	5 回目	ジェンダーと家族	
	6 回目	成年年齢引き下げの意義	
	7 回目	消費者の権利と責任	
	8 回目	消費者市民社会の構築	
	9 回目	エシカル消費とは	
	1 0 回目	家庭経済と経済計画	
	1 1 回目	金銭資源と生活設計	
	1 2 回目	生活時間と課題	
	1 3 回目	職業労働と家事労働	
	1 4 回目	家庭生活と福祉	
	1 5 回目	生活の質（QOL）の向上と持続可能な社会の実現に向けて	
到達目標	生活経営学の基礎知識を身につけることができる。幅広い世代の家計の現状を知り、各世代の生活に生じやすいリスクや生活を守るための制度等について理解することができる。自らの生活・生活資源をもとに、今後の生活設計をすることができる。		
授業時間外の学習	生活者としての能力を高めるために、社会人になる前に身につけるべき生活課題を決め、各自が立てた行動計画に基づき確実に実行すること。中間レポート・期末レポートとして、各自の生活を記録・改善計画を実行した成果をまとめ、報告する場合がある。		
評価方法	授業への参加意欲（30％）、中間レポート（30％）、小テスト（40％）の結果をもとに評価する。 遠隔授業に変更した場合も評価方法に変更はない。		
テキスト	教科書は使用しない。授業時にプリントを配布する。		
参考書	御船美智子・上村協子共編者『現代社会の生活経営』（光生館） 伊藤純・斎藤悦子編著『ジェンダーで学ぶ生活経済論（第2版）』（ミネルヴァ書房） （社）日本家政学会生活経営学部会編『暮らしをつくりかえる生活経営学』（朝倉書店）		
備考	授業の一環として、栃木の暮らしを学ぶためのフィールドワークを取り入れる場合がある。		

講義科目名称： 家族関係

授業コード： 144011

英文科目名称： Family Relations

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	2 年次	2 単位	選択
担当教員			
仲田郁子 教授			
添付ファイル			

授業の概要	家族関係の基礎知識について学ぶと共に、家族と社会の歴史的な変化の状況を知り、現代家族の抱える問題についてどう取り組むべきか、具体的な方法について授業者参加者のディスカッションを通して考える。 学習成果の指標はB-①である。 本授業は、対面授業を中心に実施するが、遠隔授業となった場合は①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と②同時・双方向型学修（「Google Meet」を利用）を組み合わせる。
授業計画	1 回目 ガイダンス、家族とは何か 2 回目 変容する家族 3 回目 定位家族と生殖家族 4 回目 ライフサイクルとライフコース 5 回目 結婚 6 回目 出産・育児 7 回目 離婚・非婚 8 回目 介護 9 回目 相続 1 0 回目 家族の個人化・多様化 1 1 回目 ジェンダーと家族 1 2 回目 ワーク・ライフ・バランス 1 3 回目 地域の家族 1 4 回目 世界の家族 1 5 回目 ふりかえりとまとめ、これからの家族関係の課題
到達目標	結婚、夫婦関係、子育て、親子関係、高齢者の介護などについて、日本や世界の家族の現状について知ると共に、社会状況の歴史的な変化をふまえ、これからの家族関係の課題について考えを深めることができる。
授業時間外の学習	レポート作成は、ワープロ原稿を原則とするため、授業内で作業が終わらなかった場合には、資料収集や執筆作業を授業時間外に行うこととする。
評価方法	授業への参加意欲（30％）、小レポート（20％）、期末レポート（50％）の結果をもとに評価する。 遠隔授業に変更した場合も評価方法に変更はない。
テキスト	教科書は使用しない。必要に応じてプリントを配布する。
参考書	湯沢雍彦・宮本みち子『新版データで読む家族問題』（日本放送出版協会、2008） 伊藤純・斎藤悦子編著『ジェンダーで学ぶ生活経済論（第2版）』（ミネルヴァ書房、2015）
備考	授業の展開により、授業の内容・順番が一部変更される可能性がある。 実務教員：後期中等教育学校家庭科教諭として38年間勤務、家庭生活アドバイザー。

講義科目名称： 住居学

授業コード： 162002

英文科目名称： Housing Studies

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	2 年次	2 単位	選択
担当教員			
目黒 浩 講師			
添付ファイル			

授業の概要	住居学では、住生活の仕組みを明らかにする為に、私たちが暮らしている地球上の様々な問題と、住宅の歴史と住生活の変遷をイラスト等を使い明らかにし、また最新の住生活への取り組みおよび、住居の各室に必要な要素や各室の繋がりについて具体的な間取りを使い理解し、自分自身が住まいの条件を設定した中での理想とする間取りの設計を学ぶ。 なお、学習成果の指標はB-②である。 本授業は、対面授業を中心に実施するが、遠隔授業になった場合は、①課題型学修（「Google classroom」を利用）と②同時・双方向型学修（「Google Meet」）を利用）とを組み合わせる。
授業計画	1 回目 オリエンテーション、住居学の目的と意義 2 回目 地球環境の様々な問題 3 回目 住宅の歴史と住生活の変遷 4 回目 住居の各室（人体寸法、単位空間とプライベートスペース） 5 回目 住居の各室（パブリックスペース） 6 回目 住居の設計と間取り（設計プロセスとゾーニング・動線計画） 7 回目 住居の設計と間取り（間取りと各室の繋がり） 8、9 回目 住宅展示場モデルルーム見学会 10回目 地震と住居の構造 11回目 日本の自然環境と住宅設備 12回目 自分の将来の住居について 課題説明、演習 1（設計条件書作成、ゾーニング検討） 13回目 自分の将来の住居について 演習 2（間取り作成、レポート作成） 14回目 自分の将来の住居について 間取り・レポート発表、ディスカッション 15回目 最新の住生活への取り組みと、地球にやさしく住む為にサステナブル社会へ
到達目標	住居を住まう人間の生活からとらえ、持続可能な（サステナブル）社会を前提に、住空間のあり方を考察し、住環境に対する理解力を身につけ、豊かな住生活を創出できる。 住居が持続可能な（サステナブル）社会を形成する重要な要素の 1 つであることを踏まえ、地球環境問題を始めた住生活を取りまく様々な要素を理解し、豊かな住生活とは何かを考え、多様な生き方に対応した健康で快適で安心・安全な住空間を作り出す手がかりを、身近な生活空間をモデルケースにして掴める。
授業時間外の学習	授業結果や次回授業用に配布された資料により、興味を持った内容について、参考となる書籍やインターネット等により知識を深める為の予習と復習を行う。
評価方法	授業への参加意欲（30%）、単位レポート（70%）。 遠隔授業を実施した場合は、レポート提出(100%)とする。
テキスト	必要に応じて資料を配布する。
参考書	授業の中で、随時紹介する。
備考	

講義科目名称： 保育学

授業コード： 154007

英文科目名称： Childcare Studies

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	1 年次	2 単位	選択
担当教員			
野城 尚代 講師			
添付ファイル			

授業の概要	昨今の研究では、乳児は出生後から生まれながらにして持っている力を使って、積極的に周囲に働きかけている能動的な存在であることを明らかにしている。本授業では、子どもの成長をサポートする法制度を視点にして、子どもの成長・発達について考える。さらに女性自身の妊娠・出産、男性の子育てなどのさまざまな視点から「保育」（子育て）について考える。なお、学習成果の指標はB-②である。 保育実習（幼稚園観察）は集中補講期間に、二杉幼稚園にて実施予定である。 本授業は対面授業とするが、遠隔授業になった場合は①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と②同時・双方型学修（「Google meet」を利用）を組み合わせる実施する。
授業計画	1 回目 親と子どもの発達 2 回目 少子化社会と子育て支援 3 回目 妊娠・出産と健康 4 回目 母子保健法と妊娠・出産 5 回目 母子保健法と乳児期 6 回目 母子保健法と幼児期 7 回目 健康リスクへの対応 8 回目 父親の育児参加 9 回目 子どもの権利 1 0 回目 子どもの遊びと児童文化①意義 1 1 回目 子どもの遊びと児童文化②絵本の読み聞かせ等 1 2 回目 子どもの成長と福祉①乳児期 1 3 回目 子どもの成長と福祉②幼児期 1 4 回目 子どもの成長と福祉③学童期 1 5 回目 まとめ、振り返り
到達目標	妊娠・出産に関する制度を理解し、説明することができる。子どもの成長・発達の特徴を理解し、子どもの成長・発達に応じたサポート体制を説明できる。
授業時間外の学習	周囲の乳幼児に興味関心を持つ。自分自身の幼児期を振り返る。
評価方法	授業時の小レポートと課題を50%、期末レポートを50%とし、総合的に評価する。
テキスト	全国保育士養成協議会監修／宮島清、山縣文治編集『ひと目でわかる 保育者のための子ども家庭福祉データブック2023』中央法規、2022年12月。 適宜、資料の閲覧（厚生労働省のホームページ等）を指示する。
参考書	厚生労働省「母子健康手帳」（厚生労働省ホームページで閲覧可能）、内閣府編『少子化社会対策白書』（内閣府ホームページで閲覧可能）等、授業時に指示する。
備考	

講義科目名称： 衛生学（予防医学を含む）

授業コード： 131009

英文科目名称： Hygiene and Public Health

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	2 年次	2 単位	必修
担当教員			
齊藤 浩 講師			
添付ファイル			

授業の概要	人の健康を確保するための学問であり、学校保健にとっても最も重要なものである。感染症対策も含め、実生活においても役立つようにする。 なお、学習成果の指標はB-②である。対面授業を原則とするが、遠隔授業の際は1：課題型学修（Google Classroom）および2：同時双方向型学修（Google Meet）を組み合わせて実施する。その際はレポートなどもclassroomで提出とする。		
授業計画	1 回目 健康と公衆衛生 2 回目 公衆衛生の概念 3 回目 健康教育 4 回目 健康と環境、疫学的方法 5 回目 健康の指標 6 回目 感染症と予防 7 回目 食品保健 8 回目 生活環境の保全 9 回目 医療制度と地域保健活動 1 0 回目 母子保健 1 1 回目 学校保健 1 2 回目 生活習慣病 1 3 回目 難病対策、精神保健福祉 1 4 回目 産業保健とこれからの公衆衛生 1 5 回目 まとめ		
到達目標	健康といっても漠然として理解するのは難しい。身近なことを通して学生が理解、実践できる。		
授業時間外の学習	テキスト等を読んでおく。		
評価方法	授業への参加意欲・態度（40％）、レポートや小テスト（60％） 遠隔授業を実施した場合でも、評価方法に変更はない。		
テキスト	『わかりやすい公衆衛生学』清水忠彦他編・広川書店		
参考書	授業の中で、随時紹介する。		
備考			

講義科目名称： 社会福祉

授業コード： 223014

英文科目名称： Social Welfare

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	2 単位	選択
担当教員			
仲田郁子 教授			
添付ファイル			

授業の概要	現代社会における様々な問題と多様化した社会福祉へのニーズについて知り、社会福祉の意義・理念や制度・実施体系の現状について学ぶ。また、社会福祉と児童福祉との関連性について理解し、具体的な支援方法として、児童と保護者に対するソーシャルワークの基礎について学ぶ。 学習成果の指標はB-②である。 本授業は、対面授業を中心に実施するが、遠隔授業となった場合は①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と②同時・双方向型学修（「Google Meet」を利用）を組み合わせる。
授業計画	1 回目 ガイダンス、社会福祉の理念と概念 2 回目 社会福祉の歴史的変遷 3 回目 社会福祉と児童家庭福祉 4 回目 児童の人権擁護と児童家庭福祉 5 回目 少子化対策、男女共同参画社会の実現と子育て支援 6 回目 社会福祉の制度と実施体系①制度と法体系 7 回目 社会福祉の制度と実施体系②財政と実施機関 8 回目 社会福祉の制度と実施体系③社会福祉施設、専門職・実施者 9 回目 社会福祉における利用者の保護にかかわる仕組み 10 回目 社会福祉における相談援助（ソーシャルワークの基礎） 11 回目 児童と保護者に対するソーシャルワーク①児童虐待防止と社会的養護 12 回目 児童と保護者に対するソーシャルワーク②障がいのある児童 13 回目 児童と保護者に対するソーシャルワーク③貧困家庭 14 回目 児童と保護者を支えるための連携とネットワーク 15 回目 社会福祉の動向と課題、まとめ
到達目標	社会福祉・児童福祉の理念や意義、制度等の現状について理解するとともに、児童や保護者に対する具体的な支援方法としてソーシャルワークの基礎を習得することができる。
授業時間外の学習	授業後には、講義内容の復習をすること。実際にボランティア活動に参加し、日常的に新聞やニュースで社会福祉全般や児童家庭福祉に関する情報を集める等、社会的な支援を必要としている人々に対し、自分がどんな手助けをすることができるか考える機会を多く持つことが望ましい。
評価方法	授業への参加意欲（30%）、小テスト（20%）、期末レポート（50%）の結果をもとに評価する。 遠隔授業に変更した場合も評価方法に変更はない。
テキスト	教科書は使用しない。授業時にプリントを配布する
参考書	山縣文治他『よくわかる社会福祉』（ミネルヴァ書房） 吉田真理『生活事例からはじめる新版社会福祉』（青鞥社、2019）
備考	本科目は「保健児童ソーシャルワーカー」の必須科目（「児童ソーシャルワーク」の読み変え科目）である。授業の一環としてボランティア活動を行う場合がある。

講義科目名称： 暮らしと会計 I

授業コード： 113008

英文科目名称： Living and Accounting I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	1 年次	2 単位	選択
担当教員			
吉田真理子 教授			
添付ファイル			

授業の概要	私たちの健康は5大栄養素をバランスよく摂取することで維持・管理されています。これらの栄養素に、家計をバランスよく支出することで私たちの健康が保たれています。その家計の収入源は経済活動を行っている企業等に 있습니다。これらの企業は、5つの項目（勘定）を用いた簿記という技法によって、経営の健康状態を把握しています。そのため、簿記（複式簿記）を理解することで、私たちは経済社会の活動に役立てています。講義では、複式簿記の基本的構造の理解を目標に、簿記検定試験の資格取得も視野に入れて簿記の基礎をわかりやすく学習します。授業の進度及びレベルは、受講者の習熟度に応じて内容を調整・変更しながら進めます。資格取得を望まない場合でも、履修によって社会生活で役立てることができる知識などを学ぶことができます。 なお、学習成果の指標は、A－③とB－②です。 本授業は、対面授業を実施します。ただし、必要に応じて遠隔授業を行わなければならない場合は、② 同時・双方向型学修（「Google Meet」を利用）を中心に、① 課題型学修（「Google Classroom」を利用）、または③ オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）とを組み合わせ実施します。履修者への連絡や課題の指示は、必要に応じて「Google Classroom」も利用します。
授業計画	1 回目 家庭生活と家計簿、企業活動と簿記 2 回目 資産・負債・純資産の計算と貸借対照表 3 回目 収益・費用の発生と純損益の計算及び損益計算書 4 回目 取引と勘定の意味と勘定口座 5 回目 仕訳と転記及び総勘定元帳の意味と記入方法 6 回目 試算表（意味、役割、種類と作成方法） 7 回目 精算表（意味、役割、しくみ） 8 回目 決算（意味、一連の手続き、本手続き、報告） 9 回目 現金・預金の取引（現金・預金・現金過不足・当座預金・当座借越・小口現金） 1 0 回目 商品売買の取引①（三分法と分記法・仕入帳と売上帳・商品有高帳） 1 1 回目 商品売買の取引②（掛け取引・貸し倒れ・前払金と前受金）とクレジット売掛金 1 2 回目 手形取引と電子記録債権・債務 1 3 回目 その他の債権・債務の取引①（貸付金と借入金・手形貸付金と手形借入金・役員貸付金と役員借入金） 1 4 回目 その他の債権・債務の取引②（立替金と預り金・仮払金と仮受金・商品券） 1 5 回目 試算表の作成とまとめ（総合問題）
到達目標	1. 知識・技能 ・複式簿記の記録の方法を理解することができる。 ・複式簿記を理解し、企業の取引を仕訳により記録することができる。 ・決算前までの簿記の手続きが理解できる。 ・試算表を作成することができる。 ・資格取得を望まない場合でも、社会生活で役立てることができる知識などを身に付けることができる。 2. 思考・判断力・表現 ・記憶に代わる記録において、簿記上取引を判断し、体系的に記録・整理することで、思考力を高めることができる。

	・財産変動の原因と在り高計算を理解し、その結果を試算表に表示することができる。 3. 学びに向かう力 ・練習問題の取組と反復学習を通して、持続力、忍耐力、検定試験などへのチャレンジ精神を養うことができる。 ・練習問題の取組によって、主体的に学び、目的意識及びおよび学習意欲を高めることができる。
授業時間外の学習	1. 授業を欠席した場合について やむを得ず欠席した場合は、当該授業の内容を次回までに必ず確認しておいてください。なお、課題が出ている場合は、提出日を確認し指定日に提出してください。 2. 授業の予習について（90分） 毎回、予定されている授業計画を確認し、テキストの該当箇所を目を通しておいてください。理解できなかったところを中心に授業では理解を深めてください。 3. 授業の復習について（120分） 日商簿記検定3級の資格取得を視野に入れて学習を進めます。簿記を理解するためには、地道な努力の積み重ねが求められます。毎回、授業の復習を行って、問題集の該当箇所を解き、各自の習熟度を確認しておくことが望ましい。練習問題は繰り返し答案練習することで、より早く正確に解答する技術が身につきます。特に、簿記検定の資格取得を考えている学生は、あわせて過去の検定試験問題（※最新版）にチャレンジすることをお勧めします。
評価方法	平常点（100%）。詳細は以下の割合で評価します。授業への参加意欲（20%）、演習課題（30%）、理解度確認テスト（50%）に基づき総合的に評価します。遠隔授業に変更した場合も評価方法に変更はありません。
テキスト	・TAC株式会社（簿記検定講座）編『よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記3級 Ver. 13.0』TAC出版、2022年 ※最新版 ・渡部裕亘・片山寛・北村敬子編著『検定簿記ワークブック／3級商業簿記』（中央経済社、2022年）※最新版 ・そのほかに適宜、プリントを配布します。 ※日商簿記検定試験の出題範囲が頻繁に変更されています。上記の版（Ver.）はシラバス作成時点のもので、授業開始時のものと異なる場合があります。学習の際は必ず最新版を使用してください。
参考書	・TAC株式会社（簿記検定講座）編『よくわかる簿記シリーズ 合格トレーニング 日商簿記3級 Ver. 13.0』（TAC出版、2022年）など。 ※最新版 ・そのほか、必要に応じてその都度紹介します。 ※日商簿記検定試験の出題範囲が頻繁に変更されています。上記の版（Ver.）はシラバス作成時点のもので、授業開始時のものと異なる場合があります。学習の際は必ず最新版を使用してください。 ・日商簿記検定試験情報：https://www.kentei.ne.jp/bookkeepingを参照。
備考	・「くらしと会計Ⅱ」も履修してください。 ・授業で電卓（10桁以上）を毎回使用します。 ・授業計画は履修状況に応じて変更する場合があります。 ・授業時の課題が未完成またはやむを得ず欠席して未提出の場合は、完成させて次週または指定日までに必ず提出してください。 ・検定試験に合格するためには自主学習による地道な努力が肝要です。

講義科目名称： 暮らしと会計Ⅱ

授業コード： 223016

英文科目名称： Living and Accounting Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	2 単位	選択
担当教員			
吉田真理子 教授			
添付ファイル			

授業の概要	簿記の知識と資格を得ることは、職業の選択肢を増やし、社会での活躍の場を広げます。授業では、「暮らしと会計Ⅰ」の知識をもとに、私たちのくらしや会計実務に役立つ企業会計への理解を深めます。特に決算整理を中心に、複式簿記の構造について理解を深めることができます。各回の前半部分では、必要事項について説明し、後半部分では習熟度を確認するための練習問題に取り組み、日商簿記検定試験の資格取得に向けて学習をします。授業の進捗及びレベルは、受講者の習熟度に応じて内容を調整・変更しながら進めます。なお、学習成果の指標は、B－②です。 本授業は、対面授業を実施します。ただし、必要に応じて遠隔授業を行わなければならない場合は、② 同時・双方向型学修（「Google Meet」を利用）を中心に、① 課題型学修（「Google Classroom」を利用）または、③ オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）とを組み合わせた授業を実施します。履修者への連絡や課題の指示は、必要に応じて「Google Classroom」も利用します。
授業計画	1 回目 主要簿と補助簿（補助記入帳・補助元帳）の関係 2 回目 有形固定資産の取得と売却・賃借（差入保証金）・未収金と未払金 3 回目 精算表①（種類・8桁精算表の作成手順） 4 回目 決算整理①（現金過不足） 5 回目 決算整理②（当座借越・貯蔵品） 6 回目 決算整理③（売上原価の計算・貸倒引当金の設定） 7 回目 決算整理④（減価償却） 8 回目 決算整理⑤ （経過勘定項目と決算整理事項のまとめ） 9 回目 帳簿決算と財務諸表の作成①（意味・帳簿の締め切り） 1 0 回目 財務諸表の作成②（2 区分損益計算書と貸借対照表）とその評価 1 1 回目 株式の発行 1 2 回目 剰余金の配当と処分 1 3 回目 税金 1 4 回目 証ひょうと伝票 1 5 回目 精算表②（総合問題） とまとめ
到達目標	1. 知識・技能 ・簿記一巡の手続きを理解し、決算処理を行って精算表を作成することができる。 ・帳簿の締め切りと財務諸表を作成することができる。 ・習得した知識をもとに、私たちのくらしや会計実務に役立つ企業会計への理解を深めることができる。 ・複式簿記の知識と技法を活かして、検定試験（日商簿記検定試験3級程度）にチャレンジすることができる。 2. 思考・判断力・表現 ・習得した知識および技法を用いて、会計処理を行うことができる。 ・財務諸表の財務分析・経営成績の評価などを行うことで、思考力・判断力などが高められ、実社会に役立つ知識を得ることができる。 3. 学びに向かう力 ・練習問題の取組と反復学習を通して、持久力、忍耐力、検定試験などへのチャレンジ精神を養うことができる。

	・練習問題の取組によって、主体的に学び、目的意識及び学習意欲を高めることができる。 ・学習を通して、基礎力を身につけ、キャリア形成力を養うことができる。
授業時間外の学習	1. 授業を欠席した場合について やむを得ず欠席した場合は、当該授業の内容を次回までに必ず確認しておいてください。なお、課題が出ている場合は、提出日を確認し指定日に提出してください。 2. 授業の予習について（90分） 毎回、予定されている授業計画を確認し、テキストの該当箇所に目を通しておいてください。理解できなかったところを中心に授業では理解を深めてください。 3. 授業の復習について（120分） 日商簿記検定3級の資格取得を視野に入れて練習問題を解くことを中心に学習を進めます。簿記を理解するためには、地道な努力の積み重ねが求められます。毎回、授業の復習を行って、問題集の該当箇所を解き、各自の習熟度を確認しておくことが望ましい。練習問題は繰り返し答案練習することで、より早く正確に解答する技術が身につきます。特に、簿記検定の資格取得を考えている学生は、あわせて過去の検定試験問題（※最新版）にチャレンジすることをお勧めします。
評価方法	平常点（100%）。詳細は以下の割合で評価します。授業への参加意欲（20%）、演習課題（30%）、理解度確認テスト（50%）に基づき総合的に評価します。遠隔授業に変更した場合も評価方法に変更はありません。
テキスト	・TAC株式会社（簿記検定講座）編『よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記3級 Ver. 13.0』TAC出版、2022年）※最新版 ・渡部裕亘・片山寛・北村敬子編著『検定簿記ワークブック／3級商業簿記』（中央経済社、2022年）※最新版 ・そのほかに適宜、プリントを配布します。 ※日商簿記検定試験の出題範囲が頻繁に変更されています。上記の版（Ver.）はシラバス作成時点ものです。授業開始時のものと異なる場合があります。学習の際は必ず最新版を使用してください。
参考書	・TAC株式会社（簿記検定講座）編『よくわかる簿記シリーズ 合格トレーニング 日商簿記3級 Ver. 13.0』（TAC出版、2022年）など。 ※最新版 ・そのほか、必要に応じてその都度紹介します。 ※日商簿記検定試験の出題範囲が頻繁に変更されています。上記の版（Ver.）はシラバス作成時点のものです。授業開始時のものと異なる場合があります。学習の際は必ず最新版を使用してください。
備考	・「くらしと会計Ⅰ」を修得後に履修してください。 ・授業で電卓（10桁以上）を毎回使用します。 ・授業計画は履修状況に応じて変更する場合があります。 ・授業時の課題が未完成またはやむを得ず欠席して未提出の場合は、完成させて次週または指定日までに必ず提出してください。 ・検定試験に合格するためには自主学習による地道な努力が肝要です。

講義科目名称： 解剖生理学

授業コード： 253010

英文科目名称： Anatomy and Physiology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	2 単位	選択
担当教員			
盛川 宏 講師			
添付ファイル			

授業の概要	保健医療の面における最も基本的且つ重要な科目を理解し、実生活に役立たせる。学校保健に携わる者に必要な人体の構造と機能の基礎知識を学ぶ。 人体の細胞・組織・臓器・器官の機能を理解し、人体の構造と機能を系統的に理解する。 なお、学習成果の指標はB-②である。 本授業は、対面授業を中心に実施するが、遠隔授業になった場合は、①課題型学修（「Google classroom」を利用）と②同時・双方向型学修（「Google Meet」）を利用）とを組み合わせ実施する。
授業計画	1 回目 オリエンテーション 人体の骨格系器官の構造と機能 2 回目 体液と血液 3 回目 骨格 4 回目 筋肉 5 回目 神経 6 回目 循環器 7 回目 呼吸器 8 回目 泌尿器 9 回目 消化器 1 0 回目 内分泌 1 1 回目 生殖 1 2 回目 皮膚と感覚 1 3 回目 生体防御と免疫 1 4 回目 エネルギー代謝と体温調節 1 5 回目 まとめ
到達目標	各臓器の相互関係を理解できる。
授業時間外の学習	復習を重点に。
評価方法	筆記試験及び出席点 遠隔授業を実施した場合は、レポート提出(100%)とする。
テキスト	『イラスト解剖生理学』（第2版）東京教学舎ISBN978-4-8082-6070-5
参考書	特になし。
備考	

講義科目名称： 微生物学

授業コード： 223017

英文科目名称： Microbiology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	2 年次	2 単位	選択
担当教員			
芳賀雅士 講師			
添付ファイル			

授業の概要	人間は一生の間に各種の感染症に罹ったり、化膿するなど微生物の感染や食中毒を経験する。これらの疾病をひきおこす微生物についての理解を深め予防に役立てる。 なお、学習成果の指標はB-②である。 遠隔授業は、オンデマンド型（Classroom）にて実施する。
授業計画	1 回目 オリエンテーション 2 回目 細菌・真菌・原虫・ウイルスの性質 3 回目 感染と感染症 4 回目 感染経路 5 回目 食中毒 6 回目 性感染症 7 回目 呼吸器感染症 8 回目 感染症の予防 9 回目 感染症の治療 1 0 回目 感染症の検査と診断 1 1 回目 学校保健法と感染症 1 2 回目 病原細菌 1 3 回目 病原真菌 1 4 回目 病原原虫 1 5 回目 ウイルス
到達目標	微生物による感染症についての理解を含め、感染症の予防と、発症した感染症に対する対応ができる。
授業時間外の学習	受講した講義について資料を再読して復習し、不明な点については次回の講義で質問できるようにしておく。
評価方法	講義内小テスト(28%)及びレポート提出(72%) 遠隔授業を実施した場合は、レポート提出(100%)とする。
テキスト	『系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進 4 微生物学』医学書院
参考書	特になし。
備考	

講義科目名称： 薬理概論

授業コード： 224009

英文科目名称： Pharmacology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	2 年次	2 単位	教職必修
担当教員			
小菅敏雄 講師			
添付ファイル			

授業の概要	薬理学は、薬物と生体との選択的な相互作用を研究する学問である。薬理概論では、人体と基本的薬物との選択的な相互作用の原理を学び、基本的薬物の薬理作用（主作用・副作用）と体内動態を理解することを目的とする。 薬理学の体系を総論と各論に分けて講義する。総論においては、薬理作用学に基づく薬物の作用機序と、薬物動態学に基づく薬物の体内動態について講義する。これらの基礎知識に基づき、各論において各疾患に対する主な治療薬の特徴を講義する。 なお、学習成果の指標はB-②です。 本授業は遠隔授業になった場合は、同時・双方向型学修(Google Meet)で実施し、時間割通りの時間で行う。
授業計画	1 回目 薬理学序論 薬物とは 2 回目 薬理学総論（1） 薬の歴史、使用目的および管理 3 回目 薬理学総論（2） 薬理作用の基本形式と作用点 4 回目 薬理学総論（3） 薬物の適応 薬のいろいろな使い方 5 回目 薬理学総論（4） 薬物の体内動態 6 回目 医薬品の医療事故防止対策 薬の安全な使い方 7 回目 抗感染症薬 8 回目 抗がん薬・免疫治療薬 9 回目 全身麻酔薬 1 0 回目 催眠薬・抗不安薬 1 1 回目 精神・神経系用薬 1 2 回目 パーキンソン病・症候群治療薬 1 3 回目 麻薬性鎮痛薬 1 4 回目 漢方薬・消毒薬 1 5 回目 まとめ
到達目標	薬理概論を学ぶことで、お薬全般に対する基礎知識や、学校保健衛生に関係の深い疾病構造と、その治療に用いることができる。 薬物の知識を得て、日常生活にも応用することができる。
授業時間外の学習	健康な生活を送れるようにするために、常に新聞・テレビほかのマスコミ等を通じて、保健衛生に関する事項に興味を持つようにすること。 例えば、令和4年度においては「セルフメディケーション」など。
評価方法	平常点（まとめのテスト等）：100%で評価する。遠隔授業になった場合はレポート100%。
テキスト	門田佳子 他 『新看護学 2巻 栄養・薬理 17版 』医学書院 2023年版
参考書	授業の中で随時紹介する。
備考	

講義科目名称： 精神保健

授業コード： 231011

英文科目名称： Psycho Therapy

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	2 年次	2 単位	選択
担当教員			
熊倉志乃 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	思春期児童・生徒に多くみられる精神病理やストレス、心理学的問題を扱い、精神病理やストレスについて理解を深め、対応について学ぶ。また養護教諭を目指す学生にとって、養護教諭として身につけるべき精神保健の基礎的事項及び思春期の児童生徒の精神的特徴などについて、具体的事例を通してより深く理解する。 なお、学習成果の指標は、B-②である。 遠隔授業を実施する場合には②同時・双方向型学修（「GoogleMeet」を利用）と③オンデマンド型学修を組み合わせ実施する。
授業計画	1 回目 思春期の精神病理と心のトラブル 2 回目 子どもの心のトラブルサイン 3 回目 自律神経系とストレス、ストレスとストレッサー 4 回目 ストレス耐性、フラストレーション 5 回目 適応障害 心的外傷後ストレス障害 6 回目 不安障害 パニック障害 7 回目 行為障害 8 回目 摂食障害 9 回目 気分障害（うつ） 1 0 回目 統合失調症 1 1 回目 反応性愛着障害 1 2 回目 発達障害（自閉スペクトラム症/注意欠如多動症/学習症等） 1 3 回目 LGBTQー正しい理解子どものためにできることー 1 4 回目 医療機関との連携 1 5 回目 まとめと補足
到達目標	思春期の精神病理やストレスについて正しく理解し、また適切な接し方、ストレスに対する対処法を習得し、実践に生かす力を身に付けることができる。
授業時間外の学習	授業で使用する資料は事前に配布するので熟読し、各自ポイントを理解してから授業に臨む。 教育実習で接した児童、生徒及び自分自身の体験を振り返り、表面化している症状や特性を精神病理やストレスの観点から考える。
評価方法	課題提出：70%、授業への関心・意欲：30%等総合的に評価する。 遠隔授業に変更した場合も、評価方法に変更はない。
テキスト	教科書を使用せず。 適宜資料を配布する。
参考書	授業の中で紹介する。
備考	